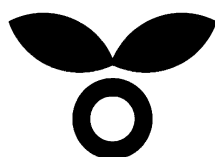


# 高津区区民生活に関わるニーズ調査

## 報 告 書



2017（平成29）年3月

高 津 区

# はじめに

少子高齢化の急速な進展や低経済成長への移行など、大きな社会の転換期を迎え、市民のライフスタイルが多様化しています。それに伴い、行政には、地域の視点や様々な価値観に基づく公共サービスの提供が求められており、特に区役所には、日常的なまちづくりの課題を的確に把握し、地域で解決する役割が求められています。

高津区においても、放置自転車、防犯・防災、子育て支援、地域包括ケアシステムの推進など様々な課題がありますが、これらの課題を解決するためには、区民の視点・感覚を踏まえて区政を進めていくことが大切と考えています。

高津区では、区政の主役である区民一人ひとりが個人や地域で抱える課題について、どのような意識や意見を持っているかを把握し、地域の声を最大限に反映できる施策のあり方や解決手法を検討し、選択する際の資料とするため、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を平成18、21、24年度と実施してきましたが、今回は4年ぶりの調査となります。

今回の調査では、前回調査した「区役所業務に対する要望と評価」、  
「まちの課題・問題点」、「区事業の認知度と評価」、「地域防災」に加えて、「ペットの災害対策」と「在宅医療」という2つのテーマを調査項目として取り上げています。

これらの調査結果を区が行う施策・事業に反映し、区民本位のよりよい区政運営に活かしていきたいと考えております。

2017（平成29）年3月  
高津区長 山田 祥司

---

I	調査概要	3
II	調査回答者の属性	9
III	調査結果	15
	1. 区の施策について	
	(1) 区役所業務の評価	15
	(2) 区役所業務への要望	18
	(3) 放置自転車対策	21
	(4) 街頭犯罪防止対策	24
	(5) 地震や風水害対策	27
	(6) 健康推進	31
	(7) 高齢者支援	34
	(8) 子育て支援	37
	(9) 地域住民のつながりを深める手法	40
	(10) 市民活動支援	44
	(11) 区の情報提供	46
	(12) 区民の要望収集	49
	(13) 花と緑のまちづくり推進	52
	(14) 区の文化の振興	54
	(15) 「音楽のまち」推進	56
	(16) 区のイメージアップ	58
	(17) 区役所の窓口サービス向上	60
	(18) 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み	63
	(19) 地域の地球温暖化対策	66
	(20) スポーツ振興	68
	(21) 生涯学習の支援や推進	70
	(22) まちの課題・問題点	72
	2. 区の事業について	
	(1) 各事業の認知度・評価	77
	(2) 各事業への参加状況・評価	85
	(3) 各事業の閲覧状況・評価	98

# 目 次

---

## 3. 地域防災について

- (1) 大規模地震発生時の「不安度」…………… 104
- (2) 大規模地震発生時の「不安内容」…………… 109
- (3) 災害に対する不安…………… 112
- (4) 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無…………… 116
- (5) 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由…………… 121
- (6) 防災力を高めるために必要なこと…………… 126
- (7) 大規模災害発生への備え…………… 128
- (8) 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由…………… 132

## 4. ペットの災害対策について

- (1) ペットの飼育有無…………… 136
- (2) 飼っている動物の種類と数…………… 138
- (3) 避難所の生活でペットに関して気をつけようと思うこと…………… 140
- (4) ペットの避難所への受け入れ…………… 142
- (5) ペットの受け入れに反対する理由…………… 146
- (6) ペットの受け入れの許容…………… 148

## 5. 在宅医療について

- (1) 「在宅医療」についての認知度…………… 151
- (2) 在宅医療に対するイメージ…………… 154
- (3) 「リビング・ウィル」についての認知度…………… 162
- (4) 万一の事態に備えての希望や伝言…………… 165
- (5) シンポジウムで聞いてみたい内容…………… 167

## IV 使用した調査票…………… 173



# I 調査概要

# I 調査概要

## 1. 調査の目的

高津区が行う事業について、区民ニーズを的確に把握し、効率的・効果的に実施するため、「区民がどのような施策・事業を行ってほしいと思っているのか」、「高津区役所で実施している施策・事業がどの程度認知・評価されているのか」等についてアンケート調査を実施する。

## 2. 調査の方法

- (1) 調査地域 川崎市高津区全域
- (2) 調査対象 川崎市高津区在住の満 18 歳以上の男女個人（外国人含む）
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 平成 28 年 8 月末現在の住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収法
- (6) 調査期間 平成 28 年 10 月 1 日～11 月 30 日
- (7) 調査委託機関 株式会社エスピー研

## 3. 主要な調査項目

- (1) 区役所業務に対する評価と要望
- (2) 区役所の施策・事業についての手法
- (3) まちの課題・問題点
- (4) 区役所事業の認知度と評価
- (5) 地域防災について
- (6) ペットの災害対策について
- (7) 在宅医療について

## 4. 回収結果

標 本 数	有効回収数	有効回収率
2,000	1,109	55.5%

<地区別回収結果>

町名	18歳以上人口 (構成比)		標本数	有効回収数 (構成比)		有効回収率	
高津地区	宇奈根	1,139	( 0.6%)	11	7	( 0.6%)	63.6%
	梶ヶ谷	8,603	( 4.5%)	91	52	( 4.7%)	57.1%
	上作延	9,327	( 4.9%)	98	60	( 5.4%)	61.2%
	北見方	7,551	( 4.0%)	80	51	( 4.6%)	63.8%
	久地	10,540	( 5.6%)	113	65	( 5.9%)	57.5%
	坂戸	7,484	( 3.9%)	80	51	( 4.6%)	63.8%
	下作延	18,576	( 9.8%)	194	89	( 8.0%)	45.9%
	下野毛	3,267	( 1.7%)	34	15	( 1.4%)	44.1%
	諏訪	5,510	( 2.9%)	59	26	( 2.3%)	44.1%
	瀬田	790	( 0.4%)	8	4	( 0.4%)	50.0%
	久本	10,655	( 5.6%)	114	68	( 6.1%)	59.6%
	二子	12,382	( 6.5%)	132	64	( 5.8%)	48.5%
	溝口	13,271	( 7.0%)	141	84	( 7.6%)	59.6%
	向ヶ丘	2,066	( 1.1%)	22	11	( 1.0%)	50.0%
	高津地区・計	111,161	(58.7%)	1,177	647	(58.3%)	55.0%
橘地区	明津	2,730	( 1.4%)	28	17	( 1.5%)	60.7%
	蟹ヶ谷	7,072	( 3.7%)	75	43	( 3.9%)	57.3%
	子母口・ 子母口富士見台	7,911	( 4.2%)	83	42	( 3.8%)	50.6%
	新作	13,021	( 6.9%)	138	68	( 6.1%)	49.3%
	末長	17,410	( 9.2%)	186	97	( 8.7%)	52.2%
	千年	10,979	( 5.8%)	116	64	( 5.8%)	55.2%
	千年新町	2,497	( 1.3%)	25	16	( 1.4%)	64.0%
	野川	3,838	( 2.0%)	39	16	( 1.4%)	41.0%
	久末	12,851	( 6.8%)	133	76	( 6.9%)	57.1%
橘地区・計	78,309	(41.3%)	823	439	(39.6%)	53.3%	
無回答				23	( 2.1%)		
全体・計	189,470	(100.0%)	2,000	1,109	(100.0%)	55.5%	

※18歳以上人口は、平成28年9月末現在の住民基本台帳による

## 5. 標本誤差

標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の通りである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数(n)及び回答の比率(P)によって異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

$N$  = 母集団数 (高津区の18歳以上の人口)  
 $n$  = 比率算出の基数 (サンプル数)  
 $P$  = 回答の比率 (%)

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,109	± 2.55	± 3.40	± 3.89	± 4.16	± 4.25
900	± 2.83	± 3.77	± 4.32	± 4.62	± 4.71
700	± 3.21	± 4.28	± 4.90	± 5.24	± 5.35
500	± 3.79	± 5.06	± 5.80	± 6.20	± 6.32
300	± 4.90	± 6.53	± 7.48	± 8.00	± 8.16
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は  $\frac{N - n}{N - 1} \approx 1$  として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

### ●この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,109で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±4.16%以内(55.84~64.16%)である」とみることができる。

## 6. 報告書の見方

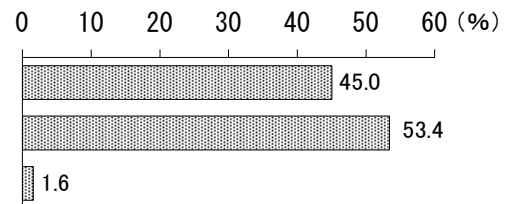
- (1) この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- (2) 回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、それぞれの回答の比率を足し上げた値とは異なる場合がある。
- (3) 本文図表の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- (4) 回答者数が10に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。
- (5) クロス集計の図表では、分析軸となる質問(性別、性・年齢別など)に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。

## Ⅱ 調査回答者の属性

## Ⅱ 調査回答者の属性

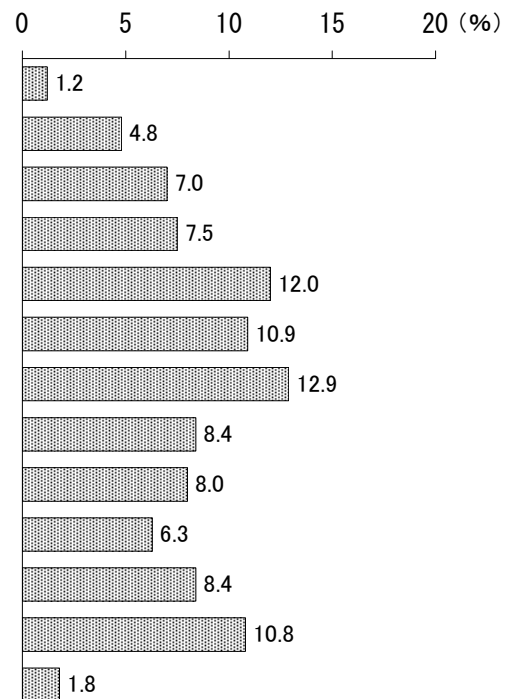
### (1) 性別【F1】

	n	構成比
男性	499	45.0%
女性	592	53.4%
(無回答)	18	1.6%
合計	1,109	100.0%



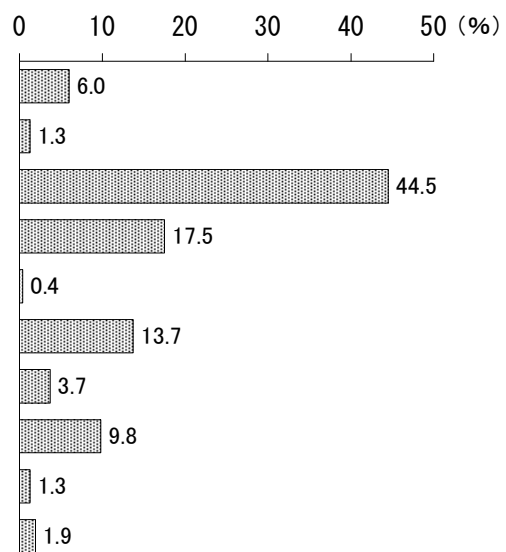
### (2) 年齢【F2】

	n	構成比
18～19歳	13	1.2%
20～24歳	53	4.8%
25～29歳	78	7.0%
30～34歳	83	7.5%
35～39歳	133	12.0%
40～44歳	121	10.9%
45～49歳	143	12.9%
50～54歳	93	8.4%
55～59歳	89	8.0%
60～64歳	70	6.3%
65～69歳	93	8.4%
70歳以上	120	10.8%
(無回答)	20	1.8%
合計	1,109	100.0%

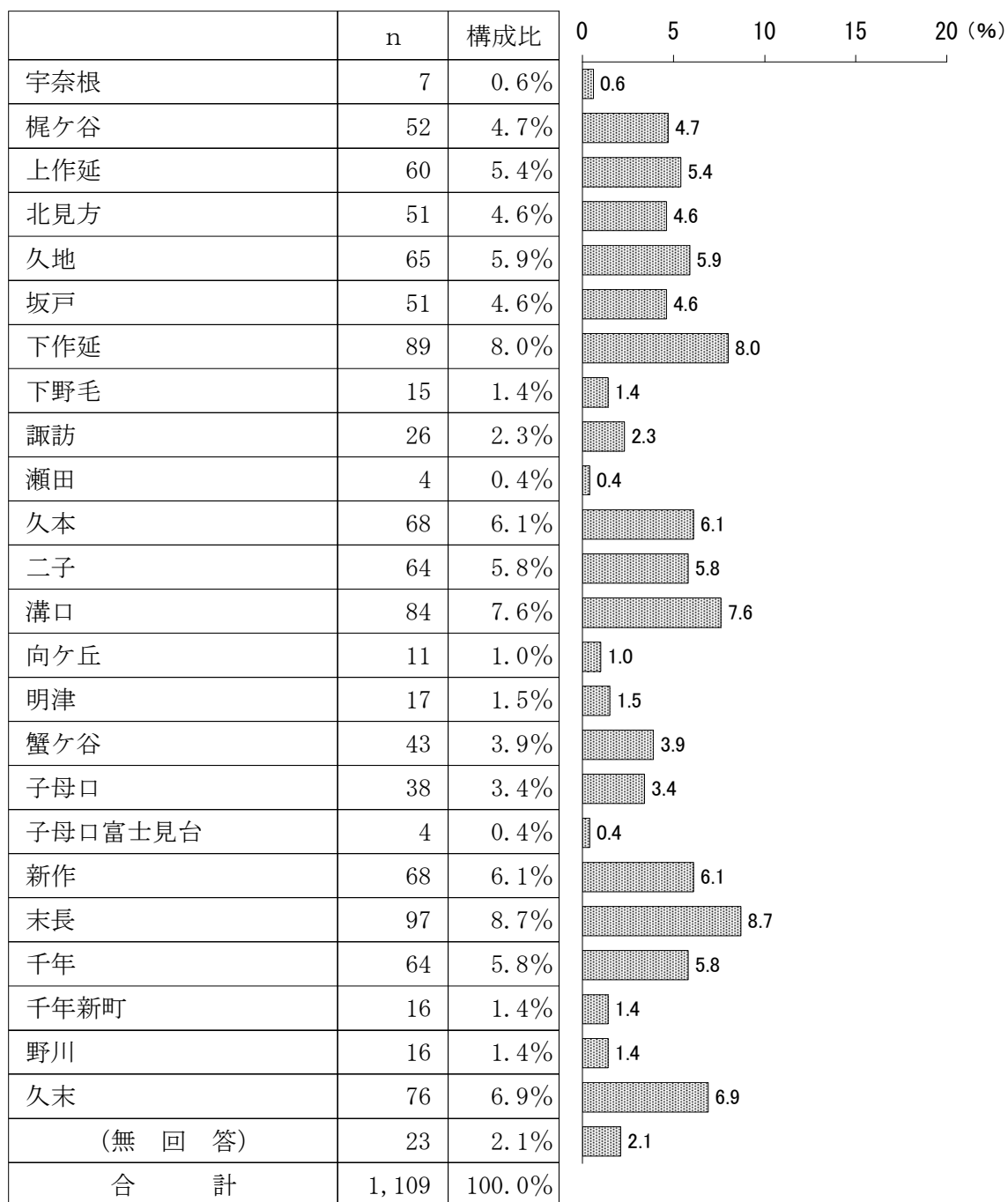


### (3) 職業【F3】

	n	構成比
自営業主	66	6.0%
家族従業 (家業手伝い)	14	1.3%
勤め (全日)	494	44.5%
勤め (パートタイム)	194	17.5%
内職	4	0.4%
主婦 (仕事はしていない)	152	13.7%
学生	41	3.7%
無職	109	9.8%
その他	14	1.3%
(無回答)	21	1.9%
合計	1,109	100.0%

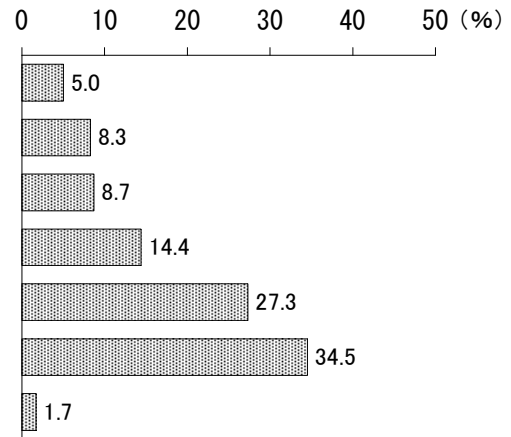


(4) 居住地区【F4】



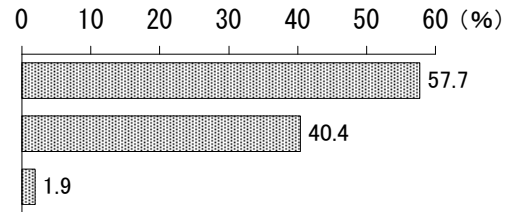
(5) 居住年数【F5】

	n	構成比
1年未満	56	5.0%
1年～3年未満	92	8.3%
3年～5年未満	96	8.7%
5年～10年未満	160	14.4%
10年～20年未満	303	27.3%
20年以上	383	34.5%
(無回答)	19	1.7%
合計	1,109	100.0%



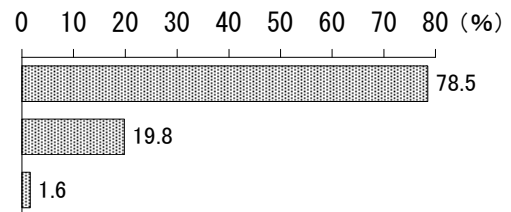
(6) 町内会加入【F6】

	n	構成比
はい (加入している)	640	57.7%
いいえ (加入していない)	448	40.4%
(無回答)	21	1.9%
合計	1,109	100.0%



(7) インターネット利用状況【F7】

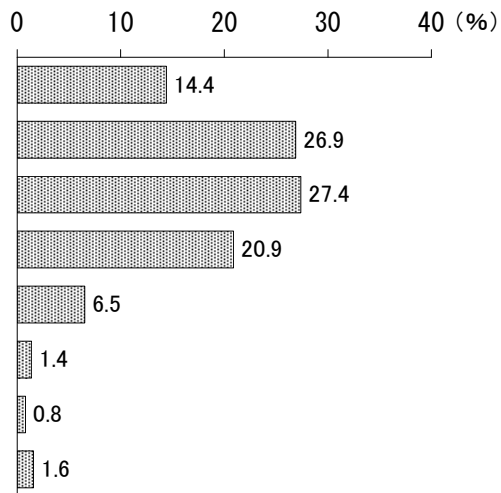
	n	構成比
はい (利用している)	871	78.5%
いいえ (利用していない)	220	19.8%
(無回答)	18	1.6%
合計	1,109	100.0%





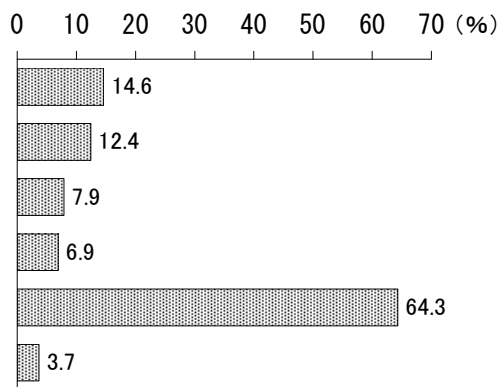
(8) 同居家族人数【F8】

	n	構成比
1人	160	14.4%
2人	298	26.9%
3人	304	27.4%
4人	232	20.9%
5人	72	6.5%
6人	16	1.4%
7人以上	9	0.8%
(無回答)	18	1.6%
合計	1,109	100.0%



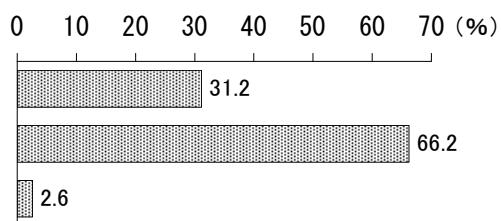
(9) 子どもの成長段階【F9】

	n	構成比
未就学児	162	14.6%
小学生	138	12.4%
中学生	88	7.9%
高校生	77	6.9%
いない	713	64.3%
(無回答)	41	3.7%
合計	1,109	100.0%



(10) 65歳以上の方との同居（高齢者世帯）【F10】

	n	構成比
いる	346	31.2%
いない	734	66.2%
(無回答)	29	2.6%
合計	1,109	100.0%



## Ⅲ 調査結果

### Ⅲ 調査結果

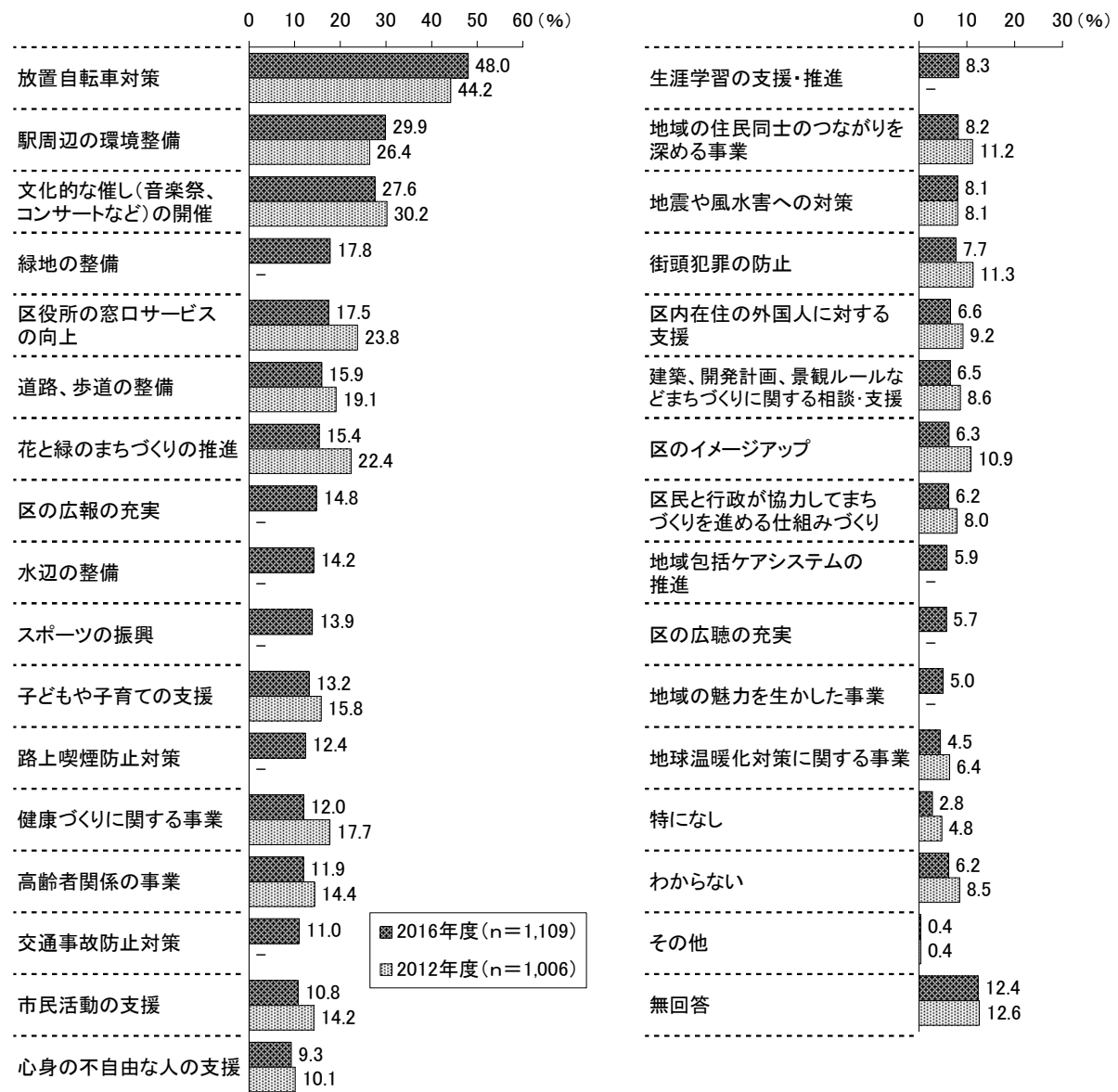
#### 1. 区の施策について

##### (1) 区役所業務の評価

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。

(いくつでも○)

図1-1 区役所業務の評価



※「緑地の整備」と「水辺の整備」は、2012年度では「緑地や水辺の整備」(23.2%)としていた

※「区の広報の充実」と「区の広聴の充実」は、2012年度では「区の広報・広聴の充実」(21.1%)としていた

※「スポーツの振興」は2016年度に追加された選択肢

※「路上喫煙防止対策」は2016年度に追加された選択肢

※「交通事故防止対策」は2016年度に追加された選択肢

※「生涯学習の支援・推進」は2016年度に追加された選択肢

※「地域包括ケアシステムの推進」は2016年度に追加された選択肢

※「地域の魅力を生かした事業」は2016年度に追加された選択肢

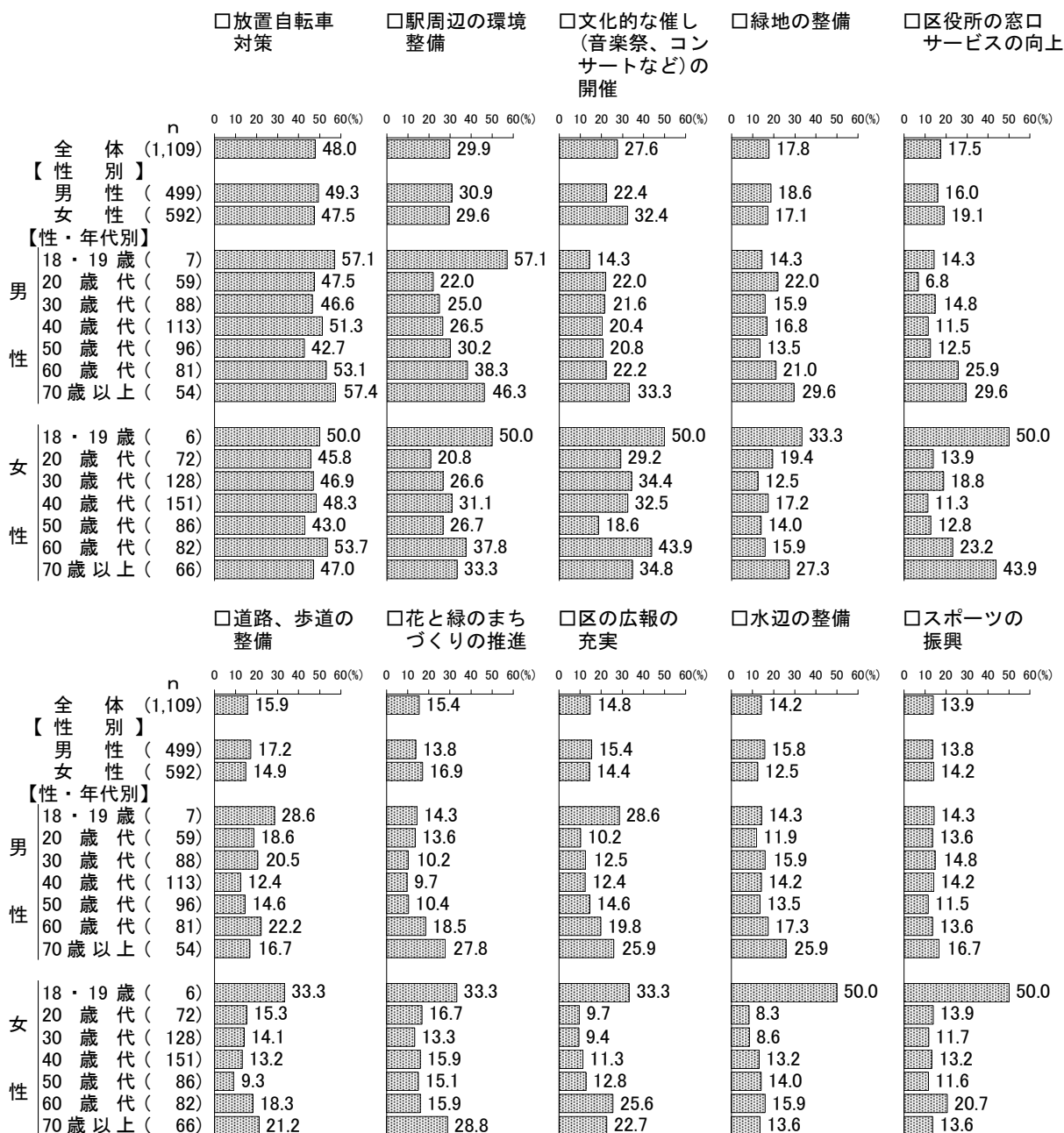
※「区のイメージアップ」は、2012年度では「区のイメージアップを図り、地域に愛着を持たせる事業」としていた

※「区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みづくり」は、2012年度では「区民と行政が協働でまちづくりを進める仕組みづくり」としていた

区役所業務の評価を聞いたところ、「放置自転車対策」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(29.9%)、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」(27.6%)、「緑地の整備」(17.8%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「放置自転車対策」、「駅周辺の環境整備」、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」が引き続き上位となっている。(図1-1)

図1-2 区役所業務の評価(性別、性・年代別)ー上位10項目

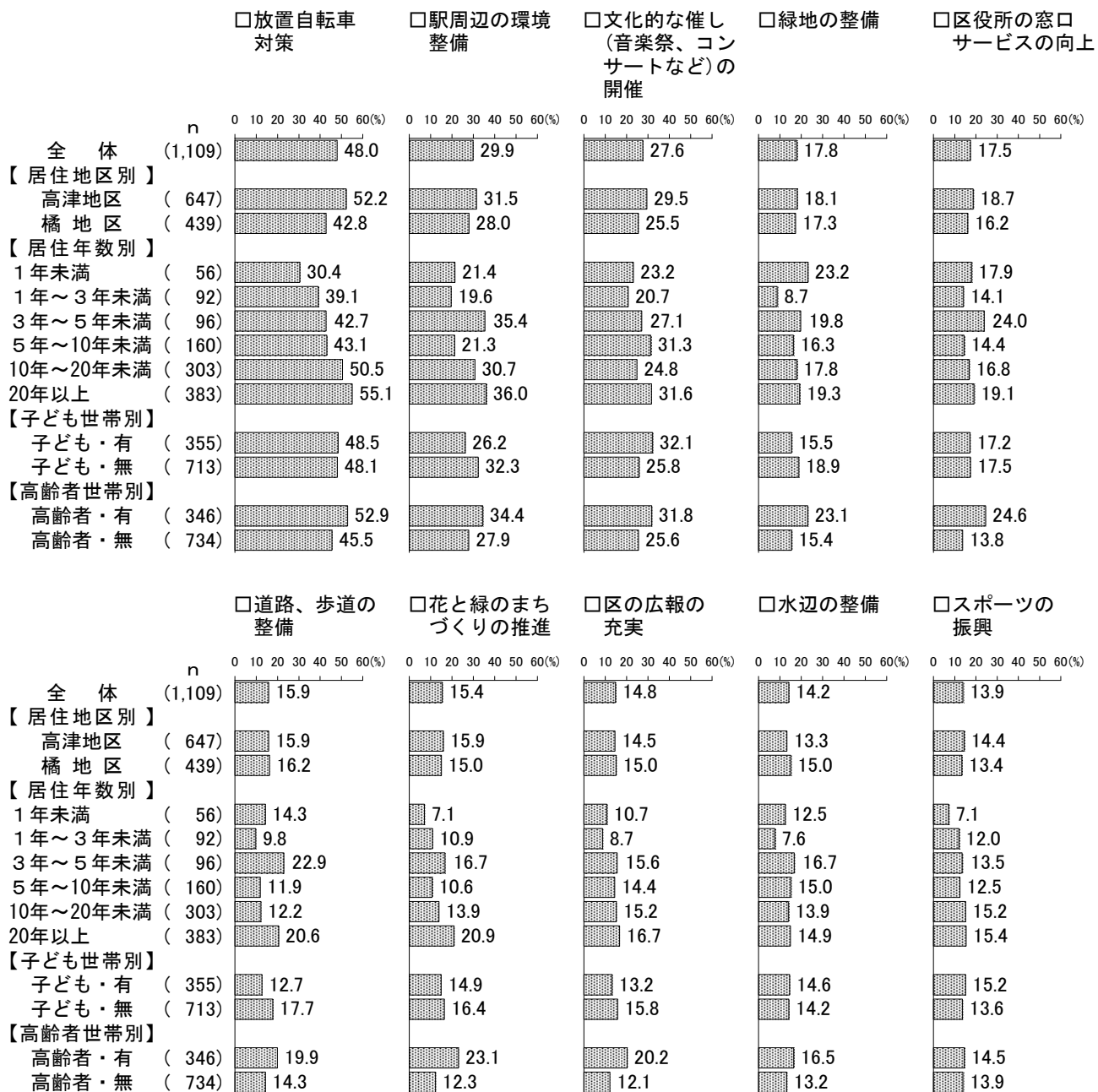


性別にみると、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」は女性が男性より10.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「駅周辺の環境整備」は男性ではおおむね年代が上がるほど割合が高く、男性70歳以上で4割半ばと高くなっている。「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」は女性60歳代で4割を超えて高くなっている。(図1-2)

図 1-3 区役所業務の評価（居住地区別、居住年数別、子ども世帯別、高齢者世帯別）

－上位10項目



居住地区別にみると、「放置自転車対策」は高津地区が橋地区より 9.4 ポイント高くなっている。

居住年数別にみると、「放置自転車対策」は居住年数が長くなるほど割合が高く、20年以上で5割半ばと高くなっている。

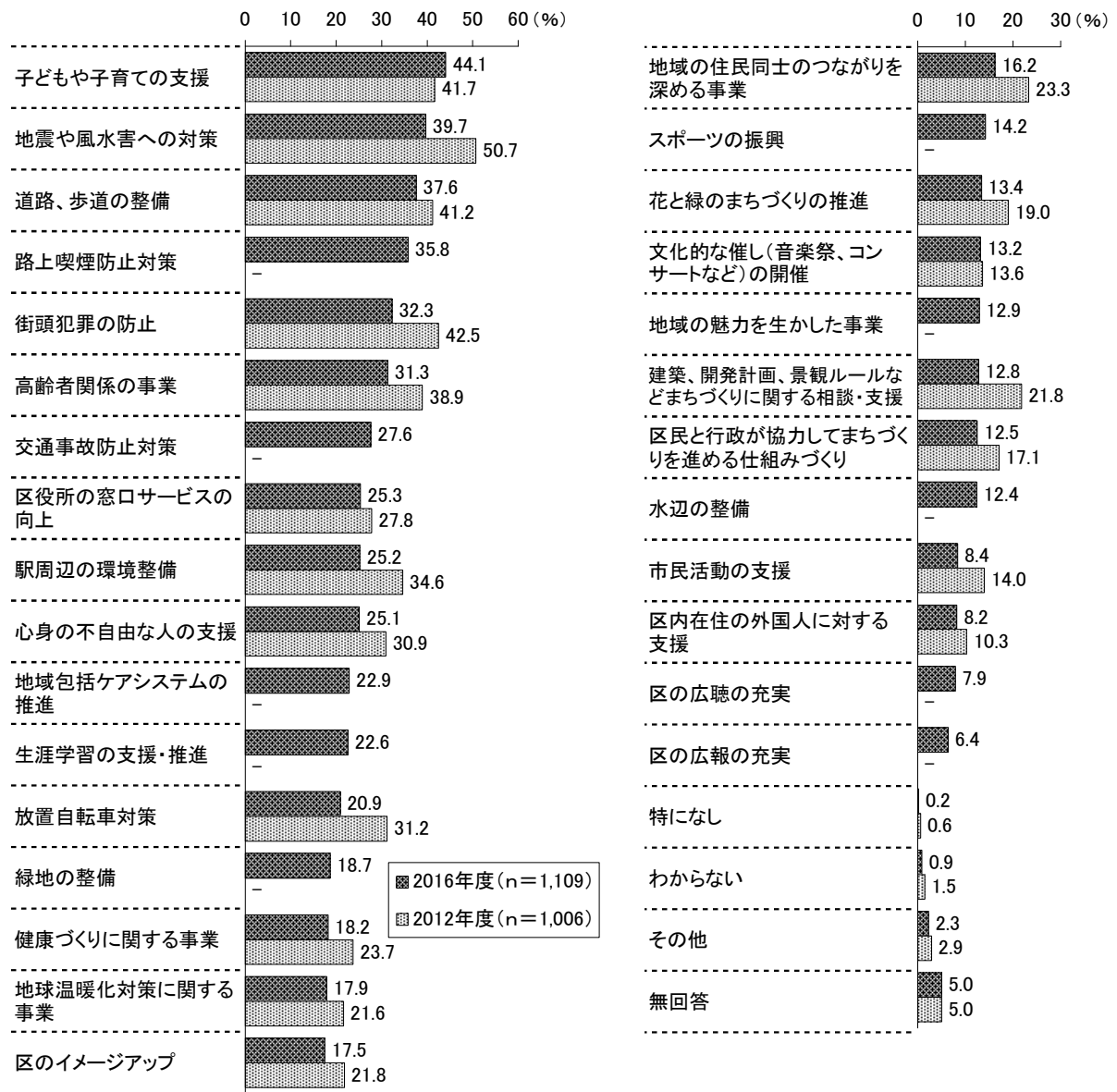
子ども世帯別にみると、「駅周辺の環境整備」は“子ども・無”が“子ども・有”より 6.1 ポイント高くなっている。一方、「文化的な催し（音楽祭、コンサートなど）の開催」は“子ども・有”が“子ども・無”より 6.3 ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、全ての項目で“高齢者・有”が“高齢者・無”を上回っており、「区役所の窓口サービスの向上」と「花と緑のまちづくりの推進」はそれぞれ 10.8 ポイント高くなっている。（図 1-3）

## (2) 区役所業務への要望

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(いくつでも○)

図1-4 区役所業務への要望

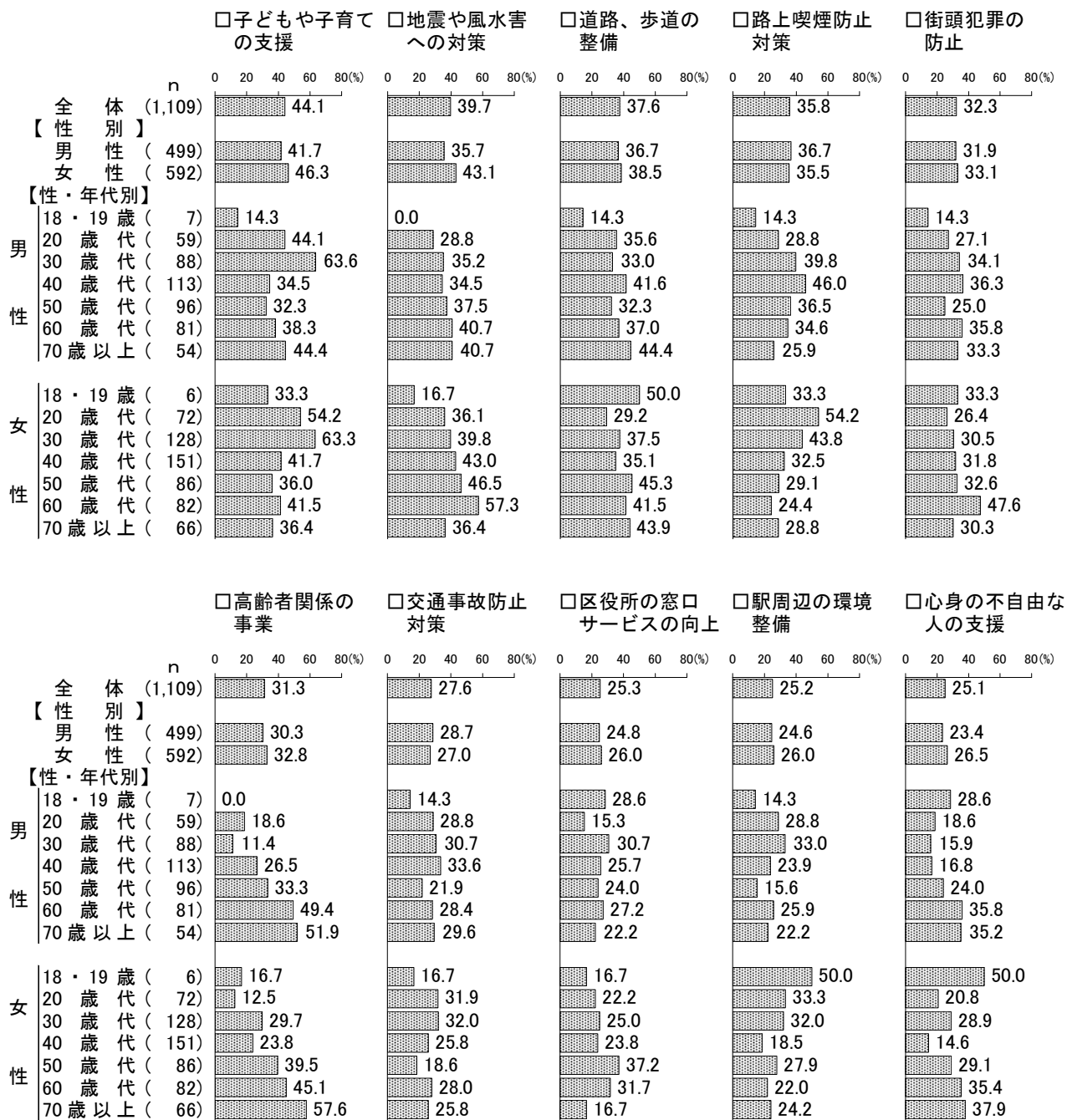


- ※「緑地の整備」と「水辺の整備」は、2012年度では「緑地や水辺の整備」(23.2%)としていた
- ※「区の広報の充実」と「区の広聴の充実」は、2012年度では「区の広報・広聴の充実」(21.1%)としていた
- ※「スポーツの振興」は2016年度に追加された選択肢
- ※「路上喫煙防止対策」は2016年度に追加された選択肢
- ※「交通事故防止対策」は2016年度に追加された選択肢
- ※「生涯学習の支援・推進」は2016年度に追加された選択肢
- ※「地域包括ケアシステムの推進」は2016年度に追加された選択肢
- ※「地域の魅力を生かした事業」は2016年度に追加された選択肢
- ※「区のイメージアップ」は、2012年度では「区のイメージアップを図り、地域に愛着を持たせる事業」としていた
- ※「区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みづくり」は、2012年度では「区民と行政が協働でまちづくりを進める仕組みづくり」としていた

区役所業務への要望を聞いたところ、「子どもや子育ての支援」(44.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「地震や風水害への対策」(39.7%)、「道路、歩道の整備」(37.6%)、「路上喫煙防止対策」(35.8%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「子どもや子育ての支援」が3位から1位へと順位が上がっている。(図1-4)

図 1-5 区役所業務への要望（性別、性・年代別）－上位10項目

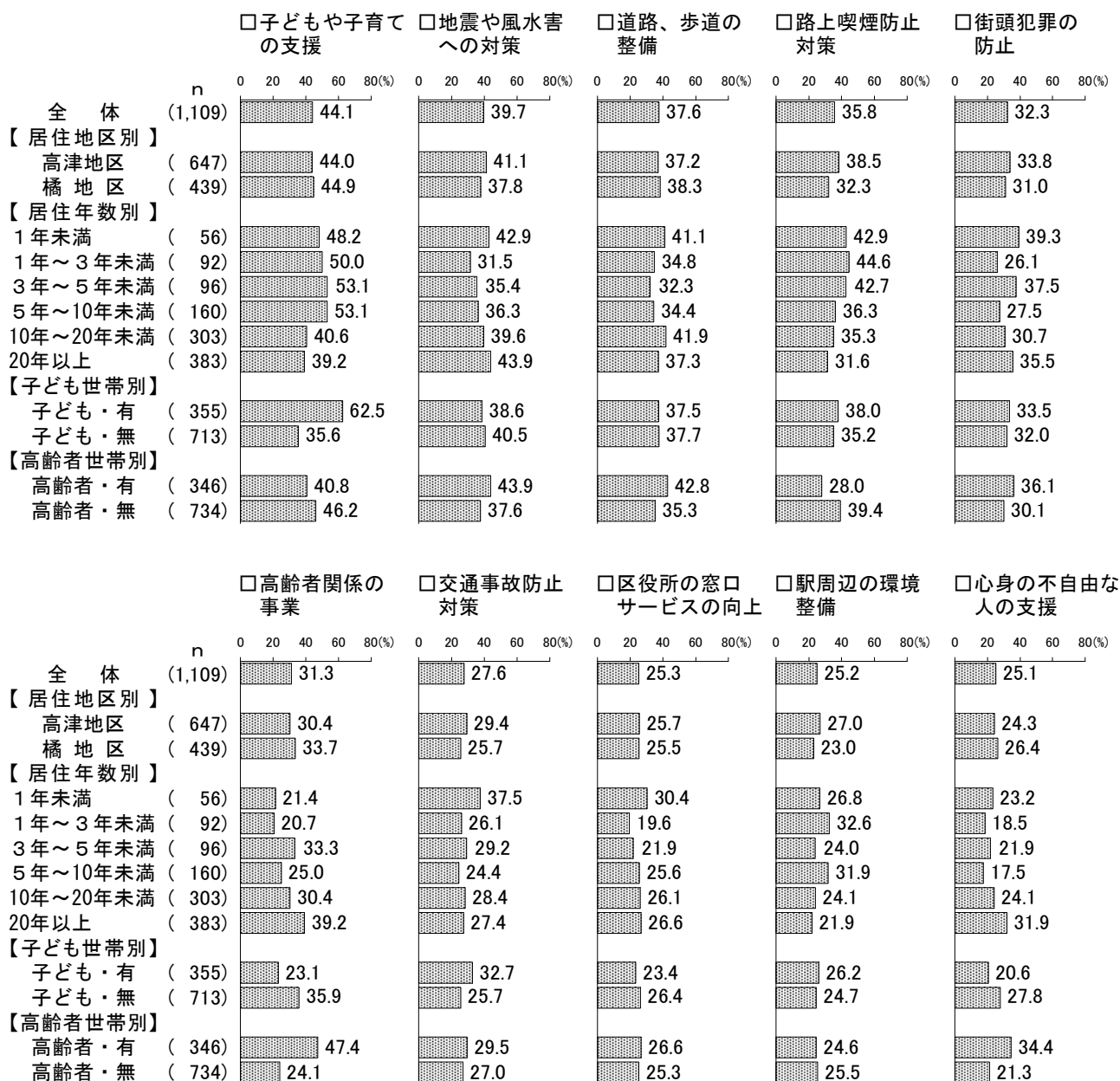


性別にみると、「地震や風水害への対策」は女性が男性より7.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「子どもや子育ての支援」は男女ともに30歳代で6割を超えて高くなっている。「地震や風水害への対策」は女性ではおおむね年代が上がるほど割合が高く、女性60歳代で6割近くと高くなっている。「高齢者関係の事業」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、男女ともに70歳以上で5割台と高くなっている。(図1-5)

図 1-6 区役所業務への要望（居住地区別、居住年数別、子ども世帯別、高齢者世帯別）

—上位10項目



居住地区別にみると、「路上喫煙防止対策」は高津地区が橘地区より 6.2 ポイント高くなっている。一方、「高齢者関係の事業」は橘地区が高津地区より 3.3 ポイント高くなっている。

居住年数別にみると、「子どもや子育ての支援」は 10 年未満の居住年数で 5 割前後と高くなっている。「路上喫煙防止対策」はおおむね居住年数が短くなるほど割合が高くなっている。

子ども世帯別にみると、「子どもや子育ての支援」は“子ども・有”が“子ども・無”より 26.9 ポイント、「交通事故防止対策」は“子ども・有”が“子ども・無”より 7.0 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「高齢者関係の事業」は“子ども・無”が“子ども・有”より 12.8 ポイント高くなっている。

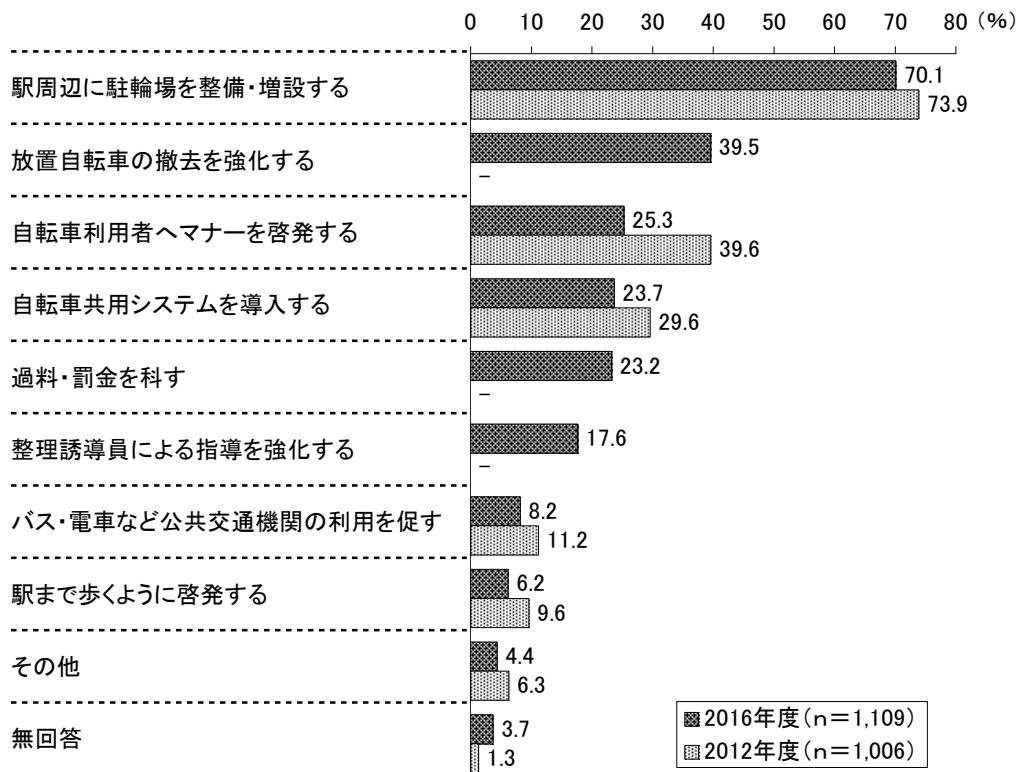
高齢者世帯別にみると、「高齢者関係の事業」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より 23.3 ポイント、「心身の不自由な人の支援」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より 13.1 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「路上喫煙防止対策」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より 11.4 ポイント高くなっている。(図 1-6)



### (3) 放置自転車対策

問3 放置自転車対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-7 放置自転車対策



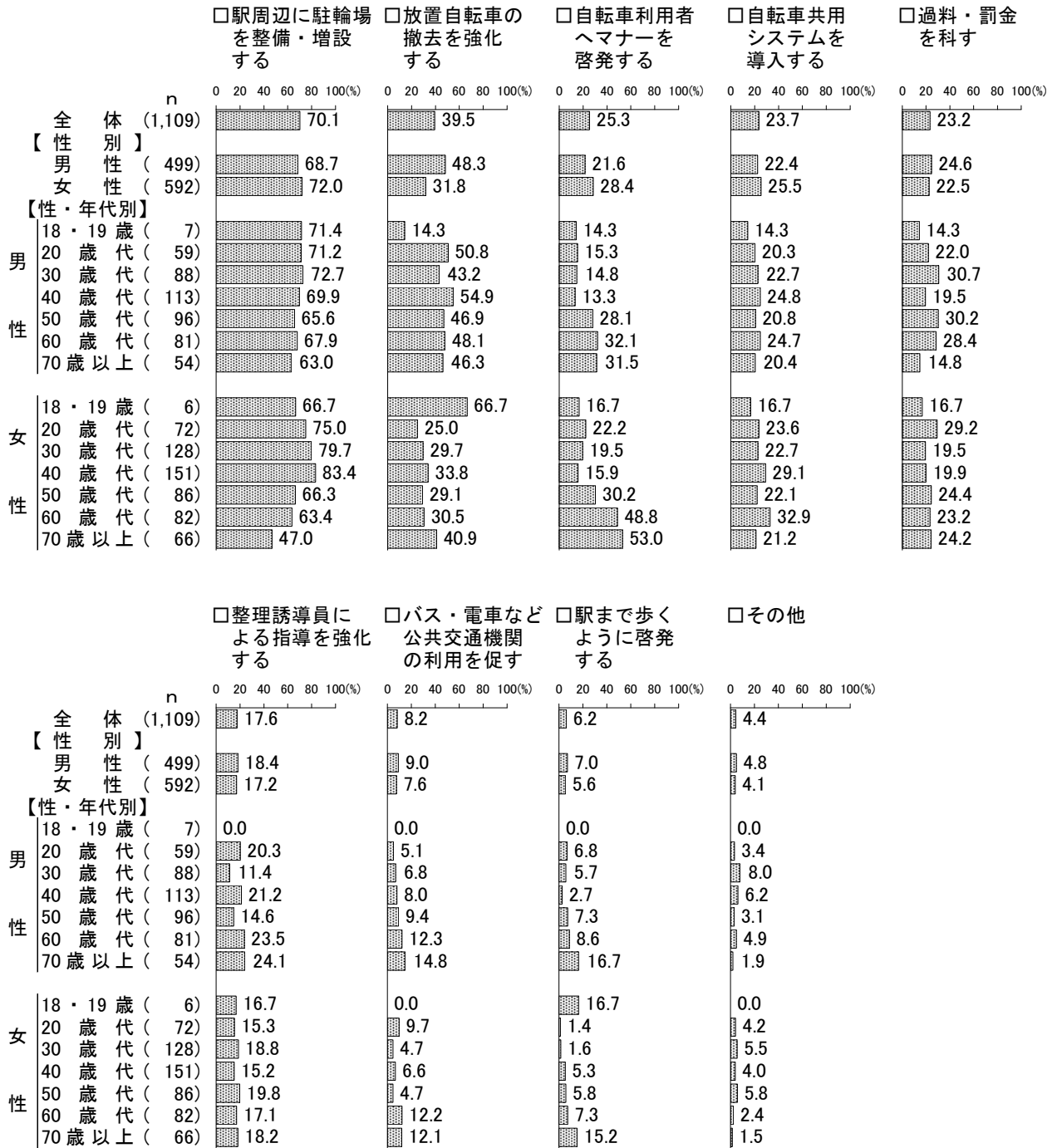
※「放置自転車の撤去を強化する」と「整理誘導員による指導を強化する」は、2012年度では「放置自転車の撤去や整理誘導員による指導を強化する」(44.8%)としていた

※「過料・罰金を科す」は2016年度に追加された選択肢

放置自転車対策を聞いたところ、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」(70.1%)が7割で最も高く、次いで「放置自転車の撤去を強化する」(39.5%)、「自転車利用者へマナーを啓発する」(25.3%)、「自転車共用システムを導入する」(23.7%)となっている。

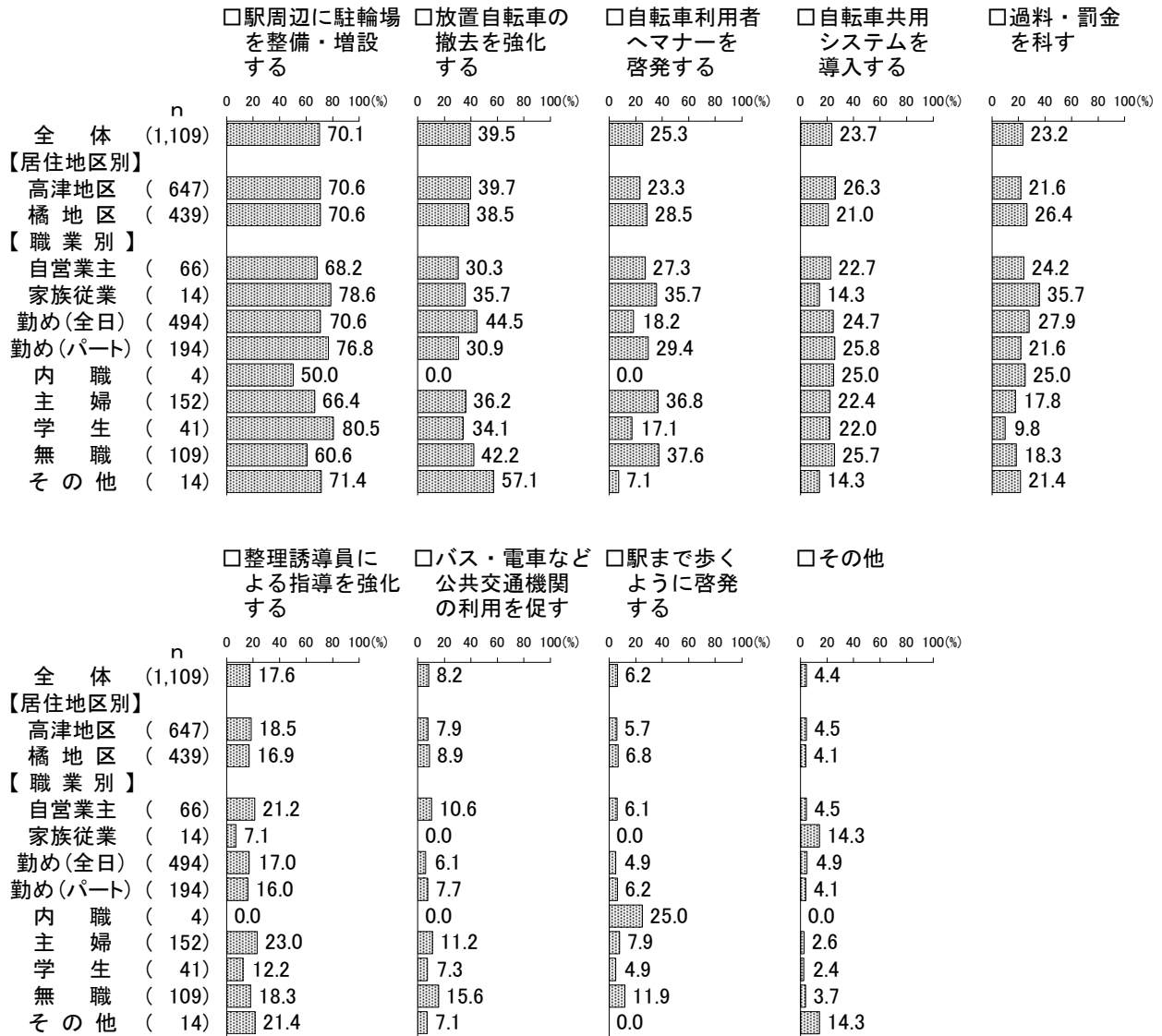
2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」が引き続き1位となっている。(図1-7)

図1-8 放置自転車対策（性別、性・年代別）



性別にみると、「放置自転車の撤去を強化する」は男性が女性より16.5ポイント高くなっている。一方、「自転車利用者へマナーを啓発する」は女性が男性より6.8ポイント高くなっている。性・年代別にみると、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」は女性40歳代で8割を超えて高くなっている。「自転車利用者へマナーを啓発する」は女性の60歳代以上の年代で5割前後と高くなっている。(図1-8)

図 1-9 放置自転車対策（居住地区別、職業別）



居住地区別にみると、「自転車共用システムを導入する」は高津地区が橘地区より 5.3 ポイント高くなっている。一方、「自転車利用者へマナーを啓発する」は橘地区が高津地区より 5.2 ポイント高くなっている。

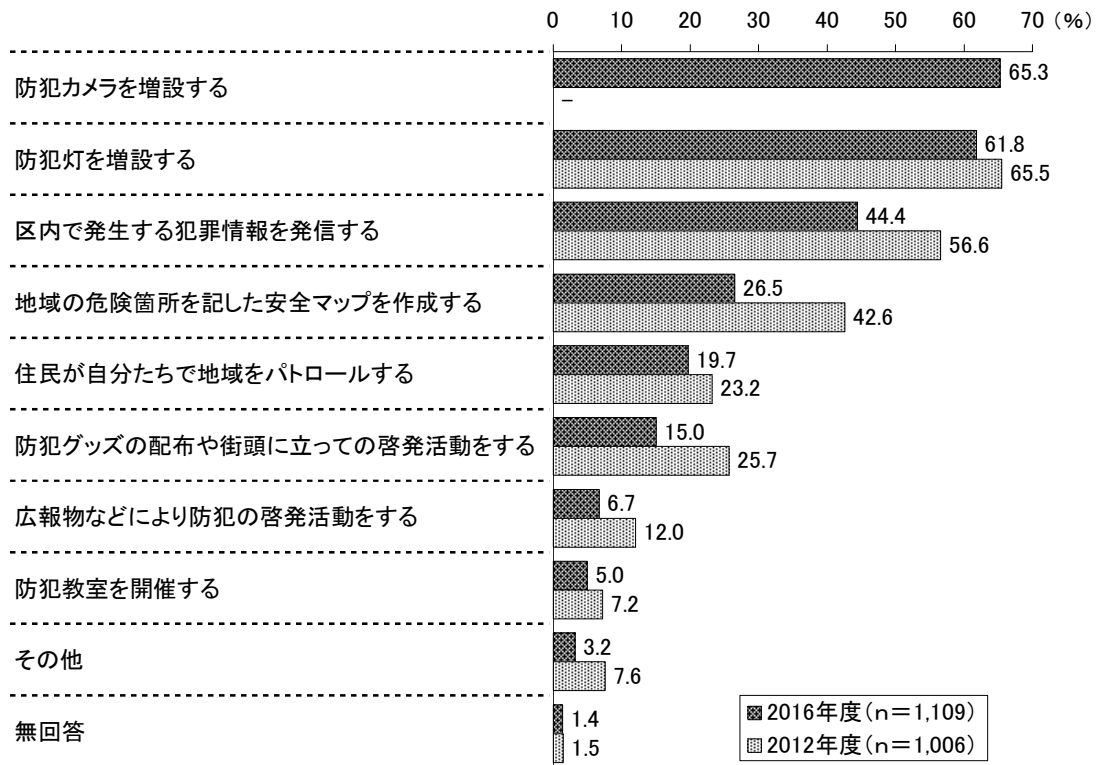
職業別にみると、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」は学生で約 8 割と高くなっている。

(図 1-9)

#### (4) 街頭犯罪防止対策

問4 街頭犯罪などを防止するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-10 街頭犯罪防止対策

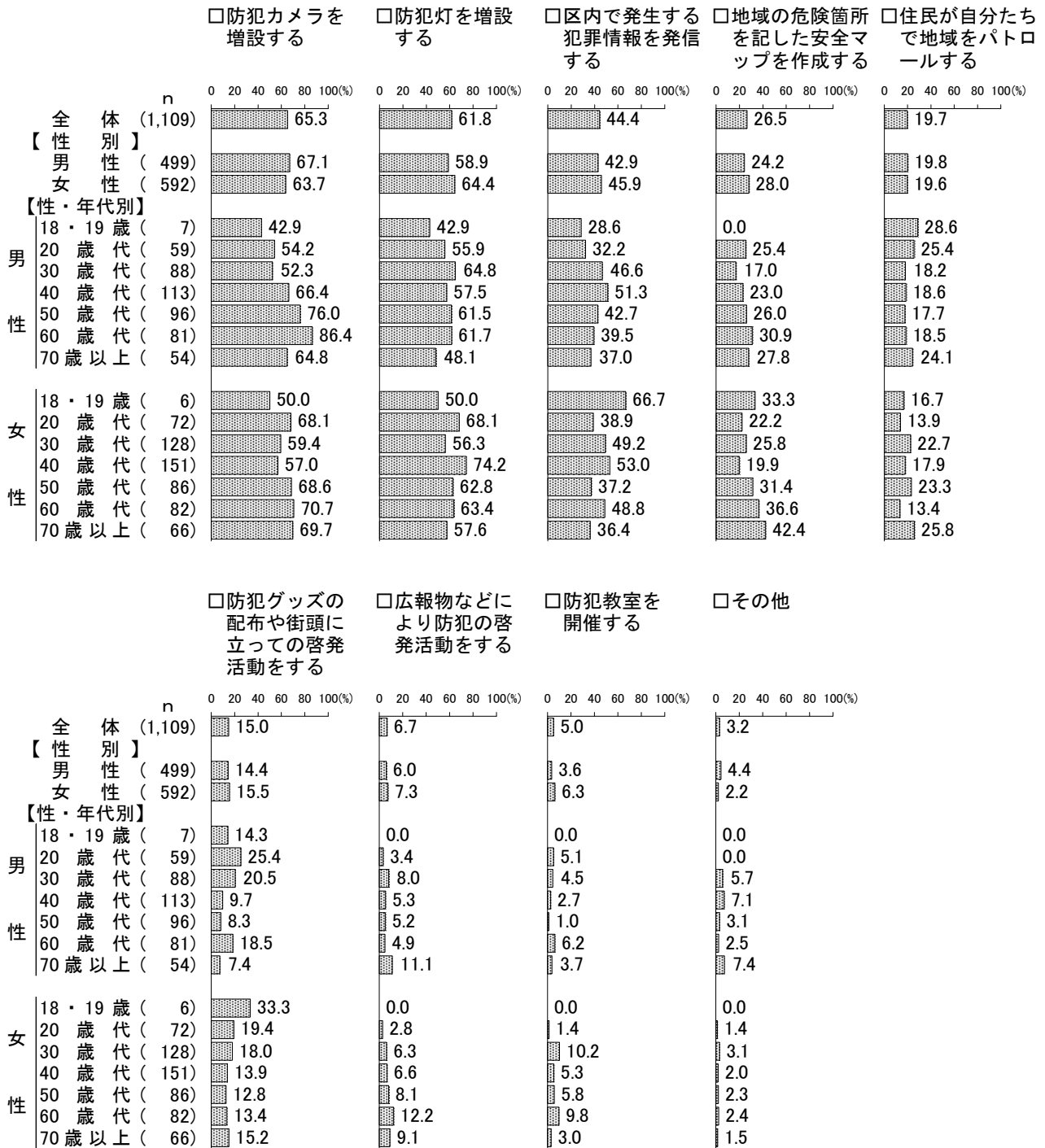


※「防犯カメラを増設する」は2016年度に追加された選択肢

街頭犯罪防止対策を聞いたところ、「防犯カメラを増設する」(65.3%)が6割半ばで最も高く、次いで「防犯灯を増設する」(61.8%)、「区内で発生する犯罪情報を発信する」(44.4%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(26.5%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「防犯灯を増設する」、「区内で発生する犯罪情報を発信する」、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」が引き続き上位となっている。(図1-10)

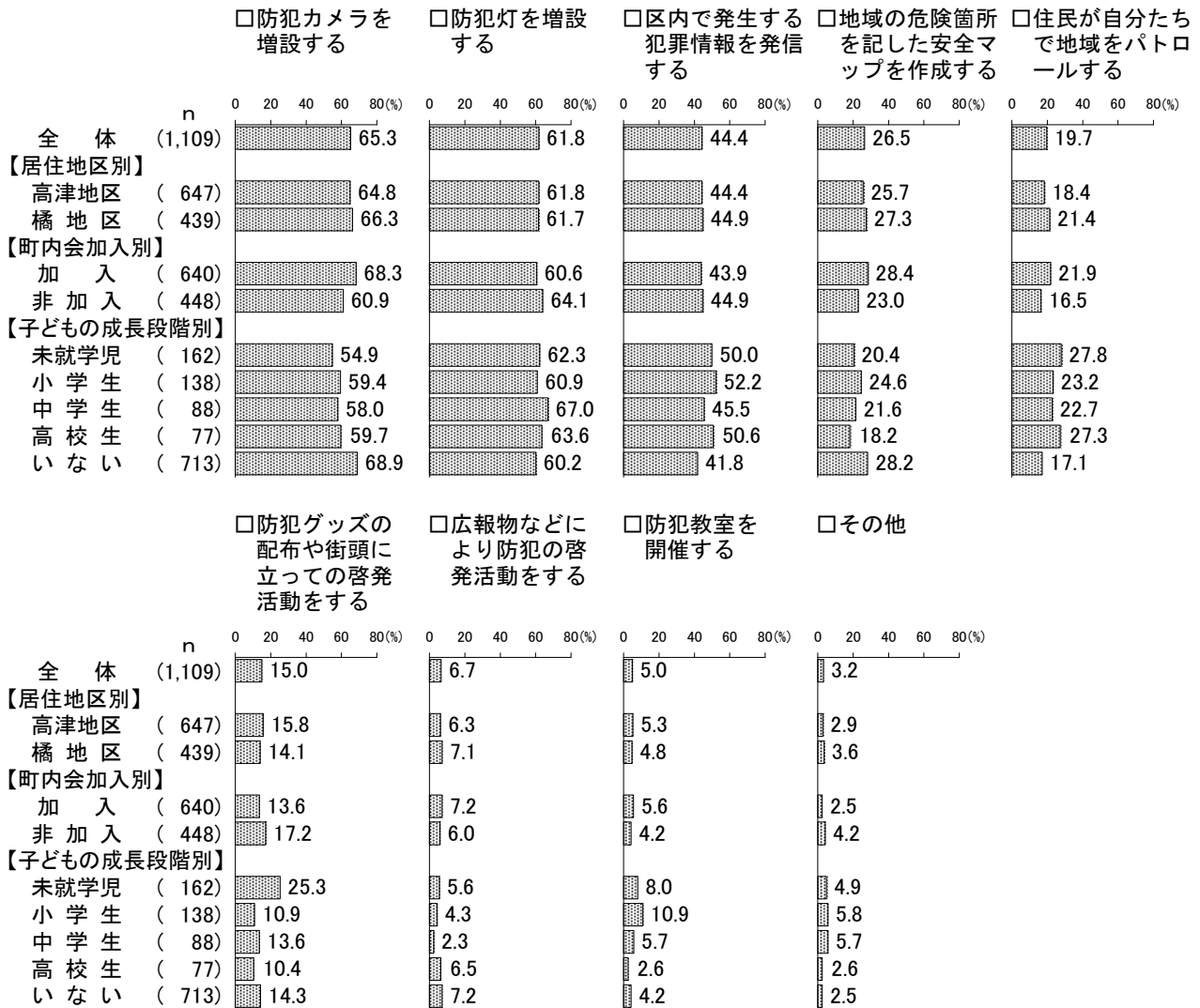
図 1-11 街頭犯罪防止対策（性別、性・年代別）



性別にみると、「防犯灯を増設する」は女性が男性より 5.5 ポイント高くなっている。一方、「防犯カメラを増設する」は男性が女性より 3.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「防犯カメラを増設する」は男性 60 歳代で 8 割半ばと高くなっている。「防犯灯を増設する」は女性 40 歳代で 7 割半ばと高くなっている。(図 1-11)

図 1-12 街頭犯罪防止対策（居住地区別、町内会加入別、子どもの成長段階別）



居住地区別にみると、「住民が自分たちで地域をパトロールする」は橘地区が高津地区より 3.0 ポイント高くなっている。

町内会加入別にみると、「防犯カメラを増設する」は“加入”が“非加入”より 7.4 ポイント、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」は“加入”が“非加入”より 5.4 ポイント、「住民が自分たちで地域をパトロールする」は“加入”が“非加入”より 5.4 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」は“非加入”が“加入”より 3.6 ポイント高くなっている。

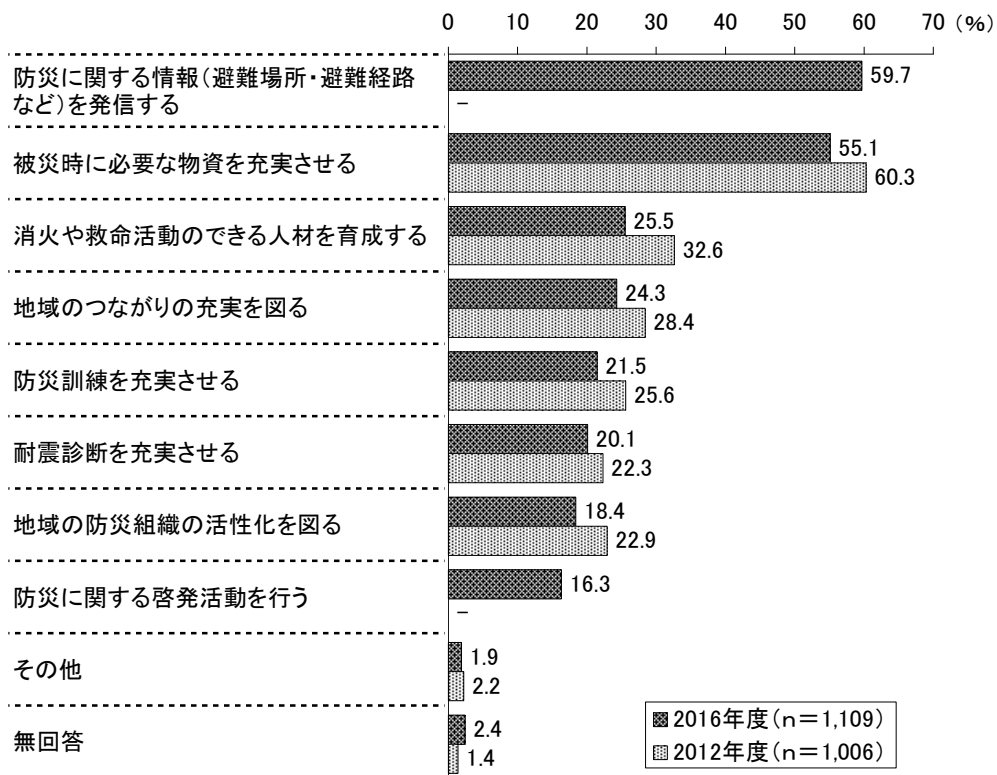
子どもの成長段階別にみると、「防犯カメラを増設する」は“いない”で7割近くと高くなっている。「防犯灯を増設する」は“中学生”で6割半ばを超えて高くなっている。「区内で発生する犯罪情報を発信する」は“未就学児”、“小学生”、“高校生”で5割台と高くなっている。「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」は“未就学児”で2割半ばと高くなっている。

(図 1-12)

(5) 地震や風水害対策

問5 地震や風水害への対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-13 地震や風水害対策

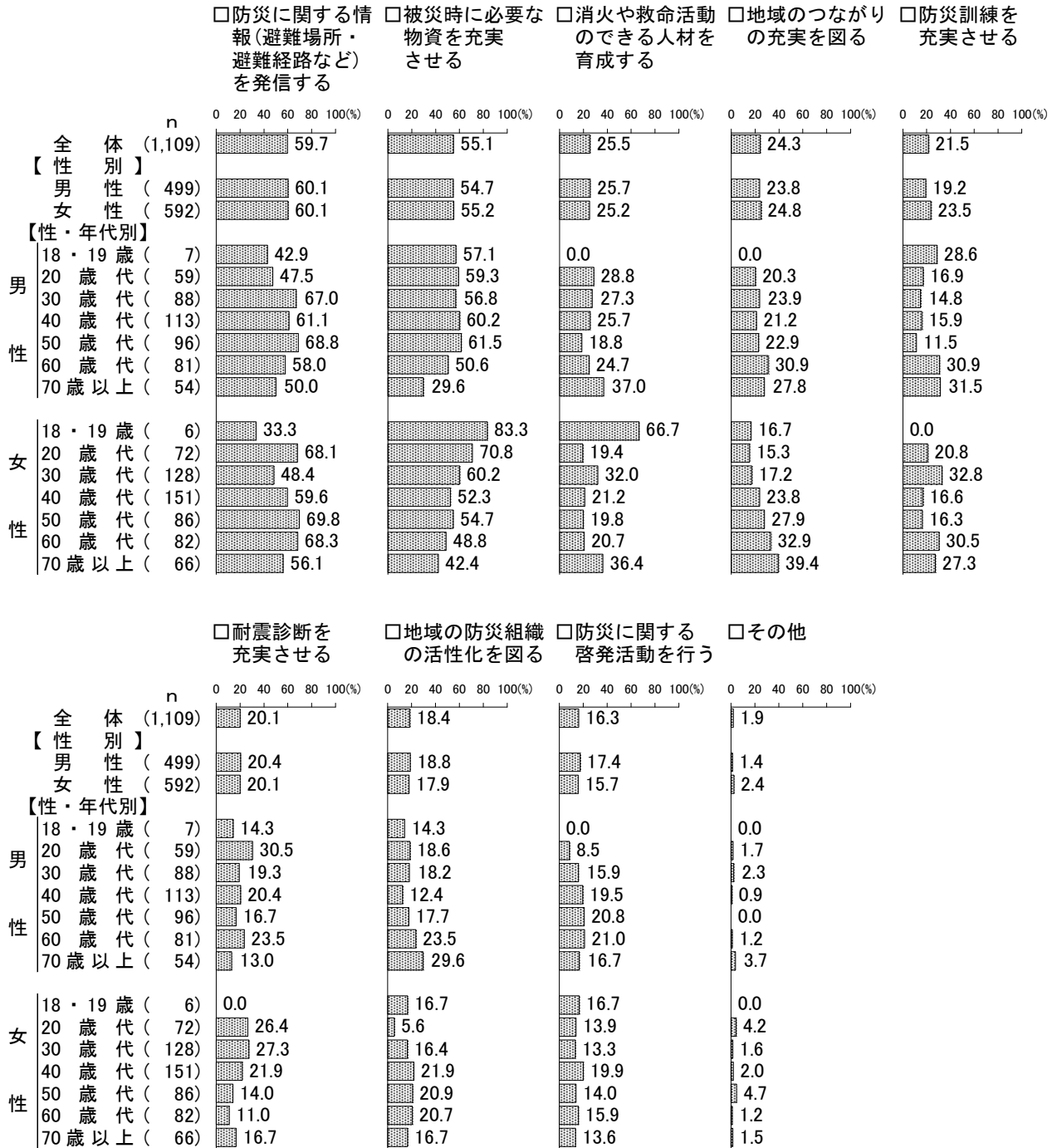


※「防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する」と「防災に関する啓発活動を行う」は、2012年度では「防災に関する啓発活動や情報(避難場所・避難経路など)の発信を行う」(57.4%)としていた

地震や風水害対策を聞いたところ、「防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する」(59.7%)が6割で最も高く、次いで「被災時に必要な物資を充実させる」(55.1%)、「消火や救命活動のできる人材を育成する」(25.5%)、「地域のつながりの充実を図る」(24.3%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「被災時に必要な物資を充実させる」が引き続き上位となっている。(図1-13)

図 1-14 地震や風水害対策（性別、性・年代別）

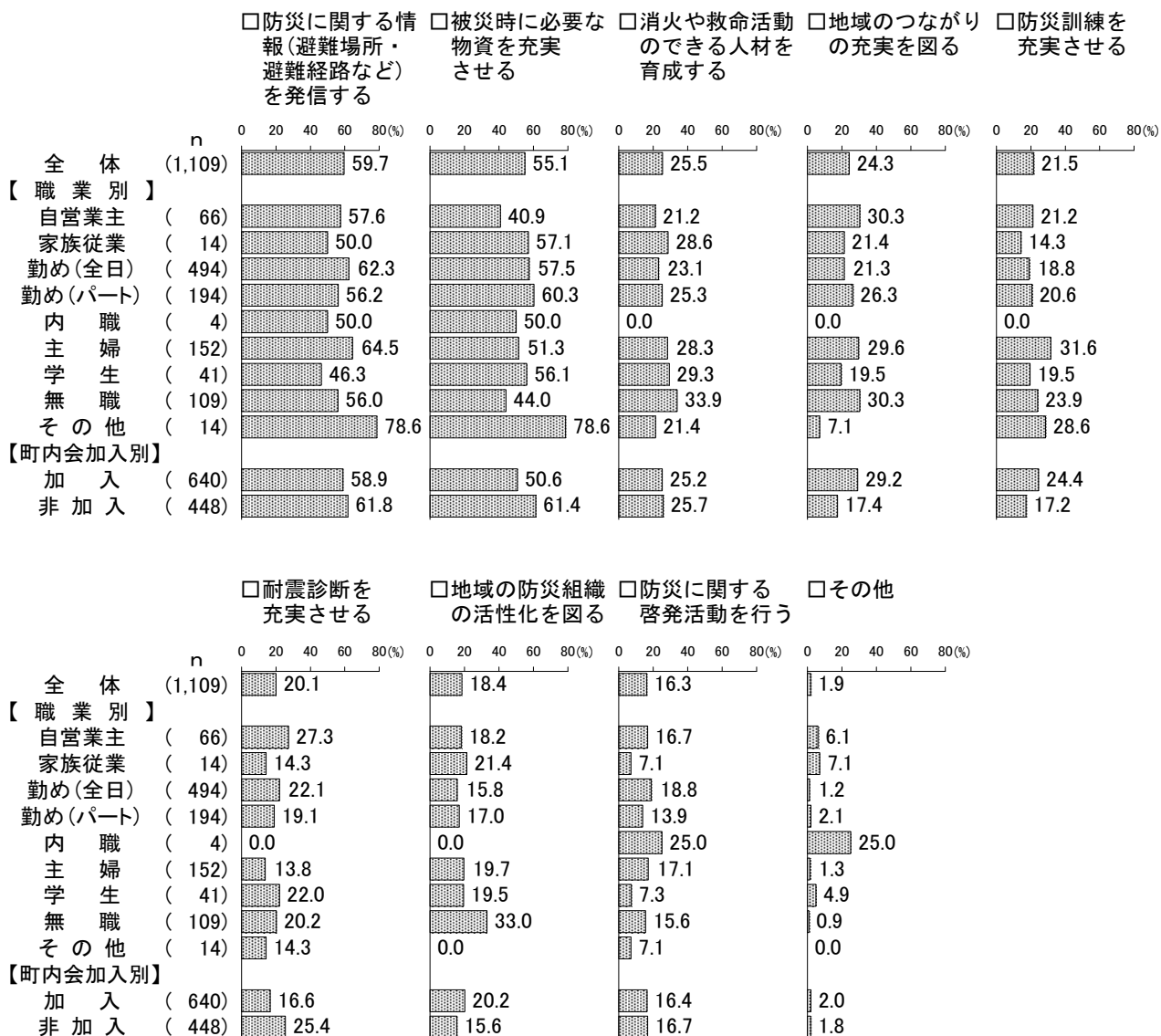


性別にみると、「防災訓練を充実させる」は女性が男性より 4.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「被災時に必要な物資を充実させる」は女性ではおおむね年代が下がるほど割合が高く、女性の 20 歳代以下の年代で 7 割以上と高くなっている。「地域のつながりの充実を図る」は女性 70 歳以上で約 4 割と高くなっている。(図 1-14)



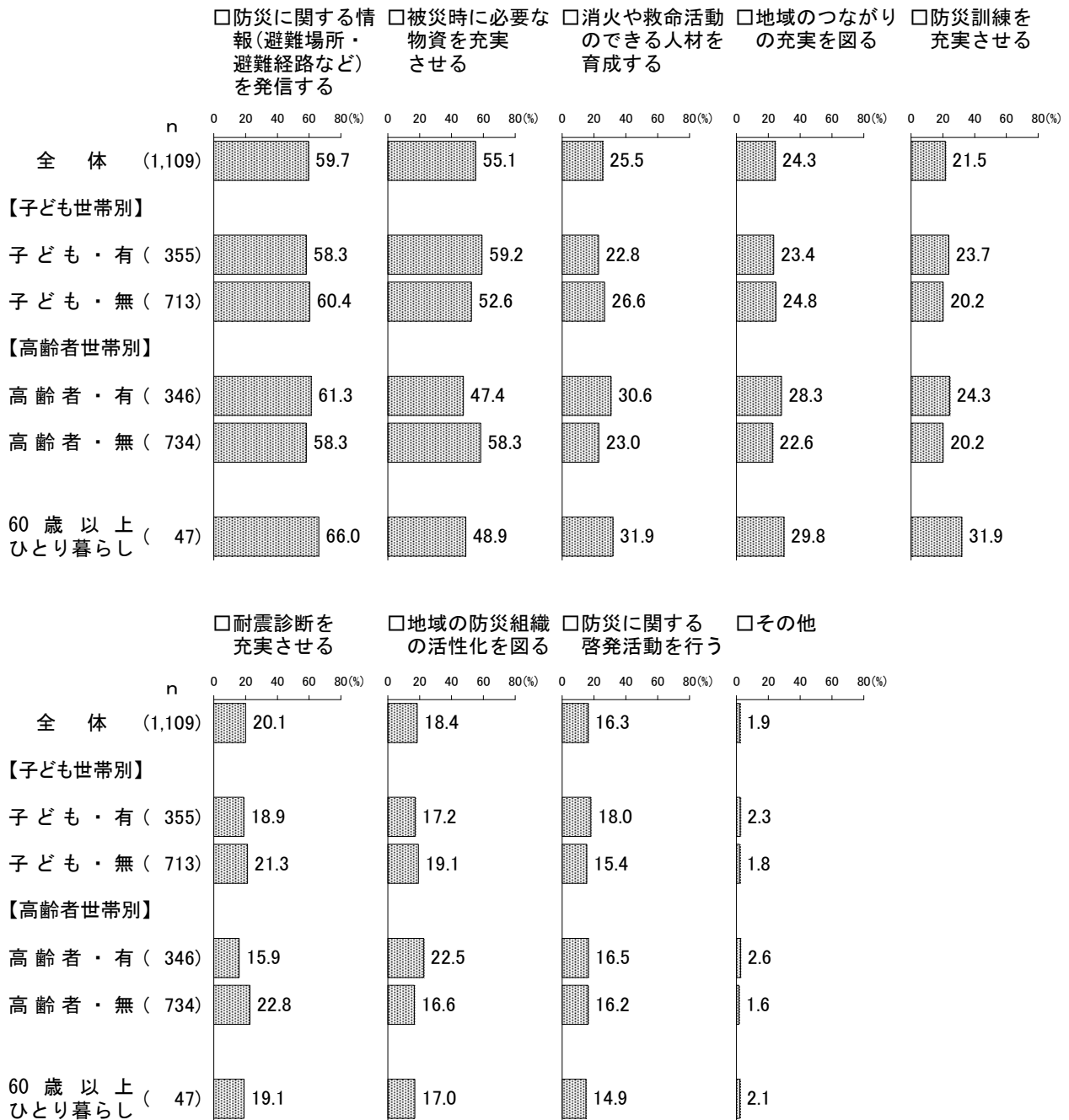
図 1-15 地震や風水害対策（職業別、町内会加入別）



職業別にみると、「防災訓練を充実させる」は主婦で3割を超えて高くなっている。「地域の防災組織の活性化を図る」は無職で3割を超えて高くなっている。

町内会加入別にみると、「地域のつながりの充実を図る」は“加入”が“非加入”より11.8ポイント、「防災訓練を充実させる」は“加入”が“非加入”より7.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「被災時に必要な物資を充実させる」は“非加入”が“加入”より10.8ポイント、「耐震診断を充実させる」は“非加入”が“加入”より8.8ポイント、それぞれ高くなっている。(図 1-15)

図 1-16 地震や風水害対策（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



子ども世帯別にみると、「被災時に必要な物資を充実させる」は“子ども・有”が“子ども・無”より6.6ポイント高くなっている。一方、「消火や救命活動のできる人材を育成する」は“子ども・無”が“子ども・有”より3.8ポイント高くなっている。

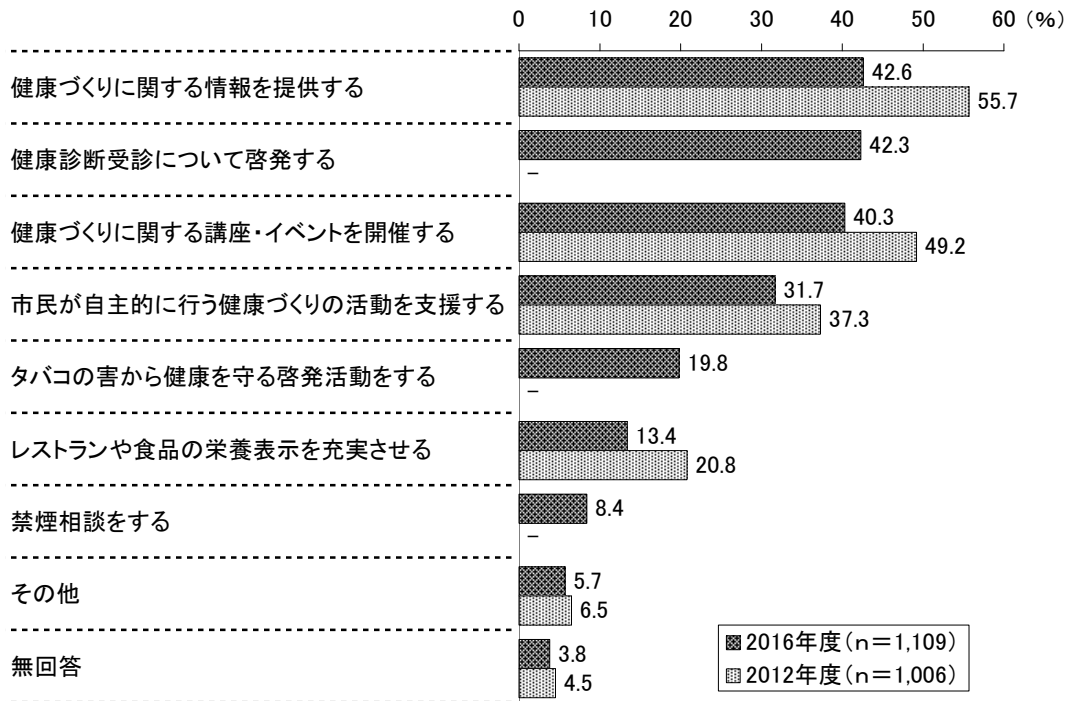
高齢者世帯別にみると、「被災時に必要な物資を充実させる」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より10.9ポイント高くなっている。一方、「消火や救命活動のできる人材を育成する」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より7.6ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「防災に関する情報（避難場所・避難経路など）を発信する」（66.0%）が6割半ばで最も高く、次いで「被災時に必要な物資を充実させる」（48.9%）となっている。（図1-16）

(6) 健康推進

問6 区民の健康づくりを推進していくためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

図1-17 健康推進



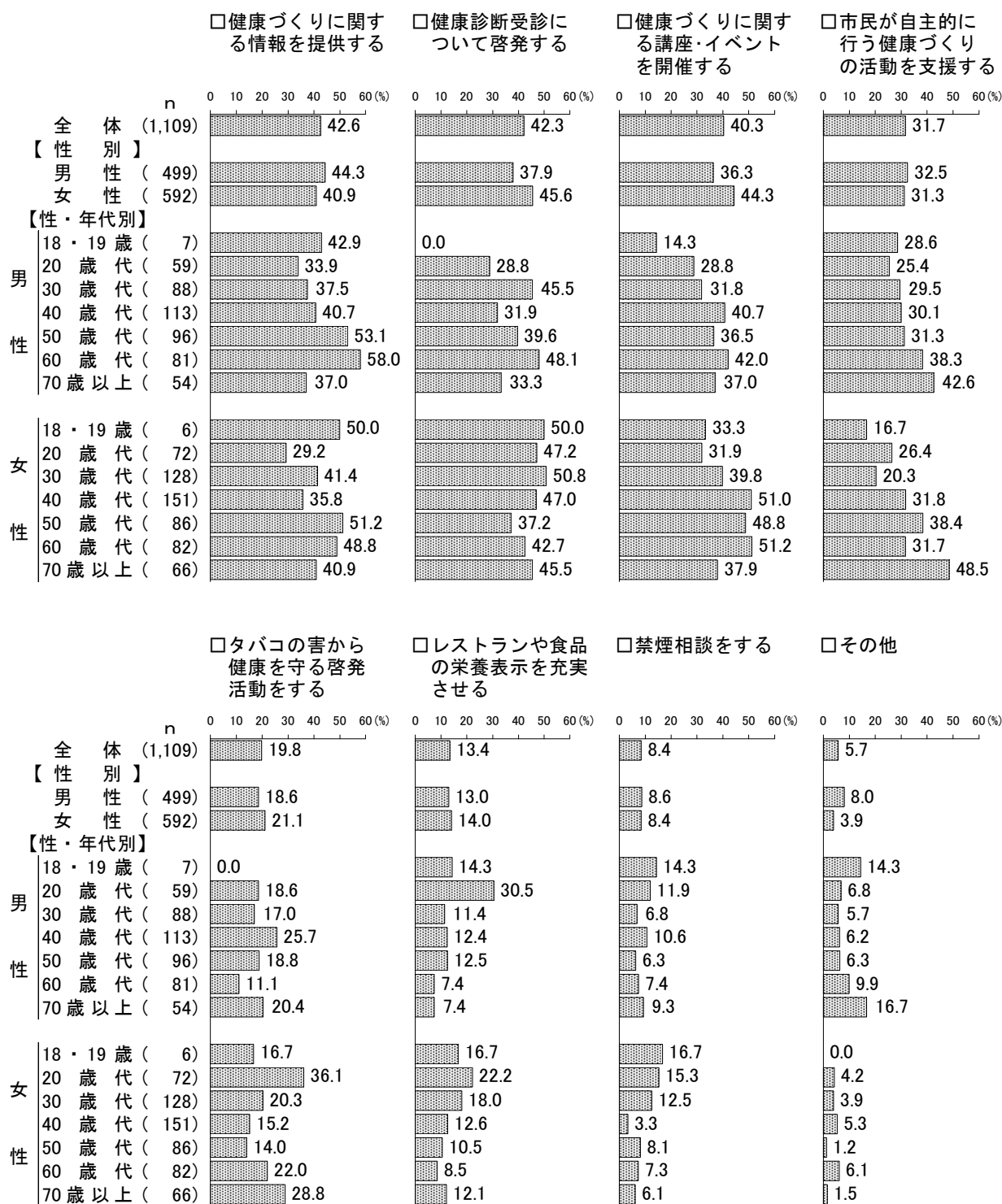
※「健康診断受診について啓発する」は2016年度に追加された選択肢

※「タバコの害から健康を守る啓発活動をする」と「禁煙相談をする」は、2012年度では「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」(26.4%)としていた

区民の健康づくりを推進していくための手法を聞いたところ、「健康づくりに関する情報を提供する」(42.6%)が4割を超えて最も高く、次いで「健康診断受診について啓発する」(42.3%)、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」(40.3%)、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」(31.7%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「健康づくりに関する情報を提供する」、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」が引き続き上位となっている。(図1-17)

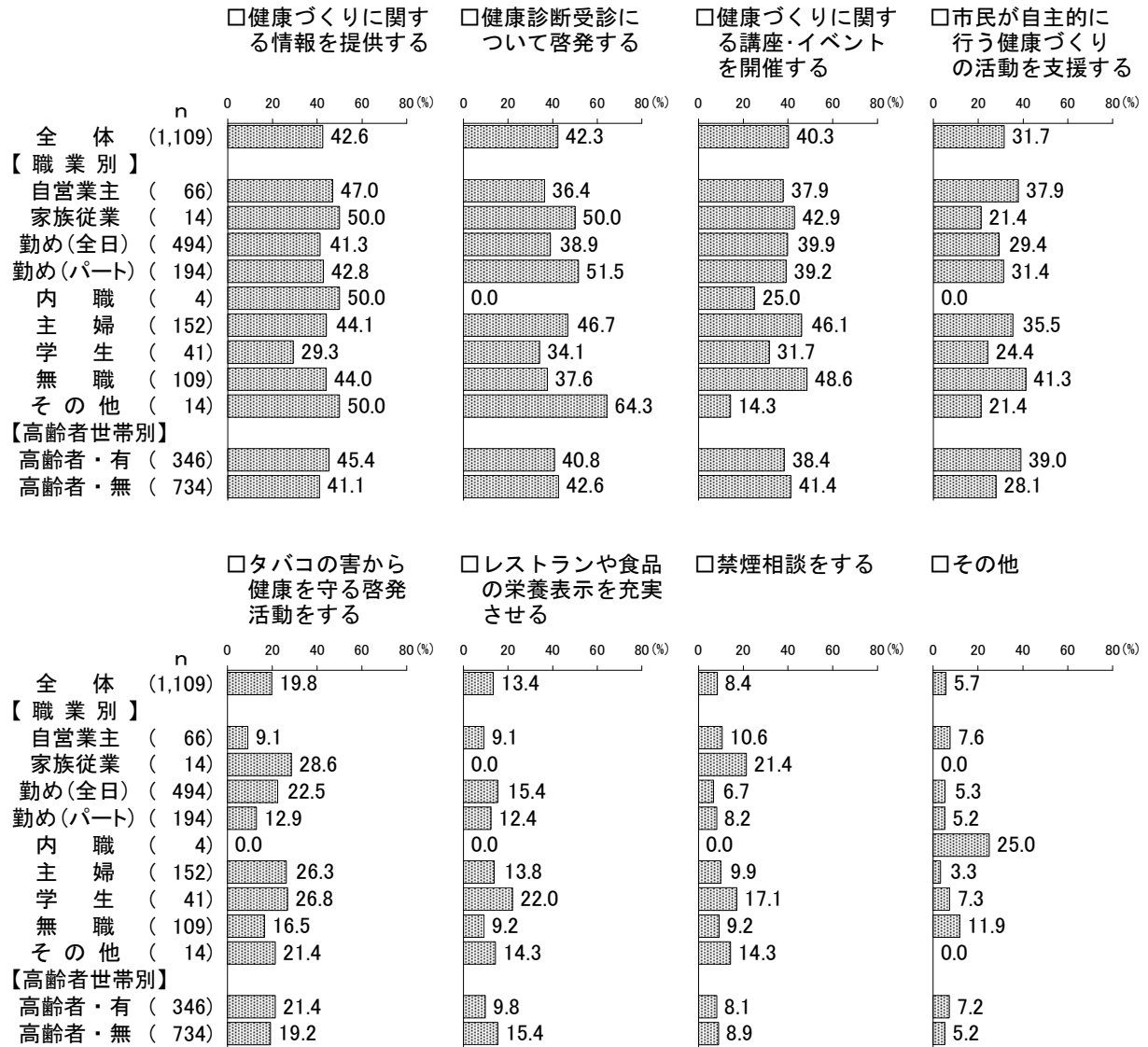
図 1-18 健康推進（性別、性・年代別）



性別にみると、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」は女性が男性より 8.0 ポイント、「健康診断受診について啓発する」は女性が男性より 7.7 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「健康づくりに関する情報を提供する」は男性が女性より 3.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「健康づくりに関する情報を提供する」は男性 60 歳代で 6 割近く、男性 50 歳代と女性の 50 歳代、60 歳代で 5 割前後と高くなっている。「健康診断受診について啓発する」は女性 30 歳代と男性 60 歳代で 5 割前後と高くなっている。「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」は女性の 40 歳代から 60 歳代で 5 割前後と高くなっている。「市民が自主的に  
行う健康づくりの活動を支援する」は男女ともに 70 歳以上で 4 割台と高くなっている。(図 1-18)

図 1-19 健康推進（職業別、高齢者世帯別）



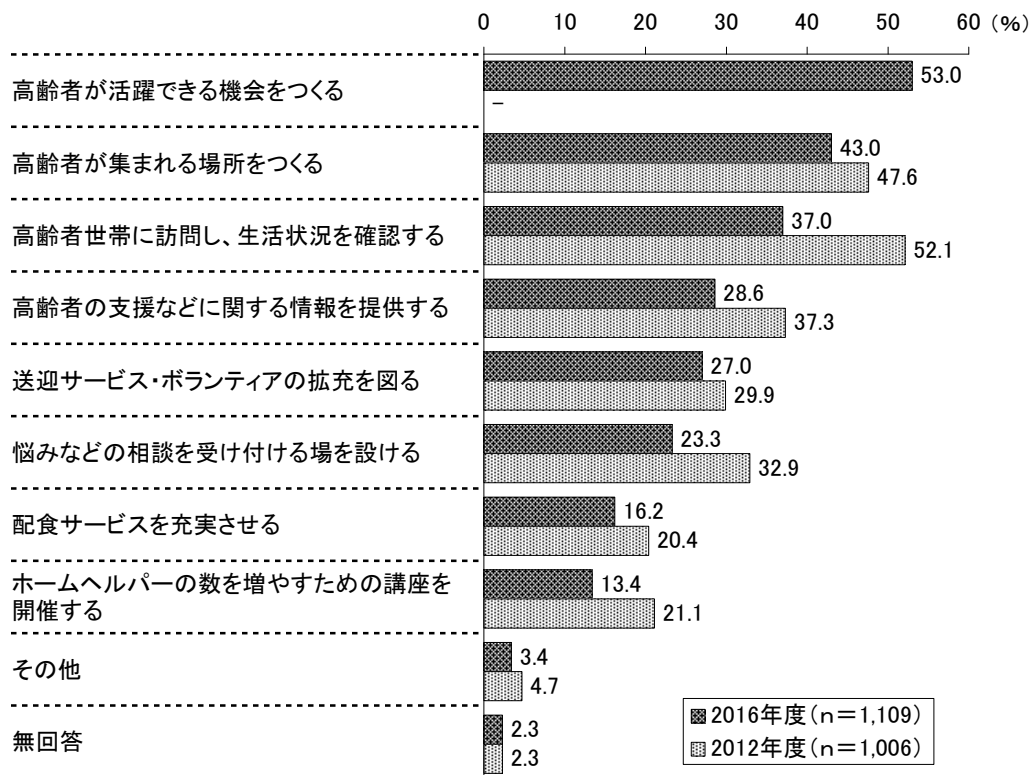
職業別にみると、「健康診断受診について啓発する」は勤め（パート）と家族従業で5割台と高くなっている。「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」は無職で5割近くと高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より10.9ポイント高くなっている。一方、「レストランや食品の栄養表示を充実させる」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より5.6ポイント高くなっている。（図1-19）

(7) 高齢者支援

問7 高齢者を支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-20 高齢者支援



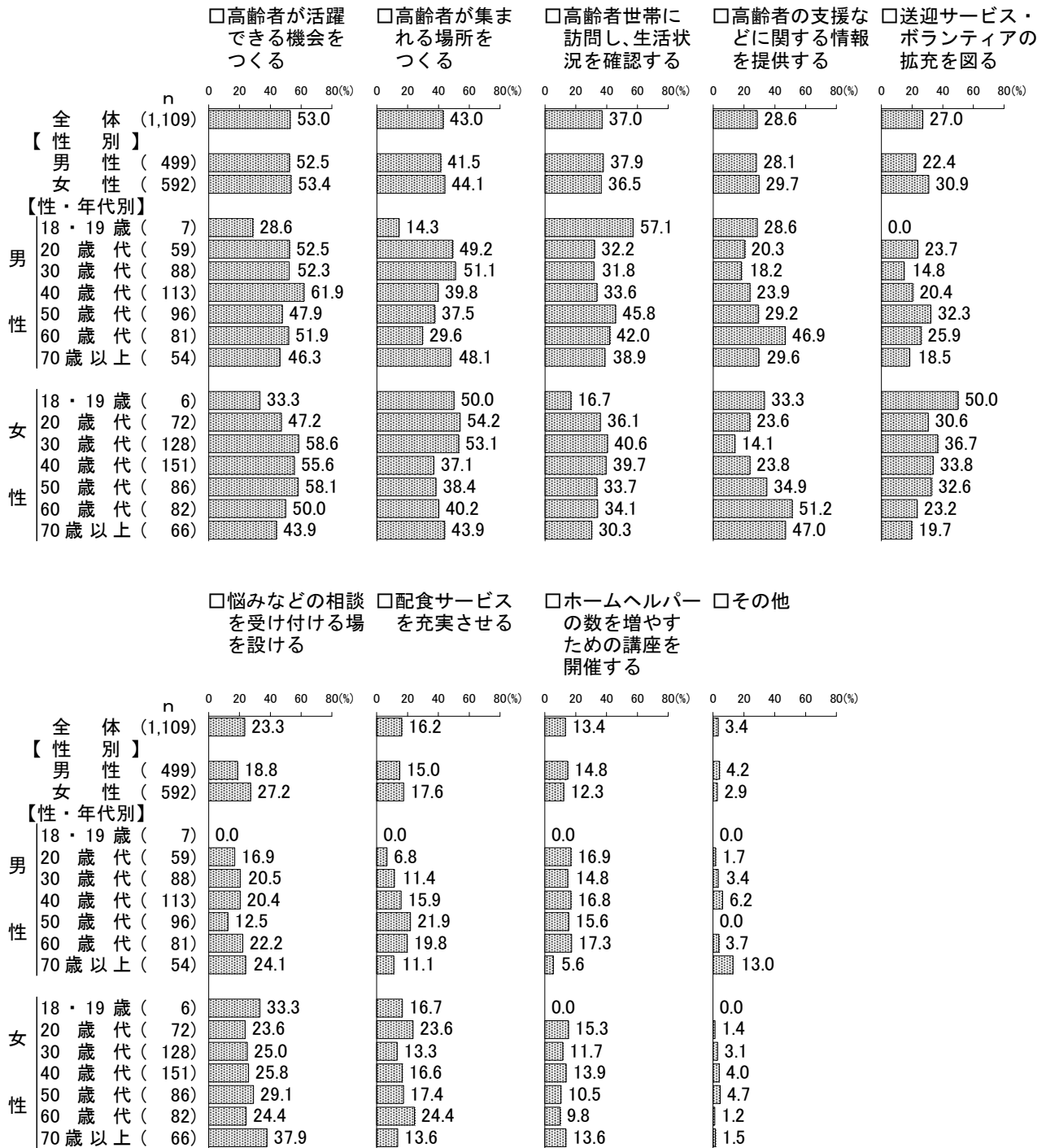
※「高齢者が活躍できる機会をつくる」は2016年度に追加された選択肢

高齢者を支援するための手法を聞いたところ、「高齢者が活躍できる機会をつくる」(53.0%)が5割を超えて最も高く、次いで「高齢者が集まれる場所をつくる」(43.0%)、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」(37.0%)、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」(28.6%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「高齢者が集まれる場所をつくる」、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」が引き続き上位となっている。

(図1-20)

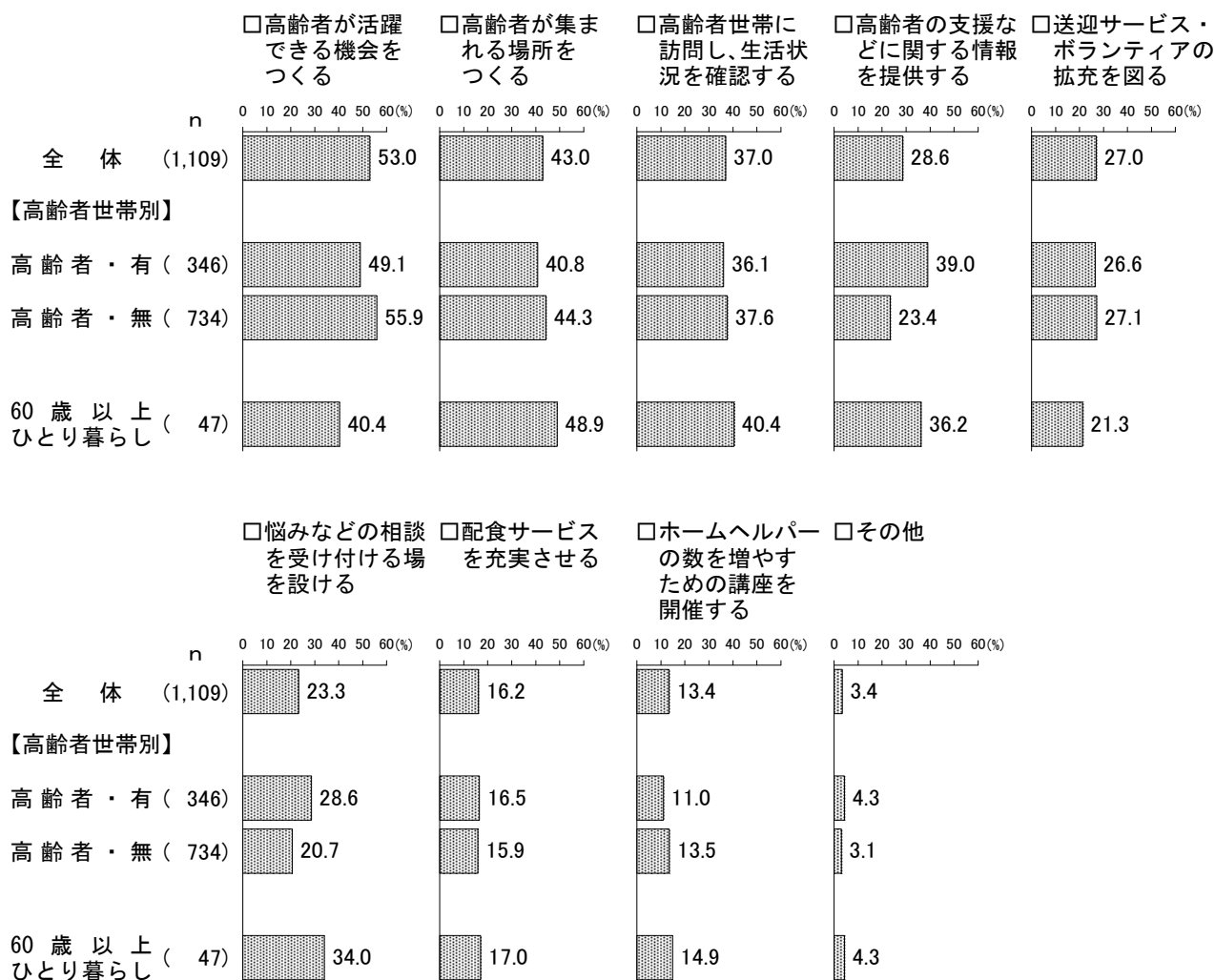
図 1-21 高齢者支援（性別、性・年代別）



性別にみると、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」は女性が男性より 8.5 ポイント、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」は女性が男性より 8.4 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「高齢者が活躍できる機会をつくる」は男性 40 歳代で 6 割を超えて高くなっている。「高齢者の支援などに関する情報を提供する」は女性 60 歳代で 5 割を超えて高くなっている。(図 1-21)

図 1-22 高齢者支援（高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



高齢者世帯別にみると、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より 15.6 ポイント、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より 7.9 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「高齢者が活躍できる機会をつくる」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より 6.8 ポイント高くなっている。

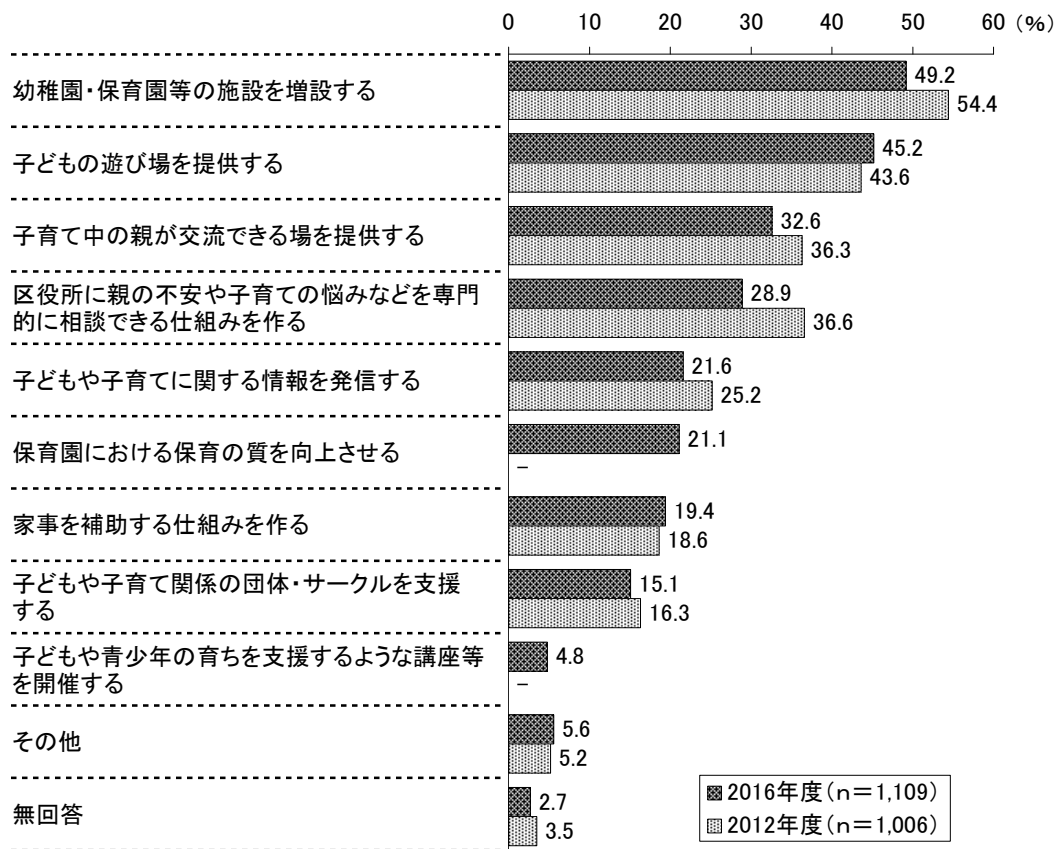
60歳以上ひとり暮らし世帯では、「高齢者が集まれる場所をつくる」(48.9%) が5割近くで最も高く、次いで「高齢者が活躍できる機会をつくる」と「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」(ともに40.4%) となっている。(図1-22)



(8) 子育て支援

問8 子どもや子育てを支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図1-23 子育て支援



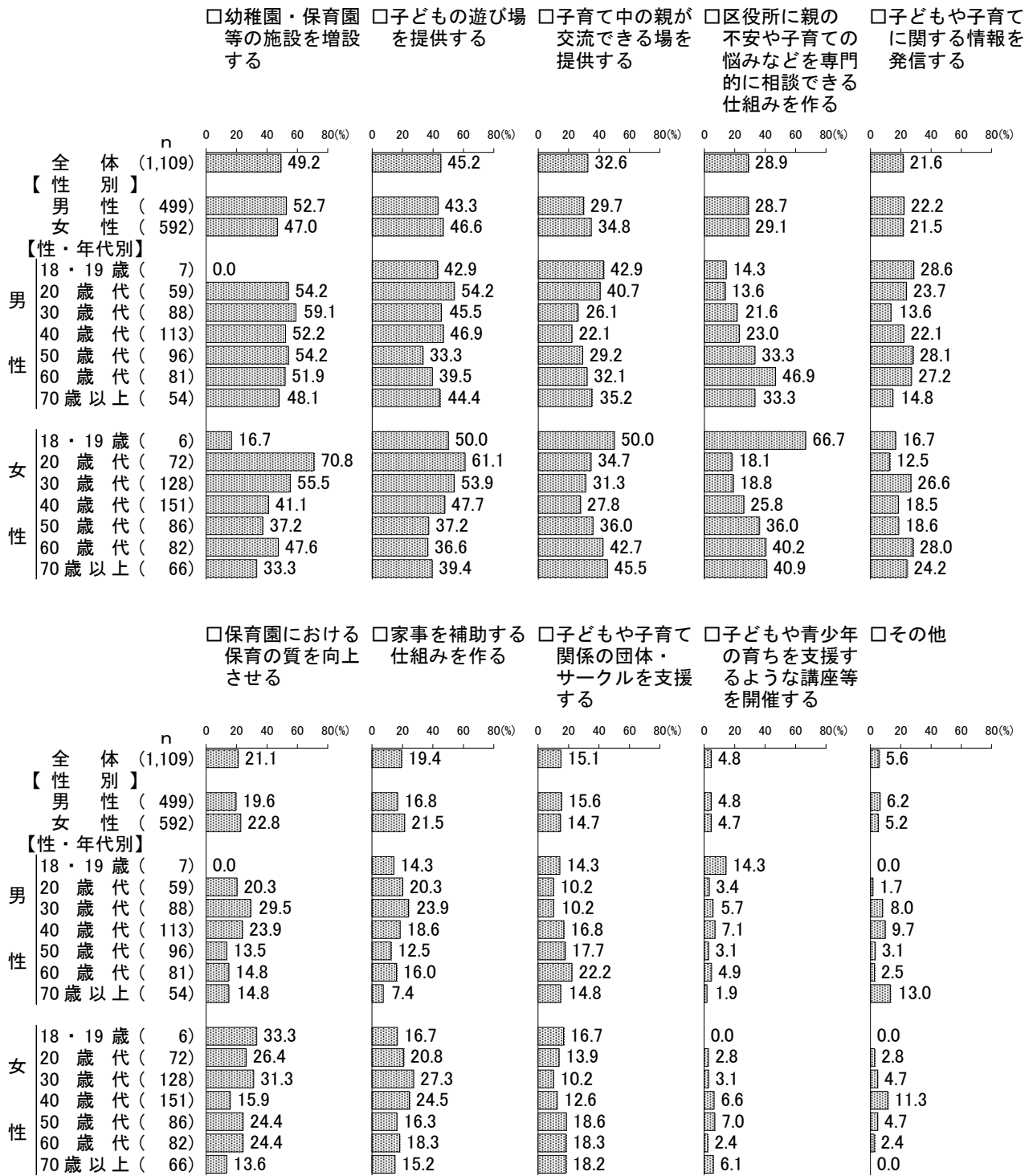
※「保育園における保育の質を向上させる」は2016年度に追加された選択肢

※「子どもや青少年の育ちを支援するような講座等を開催する」は2016年度に追加された選択肢

子どもや子育てを支援するための手法を聞いたところ、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」(49.2%)が約5割で最も高く、次いで「子どもの遊び場を提供する」(45.2%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(32.6%)、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」(28.9%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」、「子どもの遊び場を提供する」が引き続き上位となっている。(図1-23)

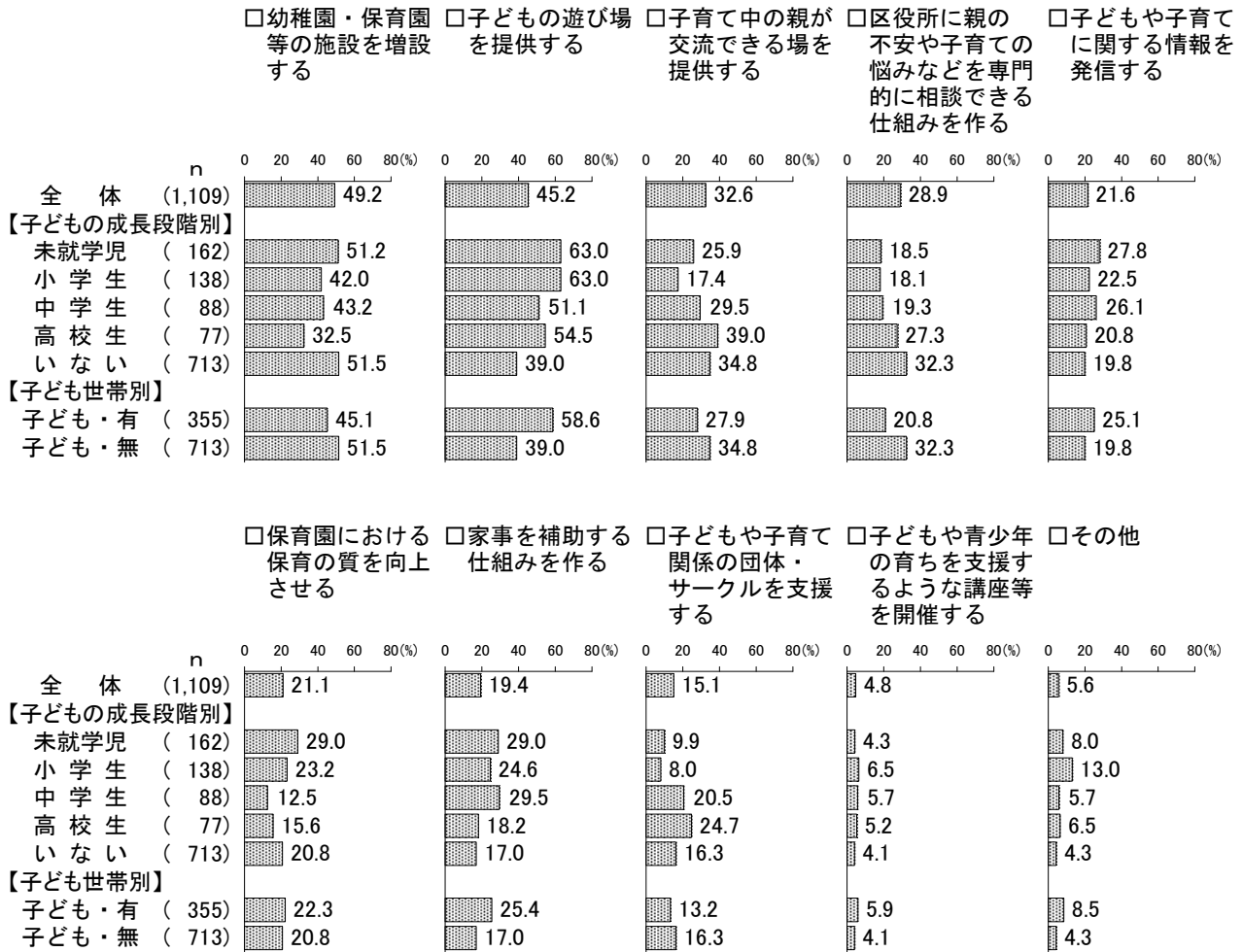
図 1-24 子育て支援（性別、性・年代別）



性別にみると、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」は男性が女性より 5.7 ポイント高くなっている。一方、「子育て中の親が交流できる場を提供する」は女性が男性より 5.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」は女性 20 歳代で約 7 割と高く、「子どもの遊び場を提供する」でも女性 20 歳代で 6 割を超えて高くなっている。(図 1-24)

図 1-25 子育て支援（子どもの成長段階別、子ども世帯別）



子どもの成長段階別にみると、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」は“未就学児”と“いない”で5割を超えて高くなっている。「子どもの遊び場を提供する」は“未就学児”と“小学生”で6割を超えて高くなっている。

子ども世帯別にみると、「子どもの遊び場を提供する」は“子ども・有”が“子ども・無”より19.6ポイント高くなっている。一方、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」は“子ども・無”が“子ども・有”より11.5ポイント高くなっている。

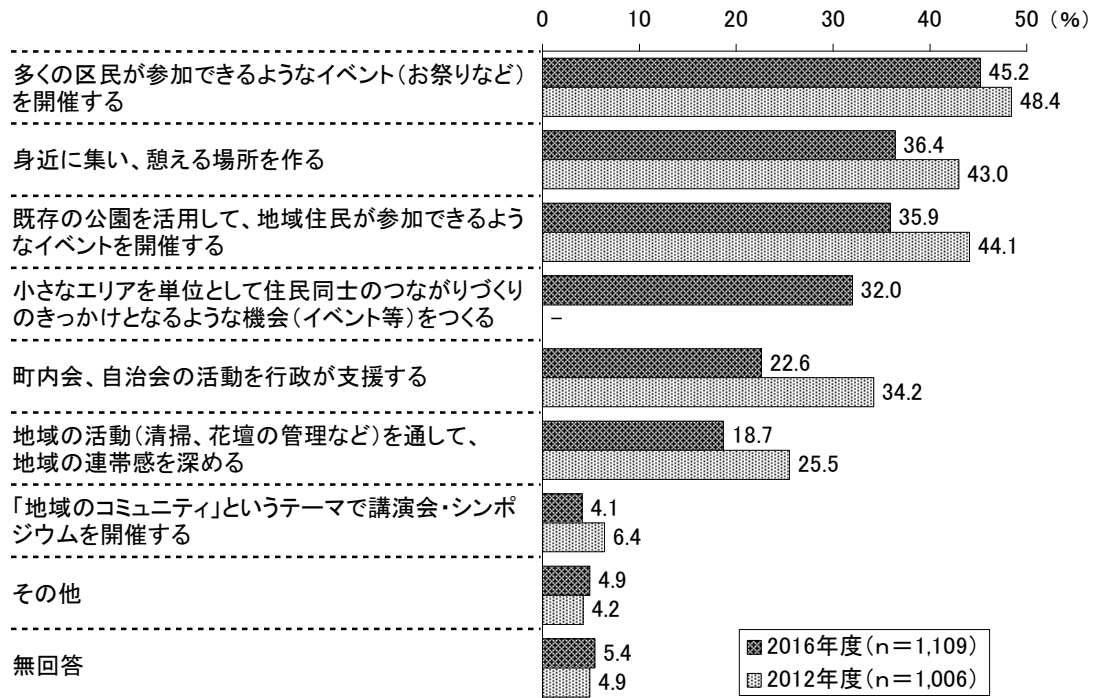
(図 1-25)

(9) 地域住民のつながりを深める手法

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためには、どのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

図1-26 地域住民のつながりを深める手法

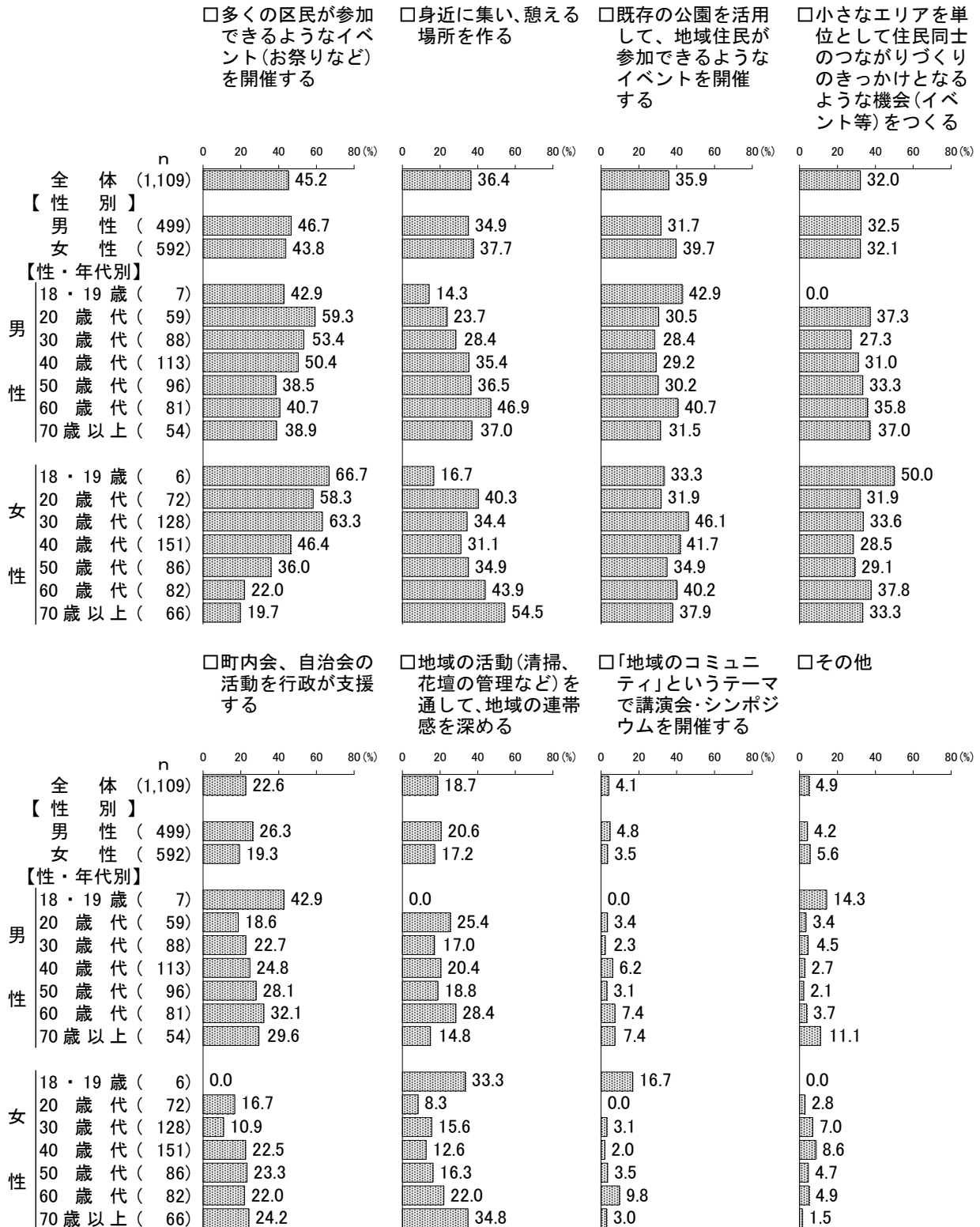


※「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会(イベント等)をつくる」は2016年度に追加された選択肢

地域の住民同士のつながりを深めるための手法を聞いたところ、「多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する」(45.2%)が4割半ばで最も高く、次いで「身近に集い、憩える場所を作る」(36.4%)、「既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する」(35.9%)、「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会(イベント等)をつくる」(32.0%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する」、「身近に集い、憩える場所を作る」、「既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する」が引き続き上位となっている。(図1-26)

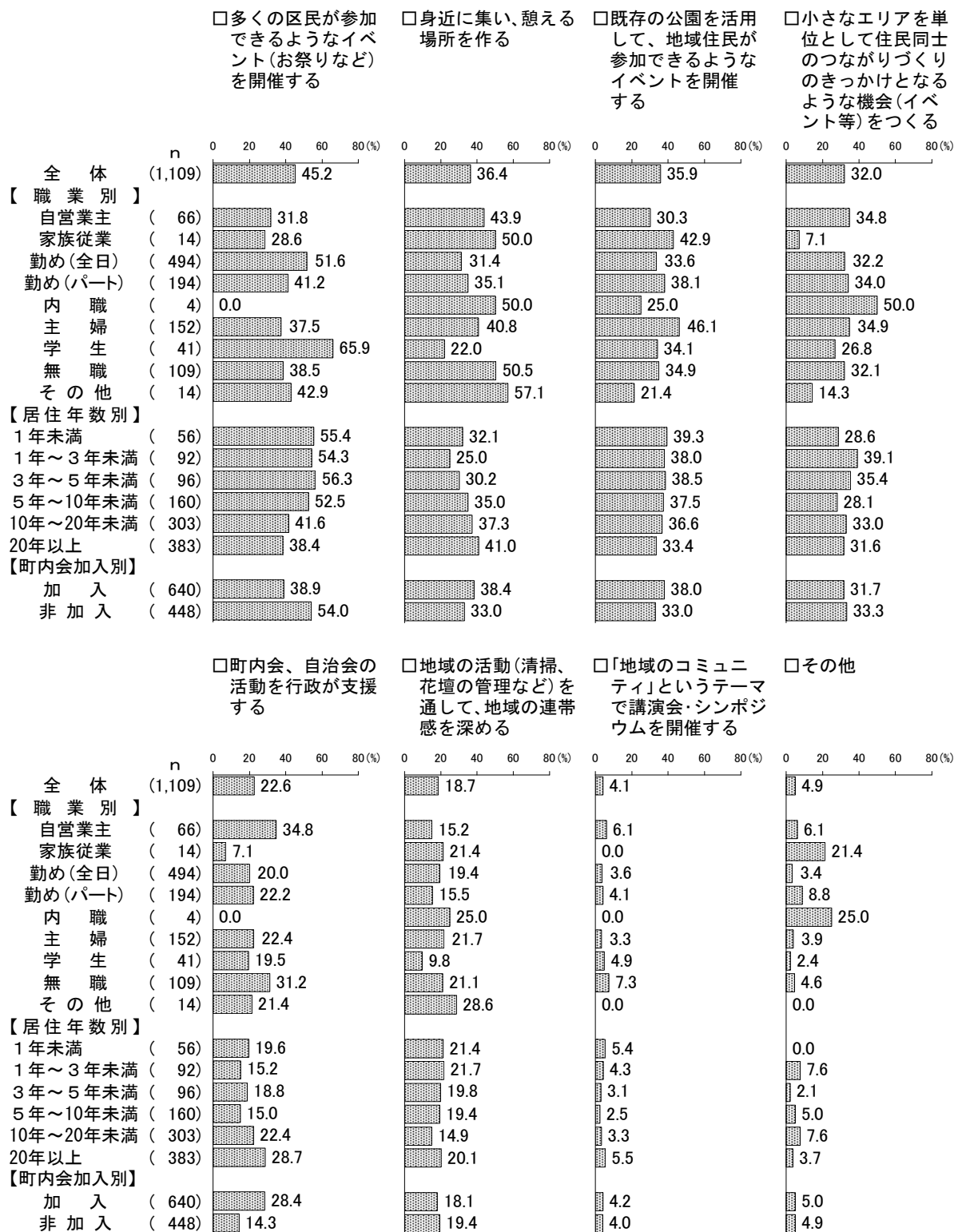
図 1-27 地域住民のつながりを深める手法（性別、性・年代別）



性別にみると、「既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する」は女性が男性より 8.0 ポイント高くなっている。一方、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」は男性が女性より 7.0 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は女性 30 歳代で 6 割を超えて高くなっている。「身近に集い、憩える場所を作る」は女性 70 歳以上で 5 割半ばと高くなっている。（図 1-27）

図 1-28 地域住民のつながりを深める手法（職業別、居住年数別、町内会加入別）

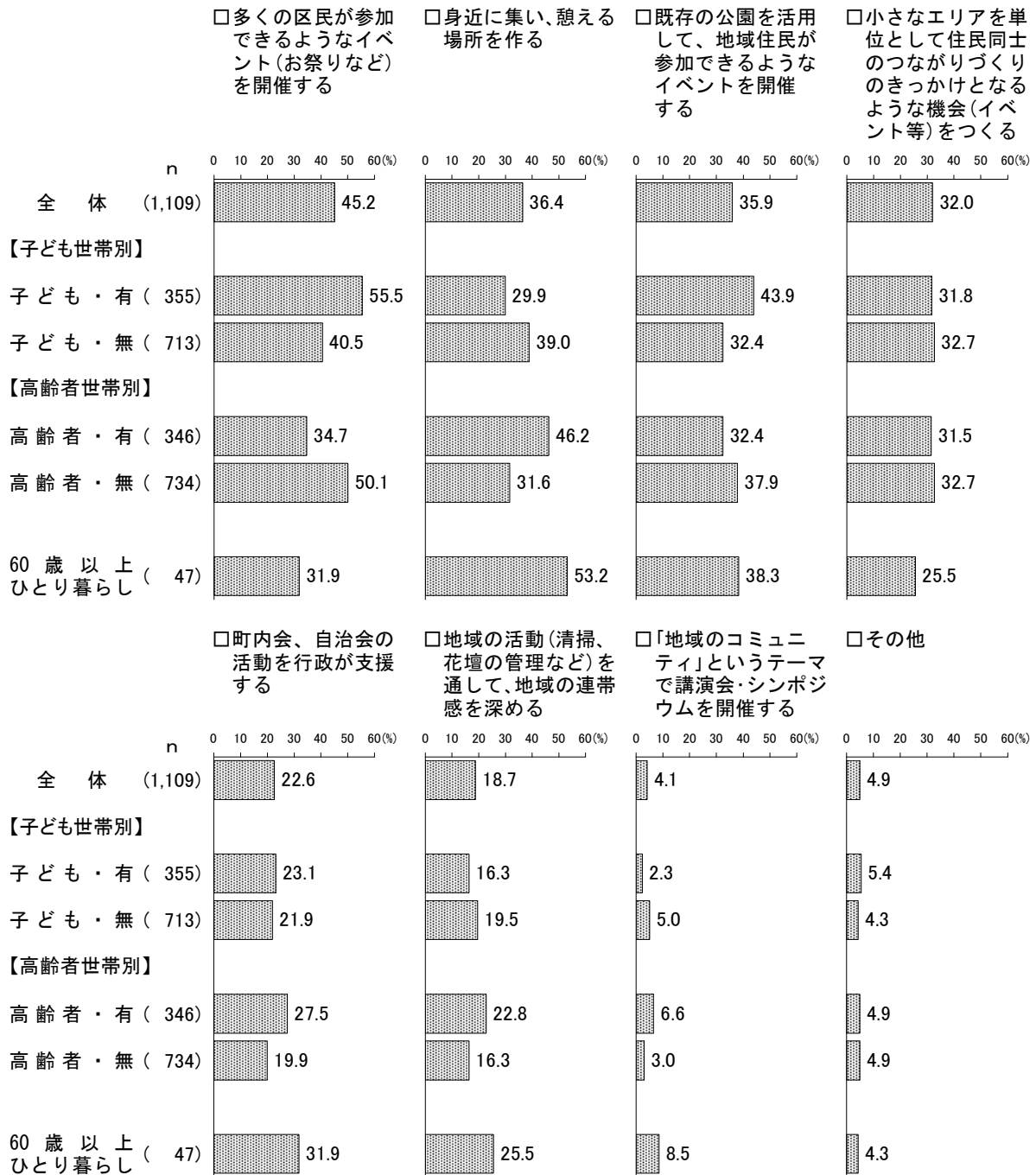


職業別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は学生で6割半ばと高くなっており、勤め（全日）でも5割を超えている。

居住年数別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は10年未満の居住年数で5割を超えて高くなっている。「身近に集い、憩える場所を作る」はおおむね居住年数が長くなるほど割合が高く、20年以上で4割を超えて高くなっている。

町内会加入別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は“非加入”が“加入”より15.1ポイント高くなっている。一方、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」は“加入”が“非加入”より14.1ポイント高くなっている。（図1-28）

図 1-29 地域住民のつながりを深める手法（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



子ども世帯別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は“子ども・有”が“子ども・無”より15.0ポイント、「既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する」は“子ども・有”が“子ども・無”より11.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「身近に集い、憩える場所を作る」は“子ども・無”が“子ども・有”より9.1ポイント高くなっている。

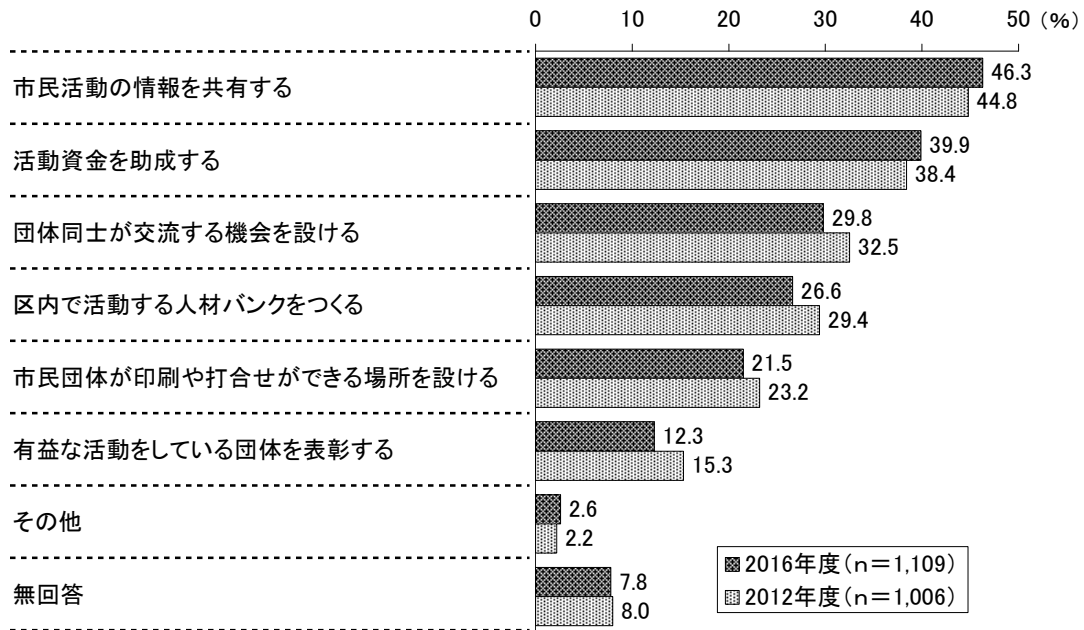
高齢者世帯別にみると、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より15.4ポイント高くなっている。一方、「身近に集い、憩える場所を作る」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より14.6ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「身近に集い、憩える場所を作る」（53.2%）が5割を超えて最も高く、次いで「既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する」（38.3%）となっている。（図1-29）

(10) 市民活動支援

問 10 市民活動の支援としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 1-30 市民活動支援



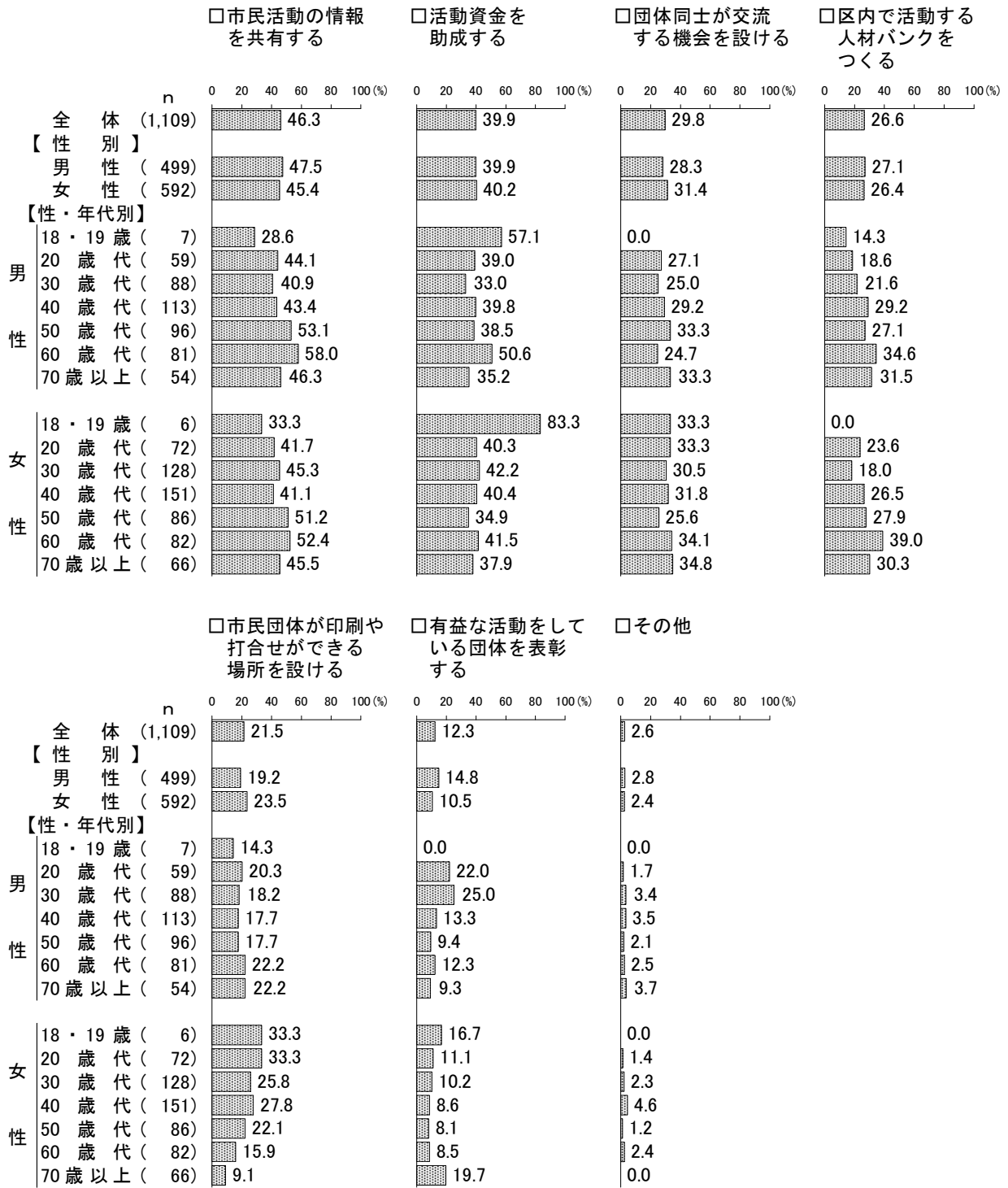
市民活動の支援の手法を聞いたところ、「市民活動の情報を共有する」(46.3%)が4割半ばで最も高く、次いで「活動資金を助成する」(39.9%)、「団体同士が交流する機会を設ける」(29.8%)、「区内で活動する人材バンクをつくる」(26.6%)となっている。

2012年度と比較すると、「有益な活動をしている団体を表彰する」は3.0ポイント減少している。

(図 1-30)



図 1-31 市民活動支援（性別、性・年代別）



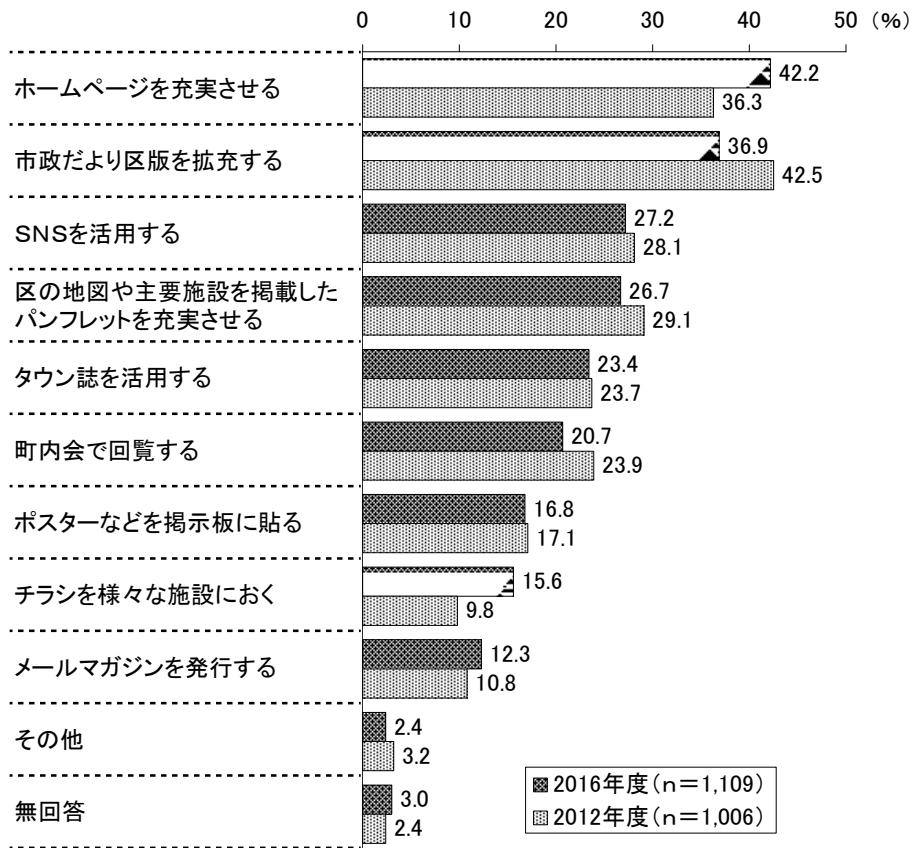
性別にみると、「市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける」は女性が男性より 4.3 ポイント高くなっている。一方、「有益な活動をしている団体を表彰する」は男性が女性より 4.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「市民活動の情報を共有する」は男性 60 歳代で 6 割近くと高くなっている。「活動資金を助成する」は男性 60 歳代で約 5 割と高くなっている。(図 1-31)

(11) 区の情報提供

問 11 区の情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 1-32 区の情報提供

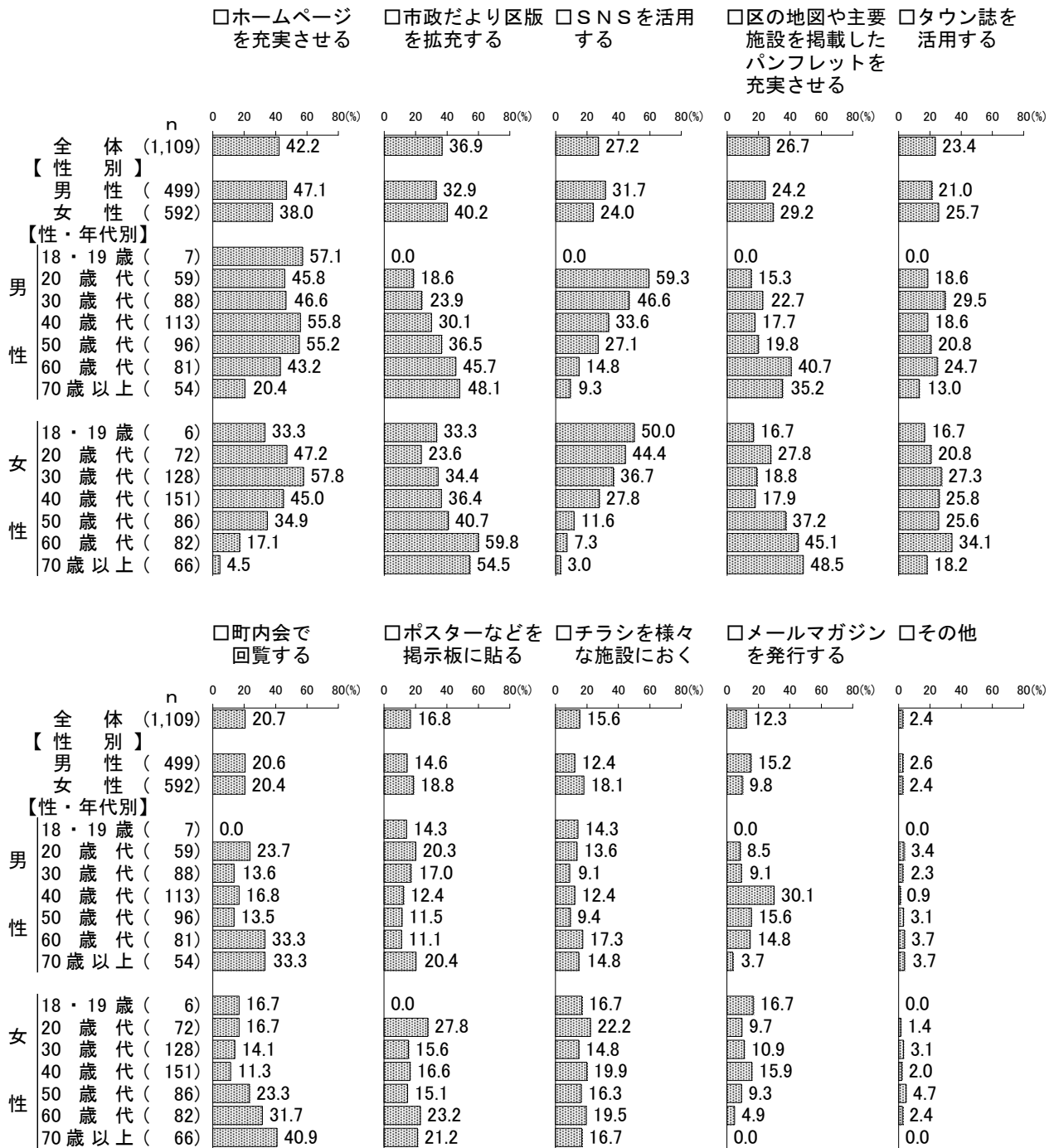


※「SNSを活用する」は、2012年度では「携帯電話からも情報を得られるようにする」としていた。

区の情報を提供するための手法を聞いたところ、「ホームページを充実させる」(42.2%)が4割を超えて最も高く、次いで「市政だより区版を拡充する」(36.9%)、「SNSを活用する」(27.2%)、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」(26.7%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ホームページを充実させる」、「市政だより区版を拡充する」が引き続き上位となっている。(図1-32)

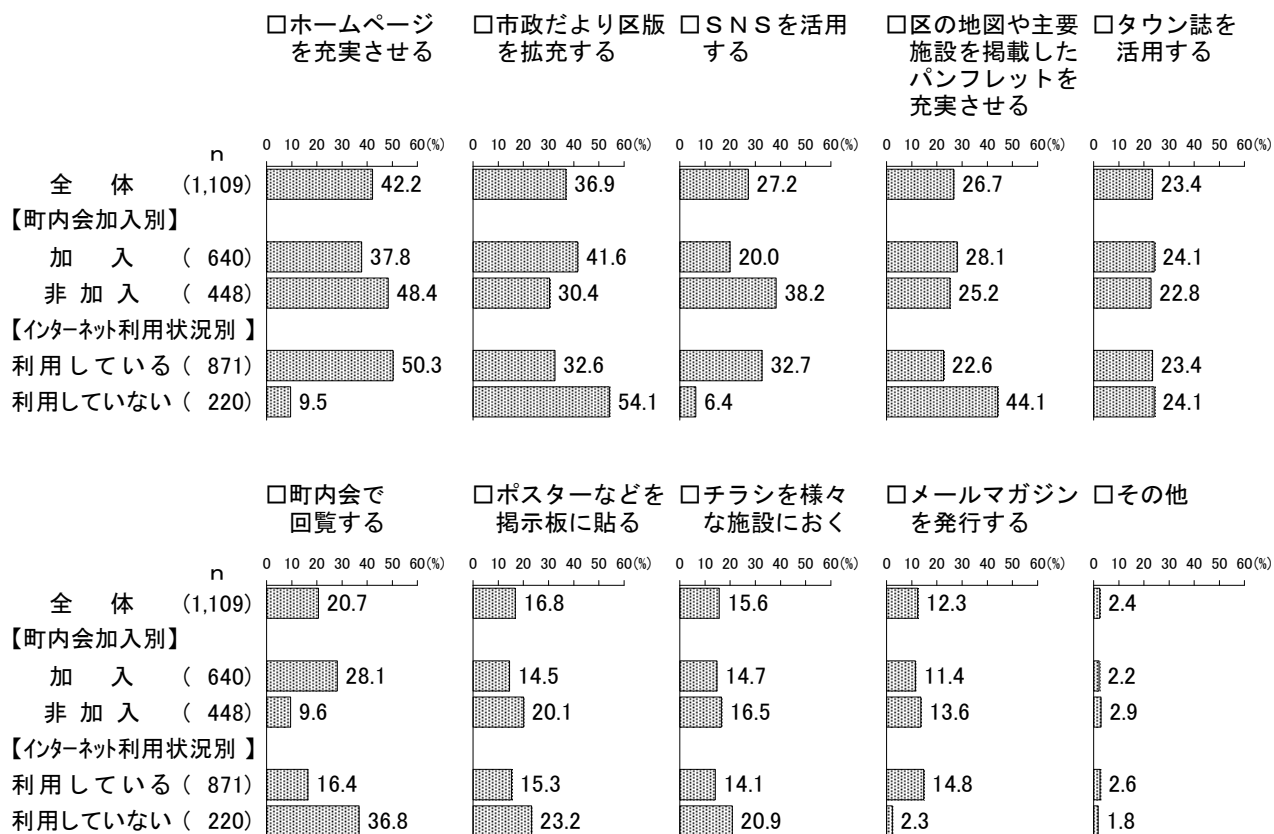
図 1-33 区の情報提供（性別、性・年代別）



性別にみると、「ホームページを充実させる」は男性が女性より 9.1 ポイント高くなっている。一方、「市政だより区版を拡充する」は女性が男性より 7.3 ポイント高くなっている。全体として、電子媒体では男性が高く、紙媒体では女性の方が高くなっている傾向にある。

性・年代別にみると、「ホームページを充実させる」は女性 30 歳代で 6 割近くと高くなっている。「市政だより区版を拡充する」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、「SNS を活用する」は男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が高くなっている。(図 1-33)

図 1-34 区の情報提供（町内会加入別、インターネット利用状況別）



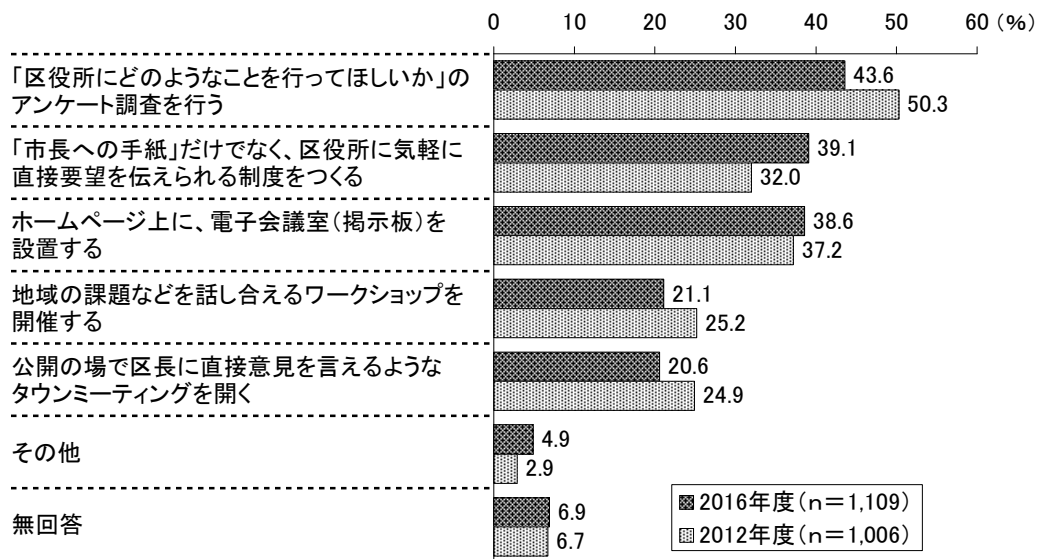
町内会加入別にみると、「町内会で回覧する」は「加入」が「非加入」より 18.5 ポイント、「市政だより区版を拡充する」は「加入」が「非加入」より 11.2 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「SNSを活用する」は「非加入」が「加入」より 18.2 ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「ホームページを充実させる」は「利用している」が「利用していない」より 40.8 ポイント高くなっている。一方、「市政だより区版を拡充する」と「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」は「利用していない」が「利用している」よりそれぞれ 21.5 ポイント高くなっている。(図 1-34)

(12) 区民の要望収集

問 12 区民の要望を収集するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 1-35 区民の要望収集

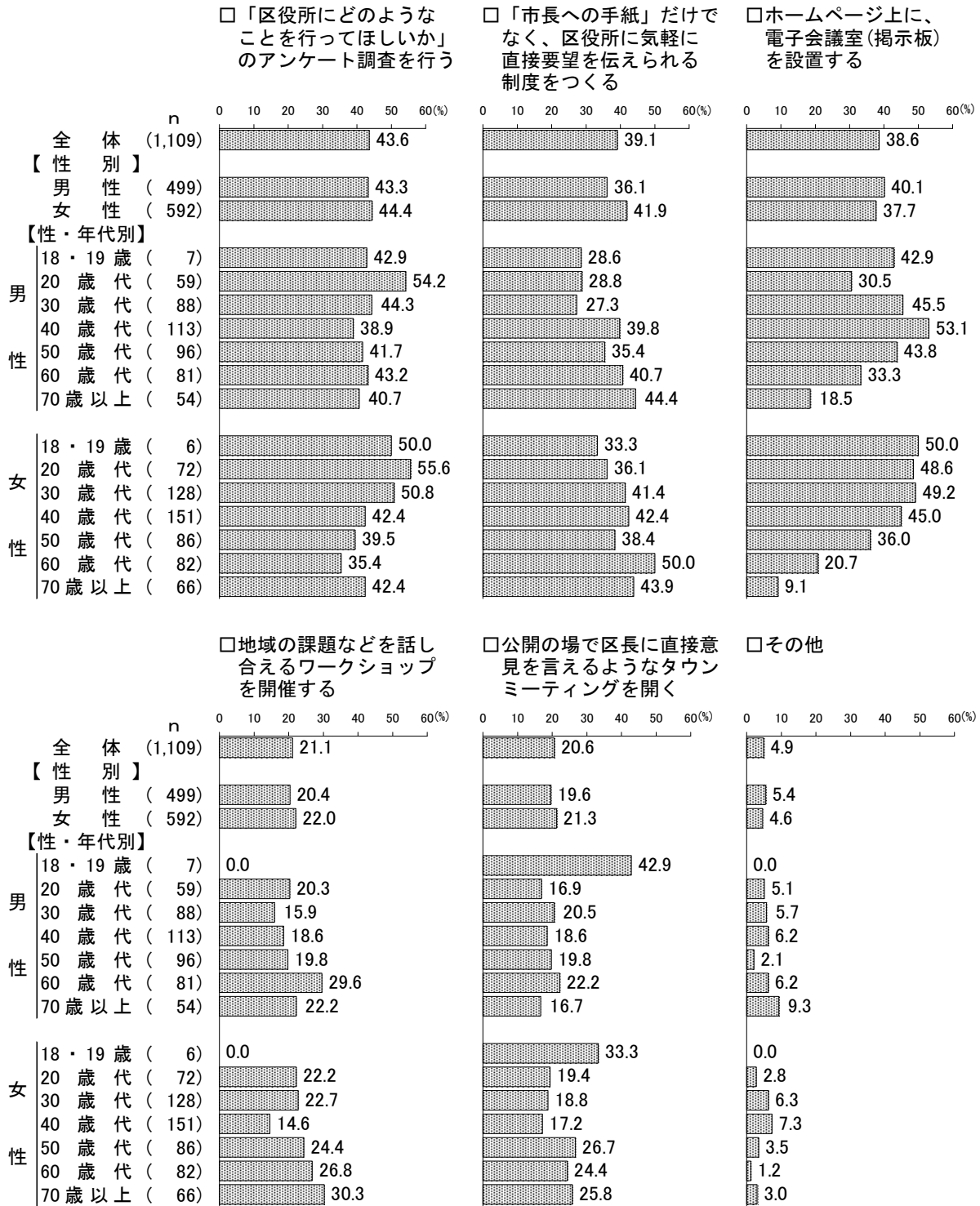


※ 『市長への手紙』だけでなく、区役所に気軽に直接要望を伝えられる制度をつくる』は、2012年度では『市長への手紙』だけでなく、『区長への手紙』の制度を設ける』としていた

区民の要望を収集するための手法を聞いたところ、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」(43.6%)が4割を超えて最も高く、次いで『市長への手紙』だけでなく、区役所に気軽に直接要望を伝えられる制度をつくる」(39.1%)、「ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する」(38.6%)、「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」(21.1%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う』が引き続き1位となっている。(図1-35)

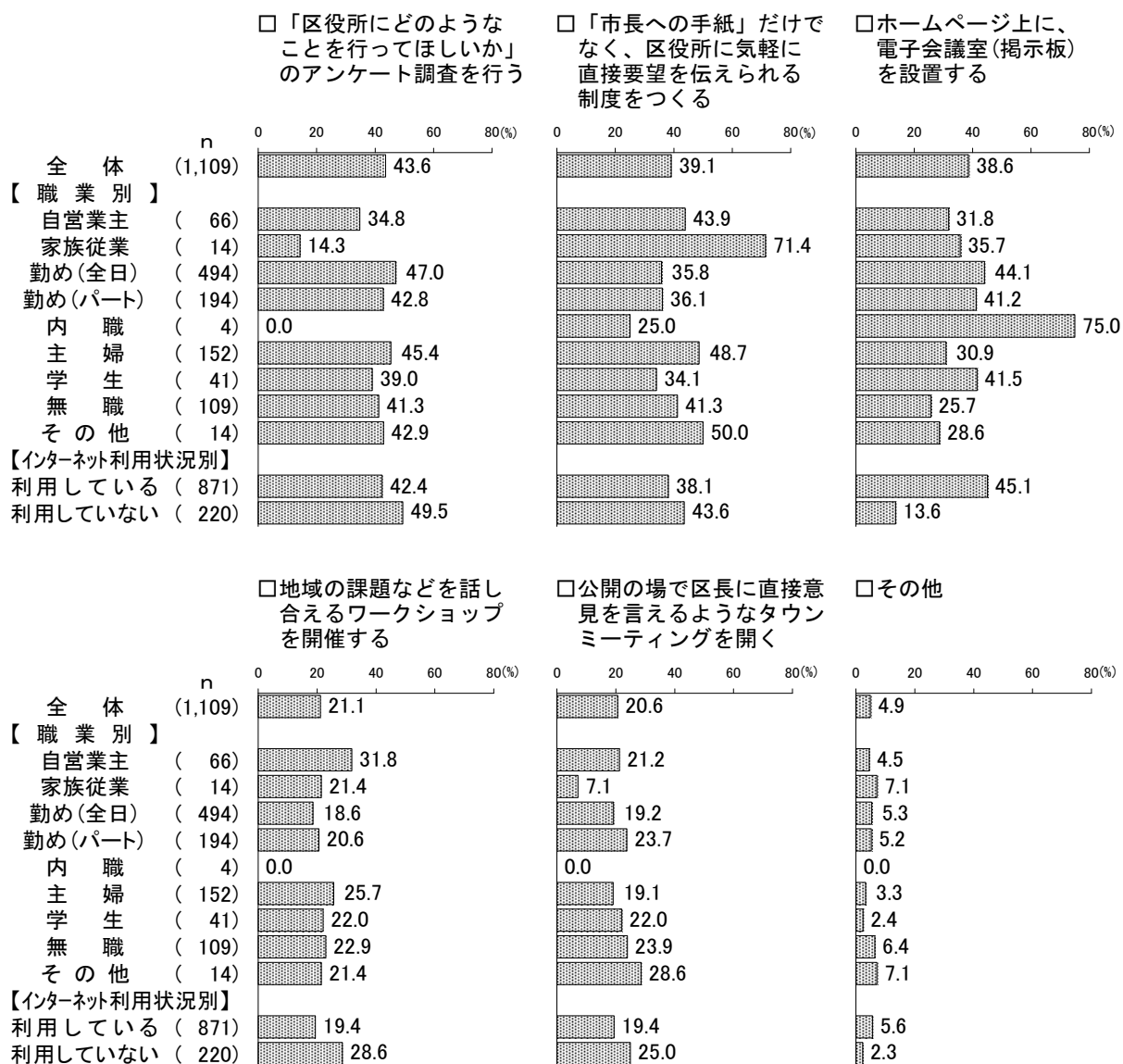
図 1-36 区民の要望収集（性別、性・年代別）



性別にみると、『市長への手紙』だけでなく、区役所に気軽に直接要望を伝えられる制度をつくるは女性が男性より 5.8 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行うは男女ともに 20 歳代で 5 割半ばと高くなっている。「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」は男性 40 歳代で 5 割を超えて高くなっている。（図 1-36）

図 1-37 区民の要望収集（職業別、インターネット利用状況別）



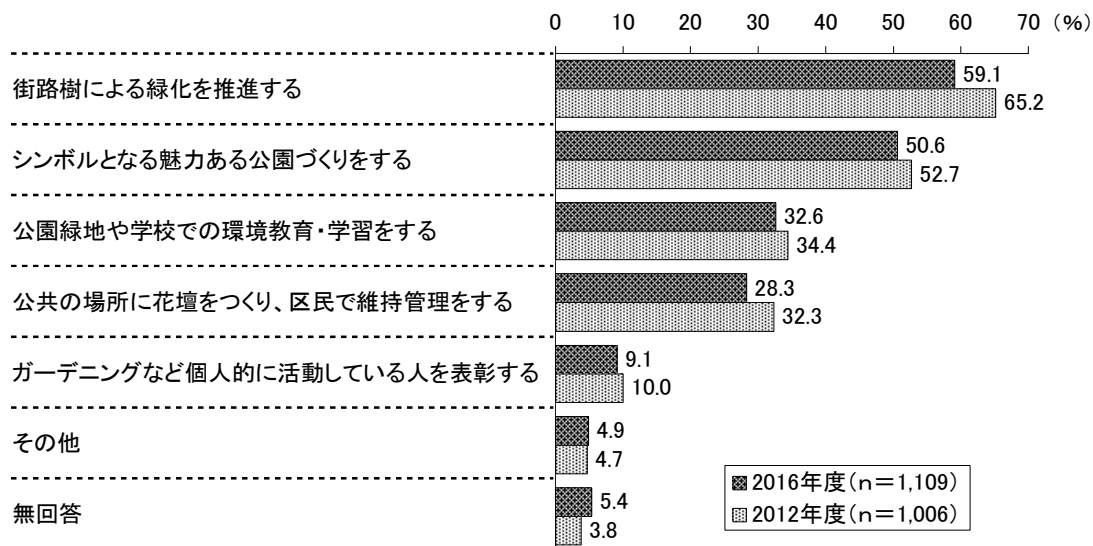
職業別にみると、『「区役所にどのようなことを行ってほしいか」のアンケート調査を行う』は勤め（全日）で5割近くと高くなっている。『「市長への手紙」だけでなく、区役所に気軽に直接要望を伝えられる制度をつくる』は家族従業で7割を超え、主婦で5割近くと高くなっている。「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」は勤め（全日）で4割半ばと高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」は“利用している”が“利用していない”より31.5ポイント高くなっている。一方、「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」は“利用していない”が“利用している”より9.2ポイント高くなっている。全体的には、“利用していない”の方が“利用している”より割合が高い傾向となっている。（図 1-37）

(13) 花と緑のまちづくり推進

問 13 花と緑のまちづくりを推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。  
(3つまで○)

図 1-38 花と緑のまちづくり推進

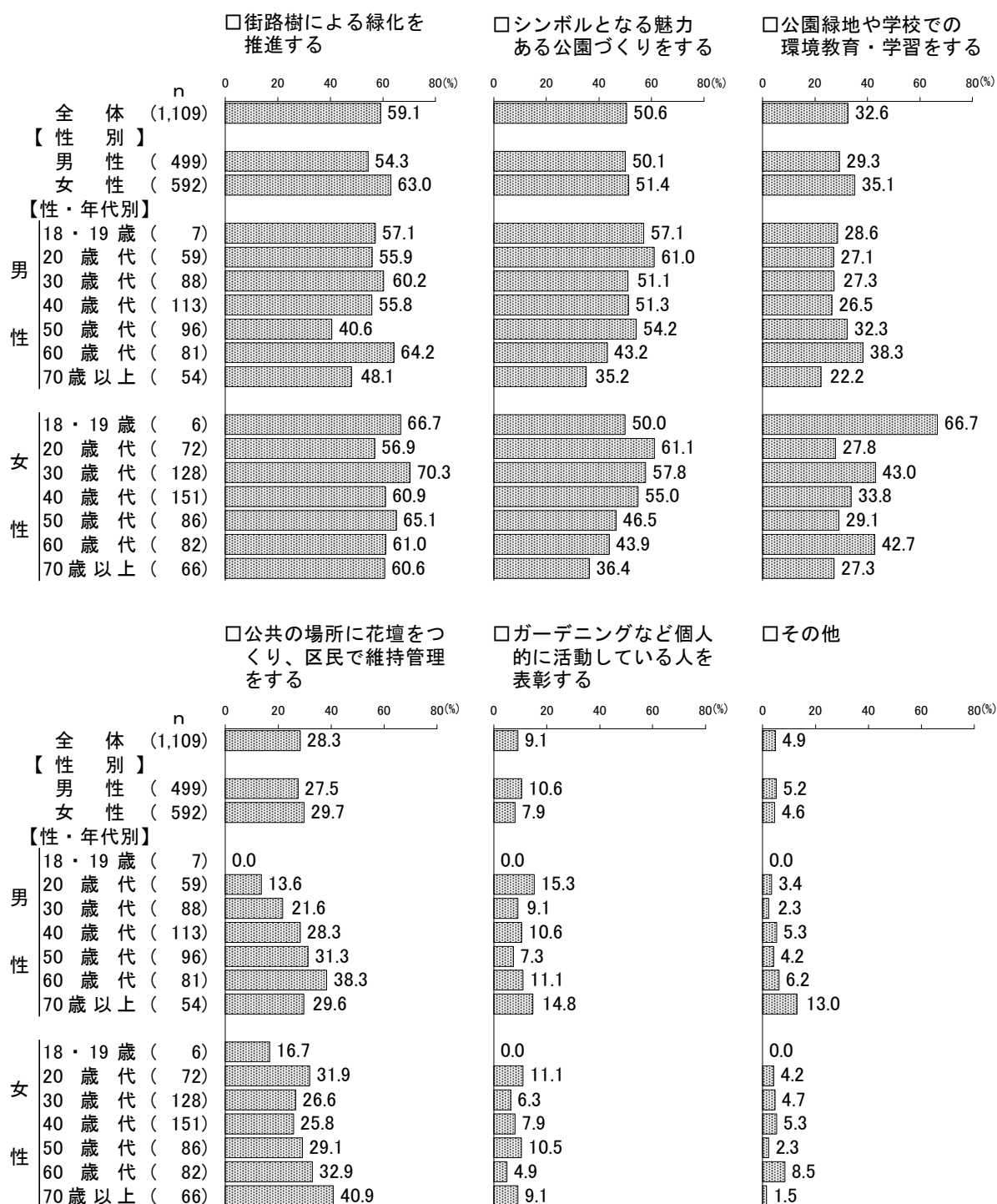


花と緑のまちづくりを推進していくために、どのようにしたらよいか聞いたところ、「街路樹による緑化を推進する」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」(50.6%)、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」(32.6%)、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」(28.3%)となっている。

2012年度と比較すると、「街路樹による緑化を推進する」は6.1ポイント、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」は4.0ポイント、それぞれ減少している。(図1-38)



図 1-39 花と緑のまちづくり推進（性別、性・年代別）



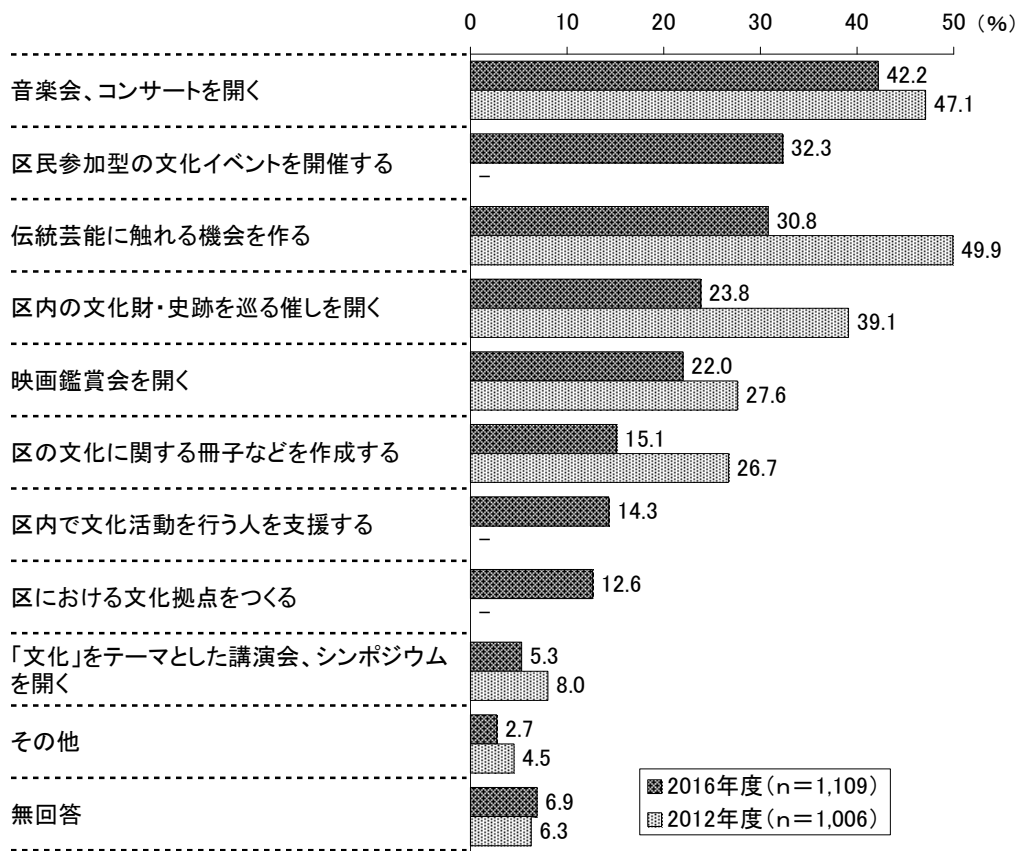
性別にみると、「街路樹による緑化を推進する」は女性が男性より 8.7 ポイント、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」は女性が男性より 5.8 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「街路樹による緑化を推進する」は女性 30 歳代で 7 割と高くなっている。「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」は男女ともに 20 歳代で 6 割を超えて高くなっている。(図 1-39)

(14) 区の文化の振興

問 14 区の文化を振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 1-40 区の文化の振興

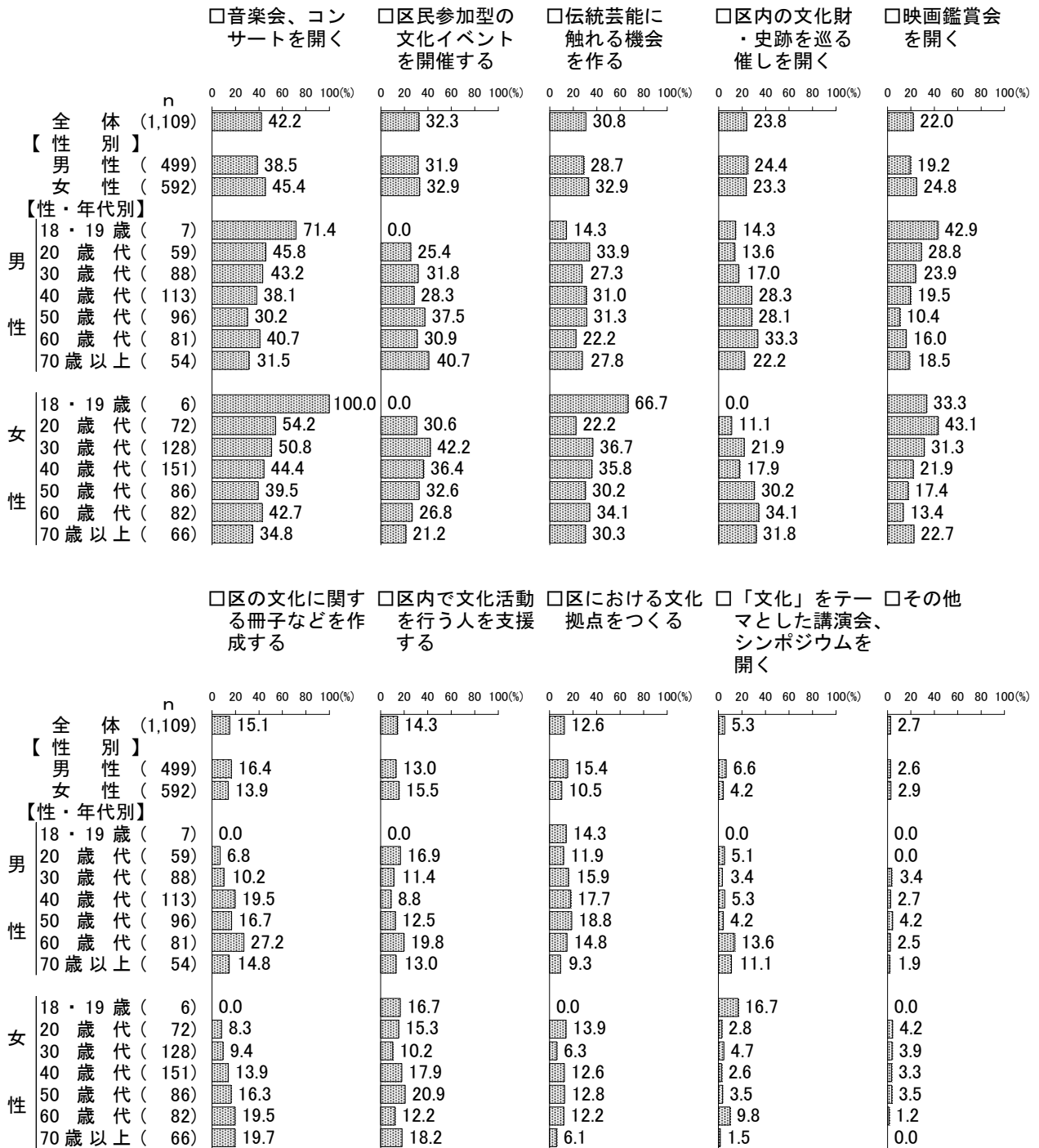


※「区民参加型の文化イベントを開催する」は 2016 年度に追加された選択肢  
 ※「区内で文化活動を行う人を支援する」は 2016 年度に追加された選択肢  
 ※「区における文化拠点をつくる」は 2016 年度に追加された選択肢

区の文化を振興するための手法を聞いたところ、「音楽会、コンサートを開く」(42.2%)が4割を超えて最も高く、次いで「区民参加型の文化イベントを開催する」(32.3%)、「伝統芸能に触れる機会を作る」(30.8%)、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」(23.8%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「音楽会、コンサートを開く」、「伝統芸能に触れる機会を作る」が引き続き上位となっている。(図 1-40)

図 1-41 区の文化の振興（性別、性・年代別）



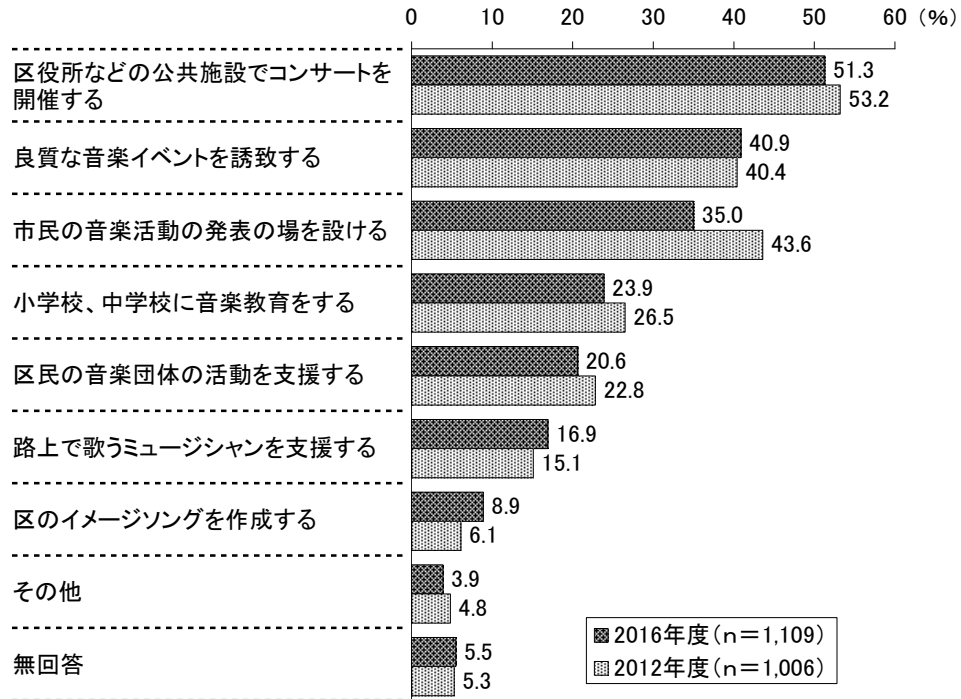
性別にみると、「音楽会、コンサートを開く」は女性が男性より 6.9 ポイント高くなっている。一方、「区における文化拠点をつくる」は男性が女性より 4.9 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「音楽会、コンサートを開く」は女性の 20 歳代と 30 歳代で 5 割を超えて高くなっている。「区民参加型の文化イベントを開催する」は女性 30 歳代と男性 70 歳以上で 4 割台と高くなっている。(図 1-41)

(15) 「音楽のまち」 推進

問 15 高津区において「音楽のまち」を推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

図 1-42 「音楽のまち」 推進

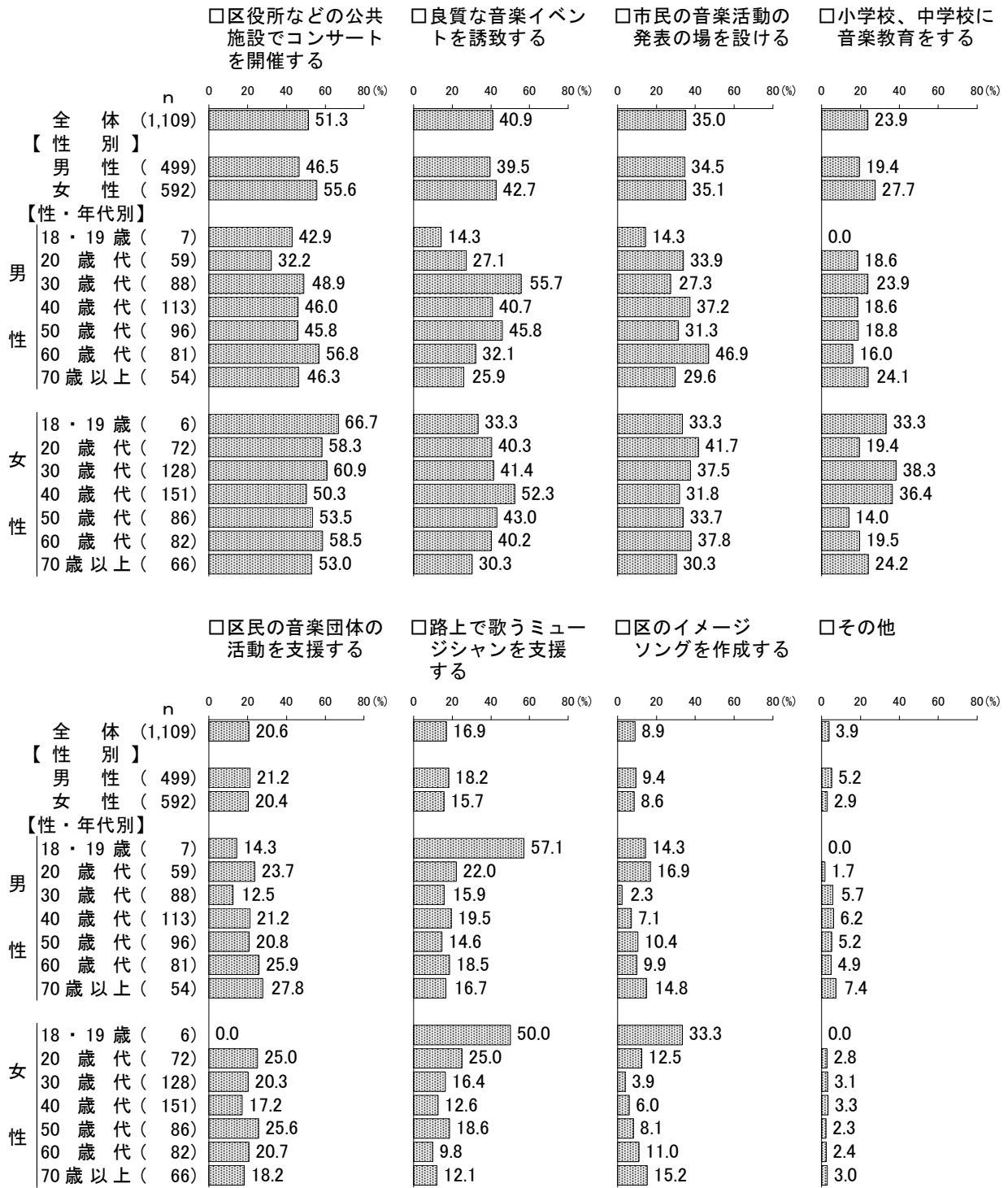


高津区において「音楽のまち」を推進するための手法を聞いたところ、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」(51.3%)が5割を超えて最も高く、次いで「良質な音楽イベントを誘致する」(40.9%)、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」(35.0%)、「小学校、中学校に音楽教育をする」(23.9%)となっている。

2012年度と比較すると、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」は8.6ポイント減少している。

(図 1-42)

図 1-43 「音楽のまち」推進（性別、性・年代別）



性別にみると、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」は女性が男性より 9.1 ポイント、「小学校、中学校に音楽教育をする」は女性が男性より 8.3 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」は女性 30 歳代で約 6 割と高くなっている。「良質な音楽イベントを誘致する」は男性 30 歳代で 5 割半ばと高くなっている。

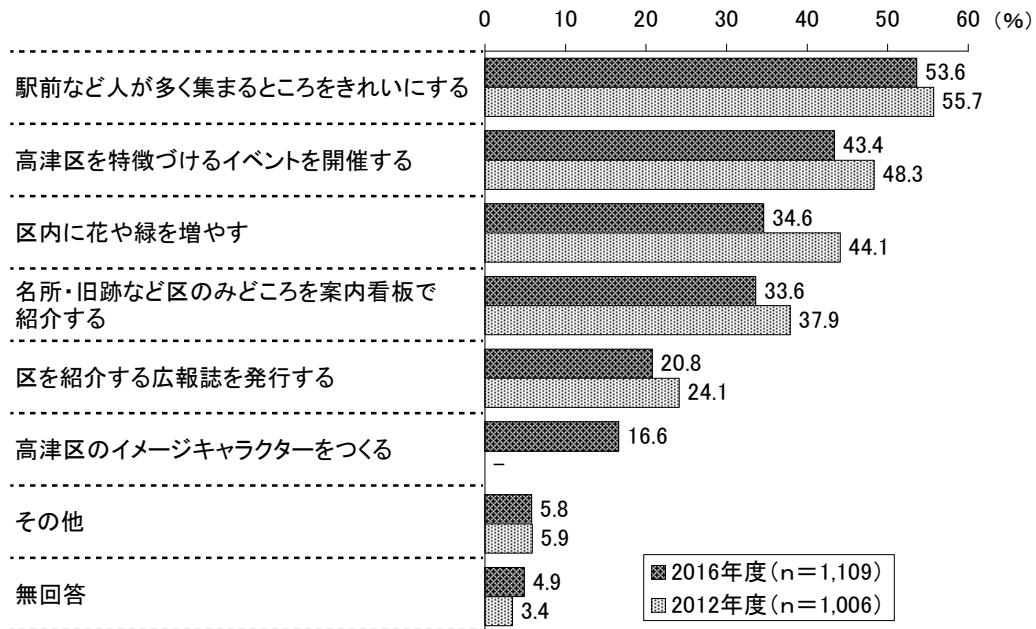
(図 1-43)

(16) 区のイメージアップ

問 16 区のイメージアップを図るためには、どのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

図 1-44 区のイメージアップ



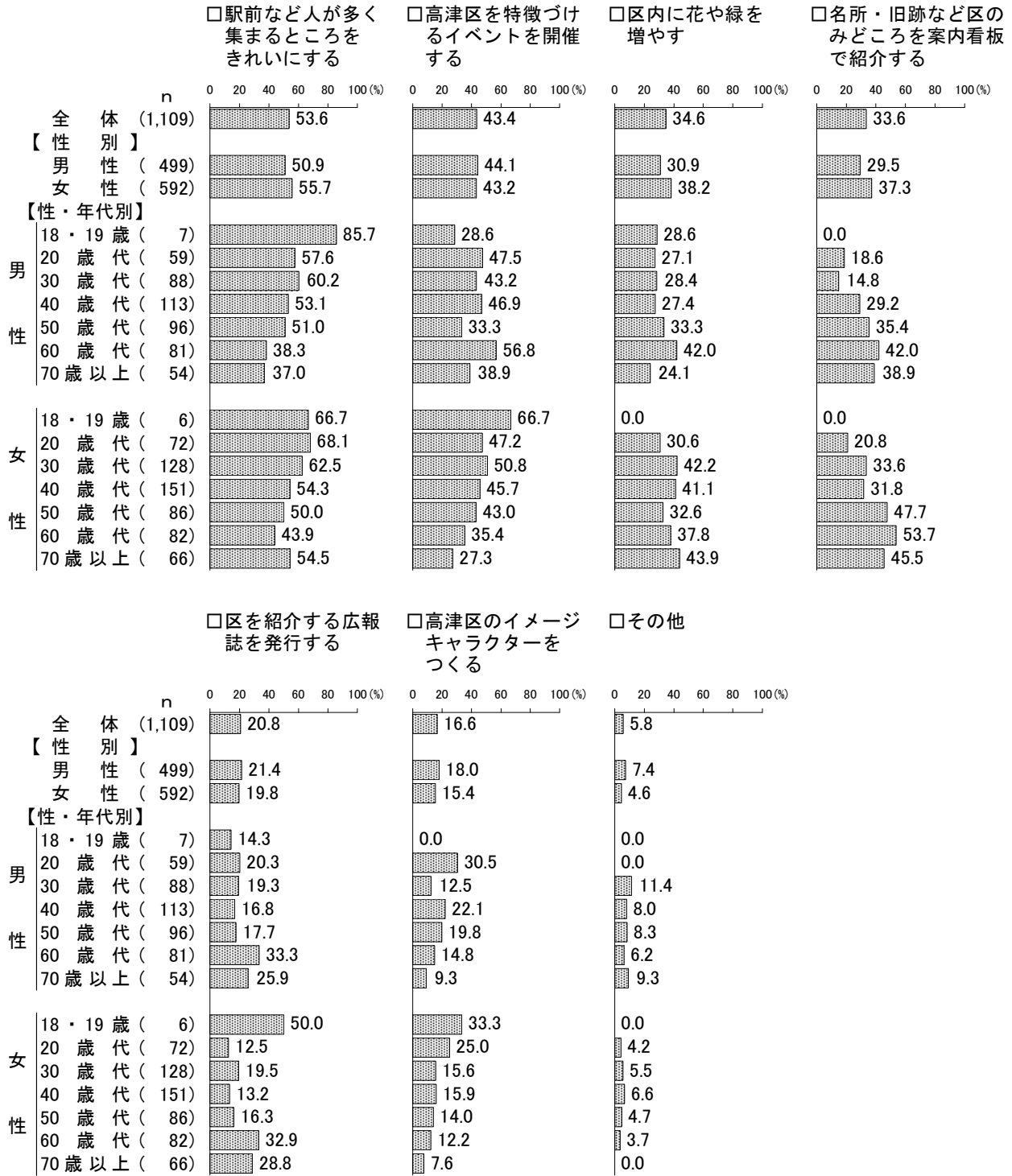
※「高津区のイメージキャラクターをつくる」は2016年度に追加された選択肢

※2012年度の設問文は、「区のイメージアップを図り、区民が地域に愛着をもつようにするためには、どのような手法がよいでしょうか」としていた

区のイメージアップを図るための手法を聞いたところ、「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」(53.6%)が5割を超えて最も高く、次いで「高津区を特徴づけるイベントを開催する」(43.4%)、「区内に花や緑を増やす」(34.6%)、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」(33.6%)となっている。

2012年度と比較すると、設問文や選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」、「区内に花や緑を増やす」が引き続き上位となっている。(図1-44)

図 1-45 区のイメージアップ（性別、性・年代別）



性別にみると、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」は女性が男性より 7.8 ポイント、「区内に花や緑を増やす」は女性が男性より 7.3 ポイント、それぞれ高くなっている。

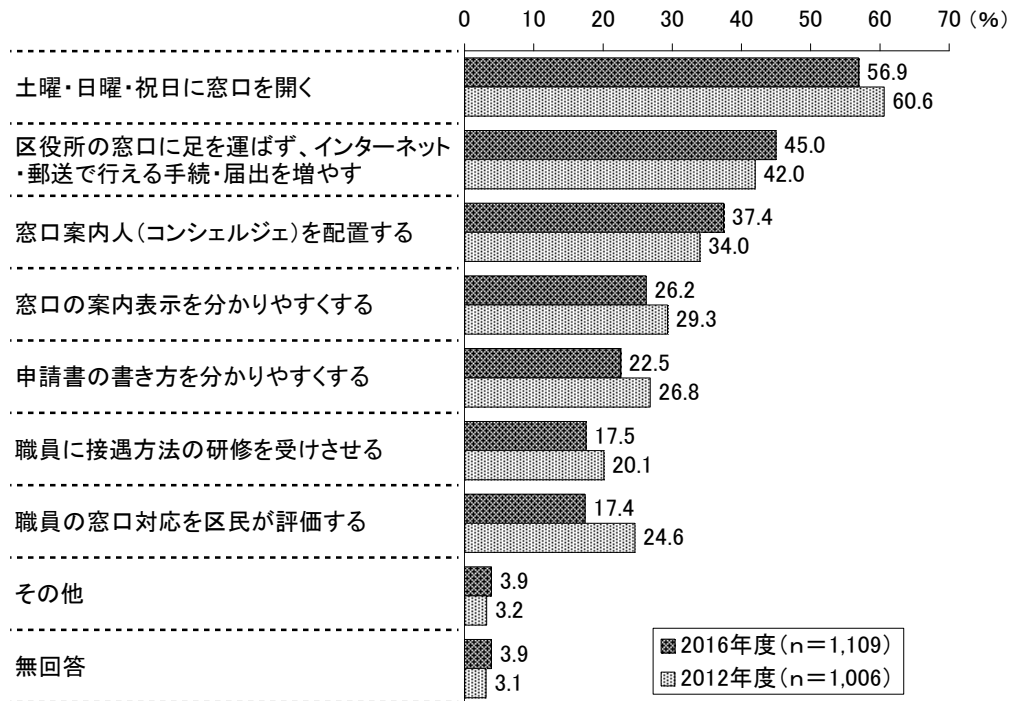
性・年代別にみると、「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」は女性の 20 歳代と 30 歳代、男性 30 歳代で 6 割台と高くなっている。「高津区を特徴づけるイベントを開催する」は男性 60 歳代と女性 30 歳代で 5 割台と高くなっている。「区内に花や緑を増やす」は女性の 30 歳代、40 歳代、70 歳以上と男性 60 歳代で 4 割を超えて高くなっている。「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」は女性 60 歳代で 5 割を超え、女性の 50 歳代と 70 歳以上、男性 60 歳代で 4 割台と高くなっている。(図 1-45)

(17) 区役所の窓口サービス向上

問 17 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。

(3つまで○)

図 1-46 区役所の窓口サービス向上

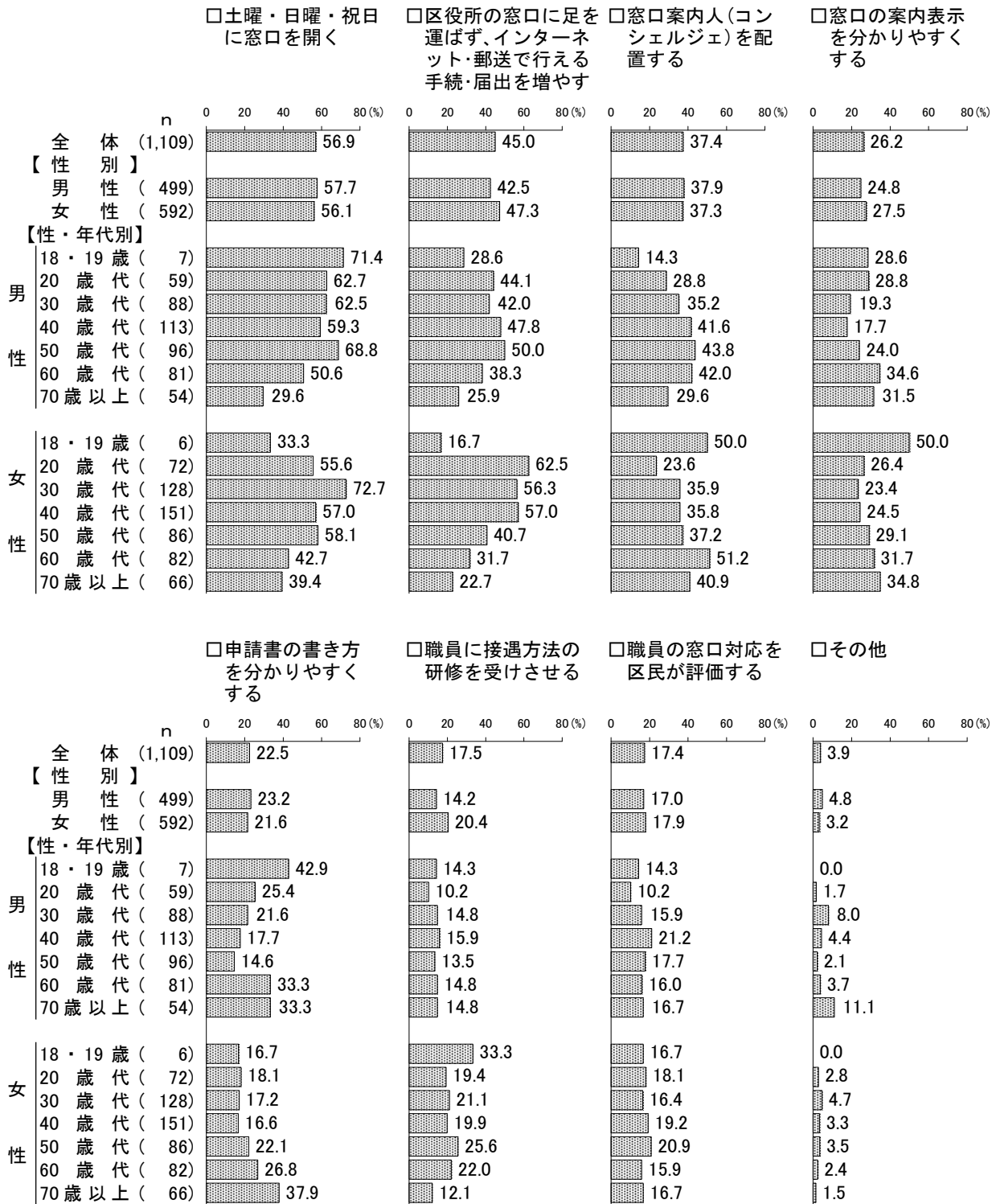


区役所の窓口サービスを向上させるための手法を聞いたところ、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」(56.9%)が6割近くで最も高く、次いで「区役所の窓口足に足を運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」(45.0%)、「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」(37.4%)、「窓口の案内表示を分かりやすくする」(26.2%)となっている。

2012年度と比較すると、「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」は3.4ポイント増加している。一方、「職員の窓口対応を区民が評価する」は7.2ポイント減少している。(図1-46)



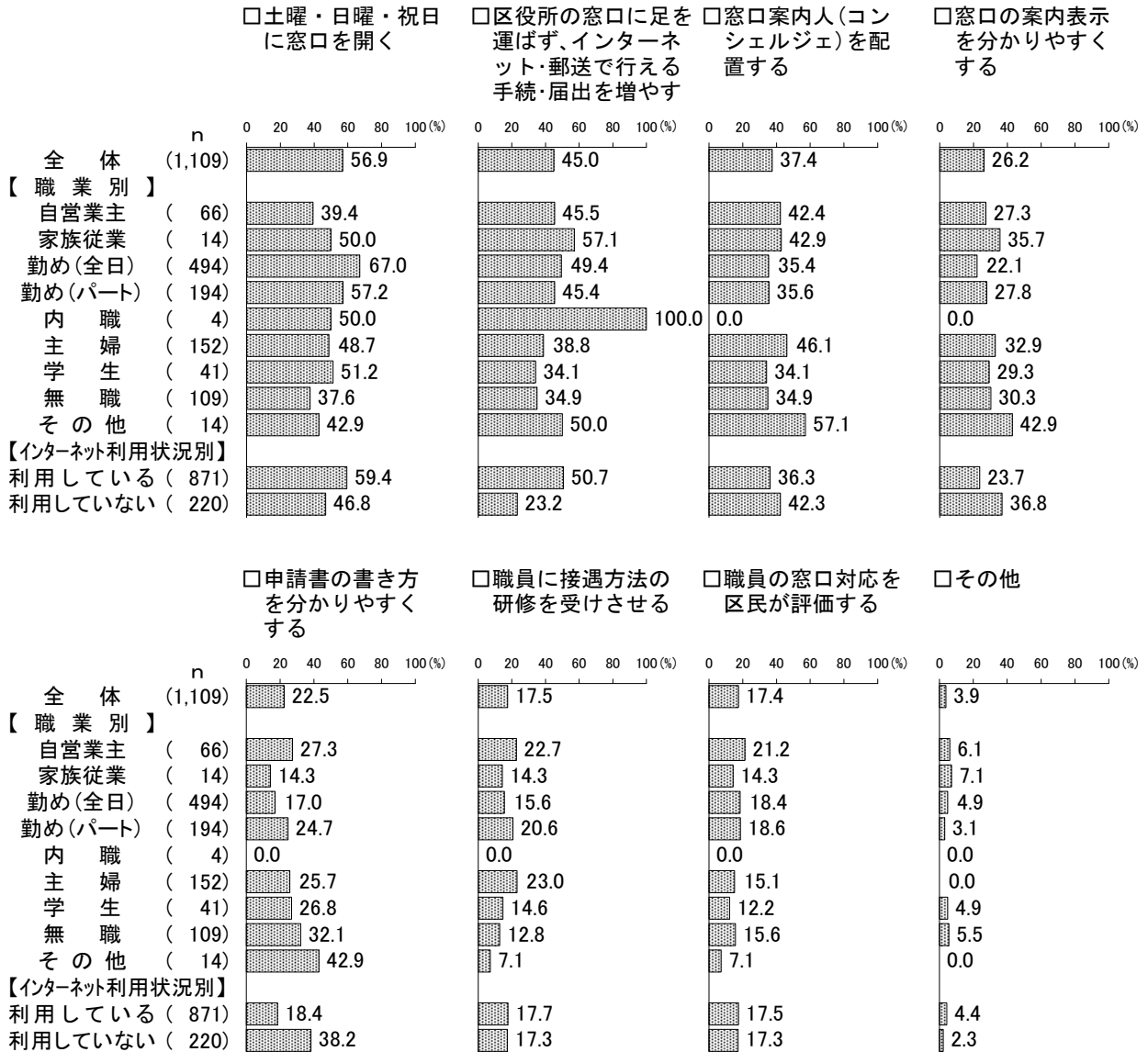
図 1-47 区役所の窓口サービス向上（性別、性・年代別）



性別にみると、「職員に接遇方法の研修を受けさせる」は女性が男性より 6.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は女性 30 歳代で 7 割を超え、男性の 20 歳代、30 歳代、50 歳代で 6 割台と高くなっている。「区役所の窓口へ足を運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」は女性の 20 歳代から 40 歳代で 6 割前後と高くなっている。「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」は女性 60 歳代で 5 割を超えて高くなっている。(図 1-47)

図1-48 区役所の窓口サービス向上（職業別、インターネット利用状況別）



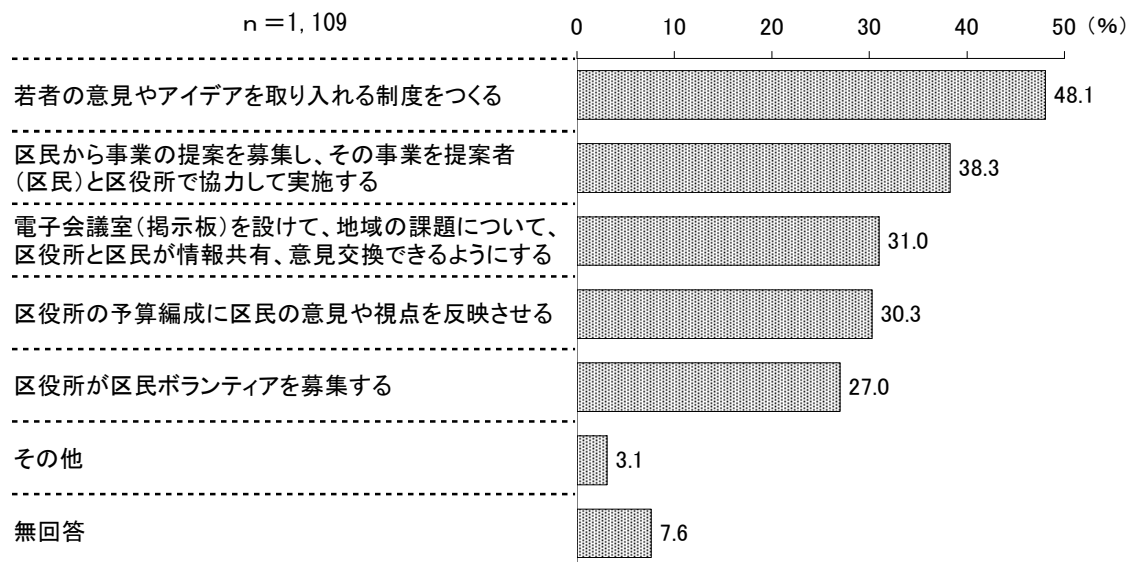
職業別にみると、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は勤め（全日）で7割近くと高くなっている。「区役所の窓口に足を運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」は家族従業で6割近くと高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「区役所の窓口に足を運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」は“利用している”が“利用していない”より27.5ポイント高くなっている。一方、「申請書の書き方を分かりやすくする」は“利用していない”が“利用している”より19.8ポイント、「窓口の案内表示を分かりやすくする」は“利用していない”が“利用している”より13.1ポイント、それぞれ高くなっている。（図1-48）

(18) 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み（2016年度新設）

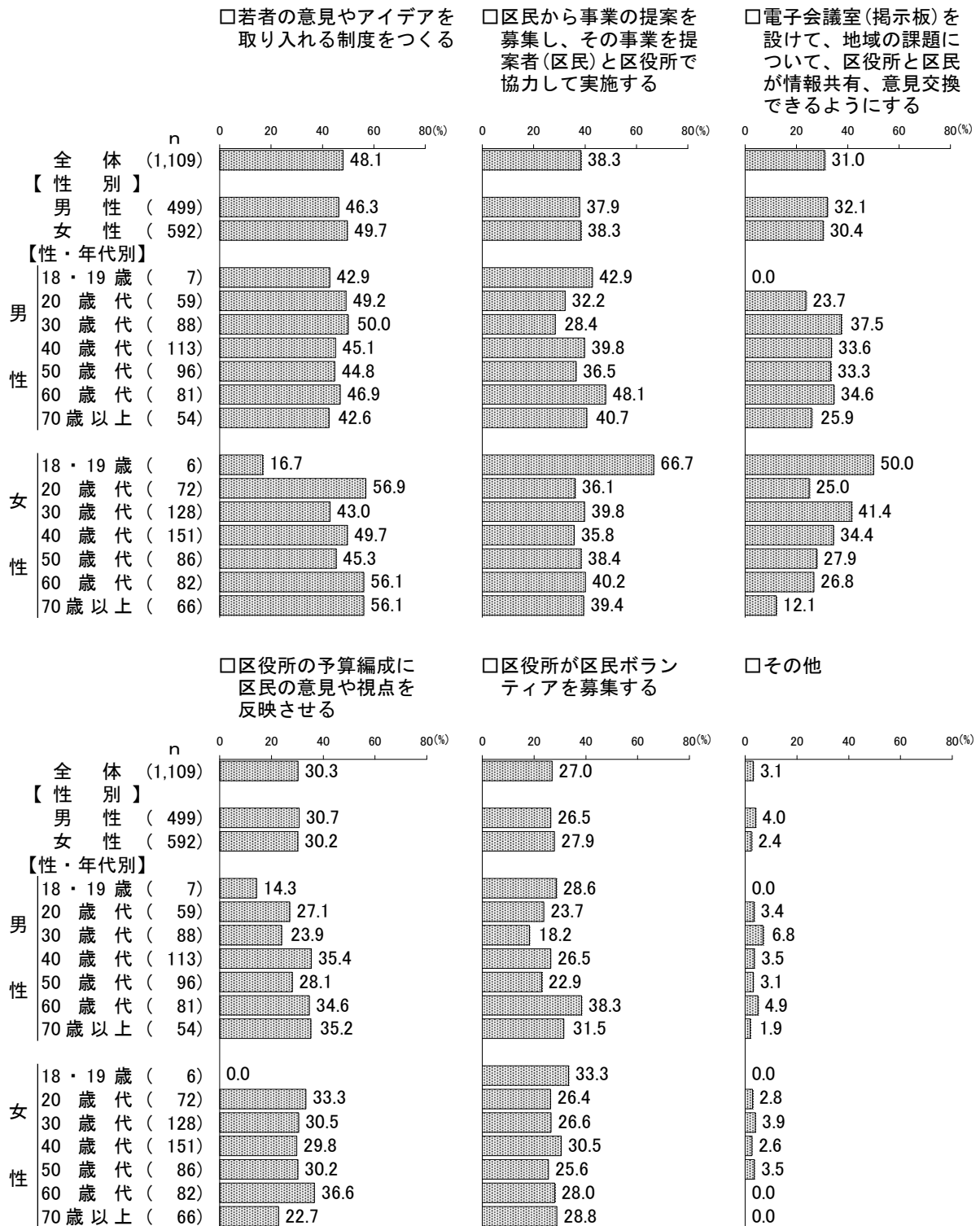
問 18 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいでしょうか。（3つまで○）

図 1-49 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み



区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいか聞いたところ、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者(区民)と区役所で協力して実施する」(38.3%)、「電子会議室(掲示板)を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」(31.0%)、「区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる」(30.3%)となっている。(図 1-49)

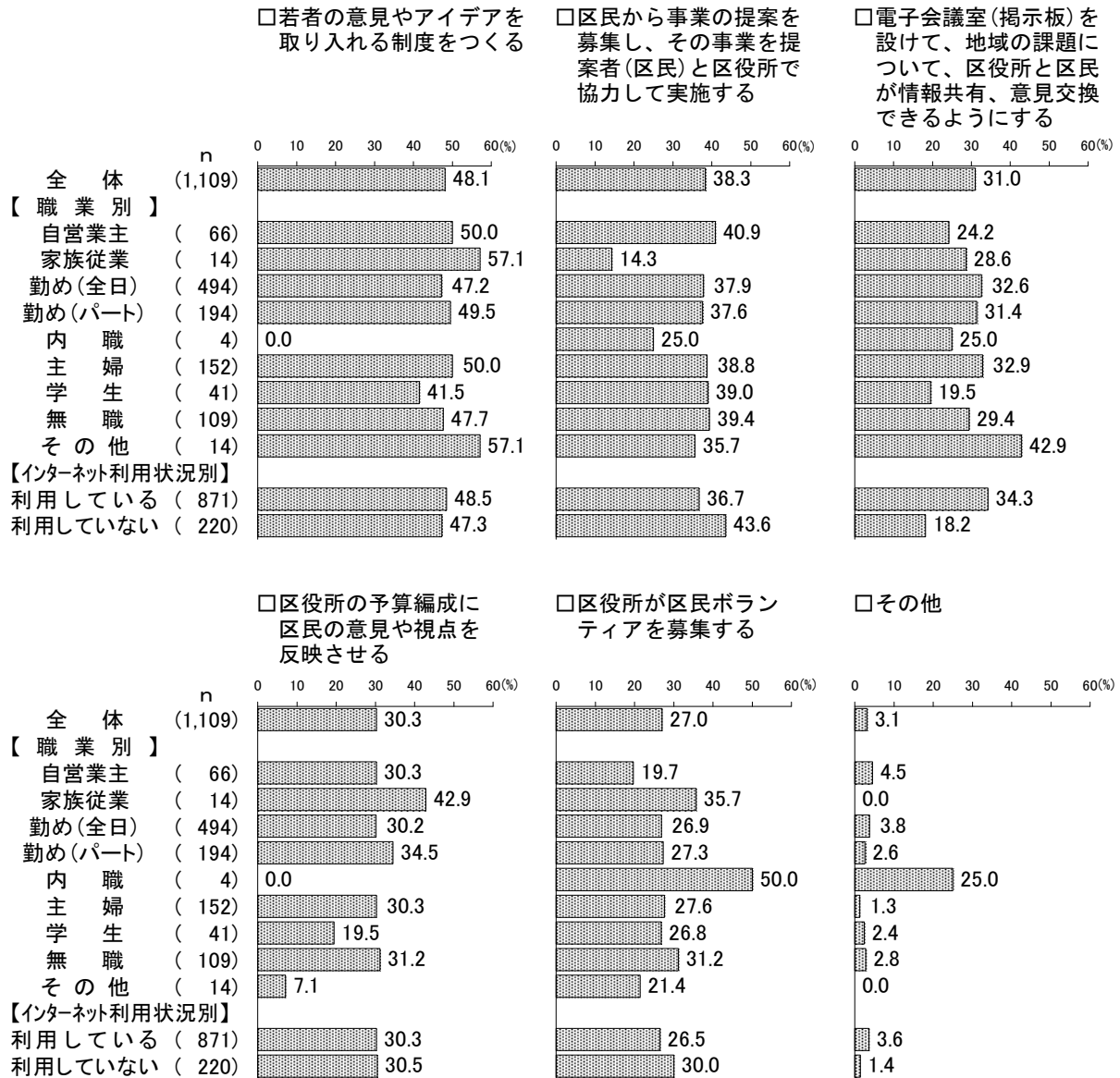
図 1-50 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み（性別、性・年代別）



性別にみると、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」は女性が男性より 3.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」は女性の 20 歳代と 60 歳代以上の年代で 5 割半ばを超えて高くなっている。「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者(区民)と区役所で協力して実施する」は男女ともに 60 歳代で 4 割台と高くなっている。「電子会議室(掲示板)を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は女性 30 歳代で 4 割を超えて高くなっている。「区役所が区民ボランティアを募集する」は男性 60 歳代で 4 割近くと高くなっている。(図 1-50)

図 1-51 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み（職業別、インターネット利用状況別）



職業別にみると、「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」は家族従業で6割近くと高くなっている。

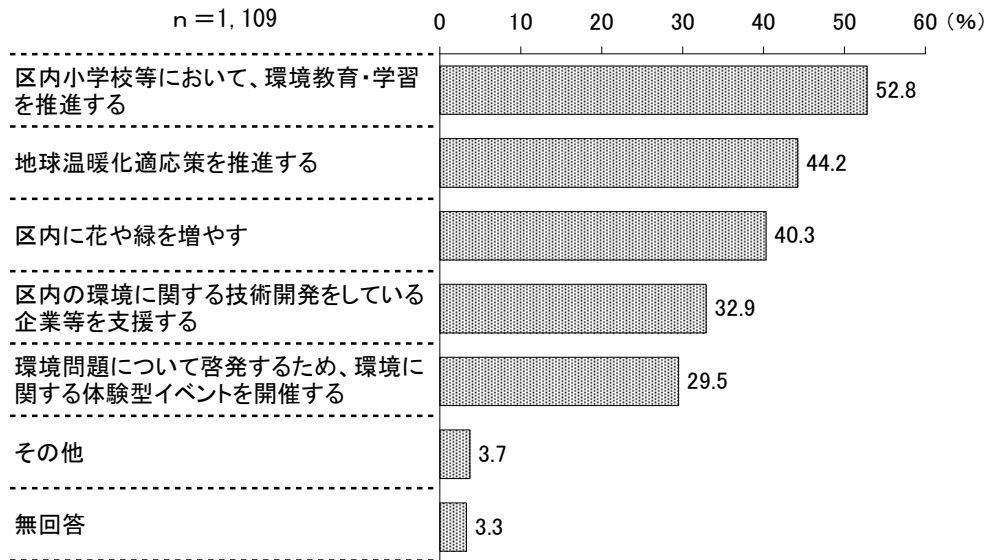
インターネット利用状況別にみると、「電子会議室（掲示板）を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」は“利用している”が“利用していない”より16.1ポイント高くなっている。一方、「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者（区民）と区役所で協力して実施する」は“利用していない”が“利用している”より6.9ポイント高くなっている。（図1-51）

(19) 地域の地球温暖化対策（2016年度新設）

問 19 地域における地球温暖化対策としては、どのような手法がよいでしょうか。

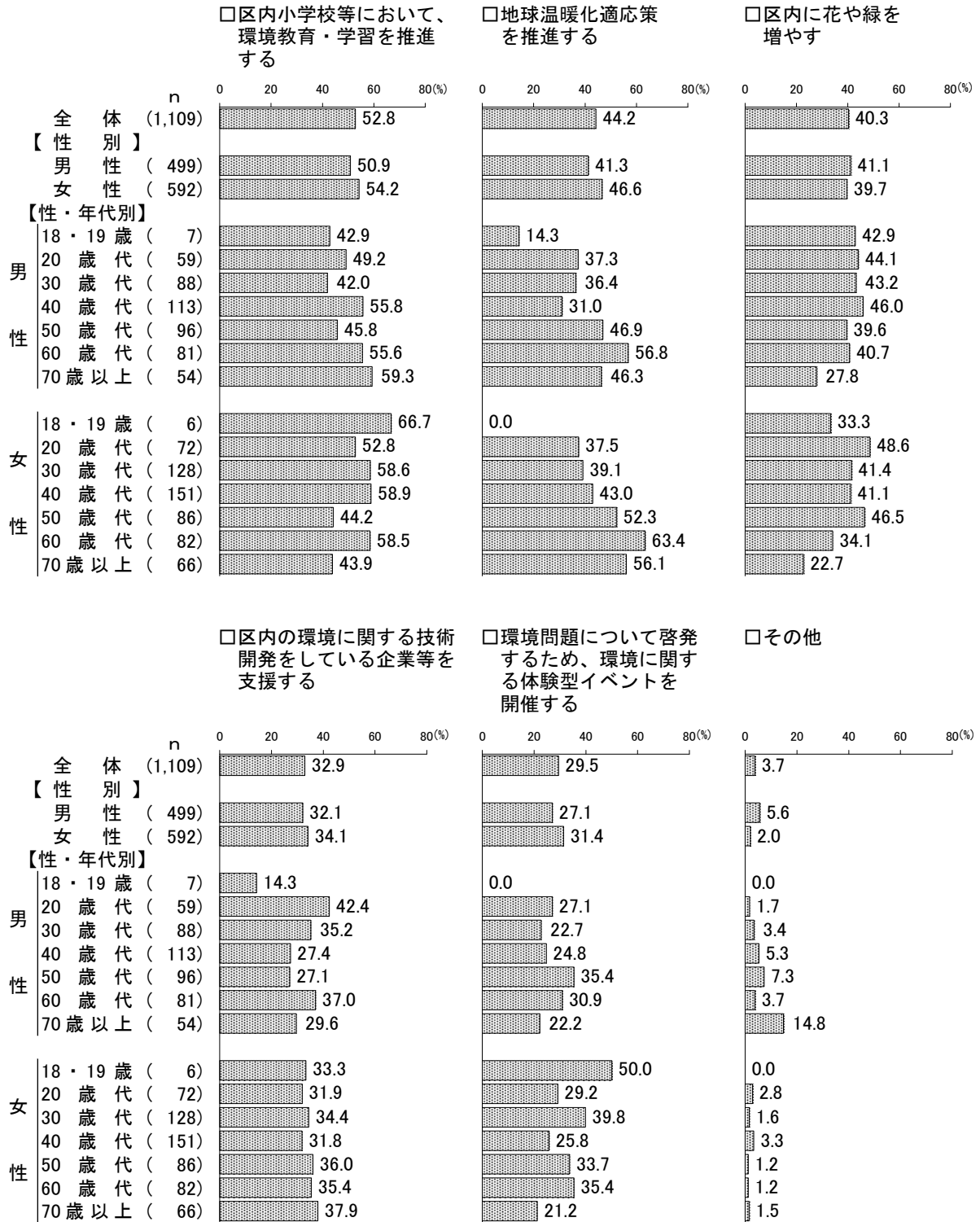
(3つまで○)

図 1-52 地域の地球温暖化対策



地域における地球温暖化対策としての手法を聞いたところ、「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」(52.8%)が5割を超えて最も高く、次いで「地球温暖化適応策を推進する」(44.2%)、「区内に花や緑を増やす」(40.3%)、「区内の環境に関する技術開発をしている企業等を支援する」(32.9%)となっている。(図1-52)

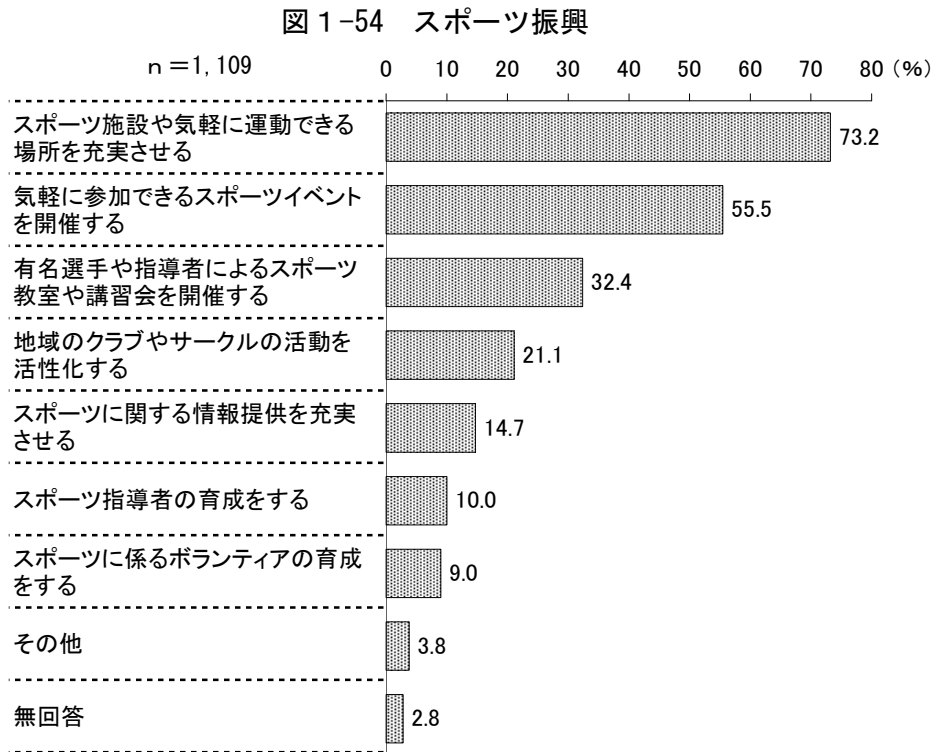
図 1-53 地域の地球温暖化対策（性別、性・年代別）



性別にみると、「地球温暖化適応策を推進する」は女性が男性より 5.3 ポイント高くなっている。性・年代別にみると、「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」は男性 70 歳以上と女性の 30 歳代、40 歳代、60 歳代で 6 割近くと高くなっている。「地球温暖化適応策を推進する」は女性 60 歳代で 6 割を超え、男性 60 歳代と女性の 50 歳代、70 歳以上で 5 割台と高くなっている。「区内に花や緑を増やす」は女性の 20 歳代と 50 歳代、男性 40 歳代で 4 割半ばを超えて高くなっている。「区内の環境に関する技術開発をしている企業等を支援する」は男性 20 歳代で 4 割を超えて高くなっている。「環境問題について啓発するため、環境に関する体験型イベントを開催する」は女性 30 歳代で約 4 割と高くなっている。(図 1-53)

(20) スポーツ振興 (2016年度新設)

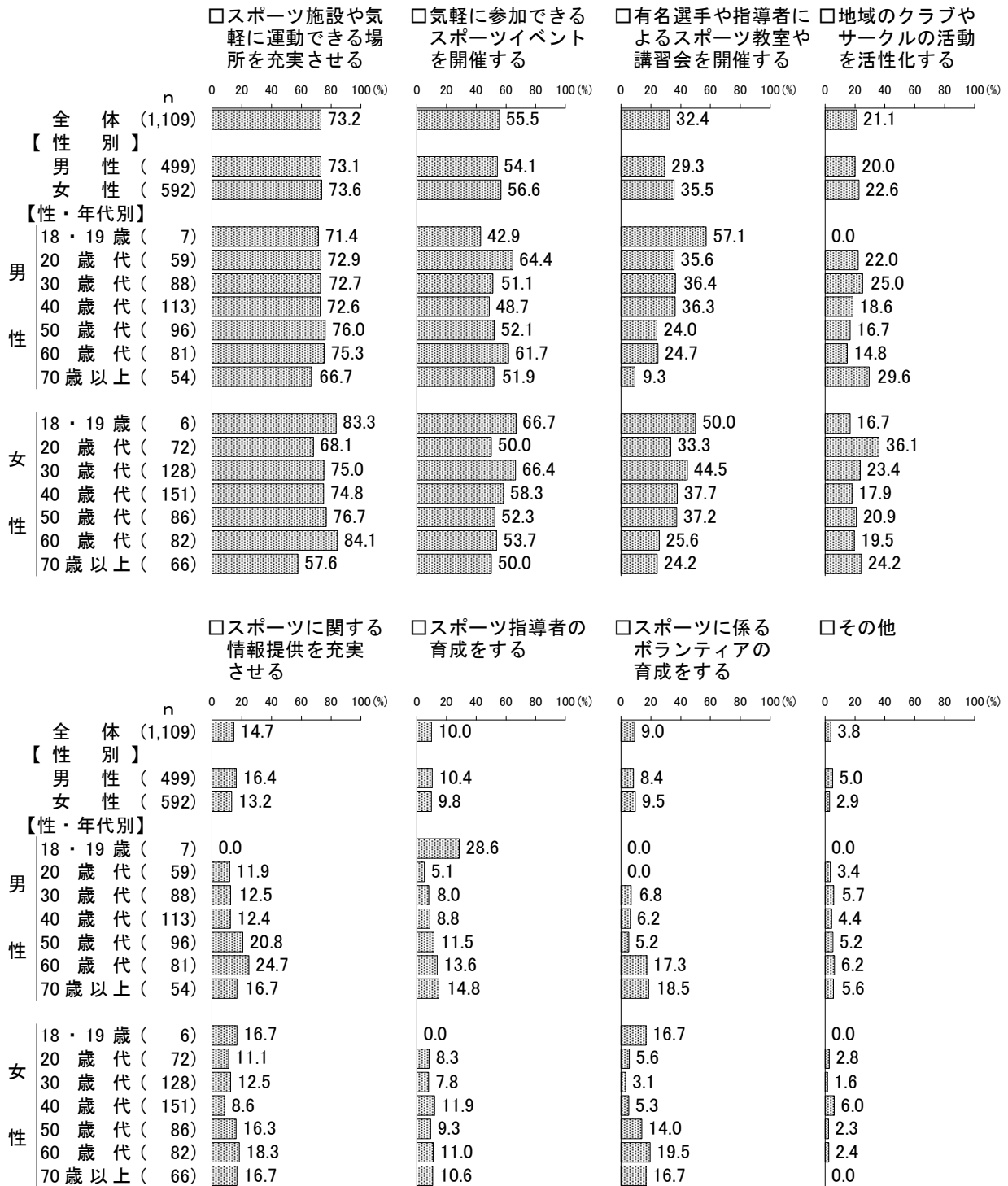
問 20 スポーツを振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)



スポーツを振興するための手法を聞いたところ、「スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる」(73.2%)が7割を超えて最も高く、次いで「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」(55.5%)、「有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する」(32.4%)、「地域のクラブやサークルの活動を活性化する」(21.1%)となっている。(図1-54)



図 1-55 スポーツ振興（性別、性・年代別）



性別にみると、「有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する」は女性が男性より6.2ポイント高くなっている。一方、「スポーツに関する情報提供を充実させる」は男性が女性より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる」は女性60歳代で8割半ばと高くなっている。「気軽に参加できるスポーツイベントを開催する」は女性30歳代と男性の20歳代、60歳代で6割台と高くなっている。「有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する」は女性30歳代で4割半ばと高くなっている。「地域のクラブやサークルの活動を活性化させる」は女性20歳代で3割半ばと高くなっている。(図1-55)

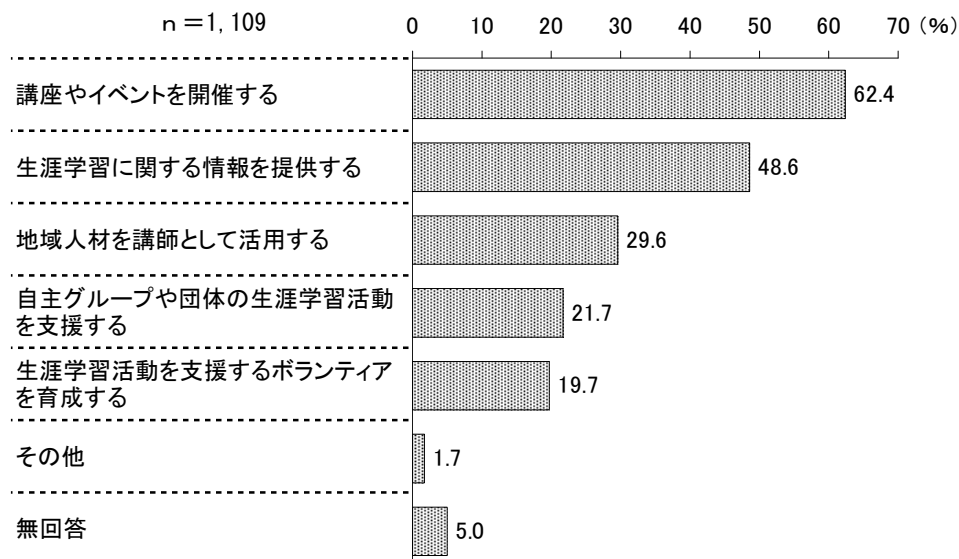
## (21) 生涯学習の支援や推進（2016年度新設）

問 21 生涯学習<sup>※</sup>の支援や推進をするためには、どのような手法がよいでしょうか。

（3つまで○）

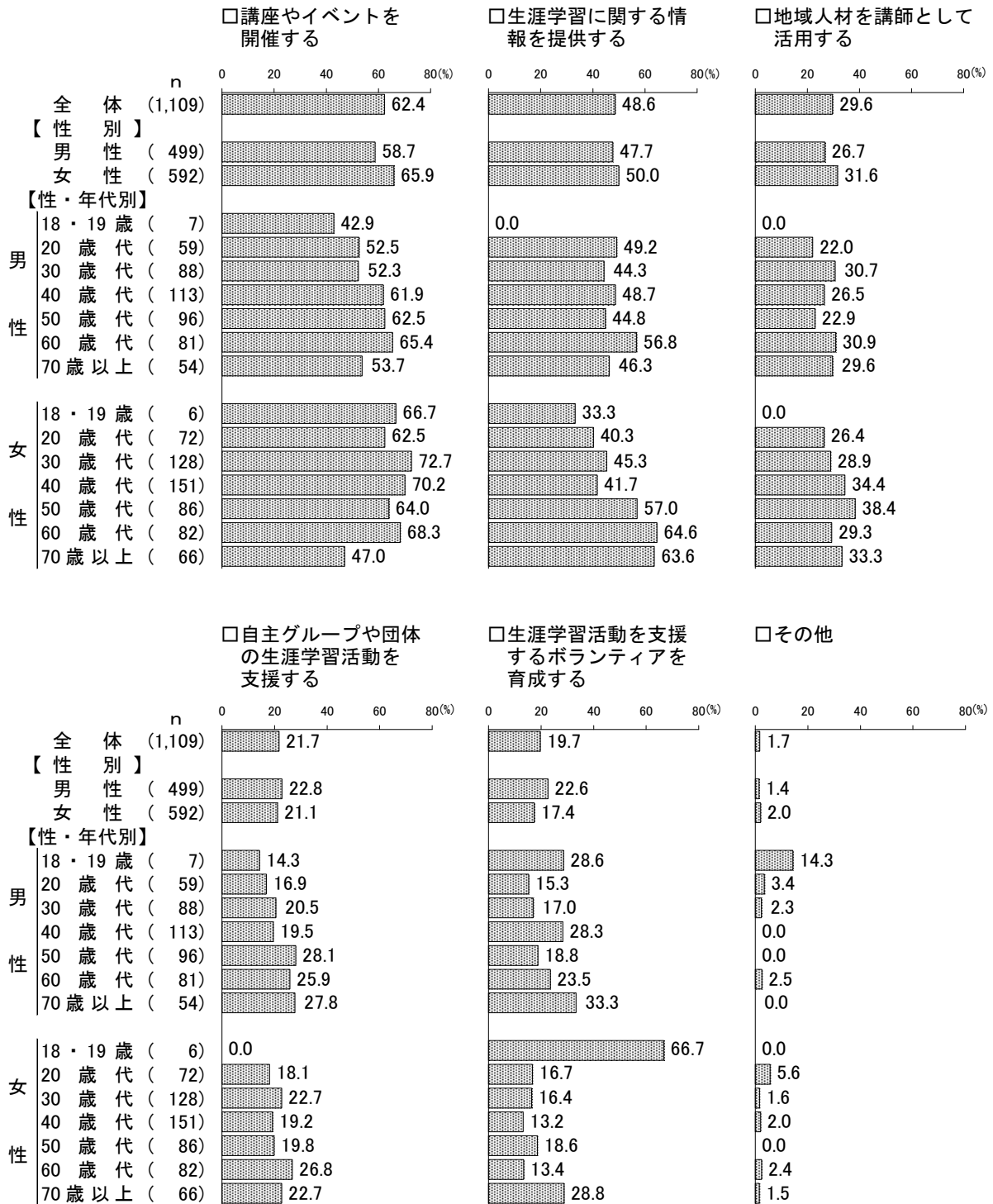
※生涯学習：人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習

図 1-56 生涯学習の支援や推進



生涯学習の支援や推進をするための手法を聞いたところ、「講座やイベントを開催する」(62.4%)が6割を超えて最も高く、次いで「生涯学習に関する情報を提供する」(48.6%)、「地域人材を講師として活用する」(29.6%)、「自主グループや団体の生涯学習活動を支援する」(21.7%)となっている。(図1-56)

図 1-57 生涯学習の支援や推進（性別、性・年代別）



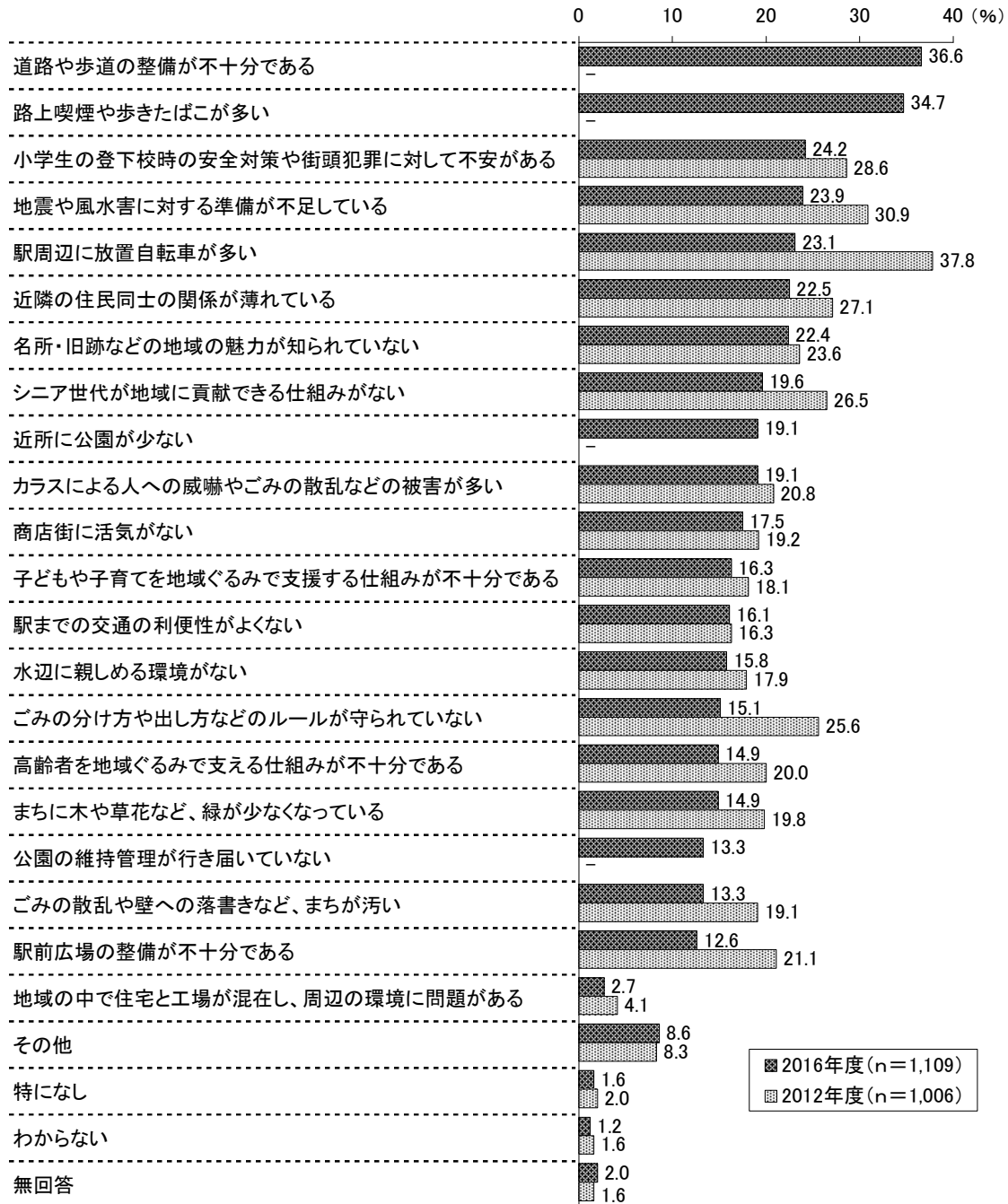
性別にみると、「講座やイベントを開催する」は女性が男性より 7.2 ポイント高くなっている。一方、「生涯学習活動を支援するボランティアを育成する」は男性が女性より 5.2 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「講座やイベントを開催する」は女性の 30 歳代と 40 歳代で 7 割台と高くなっている。「生涯学習に関する情報を提供する」は女性の 60 歳代以上の年代で 6 割台と高くなっている。(図 1-57)

(22) まちの課題・問題点

問 22 あなたのまち（お住まいの地域や区内の生活圏）の課題・問題点と思うものは何ですか。（いくつでも○）

図 1-58 まちの課題・問題点

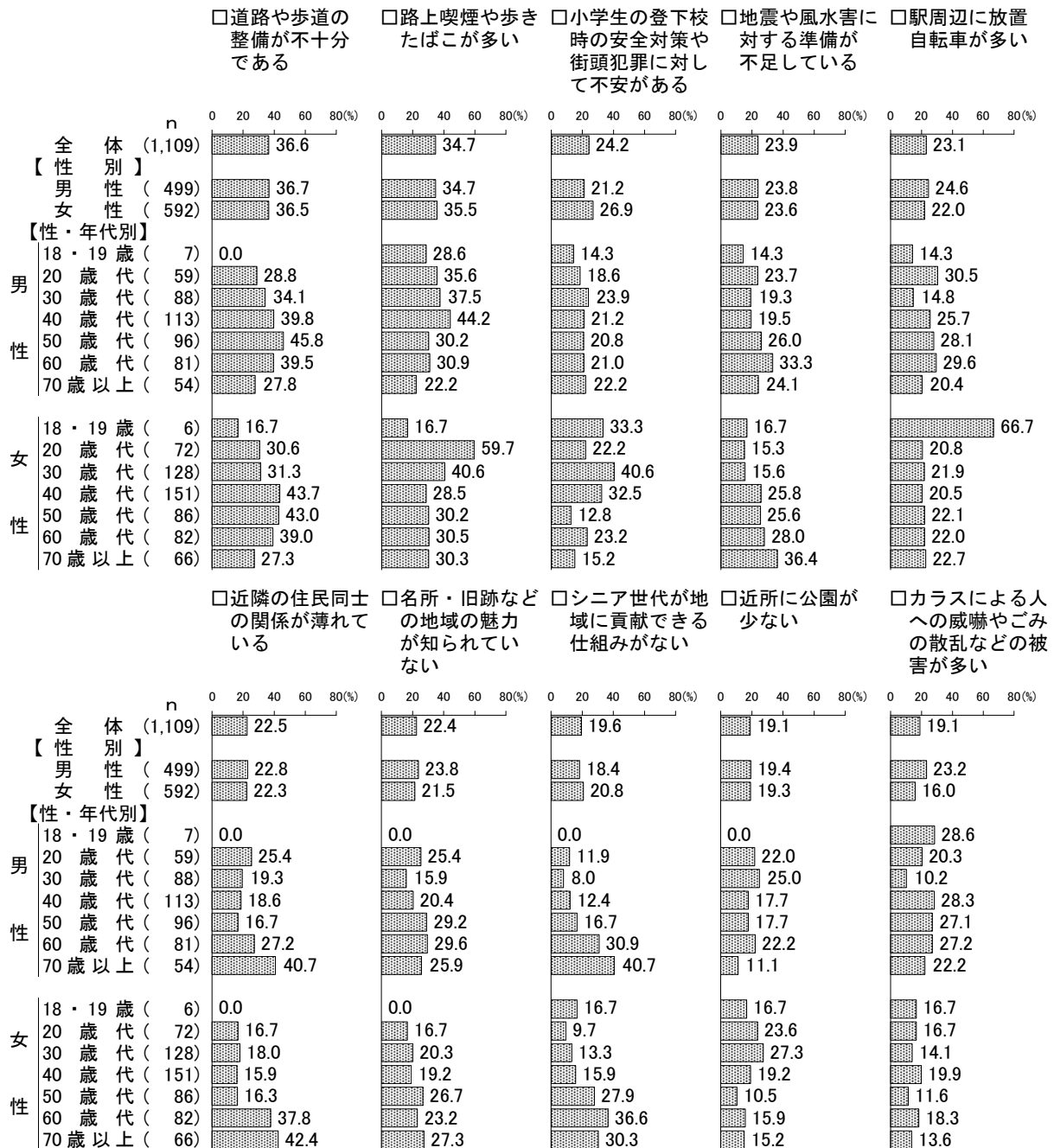


- ※「道路や歩道の整備が不十分である」は2016年度に追加された選択肢
- ※「路上喫煙や歩きタバコが多い」は2016年度に追加された選択肢
- ※「名所・旧跡などの地域の魅力が知られていない」は、2012年度では「名所・旧跡など魅力となる場所が少ない、または知られていない」としていた
- ※「シニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」は、2012年度では「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」としていた
- ※「近所に公園が少ない」と「公園の維持管理が行き届いていない」は、2012年度では「近所に公園が少ない、または公園の維持管理が行き届いていない」(26.0%)としていた
- ※「水辺に親しめる環境がない」は、2012年度では「多摩川、二ヶ領用水などの水辺に親しめる環境がない」としていた
- ※「ごみの分け方や出し方などのルールが守られていない」は、2012年度では「ごみの出し方などのマナーが守られていない、またはリサイクルへの関心が少ない」としていた

まちの課題・問題点を聞いたところ、「道路や歩道の整備が不十分である」(36.6%)が4割近くで最も高く、次いで「路上喫煙や歩きたばこが多い」(34.7%)、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」(24.2%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」、「地震や風水害に対する準備が不足している」、「駅周辺に放置自転車が多い」が引き続き上位となっている。(図1-58)

図1-59 まちの課題・問題点(性別、性・年代別)ー上位10項目

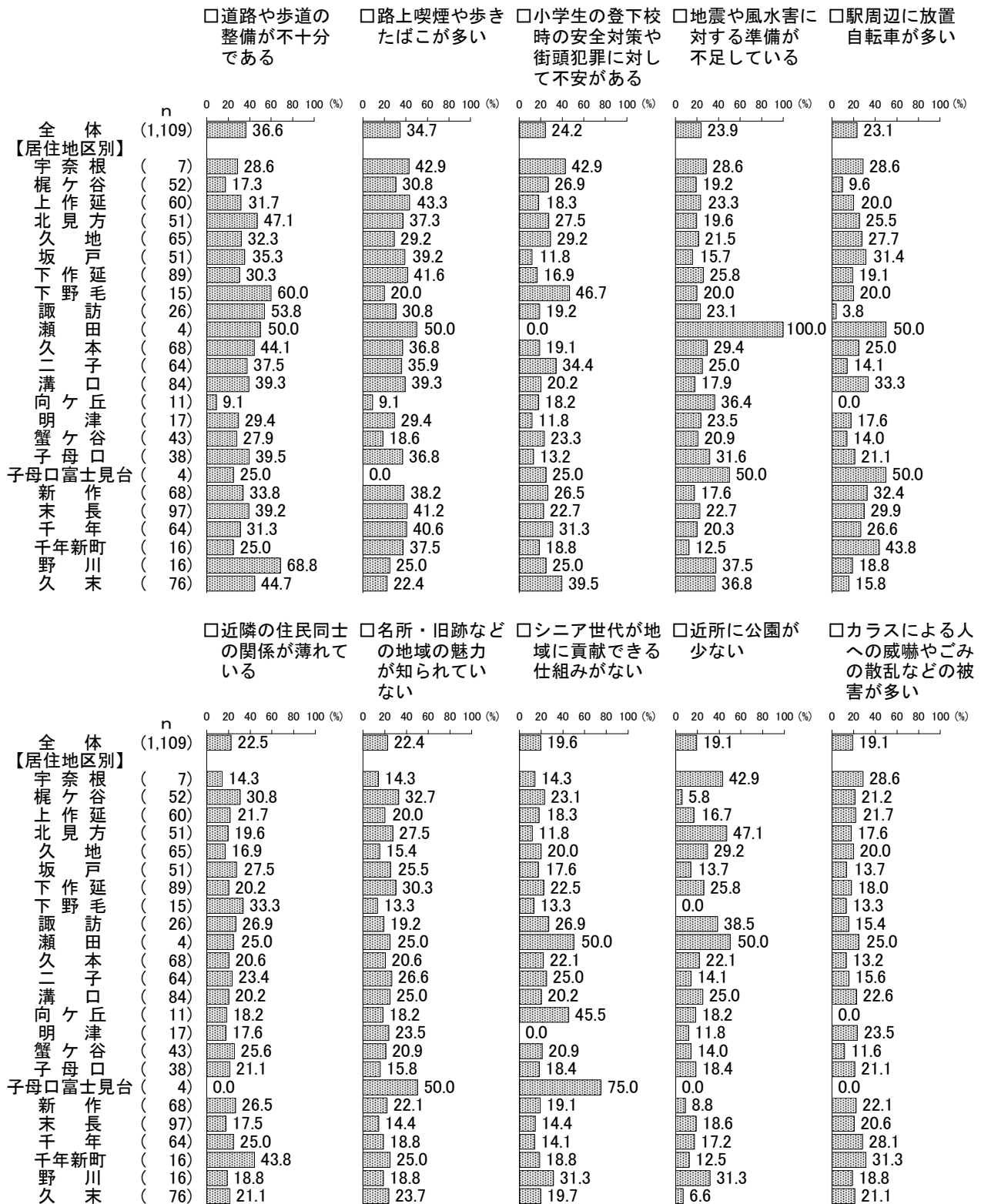


性別にみると、「カラスによる人への威嚇やごみの散乱などの被害が多い」は男性が女性より7.2ポイント高くなっている。一方、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」は女性が男性より5.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「路上喫煙や歩きたばこが多い」は女性20歳代で約6割と高くなっている。「近隣の住民同士の関係が薄れている」は男女ともに70歳以上で4割台と高くなっている。

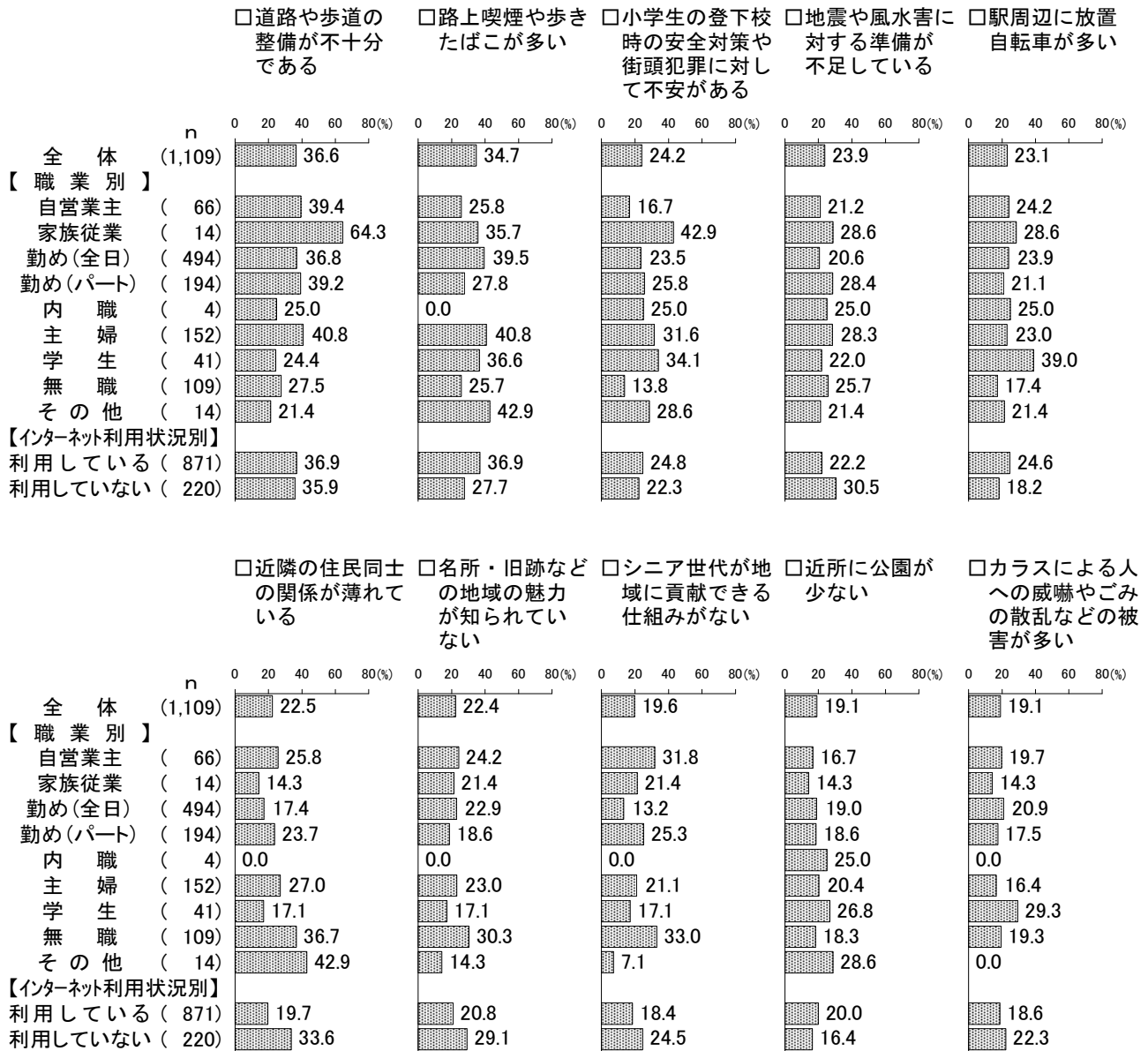
(図1-59)

図 1-60 まちの課題・問題点（居住地区別）－上位10項目



居住地区別にみると、「道路や歩道の整備が不十分である」は野川と下野毛で6割台で、諏訪で5割を超え、北見方、久末、久本で4割台と高くなっている。「路上喫煙や歩きタバコが多い」は上作延、下作延、末長、千年などで4割台と高くなっている。「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」は下野毛、久末、二子などで3割半ばを超えて高くなっている。「駅周辺に放置自転車が多い」は千年新町で4割を超え、溝口、新作、坂戸で3割を超えて高くなっている。「近所に公園が少ない」は北見方と諏訪などで4割前後と高くなっている。(図1-60)

図 1-61 まちの課題・問題点（職業別、インターネット利用状況別）－上位10項目



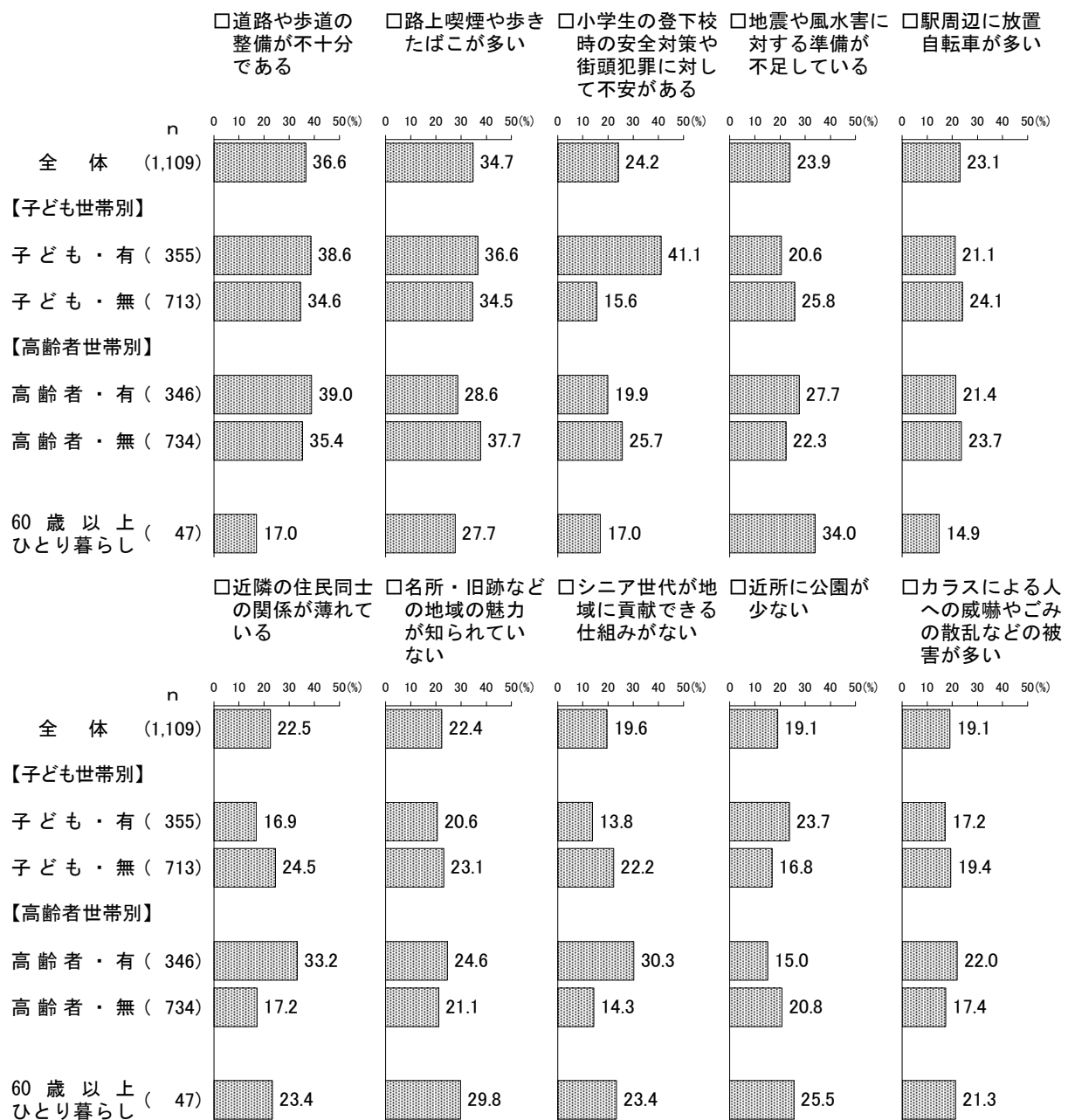
職業別にみると、「道路や歩道の整備が不十分である」は家族従業で6割半ばと高くなっている。

「駅周辺に放置自転車が多い」は学生で約4割と高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「近隣の住民同士の関係が薄れている」は“利用していない”が“利用している”より13.9ポイント高くなっている。一方、「路上喫煙や歩きタバコが多い」は“利用している”が“利用していない”より9.2ポイント高くなっている。(図1-61)

図 1-62 まちの課題・問題点（子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）

—上位10項目



子ども世帯別にみると、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」は“子ども・有”が“子ども・無”より25.5ポイント、「近所に公園が少ない」は“子ども・有”が“子ども・無”より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「シニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」は“子ども・無”が“子ども・有”より8.4ポイント、「近隣の住民同士の関係が薄れている」は“子ども・無”が“子ども・有”より7.6ポイント、それぞれ高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「近隣の住民同士の関係が薄れている」と「シニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」は“高齢者・有”が“高齢者・無”よりそれぞれ16.0ポイント高くなっている。「地震や風水害に対する準備が不足している」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より5.4ポイント高くなっている。一方、「路上喫煙や歩きタバコが多い」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より9.1ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「地震や風水害に対する準備が不足している」(34.0%)が3割半ばで最も高く、次いで「名所・旧跡などの地域の魅力が知られていない」(29.8%)となっている。(図1-62)

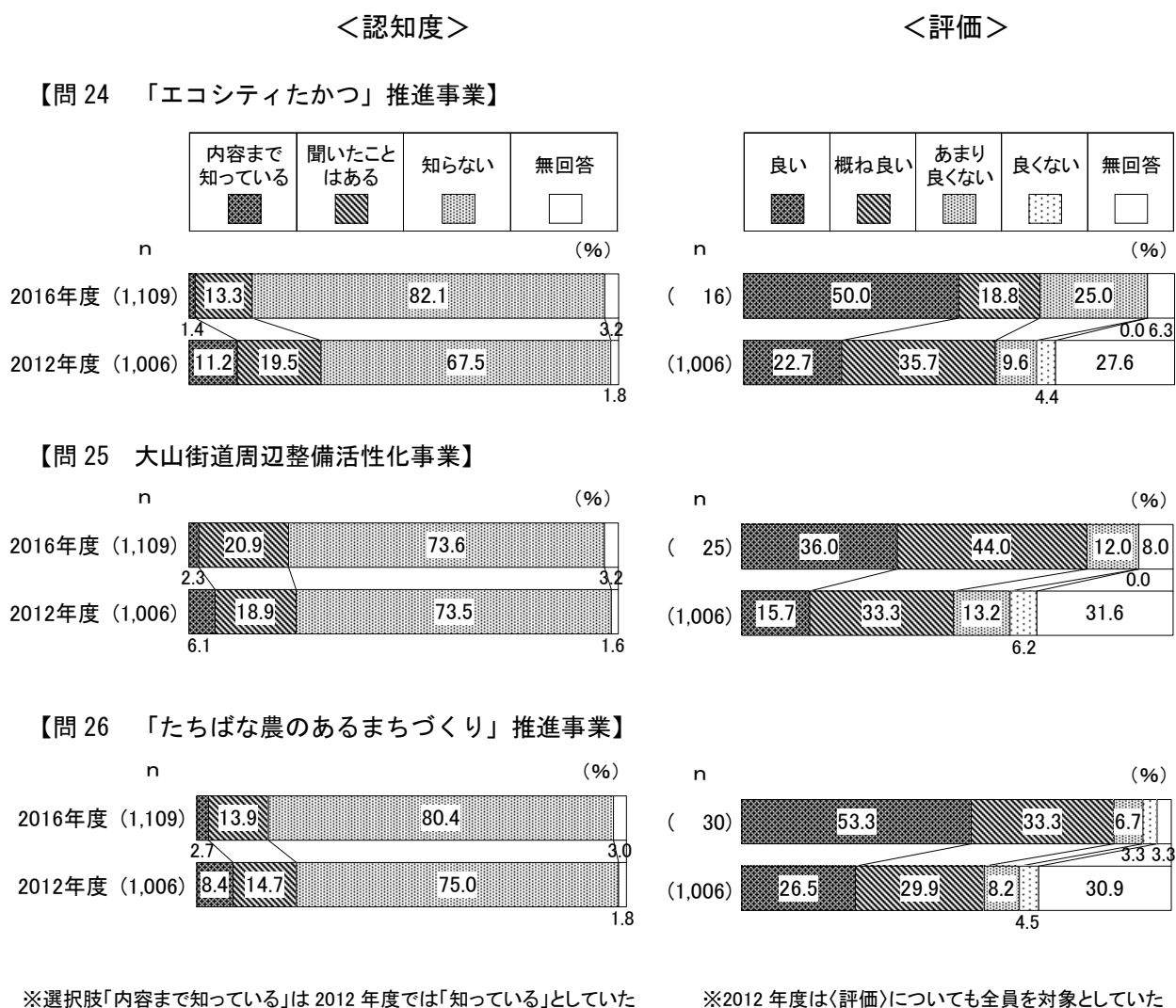


## 2. 区の事業について

### (1) 各事業の認知度・評価 ①

問 あなたは高津区に行っている事業についてご存知でしょうか。事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。(○は各1つだけ。認知度について、選択肢「内容まで知っている」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図2-1 各事業の認知度・評価 ①



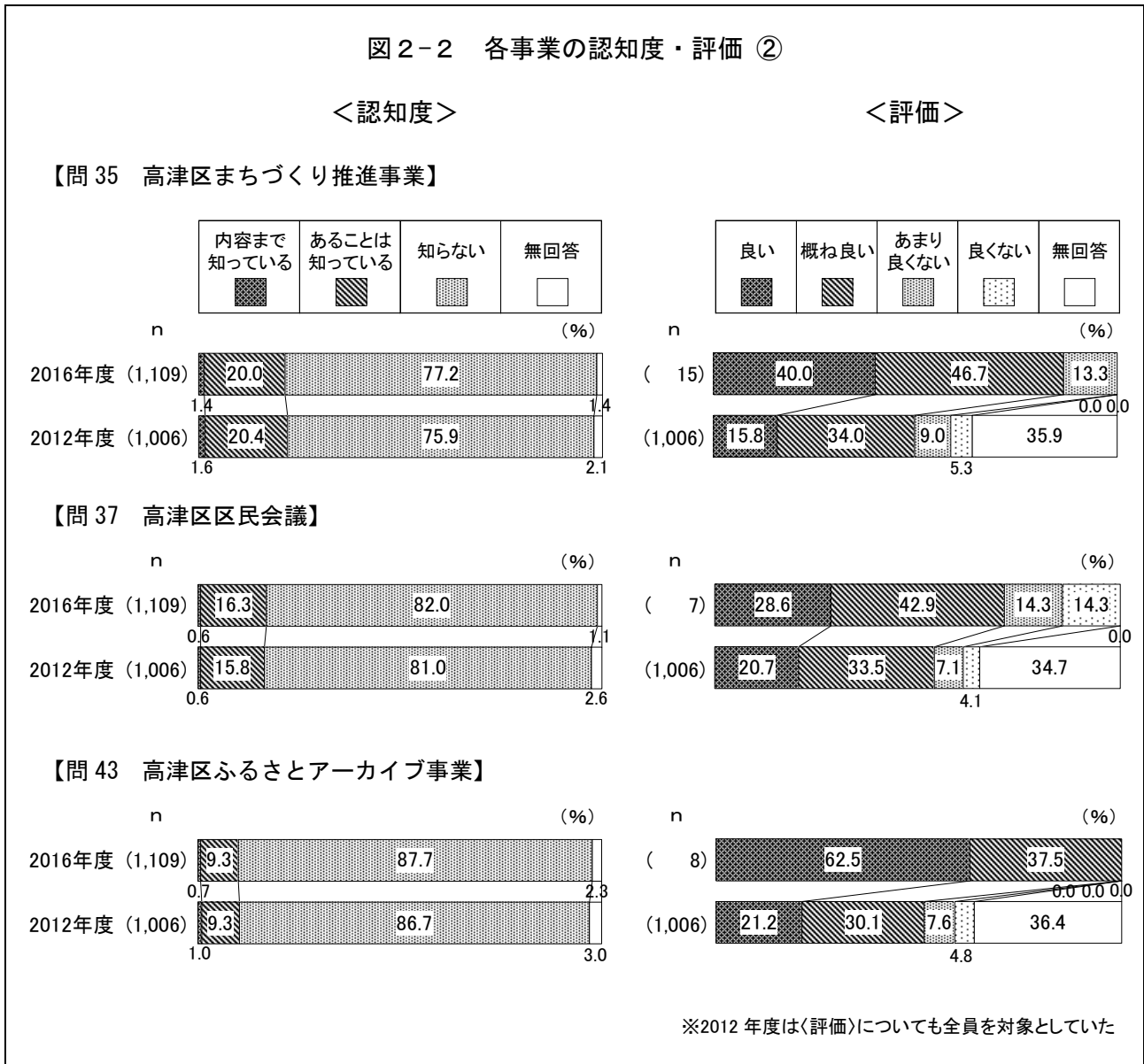
各事業の認知度・評価の<認知度>をみると、「内容まで知っている」は【「エコシティたかつ」推進事業】が1.4%、【大山街道周辺整備活性化事業】が2.3%、【「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】が2.7%となっている。

2012年度と比較すると、【「エコシティたかつ」推進事業】で「内容まで知っている」が9.8ポイント減少している。

<評価>をみると、「良い」は【「エコシティたかつ」推進事業】が50.0%、【大山街道周辺整備活性化事業】が36.0%、【「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】が53.3%となっている。

2012年度との比較は、回答対象が異なるので、参考までに図示する。(図2-1)

(1) 各事業の認知度・評価 ②



各事業の認知度・評価の<認知度>をみると、「内容まで知っている」と「あることは知っている」を合わせた『知っている』は【高津区まちづくり推進事業】が21.4%、【高津区区民会議】が17.0%、【高津区ふるさとアーカイブ事業】が10.0%となっている。

2012年度と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

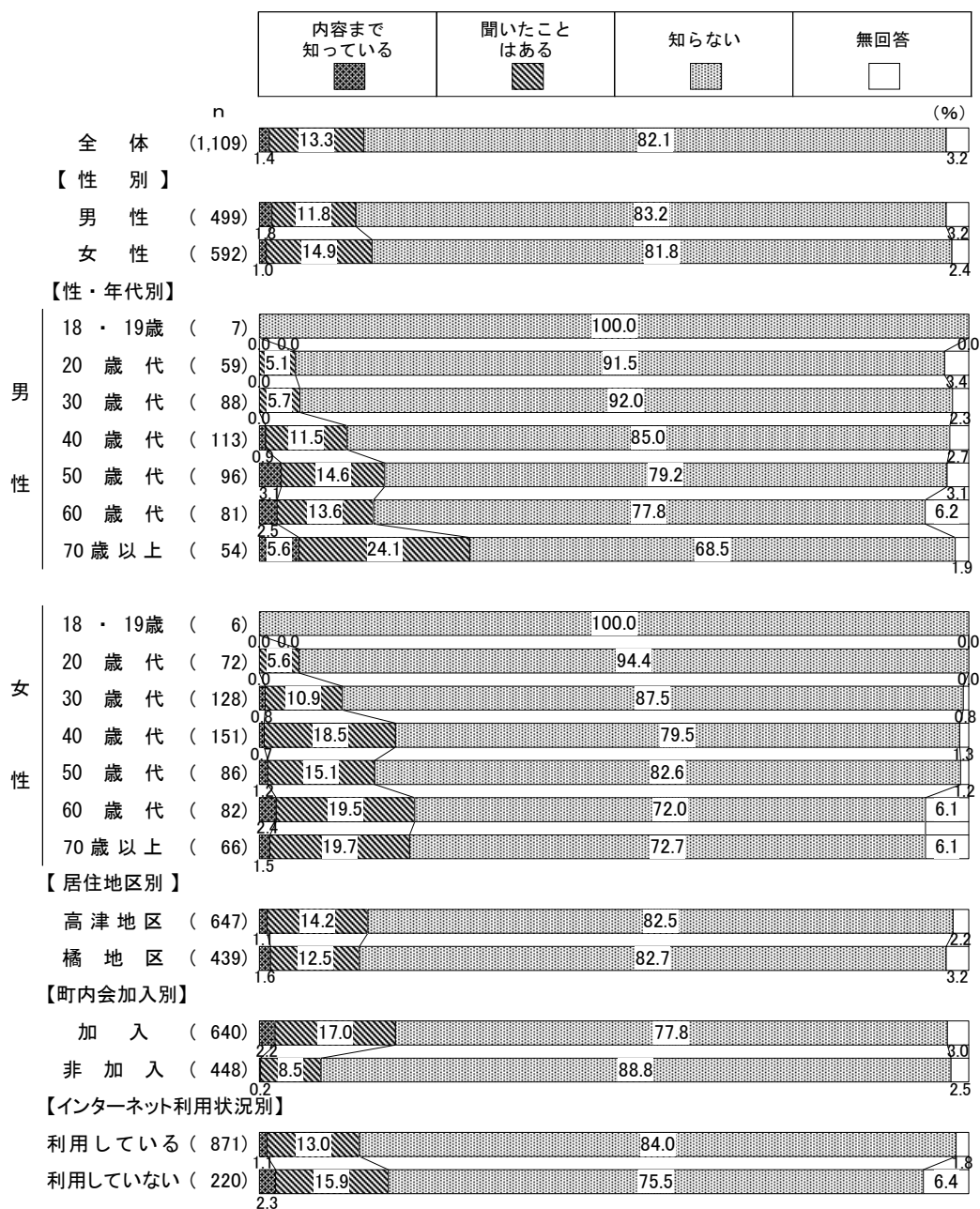
<評価>をみると、「良い」は【高津区まちづくり推進事業】が40.0%、【高津区区民会議】が28.6%、【高津区ふるさとアーカイブ事業】が62.5%となっている。

2012年度との比較は、回答対象が異なるので、参考までに図示する。(図2-2)

図 2-3 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問24 「エコシティたかつ」推進事業】

内容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化などの環境問題に取り組む「エコシティたかつ」推進方針に沿って、緑ヶ丘霊園内の森の整備を進めるなどする「たかつ水と緑の探検隊」や区内小学校においてビオトープを整備し、それを活用した環境学習支援を行う「学校流域プロジェクト」など様々なプロジェクトを実施している。



性別にみると、「聞いたことはある」は女性が男性より 3.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、男性70歳以上で2割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

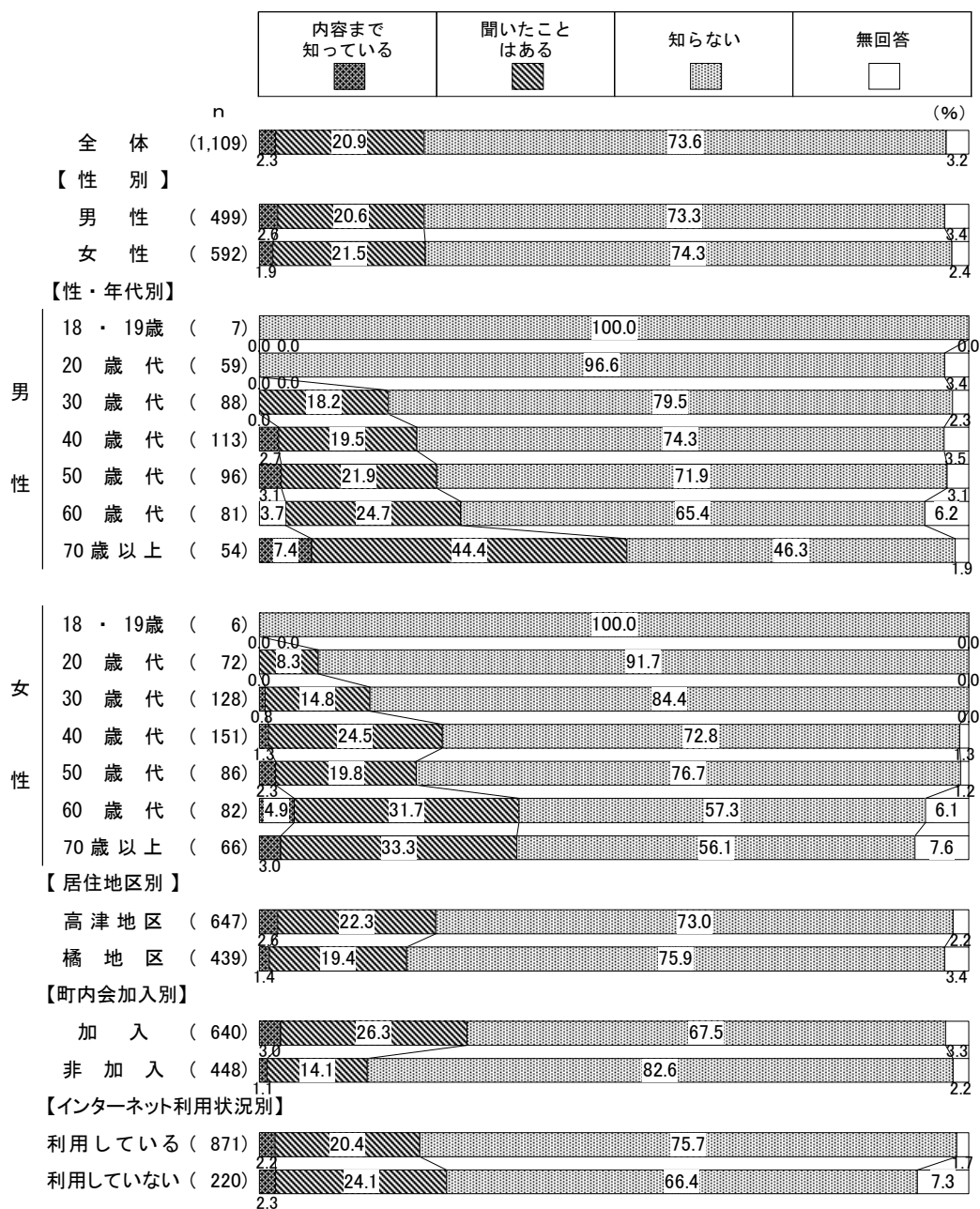
町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は“加入”が“非加入”より8.5ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知らない」は“利用している”が“利用していない”より8.5ポイント高くなっている。(図 2-3)

図2-4 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問25 大山街道周辺整備活性化事業】

内容：地域と連携して取り組む大山街道周辺のまちづくりの目標や方向性をまとめた「高津大山街道マスタープラン」を平成21年3月に策定した。現在は、地域の皆さんと一緒にプランの実現に向けた具体的な取組みを進めるとともに、プロジェクトの情報を「大山街道アクションフォーラム」、ホームページ、チラシなどで広く受発信している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、男性70歳以上で4割半ばと高くなっている。

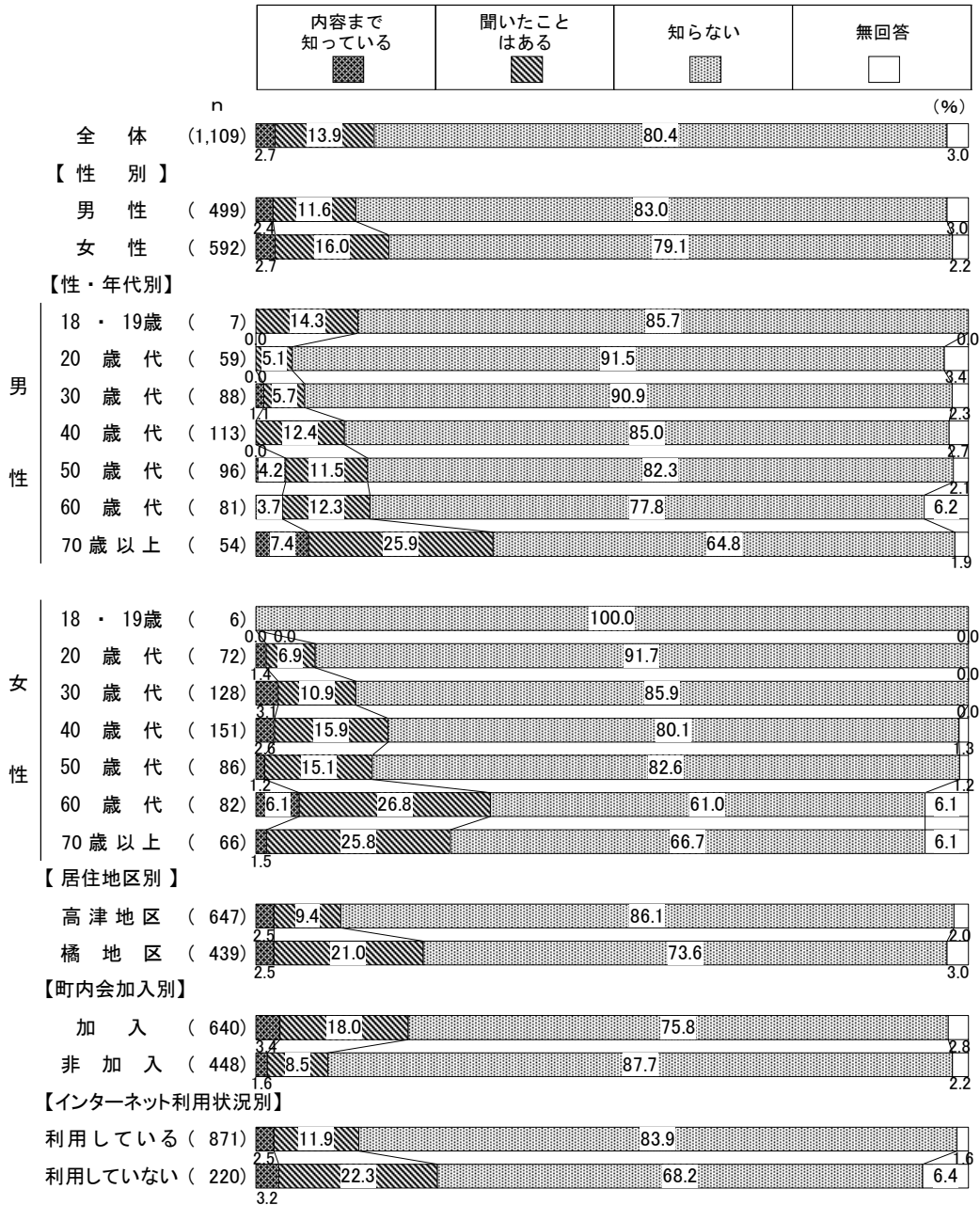
居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は“加入”が“非加入”より12.2ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「聞いたことはある」は“利用していない”が“利用している”より3.7ポイント高くなっている。(図2-4)

図 2-5 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)  
 【問26 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業】

内容：橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取組みを推進する。平成21年3月に「たちばな農のあるまちづくり」推進方針を策定し、区内産野菜の地産地消推進などの取組みを行っている。



性別にみると、「聞いたことはある」は女性が男性より 4.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「聞いたことはある」は女性の60歳代以上の年代と男性70歳以上で2割台と高くなっている。

居住地区別にみると、「聞いたことはある」は橘地区が高津地区より11.6ポイント高くなっている。

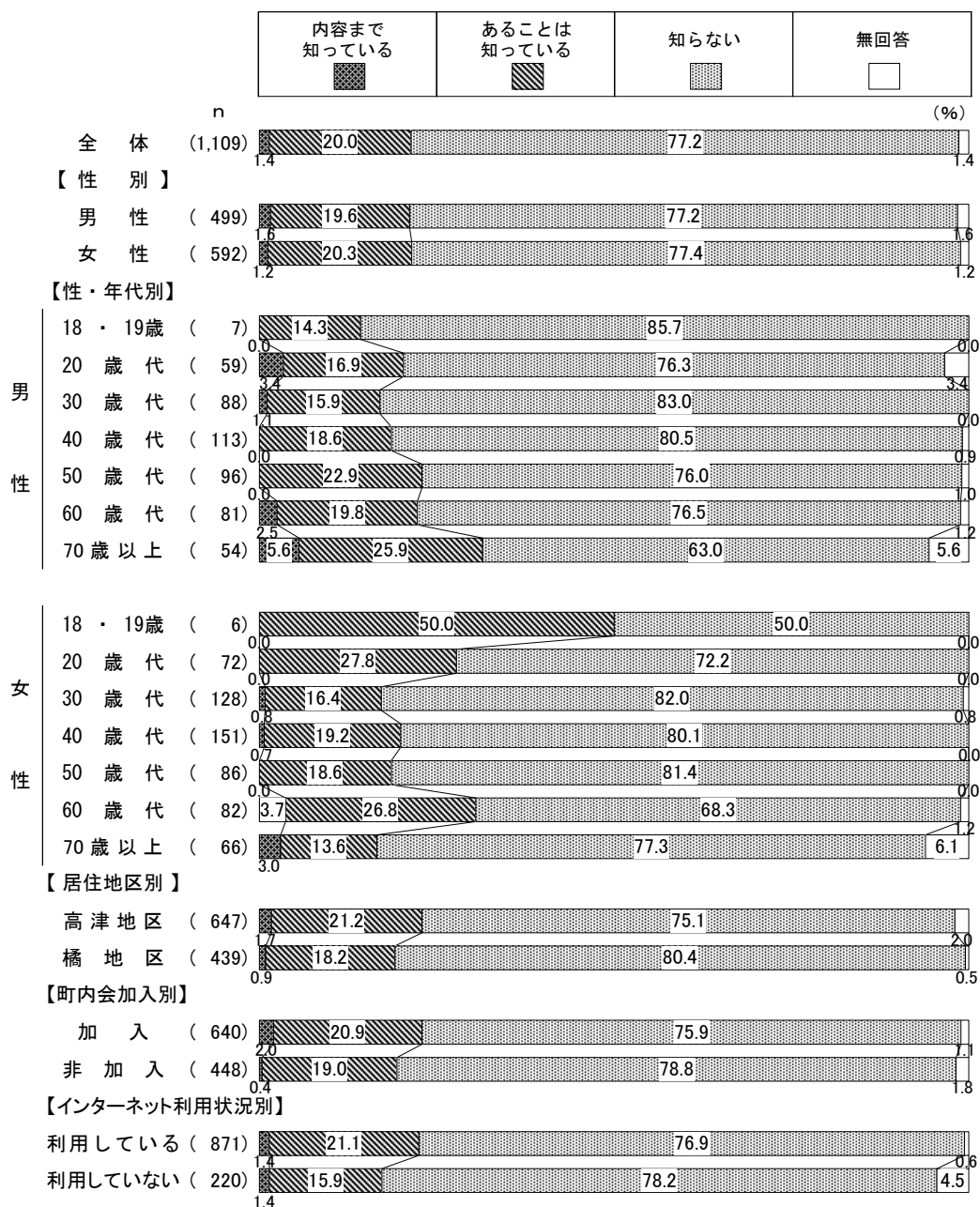
町内会加入別にみると、「聞いたことはある」は“加入”が“非加入”より9.5ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「聞いたことはある」は“利用していない”が“利用している”より10.4ポイント高くなっている。(図 2-5)

図2-6 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問35 高津区まちづくり推進事業】

内容：区民の参加と協働によるまちづくりの様々な取組みや活動団体のPRなどを目的に、キラリたかつニュースの発行、区内市民活動のポータルサイト「たかつまちねっと」の運営を行うとともに、市民活動見本市を開催している。また、「高津学」と題して、まちづくり講座の開催を行うなどしている。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「あることは知っている」は女性の20歳代と60歳代、男性70歳以上で2割半ばを超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「あることは知っている」は高津地区が橘地区より3.0ポイント高くなっている。

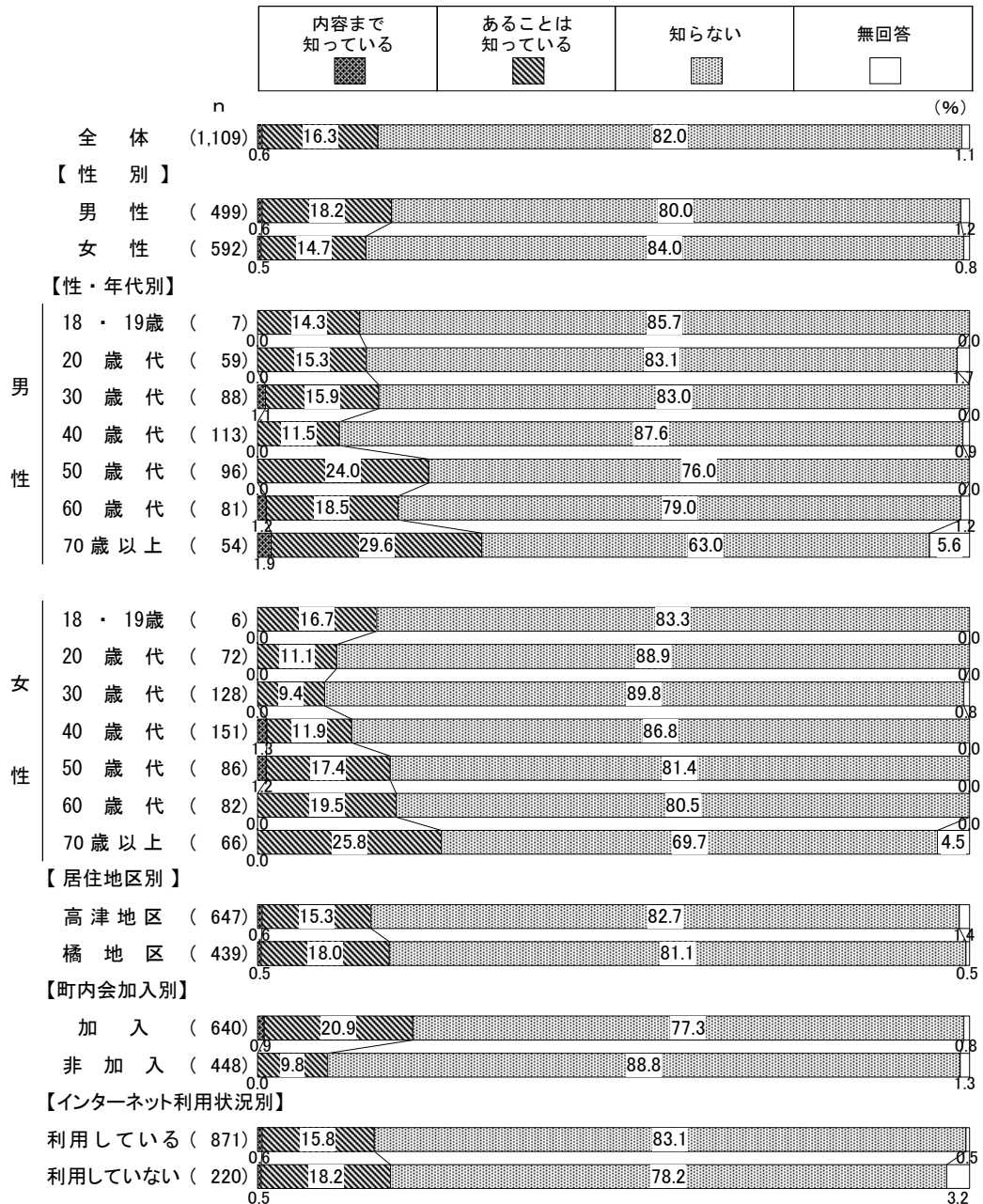
町内会加入別にみると、大きな違いはみられない。

インターネット利用状況別にみると、「あることは知っている」は“利用している”が“利用していない”より5.2ポイント高くなっている。(図2-6)

図2-7 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問37 高津区区民会議】

内容：区民の参加と協働による地域課題の解決に向けた調査審議を行うために、平成18年度から実施している。第5期区民会議では、「交通安全」や「防災・防犯」、「地域活性化」をテーマに取り組みを進め、現在第6期区民会議が始動している。



性別にみると、「あることは知っている」は男性が女性より3.5ポイント高くなっている。  
 性・年代別にみると、「あることは知っている」は男性70歳以上で3割と高くなっている。  
 居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

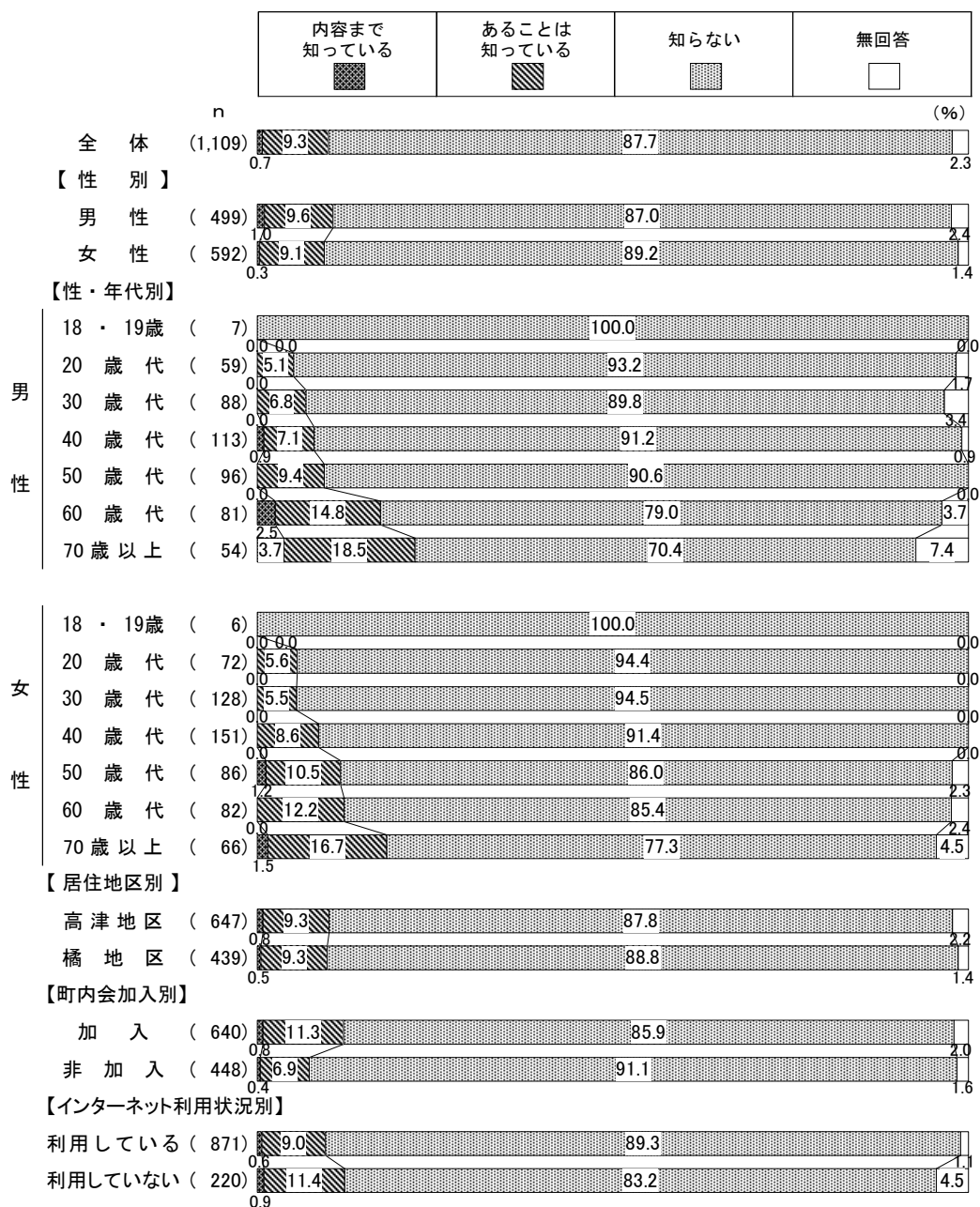
町内会加入別にみると、「あることは知っている」は“加入”が“非加入”より11.1ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知らない」は“利用している”が“利用していない”より4.9ポイント高くなっている。(図2-7)

図2-8 各事業の認知度(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問43 高津区ふるさとアーカイブ事業】

内容：高津区に親しみを持っていただくとともに高津区の歴史を次代に伝えるため、高津のまちに関する資料(写真等)を収集・活用していく方針を、平成23年度に「高津区ふるさとアーカイブ基本構想」として策定し、資料の収集やWEB・デジタルアーカイブの運用、ワークショップの開催等を行っている。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「あることは知っている」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、男女ともに70歳以上で2割近くとなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

町内会加入別にみると、「あることは知っている」は“加入”が“非加入”より4.4ポイント高くなっている。

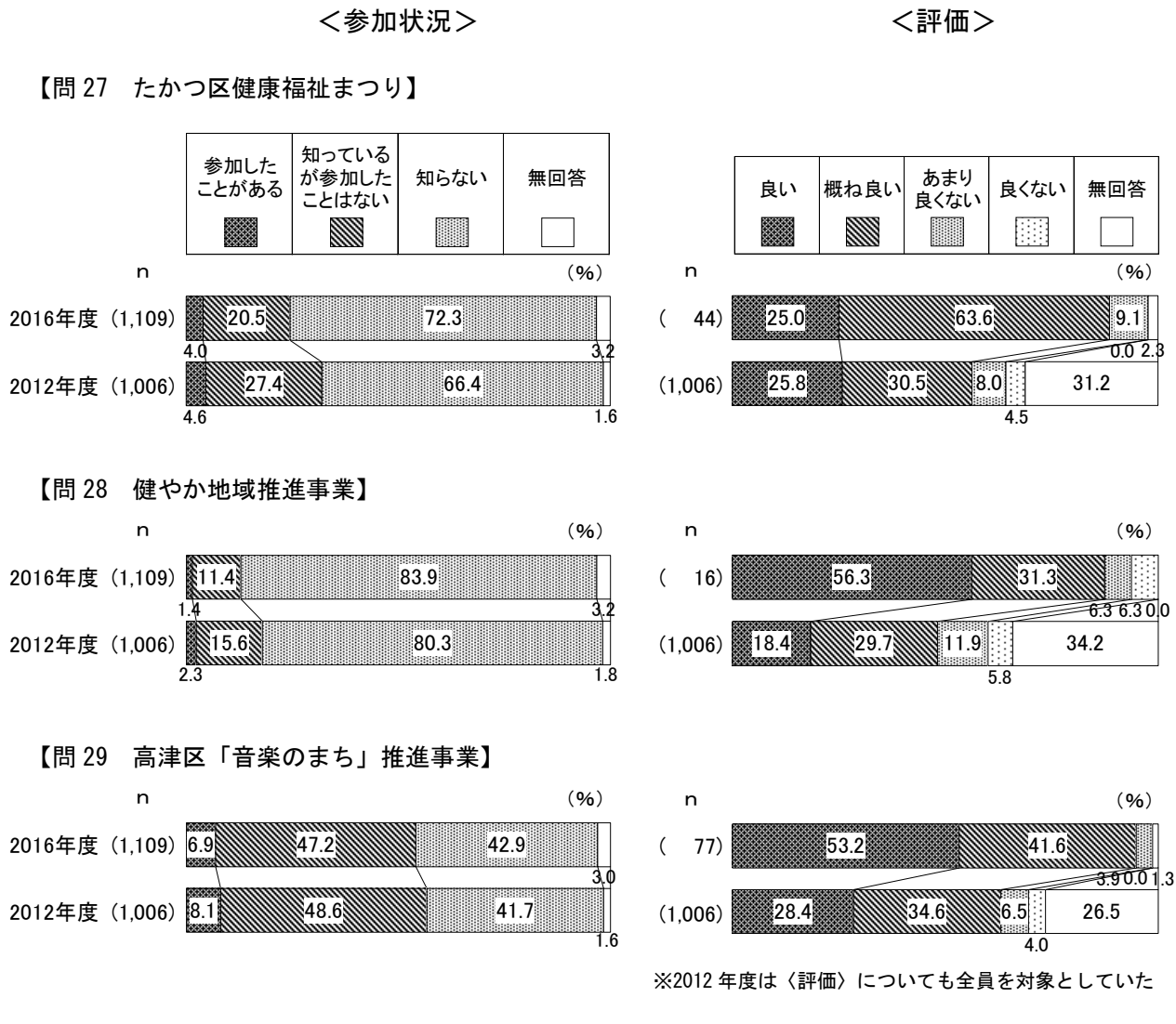
インターネット利用状況別にみると、「知らない」は“利用している”が“利用していない”より6.1ポイント高くなっている。(図2-8)



(2) 各事業への参加状況・評価 ①

問 あなたは高津区に行っている事業についてご存知でしょうか。事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。(○は各1つだけ。認知度について、選択肢「参加したことがある」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図2-9 各事業への参加状況・評価 ①



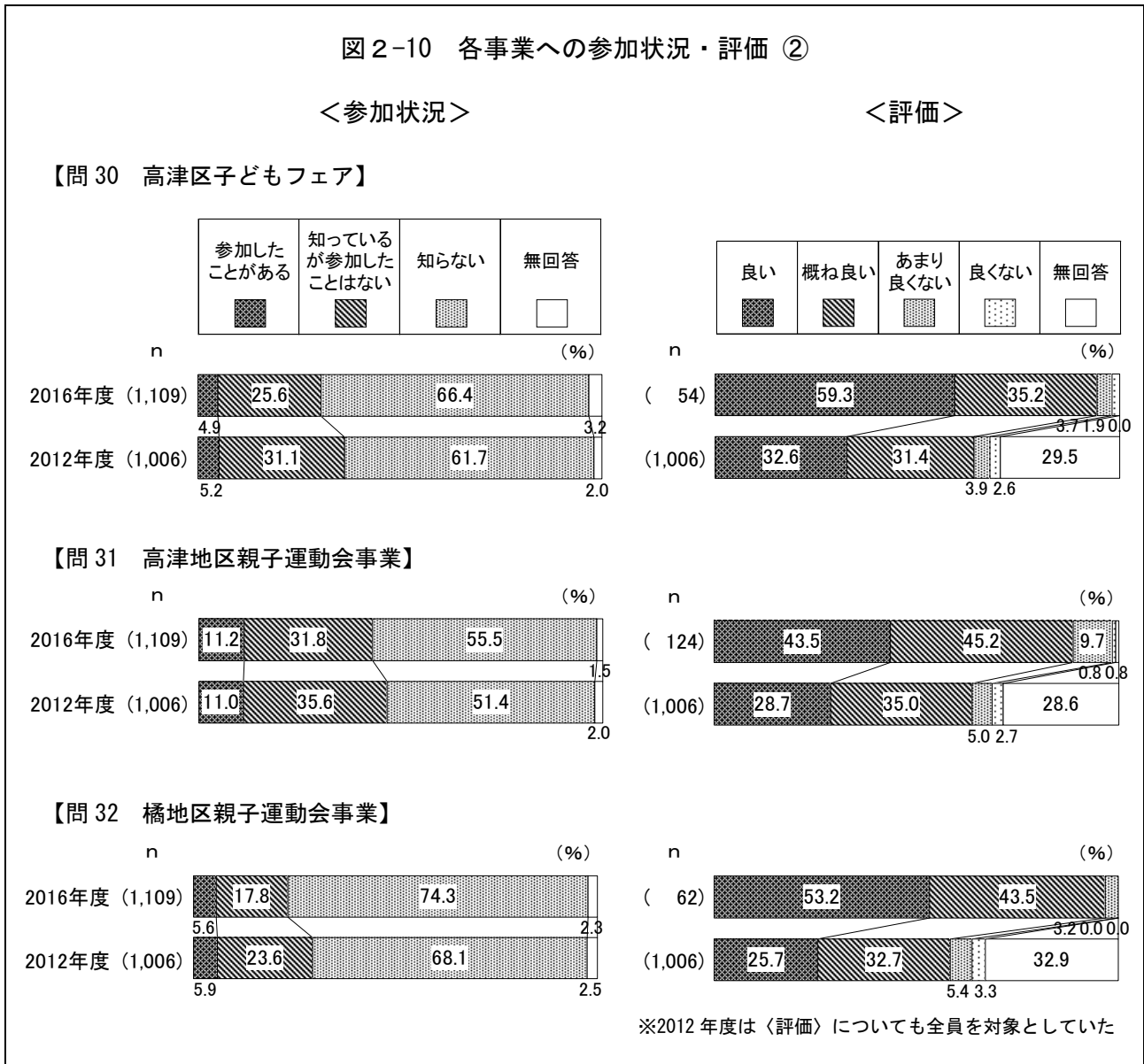
各事業への参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【たかつ区健康福祉まつり】が4.0%、【健やか地域推進事業】が1.4%、【高津区「音楽のまち」推進事業】が6.9%となっている。

2012年度と比較すると、【たかつ区健康福祉まつり】で「知らない」が5.9ポイント増加している。

<評価>をみると、「良い」は【たかつ区健康福祉まつり】が25.0%、【健やか地域推進事業】が56.3%、【高津区「音楽のまち」推進事業】が53.2%となっている。

2012年度との比較は、回答対象が異なるので、参考までに図示する。(図2-9)

(2) 各事業への参加状況・評価 ②



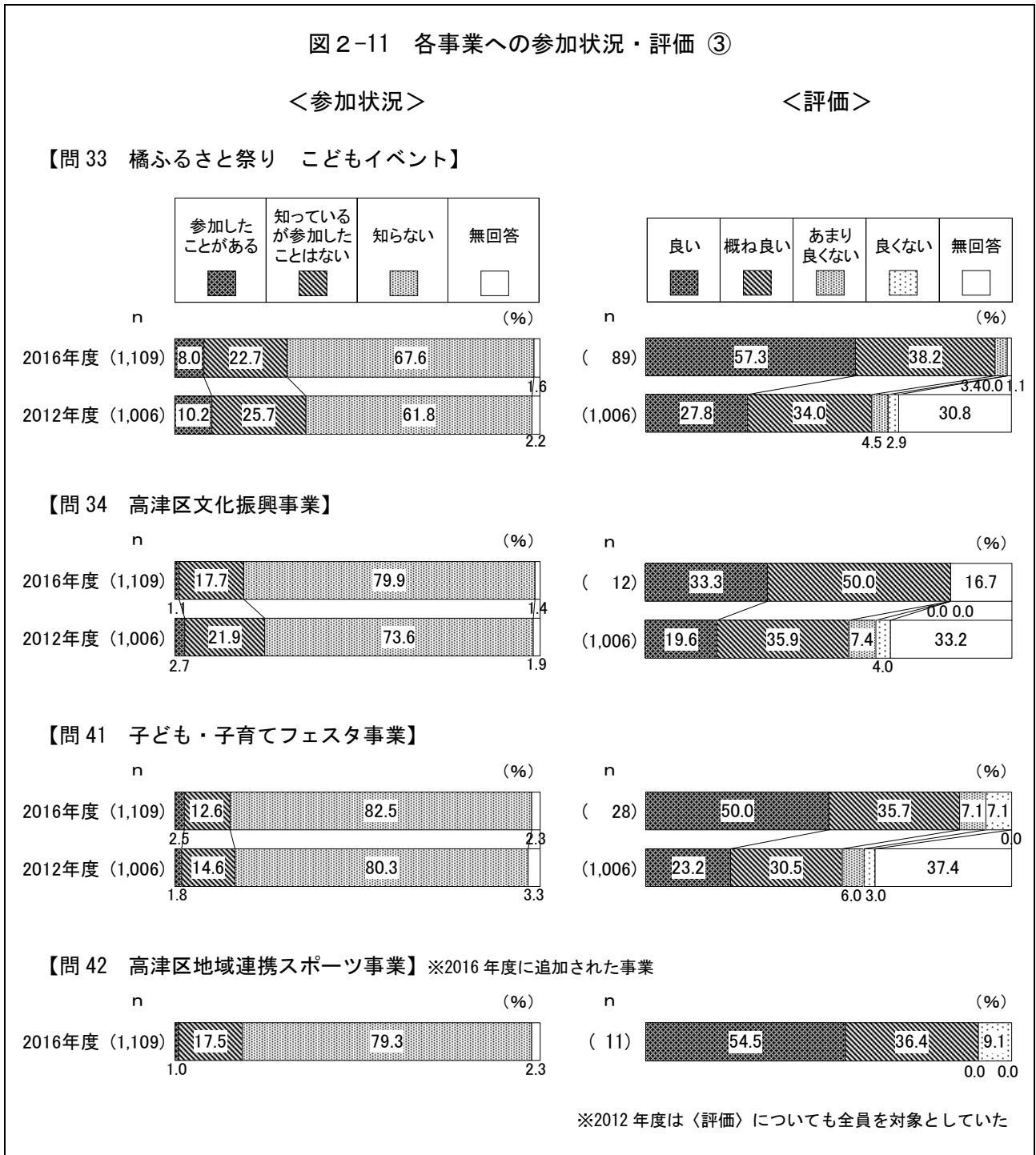
各事業への参加状況・評価の〈参加状況〉をみると、「参加したことがある」は【高津区子どもフェア】が4.9%、【高津地区親子運動会事業】が11.2%、【橘地区親子運動会事業】が5.6%となっている。

2012年度と比較すると、【高津区子どもフェア】で「知らない」が4.7ポイント、【高津地区親子運動会事業】で「知らない」が4.1ポイント、【橘地区親子運動会事業】で「知らない」が6.2ポイント、それぞれ増加している。

〈評価〉をみると、「良い」は【高津区子どもフェア】が59.3%、【高津地区親子運動会事業】が43.5%、【橘地区親子運動会事業】が53.2%となっている。

2012年度との比較は、回答対象が異なるので、参考までに図示する。(図 2-10)

(2) 各事業への参加状況・評価 ③



各事業への参加状況・評価の<参加状況>をみると、「参加したことがある」は【橘ふるさと祭り こどもイベント】が8.0%、【高津区文化振興事業】が1.1%、【子ども・子育てフェスタ事業】が2.5%、【高津区地域連携スポーツ事業】が1.0%となっている。

2012年度と比較すると、【橘ふるさと祭り こどもイベント】で「知らない」が5.8ポイント、【高津区文化振興事業】で「知らない」が6.3ポイント、それぞれ増加している。

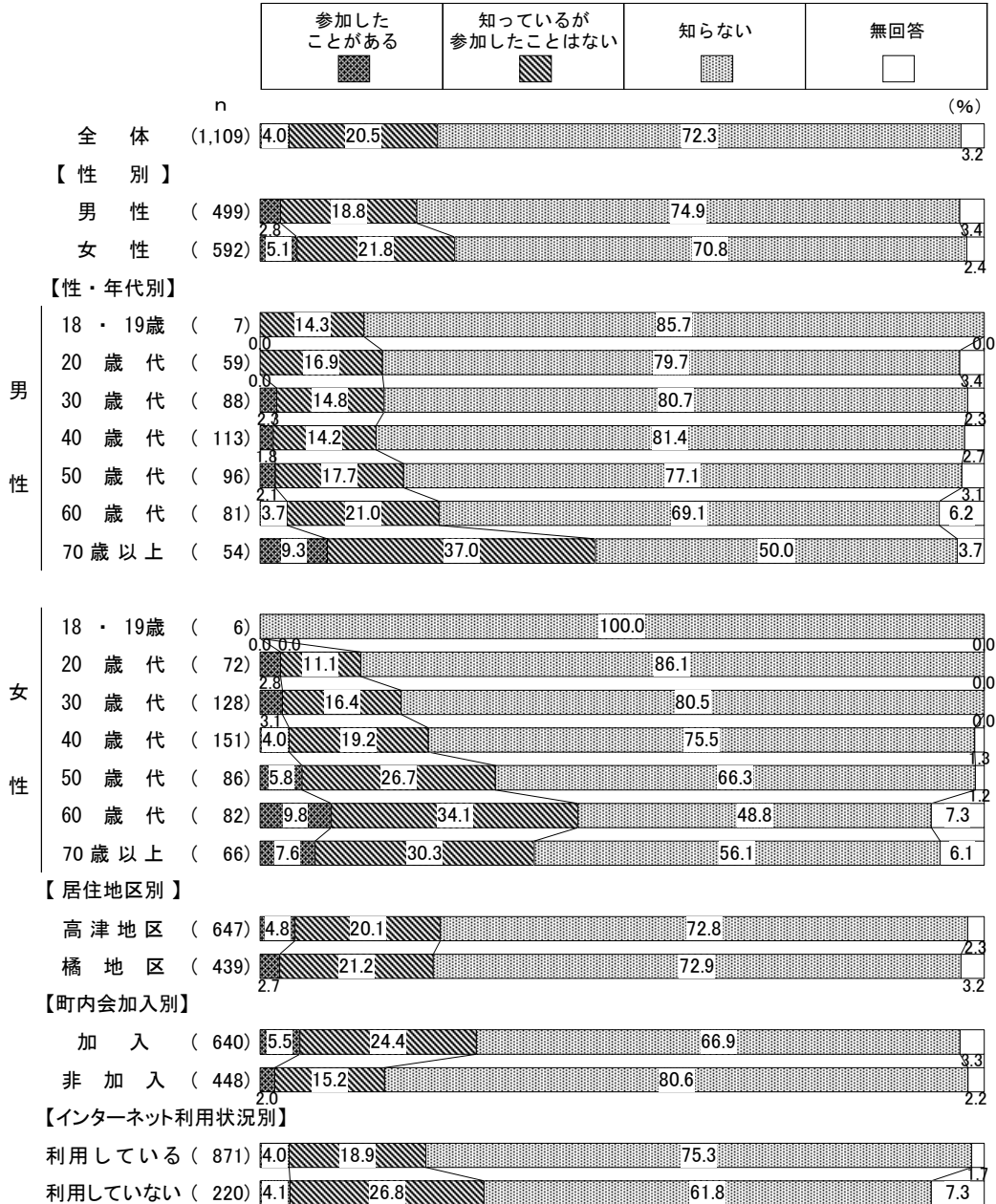
<評価>をみると、「良い」は【橘ふるさと祭り こどもイベント】が57.3%、【高津区文化振興事業】が33.3%、【子ども・子育てフェスタ事業】が50.0%、【高津区地域連携スポーツ事業】が54.5%となっている。

2012年度との比較は、回答対象が異なるので、参考までに図示する。(図 2-11)

図2-12 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問27 たかつ区健康福祉まつり】

内容：区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に「てくのかわさき」で開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性が男性より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加したことがある」は女性60歳代と男性70歳以上で約1割となっている。「知っているが参加したことはない」は男性70歳以上で4割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

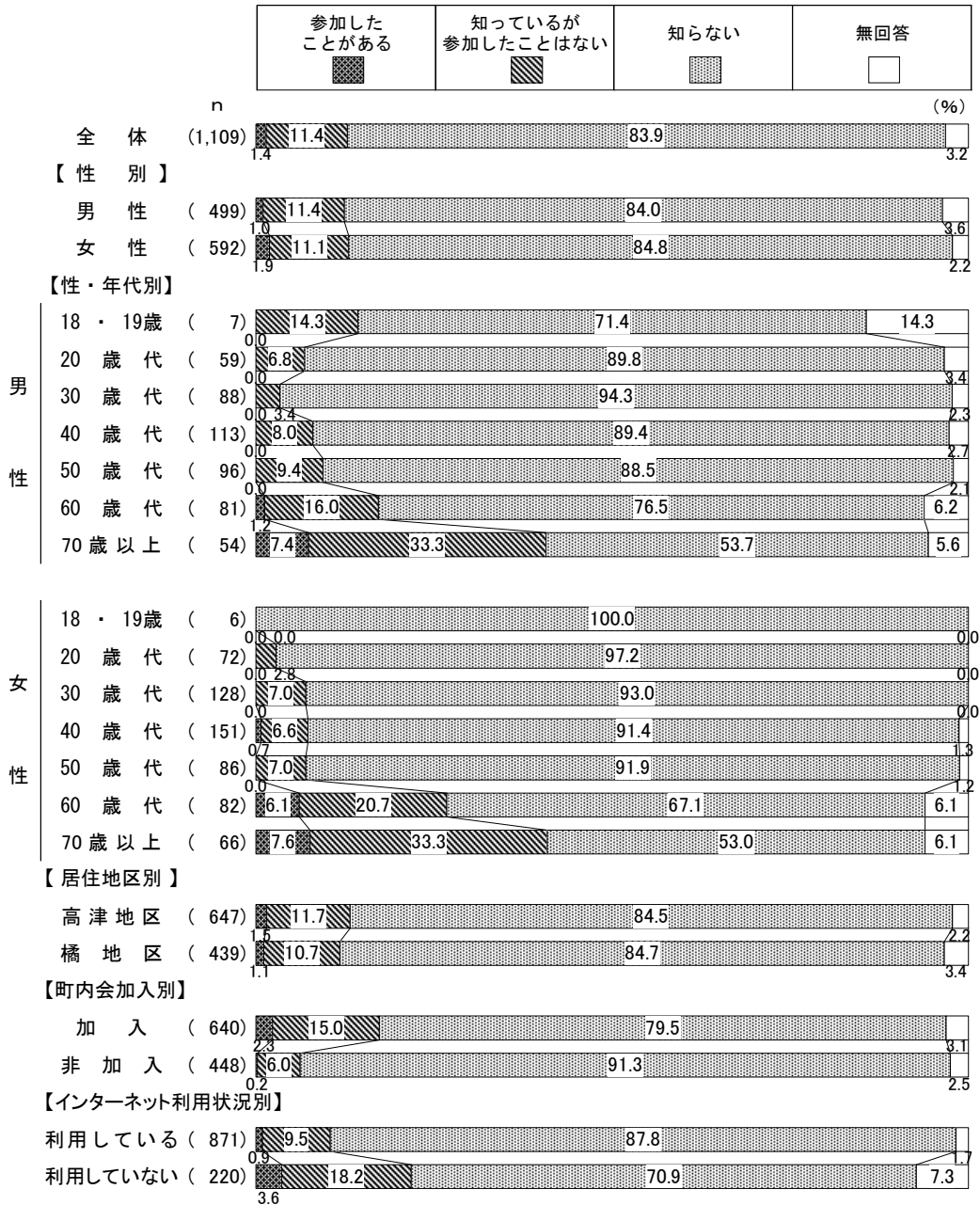
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は“加入”が“非加入”より3.5ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は“利用していない”が“利用している”より7.9ポイント高くなっている。(図2-12)

図2-13 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問28 健やか地域推進事業】

内容：区内の関係機関やヘルスパートナー高津、町内会などの住民組織と連携し、住民が身近な公園などで「高津公園体操」を実施できるよう、地域ごとの研修会を実施している。また、普及啓発のため、地域住民や関係機関を対象に講演会などを実施するとともに、リーフレットの作成、DVD等の販売を行っている。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は男女ともに70歳以上で3割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

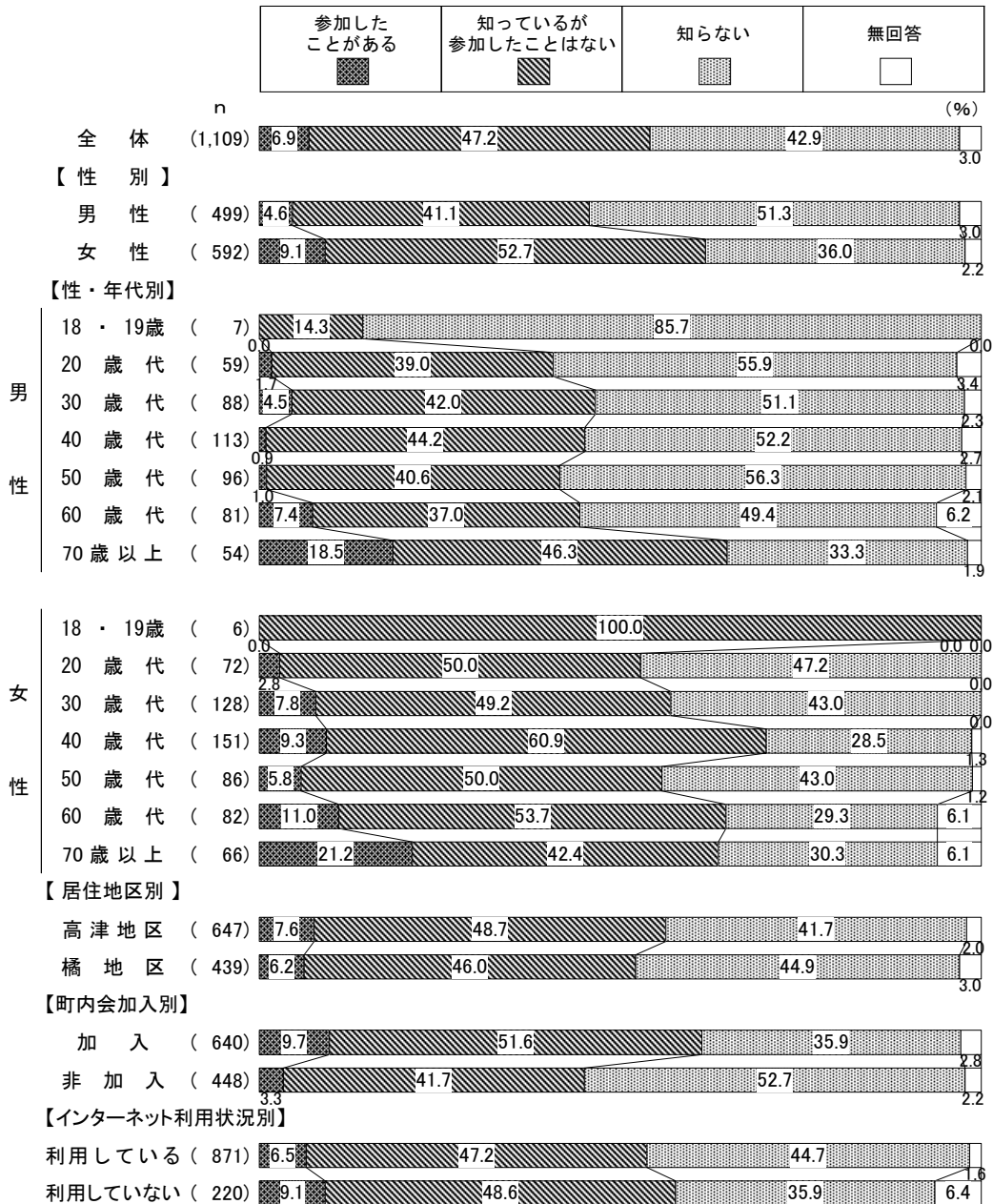
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は“加入”が“非加入”より9.0ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は“利用していない”が“利用している”より8.7ポイント高くなっている。(図2-13)

図2-14 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問29 高津区「音楽のまち」推進事業】

内容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花コンサート」、区民参加型の音楽祭である「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。



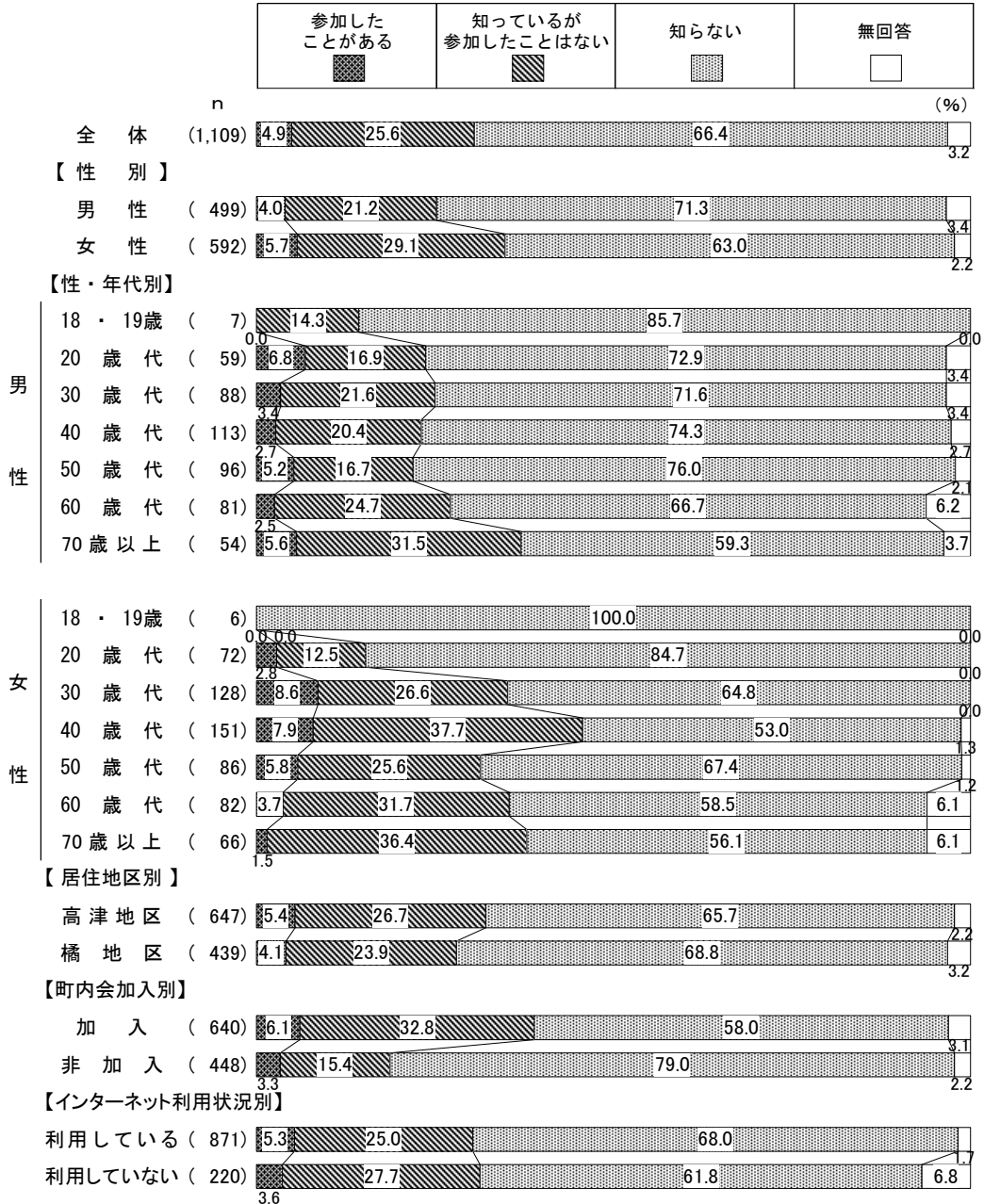
性別にみると、「参加したことがある」は女性が男性より4.5ポイント高くなっている。  
 性・年代別にみると、「参加したことがある」は男女ともに70歳以上で2割前後と高くなっている。  
 居住地区別にみると、「知らない」は橘地区が高津地区より3.2ポイント高くなっている。  
 町内会加入別にみると、「参加したことがある」は“加入”が“非加入”より6.4ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知らない」は“利用している”が“利用していない”より8.8ポイント高くなっている。(図2-14)

図2-15 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問30 高津区子どもフェア】

内容：子どもの健全育成を図るため、夏休み最後の日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、ダンボール舟のレース、うなぎ・どじょう・あゆの掴み取り、移動動物園、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性が男性より7.9ポイント高くなっている。性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性40歳代で4割近くと高くなっている。

居住地区別にみると、「知らない」は橘地区が高津地区より3.1ポイント高くなっている。

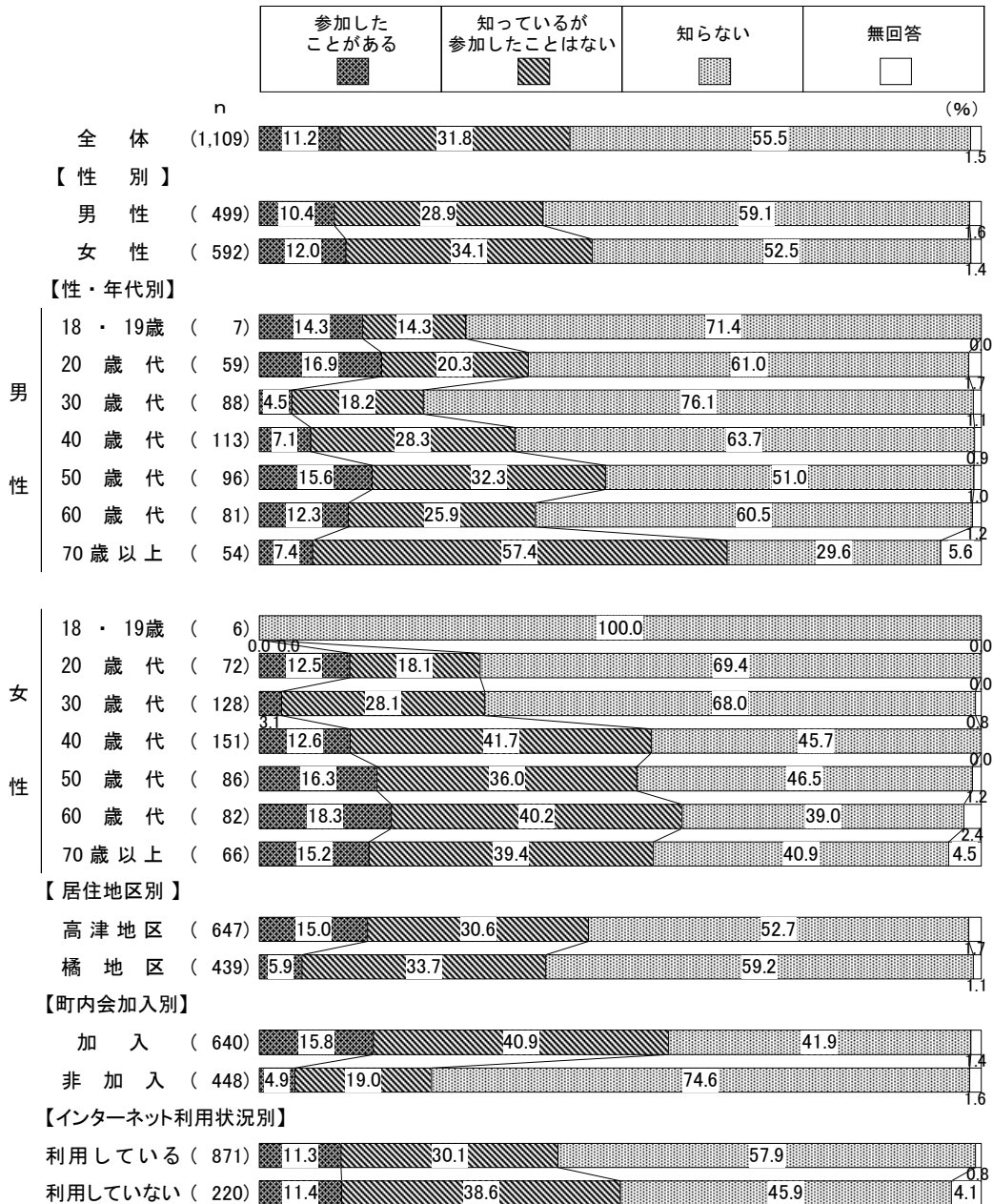
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は“加入”が“非加入”より17.4ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知らない」は“利用している”が“利用していない”より6.2ポイント高くなっている。(図2-15)

図2-16 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問31 高津地区親子運動会事業】

内容：毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子等を対象に運動会を行っている。町会対抗リレーやむかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。



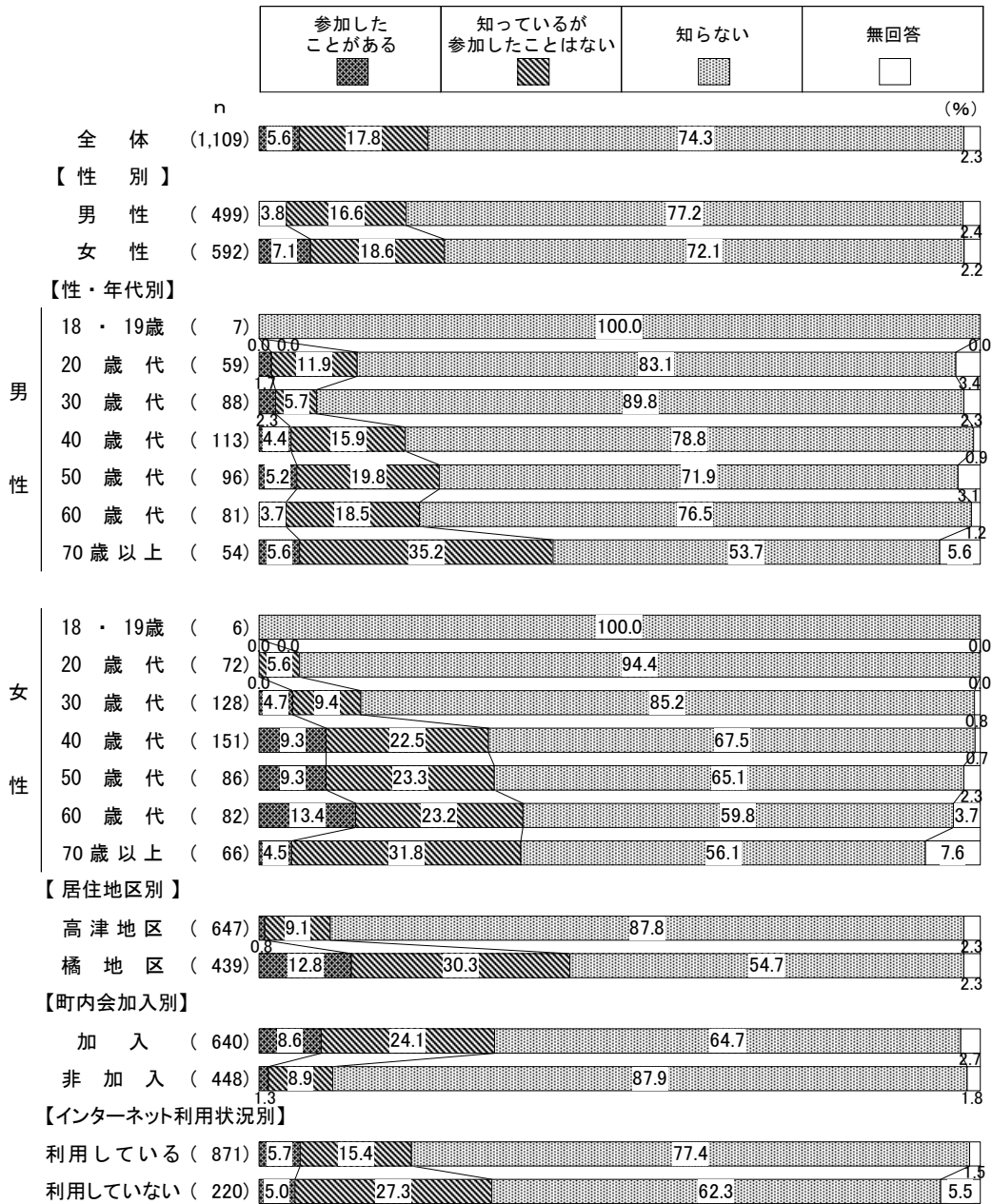
性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性が男性より5.2ポイント高くなっている。性・年代別にみると、「参加したことがある」は女性60歳代と男性20歳代で2割近くとなっている。「知っているが参加したことはない」は男性70歳以上で6割近くと高くなっている。居住地区別にみると、「参加したことがある」は高津地区が橘地区より9.1ポイント高くなっている。町内会加入別にみると、「参加したことがある」は“加入”が“非加入”より10.9ポイント高くなっている。インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は“利用していない”が“利用している”より8.5ポイント高くなっている。(図2-16)



図2-17 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問32 橘地区親子運動会事業】

内容：毎年10月の第3日曜日に、橘中学校で橘地区の親子等を対象に運動会を行っている。100m競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。



性別にみると、「参加したことがある」は女性が男性より3.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加したことがある」は女性60歳代で1割を超えている。「知っているが参加したことはない」は男性70歳以上で3割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、「参加したことがある」は橘地区が高津地区より12.0ポイント高くなっている。

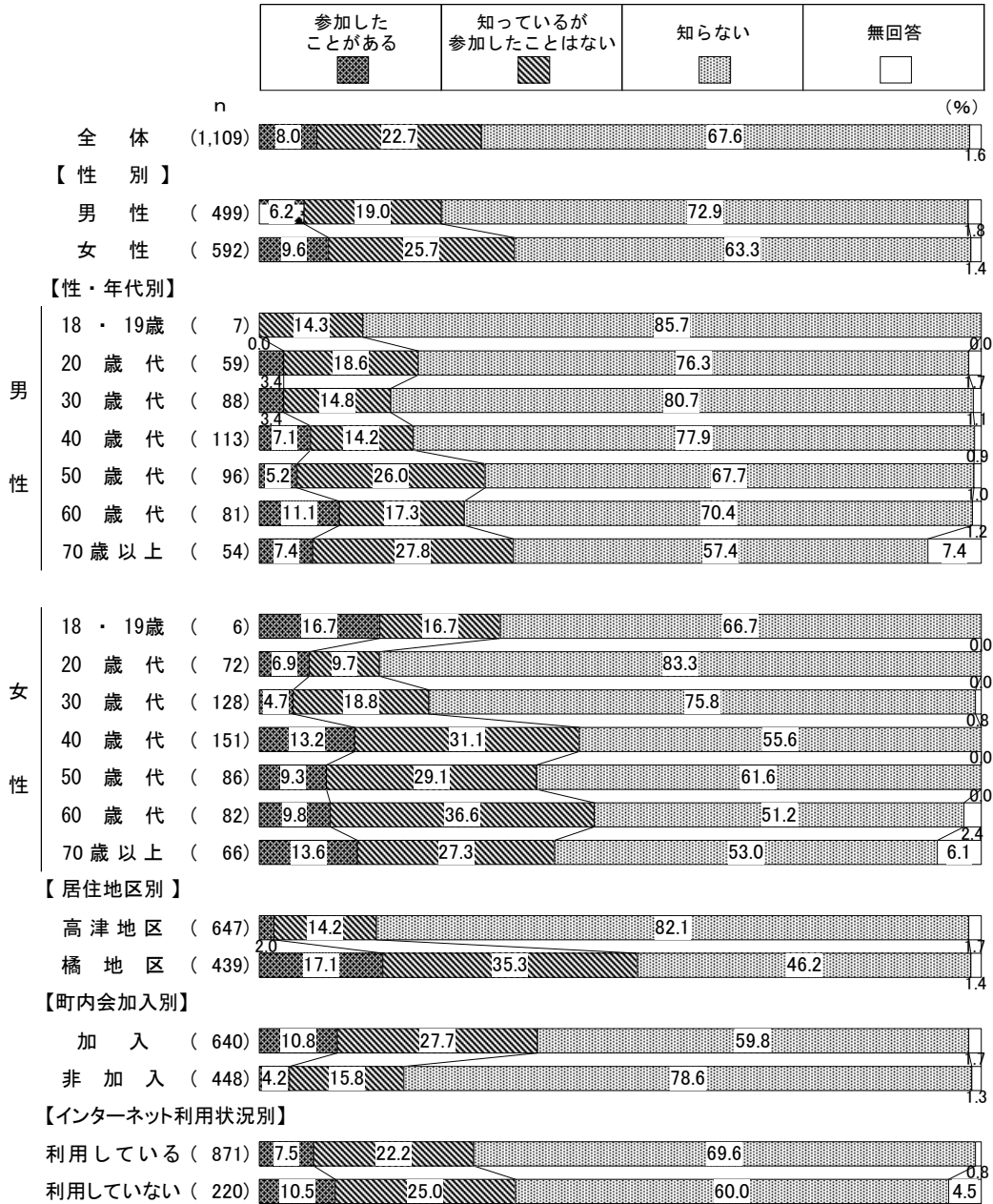
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は“加入”が“非加入”より7.3ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は“利用していない”が“利用している”より11.9ポイント高くなっている。(図2-17)

図2-18 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問33 橘ふるさと祭り こどもイベント】

内容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される橘ふるさと祭り（8月上旬の日曜日）において、移動動物園、ストラックアウト、おもちゃの釣り堀など子どもを対象としたイベントを実施している。また、ふるさと祭りの広報等のため、地区内小学生によるポスターコンクールを実施し、優秀作品からポスターを作製するとともに、市バス車内や公共施設等へ掲出する。



性別にみると、「参加したことがある」は女性が男性より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加したことがある」は女性の40歳代と70歳以上、男性60歳代で1割を超えている。「知っているが参加したことはない」は女性60歳代で3割半ばを超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「参加したことがある」は橘地区が高津地区より15.1ポイント高くなっている。

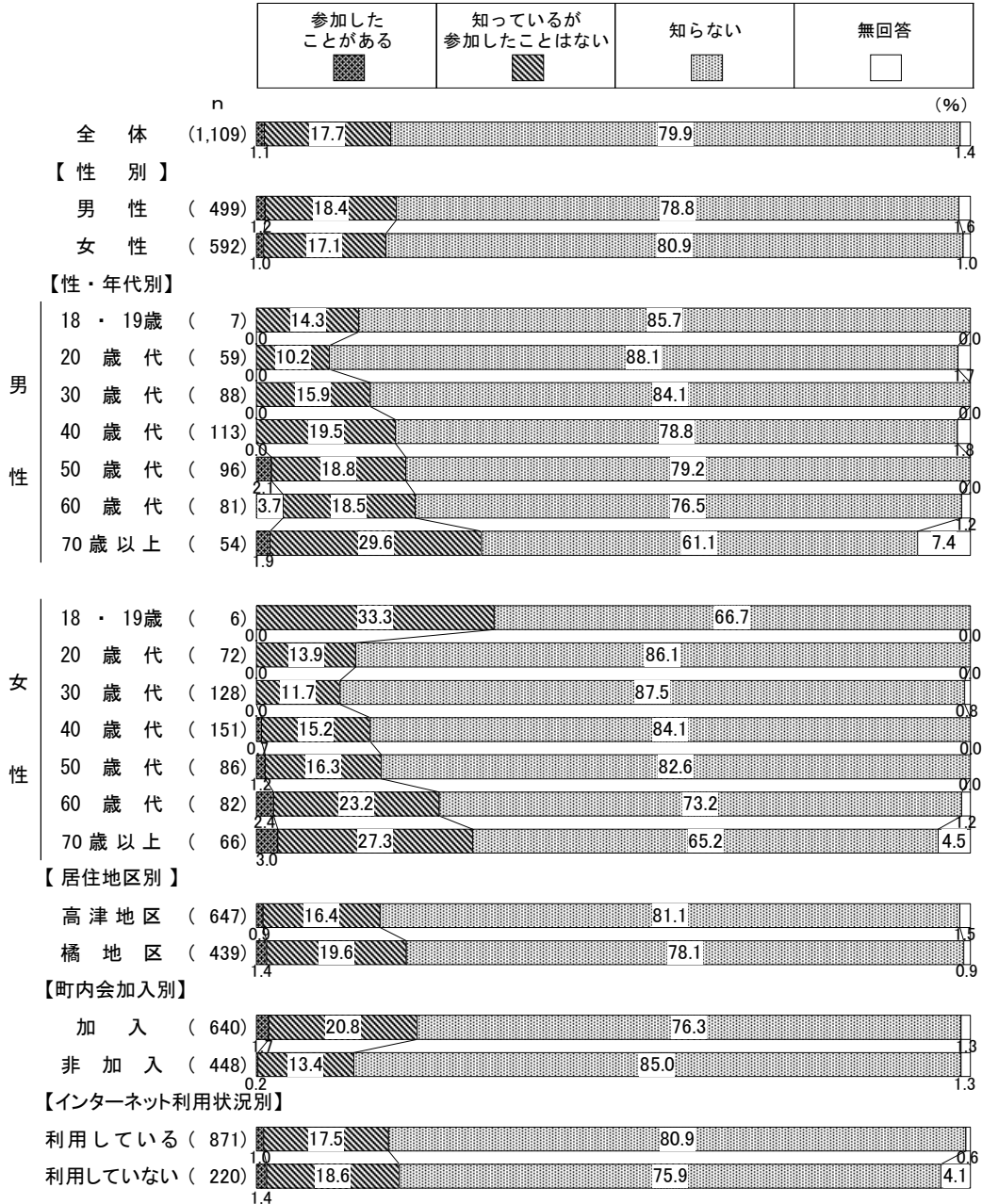
町内会加入別にみると、「参加したことがある」は“加入”が“非加入”より6.6ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「参加したことがある」は“利用していない”が“利用している”より3.0ポイント高くなっている。(図2-18)

図2-19 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問34 高津区文化振興事業】

内容：区内の歴史的・文化的資源の活用により、地域の魅力を再認識する機会を提供し、ふるさと意識の醸成を図るため、区の歴史・地理・文化等についての学習とガイド養成を目的とした「高津のさんぼみちガイド養成講座」を実施している。



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、男性70歳以上で3割と高くなっている。

居住地区別にみると、「知っているが参加したことはない」は橘地区が高津地区より3.2ポイント高くなっている。

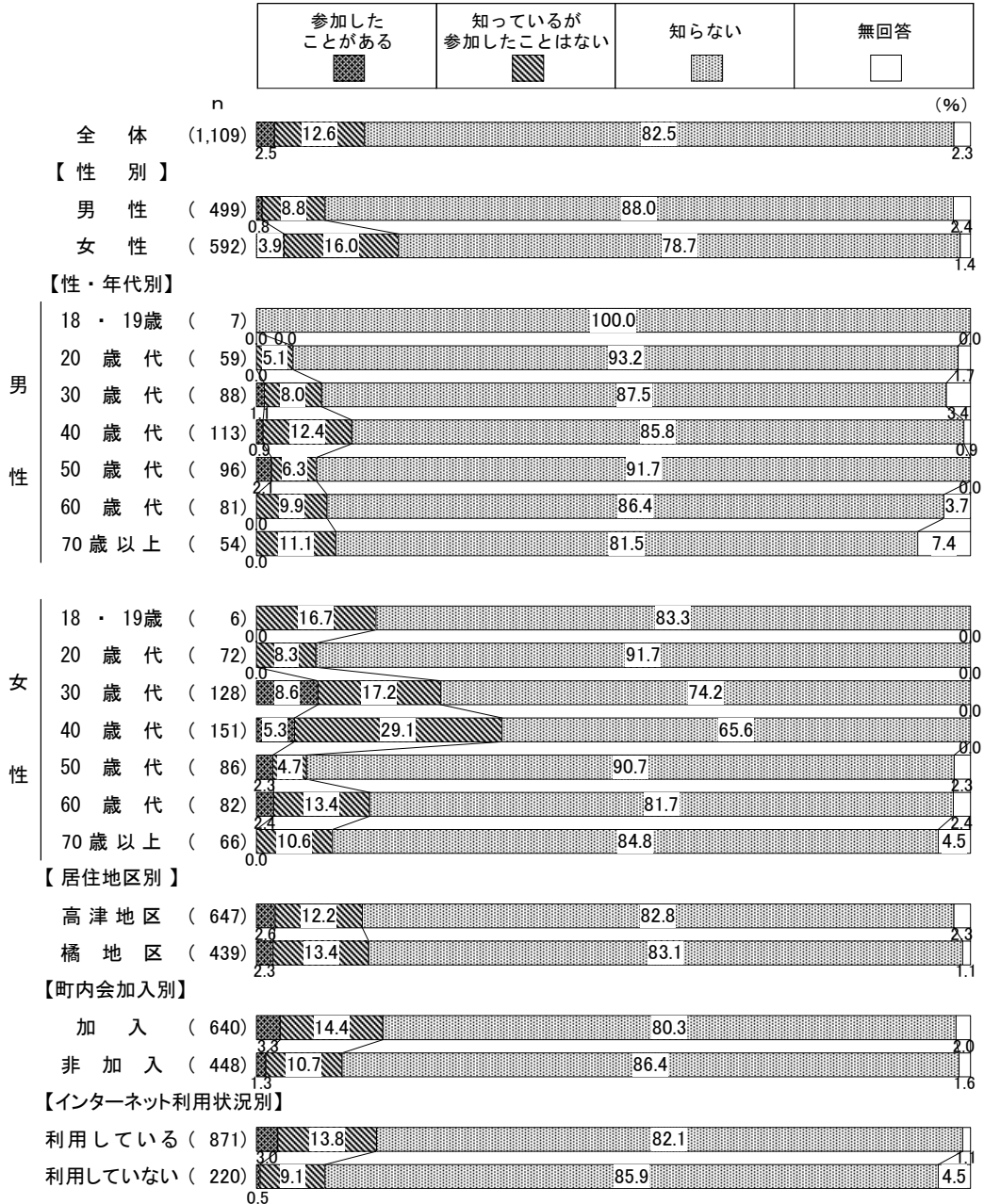
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は“加入”が“非加入”より7.4ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知らない」は“利用している”が“利用していない”より5.0ポイント高くなっている。(図2-19)

図2-20 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問41 子ども・子育てフェスタ事業】

内容：毎年11月の土曜日に高津市民館において開催し、親子で参加できる楽しいイベント、学習・講演会、地域子育てグループ等の紹介や交流会などを実施している。その中で、市民と行政との協働により子どもの育ちを支えあうネットワークづくりを行っている。



性別にみると、「参加したことがある」は女性が男性より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性40歳代で約3割と高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

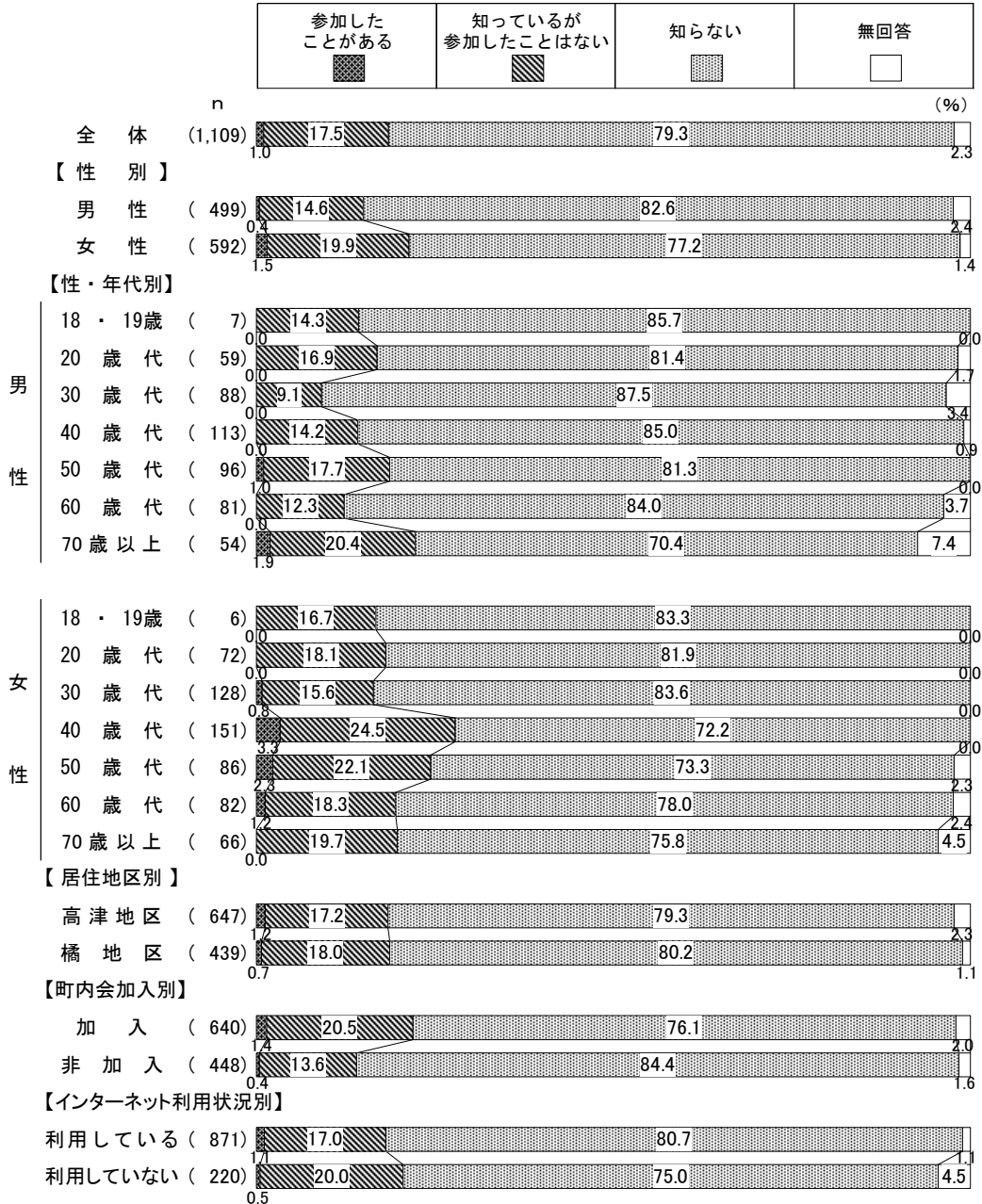
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は“加入”が“非加入”より3.7ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は“利用している”が“利用していない”より4.7ポイント高くなっている。(図2-20)

図2-21 各事業への参加状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問42 高津区地域連携スポーツ事業】

内容：スポーツを通じた地域コミュニティの活性化や世代間交流、地域におけるスポーツ参加機会の拡充を図るため、親子そり体験や親子デイキャンプ体験、ファミリースポーツ縁日といったスポーツイベントを開催している。



性別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性が男性より5.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っているが参加したことはない」は女性40歳代で2割半ばと高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

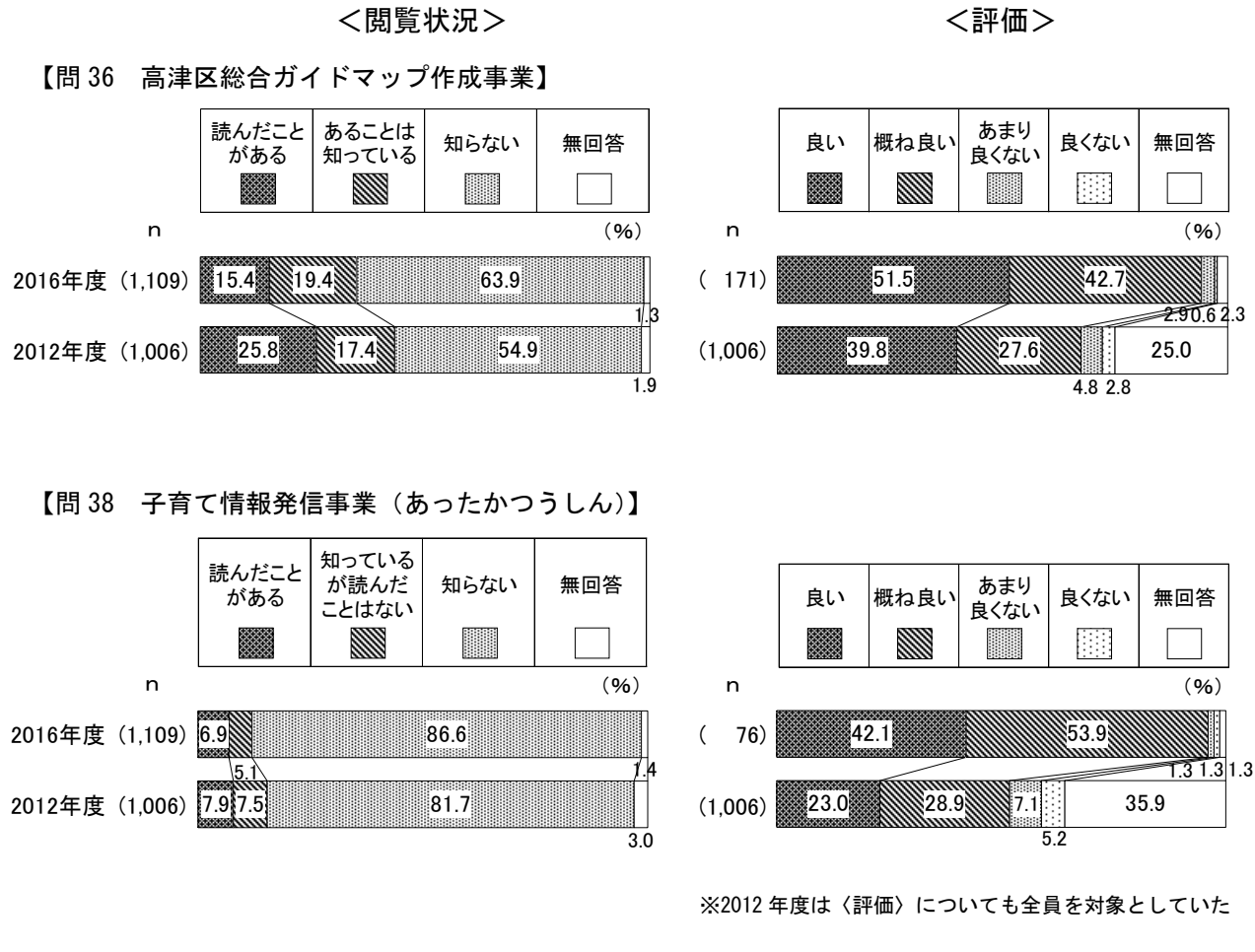
町内会加入別にみると、「知っているが参加したことはない」は“加入”が“非加入”より6.9ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「知っているが参加したことはない」は“利用していない”が“利用している”より3.0ポイント高くなっている。(図2-21)

(3) 各事業の閲覧状況・評価 ①

問 あなたは高津区に行っている事業についてご存知でしょうか。事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。(○は各1つだけ。認知度について、選択肢「読んだことがある・見たことがある」を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

図2-22 各事業の閲覧状況・評価 ①



各事業の閲覧状況・評価の<閲覧状況>をみると、「読んだことがある」は【高津区総合ガイドマップ作成事業】が15.4%、【子育て情報発信事業 (あったかつうしん)】が6.9%となっている。2012年度と比較すると、【高津区総合ガイドマップ作成事業】で「読んだことがある」が10.4ポイント減少している。【子育て情報発信事業 (あったかつうしん)】で「知らない」が4.9ポイント増加している。

<評価>をみると、「良い」は【高津区総合ガイドマップ作成事業】が51.5%、【子育て情報発信事業 (あったかつうしん)】が42.1%となっている。

2012年度との比較は、回答対象が異なるので、参考までに図示する。(図2-22)

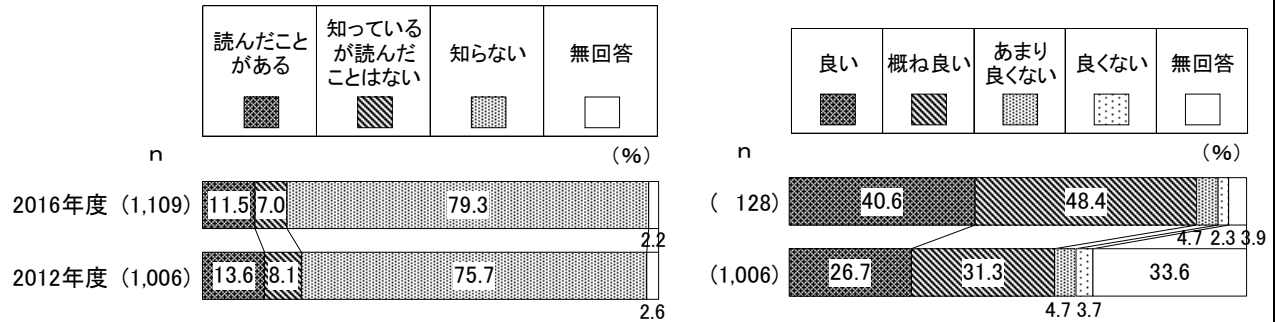
(3) 各事業の閲覧状況・評価 ②

図 2-23 各事業の閲覧状況・評価 ②

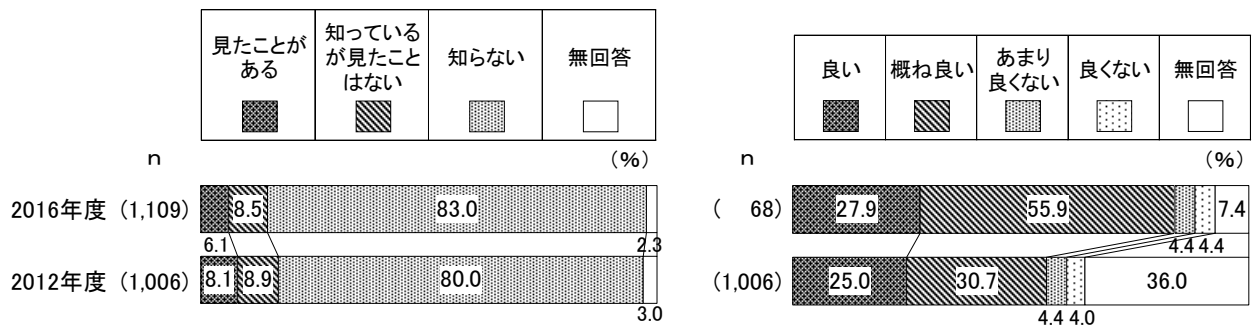
<閲覧状況>

<評価>

【問 39 子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】



【問 40 子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（ホームページ））】



※2012年度は<評価>についても全員を対象としていた

各事業の閲覧状況・評価の<閲覧状況>をみると、【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】は「読んだことがある」が11.5%となっている。【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（ホームページ））】は「見たことがある」が6.1%となっている。

2012年度と比較すると、【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】で「知らない」が3.6ポイント、【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（ホームページ））】で「知らない」が3.0ポイント、それぞれ増加している。

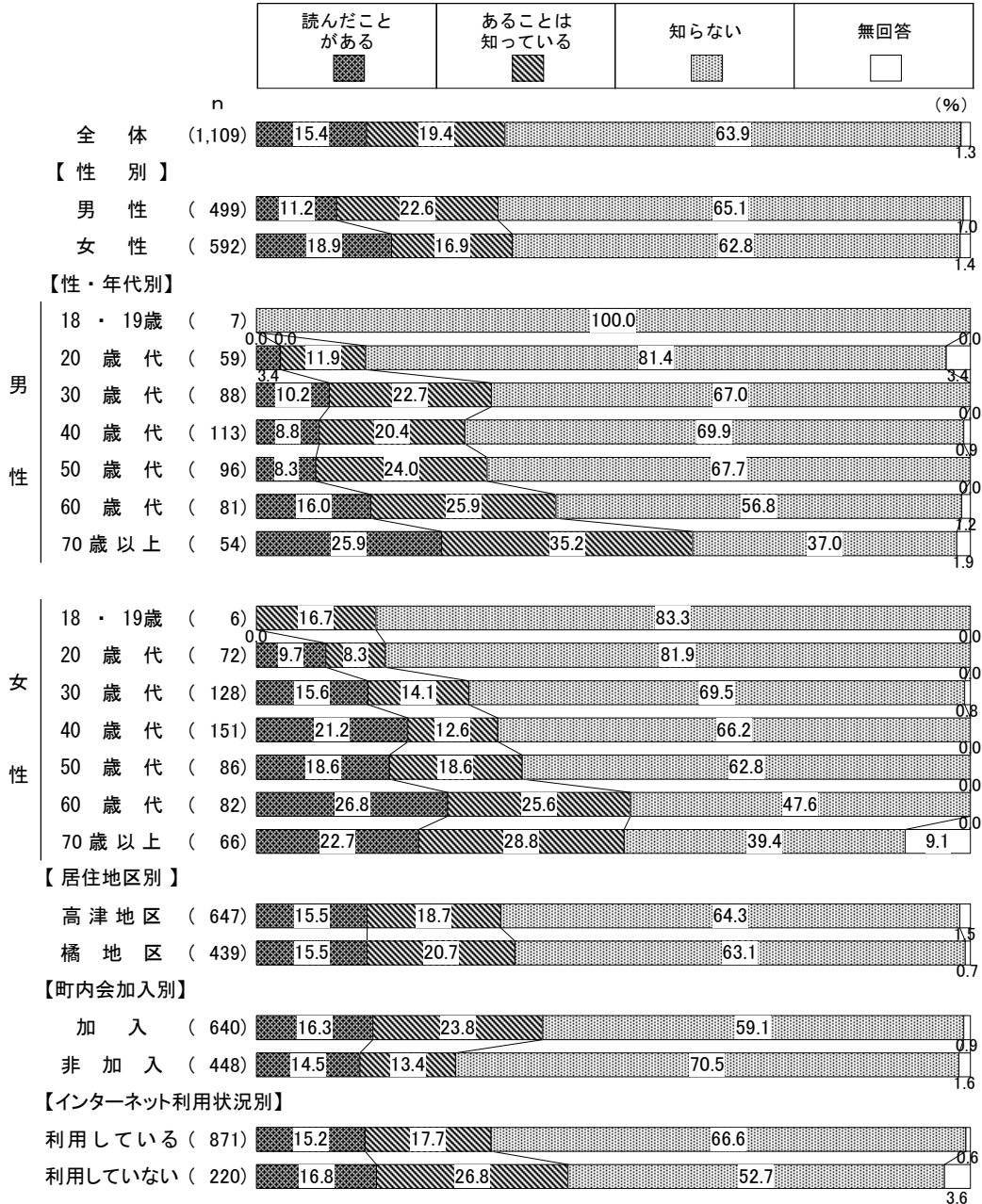
<評価>をみると、「良い」は【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】が40.6%、【子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（ホームページ））】が27.9%となっている。

2012年度との比較は、回答対象が異なるので、参考までに図示する。（図 2-23）

図2-24 各事業の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問36 高津区総合ガイドマップ作成事業】

内容：区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、防災情報、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。



性別にみると、「読んだことがある」は女性が男性より7.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「読んだことがある」は女性60歳代と男性70歳以上で2割半ばを超えて高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

町内会加入別にみると、「あることは知っている」は“加入”が“非加入”より10.4ポイント高くなっている。

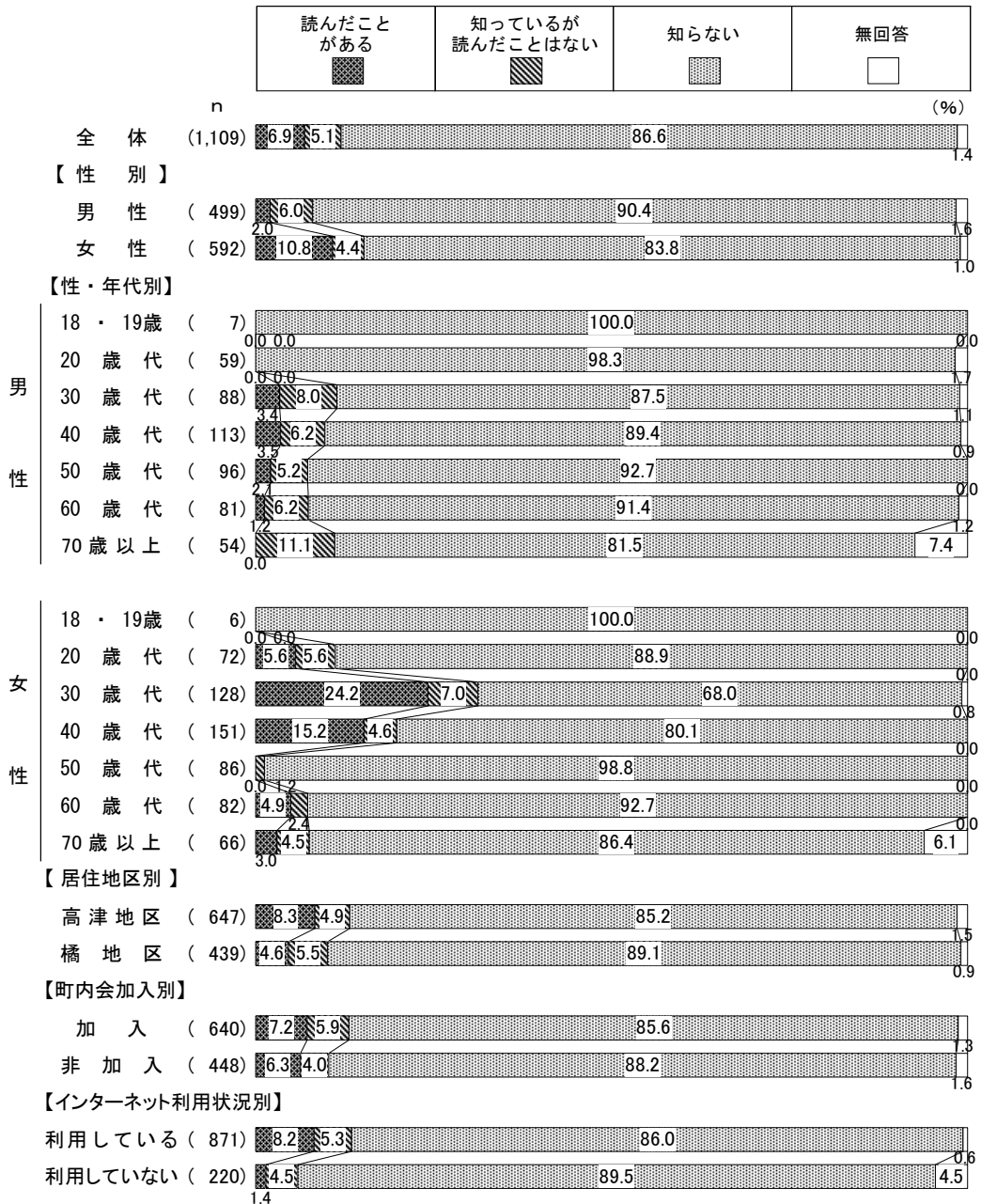
インターネット利用状況別にみると、「あることは知っている」は“利用していない”が“利用している”より9.1ポイント高くなっている。(図2-24)



図2-25 各事業の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問38 子育て情報発信事業(あったかつうしん)】

内容：子育て中の親の視点からニーズにあった情報発信を目的とし、区民と行政が協働で情報誌「あったかつうしん」を発行している。

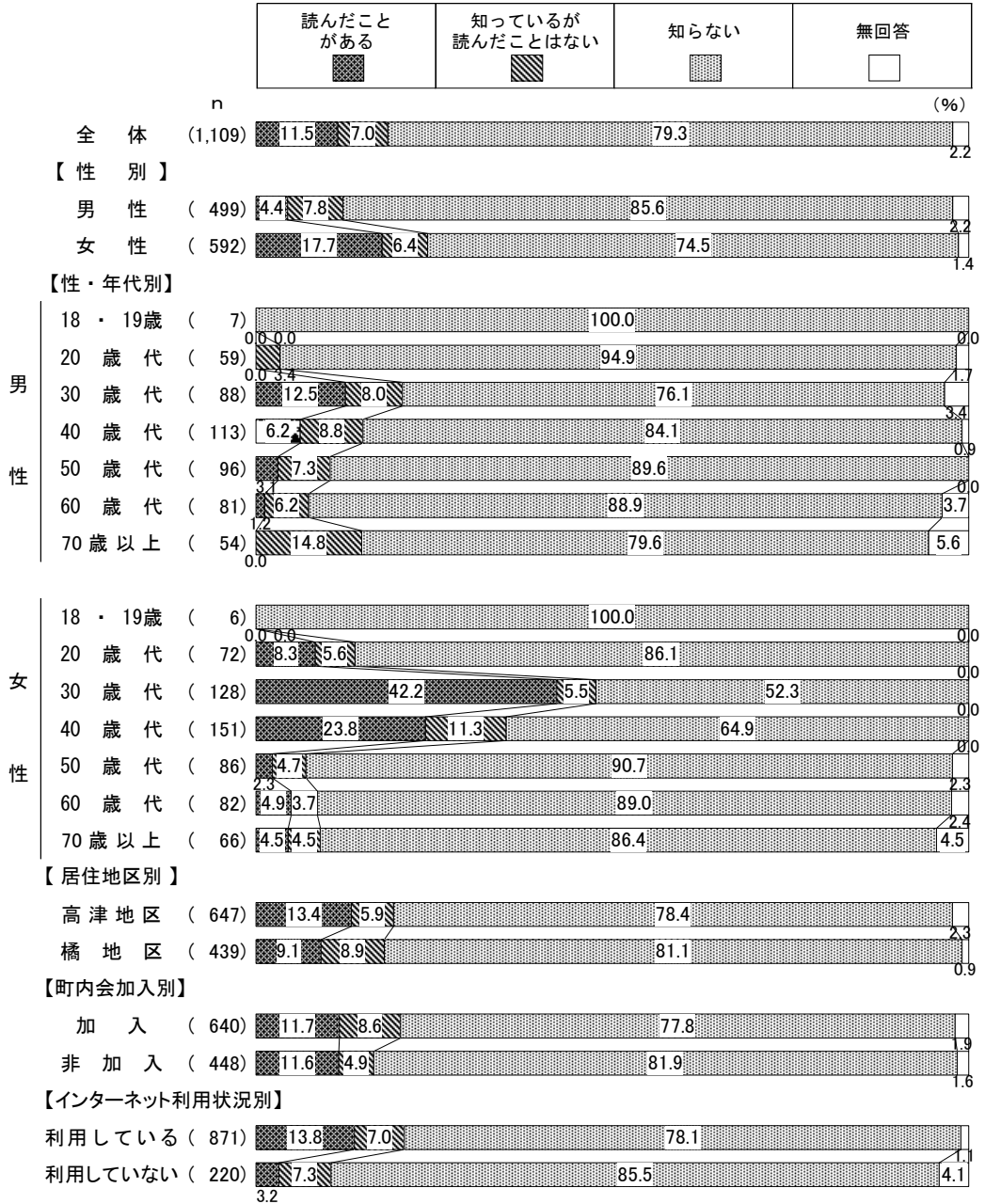


性別にみると、「読んだことがある」は女性が男性より8.8ポイント高くなっている。  
 性・年代別にみると、「読んだことがある」は女性30歳代で2割半ばと高くなっている。  
 居住地区別にみると、「読んだことがある」は高津地区が橘地区より3.7ポイント高くなっている。  
 町内会加入別にみると、大きな違いはみられない。  
 インターネット利用状況別にみると、「読んだことがある」は“利用している”が“利用していない”より6.8ポイント高くなっている。(図2-25)

図2-26 各事業の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問39 子育て情報発信事業(ホッとこそだて・たかつ(情報ガイドブック))】

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に区民協働で立ち上げた「ホッとこそだて・たかつ」という情報ガイドブックを区民と協働で作成し、情報発信を行っている。



性別にみると、「読んだことがある」は女性が男性より13.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「読んだことがある」は女性30歳代で4割を超え、女性40歳代で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「読んだことがある」は高津地区が橘地区より4.3ポイント高くなっている。

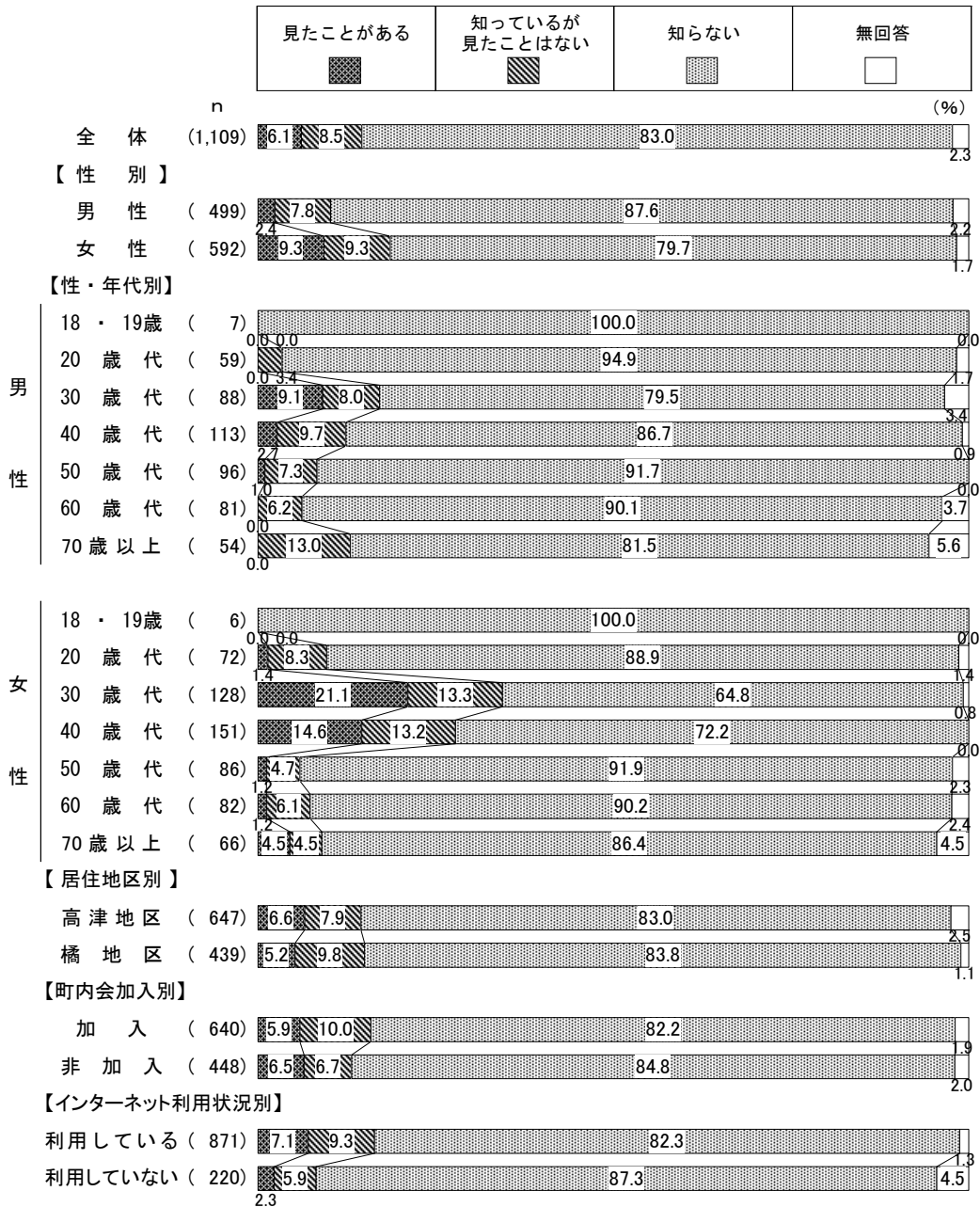
町内会加入別にみると、「知っているが読んだことはない」は“加入”が“非加入”より3.7ポイント高くなっている。

インターネット利用状況別にみると、「読んだことがある」は“利用している”が“利用していない”より10.6ポイント高くなっている。(図2-26)

図2-27 各事業の閲覧状況(性別、性・年代別、居住地区別、町内会加入別、インターネット利用状況別)

【問40 子育て情報発信事業(ホッとこそだて・たかつ(ホームページ))】

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に、ホームページ「ホッとこそだて・たかつ」にタイムリーな情報を掲載し、情報提供を行っている。



性別にみると、「見たことがある」は女性が男性より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「見たことがある」は女性30歳代で2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、大きな違いはみられない。

町内会加入別にみると、「知っているが見たことはない」は“加入”が“非加入”より3.3ポイント高くなっている。

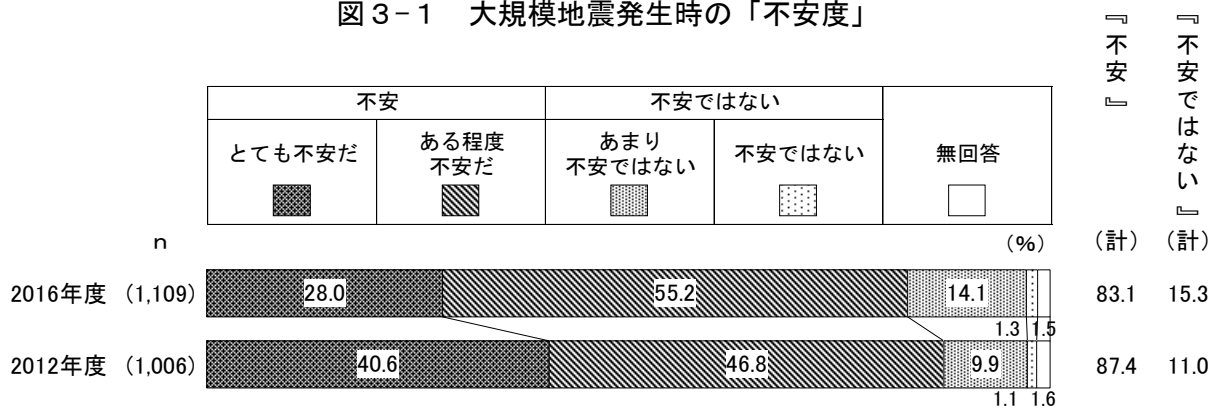
インターネット利用状況別にみると、「見たことがある」は“利用している”が“利用していない”より4.8ポイント高くなっている。(図2-27)

### 3. 地域防災について

#### (1) 大規模地震発生時の「不安度」

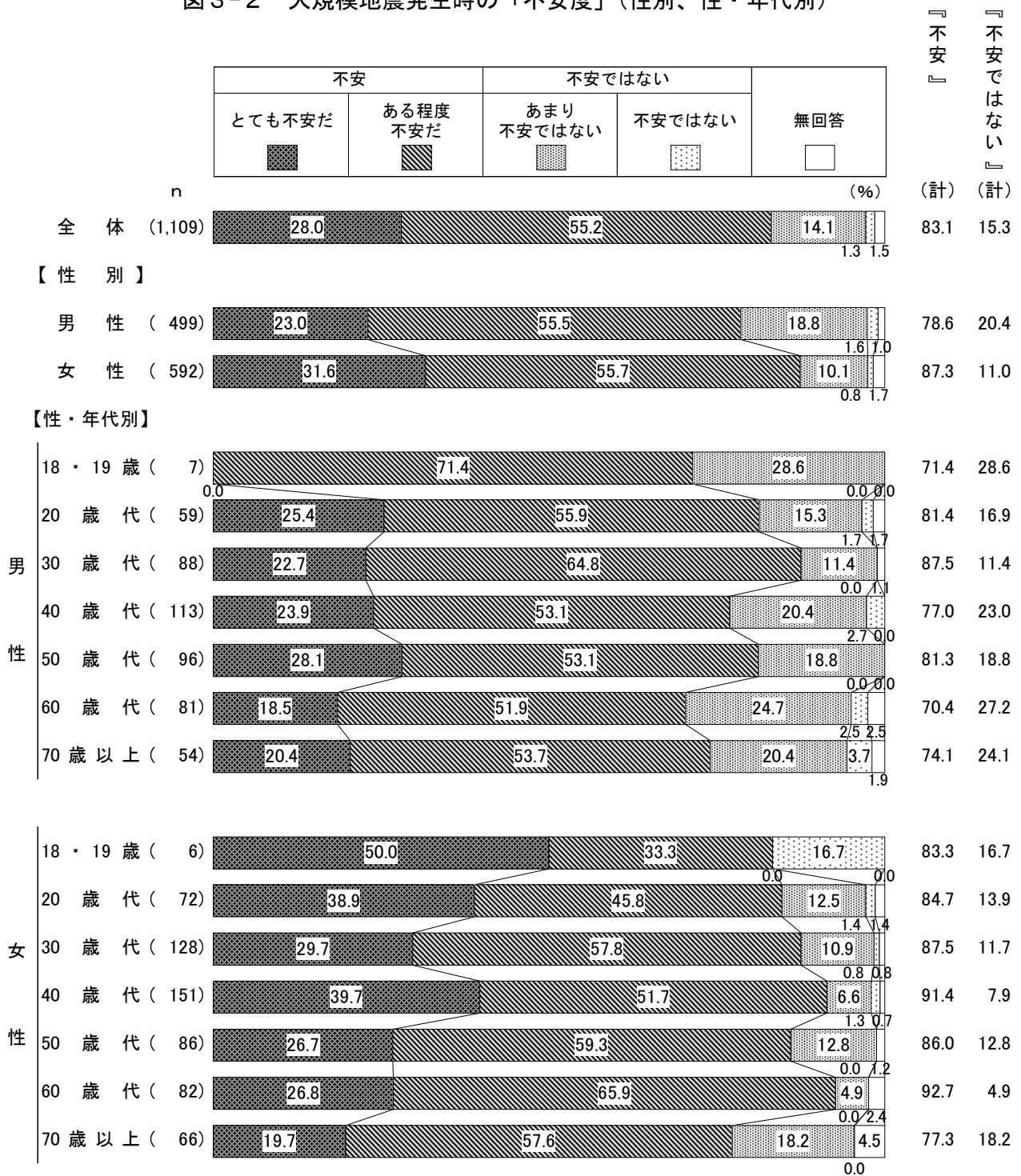
問 44 現在お住まいの地域での大規模地震の発生について、あなたはどの程度不安ですか。  
(1つだけ○)

図 3-1 大規模地震発生時の「不安度」



大規模地震発生時の「不安度」を聞いたところ、「とても不安だ」(28.0%)と「ある程度不安だ」(55.2%)を合わせた『不安』(83.1%)は8割を超えている。一方、「あまり不安ではない」(14.1%)と「不安ではない」(1.3%)を合わせた『不安ではない』(15.3%)は1割半ばとなっている。2012年度と比較すると、『不安』は4.3ポイント減少している。(図3-1)

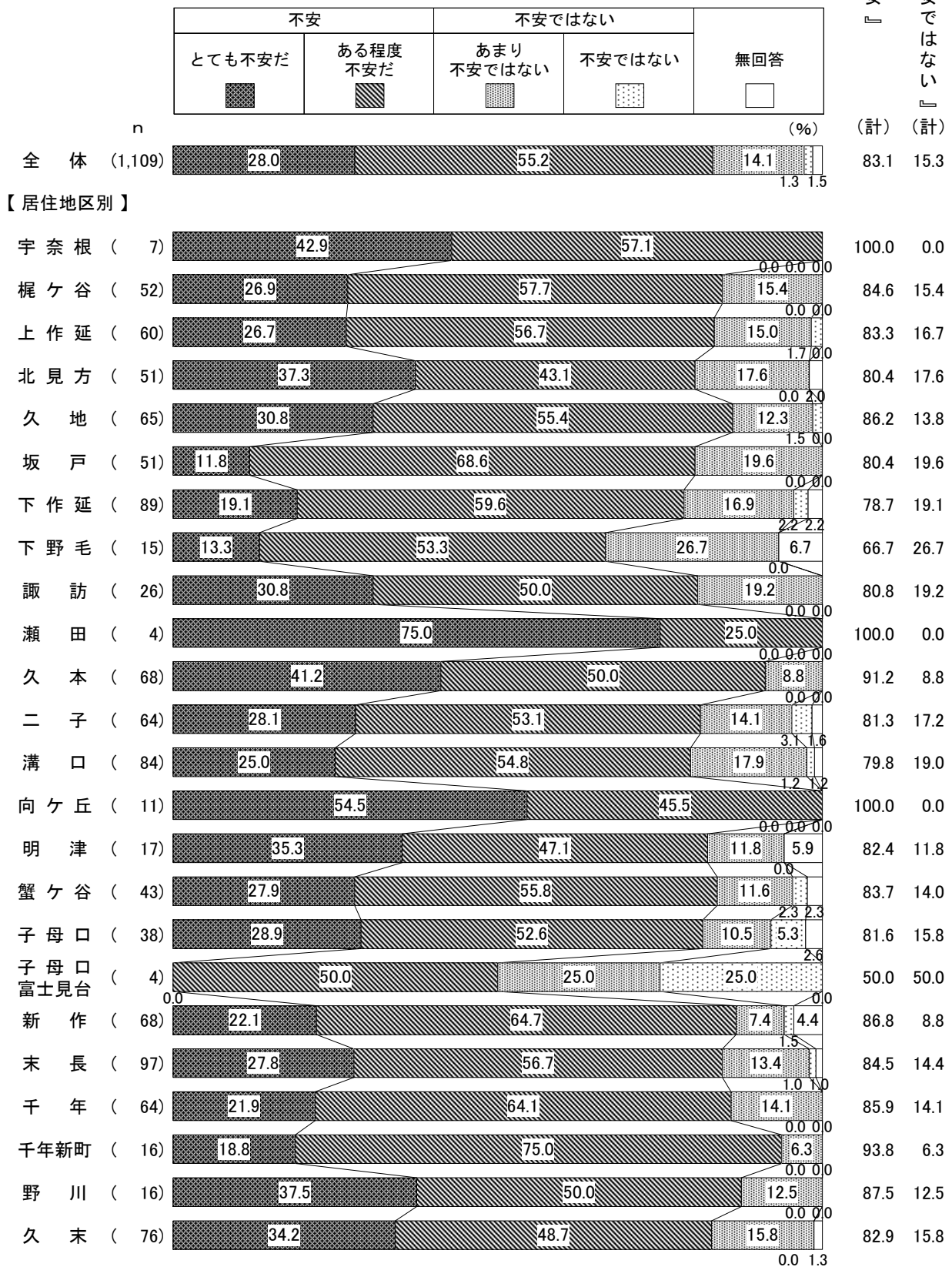
図3-2 大規模地震発生時の「不安度」(性別、性・年代別)



性別にみると、『不安』は女性が男性より 8.7 ポイント高くなっている。

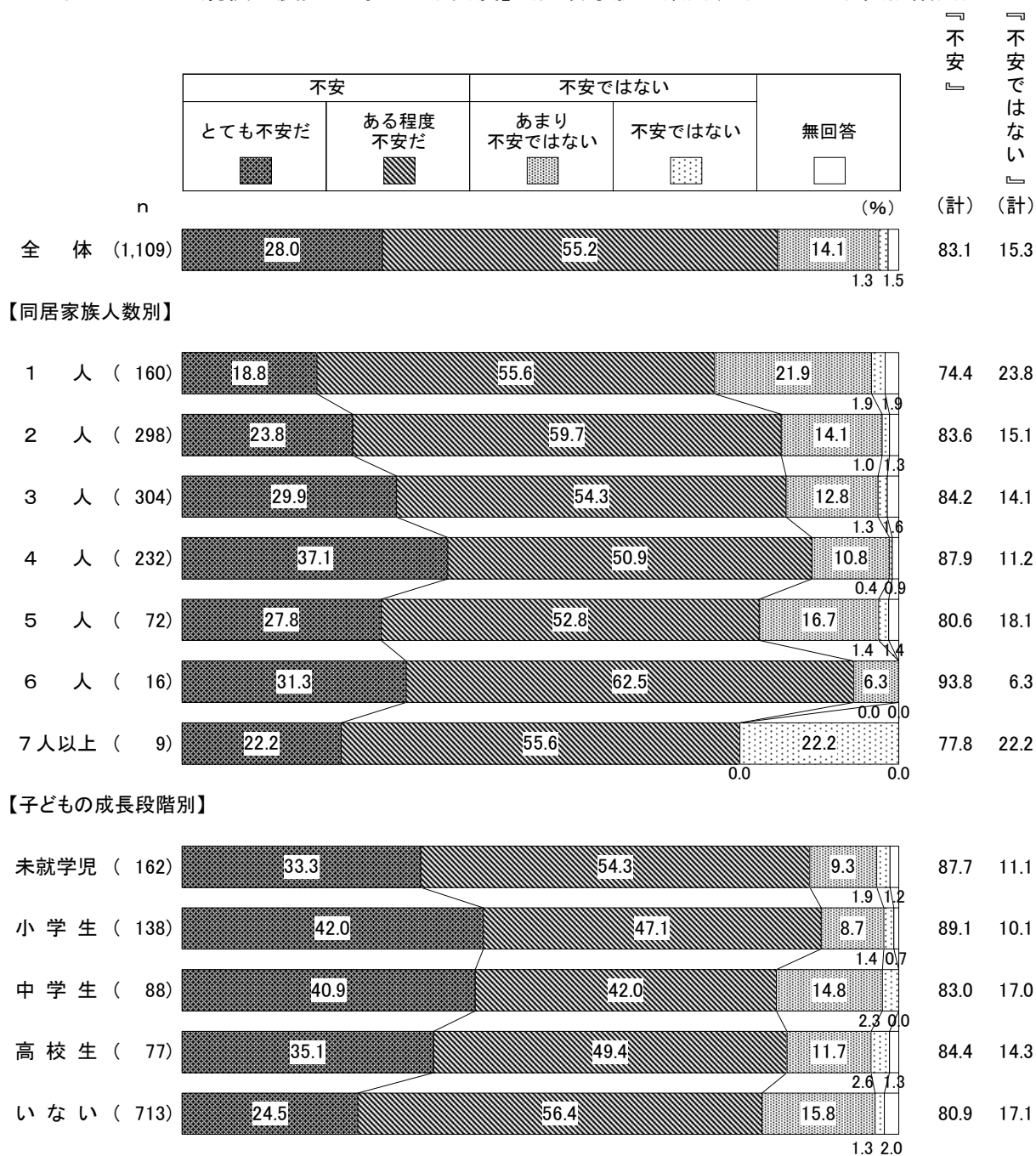
性・年代別にみると、『不安』は女性の 40 歳代と 60 歳代で 9 割を超えて高くなっている。一方、『不安ではない』は男性 60 歳代で 2 割半ばを超えて高くなっている。(図 3-2)

図3-3 大規模地震発生時の「不安度」(居住地区別)



居住地区別にみると、『不安』は向ヶ丘、千年新町、久本などで9割以上と高くなっている。一方、『不安ではない』は下野毛で2割半ばを超えて高くなっている。(図3-3)

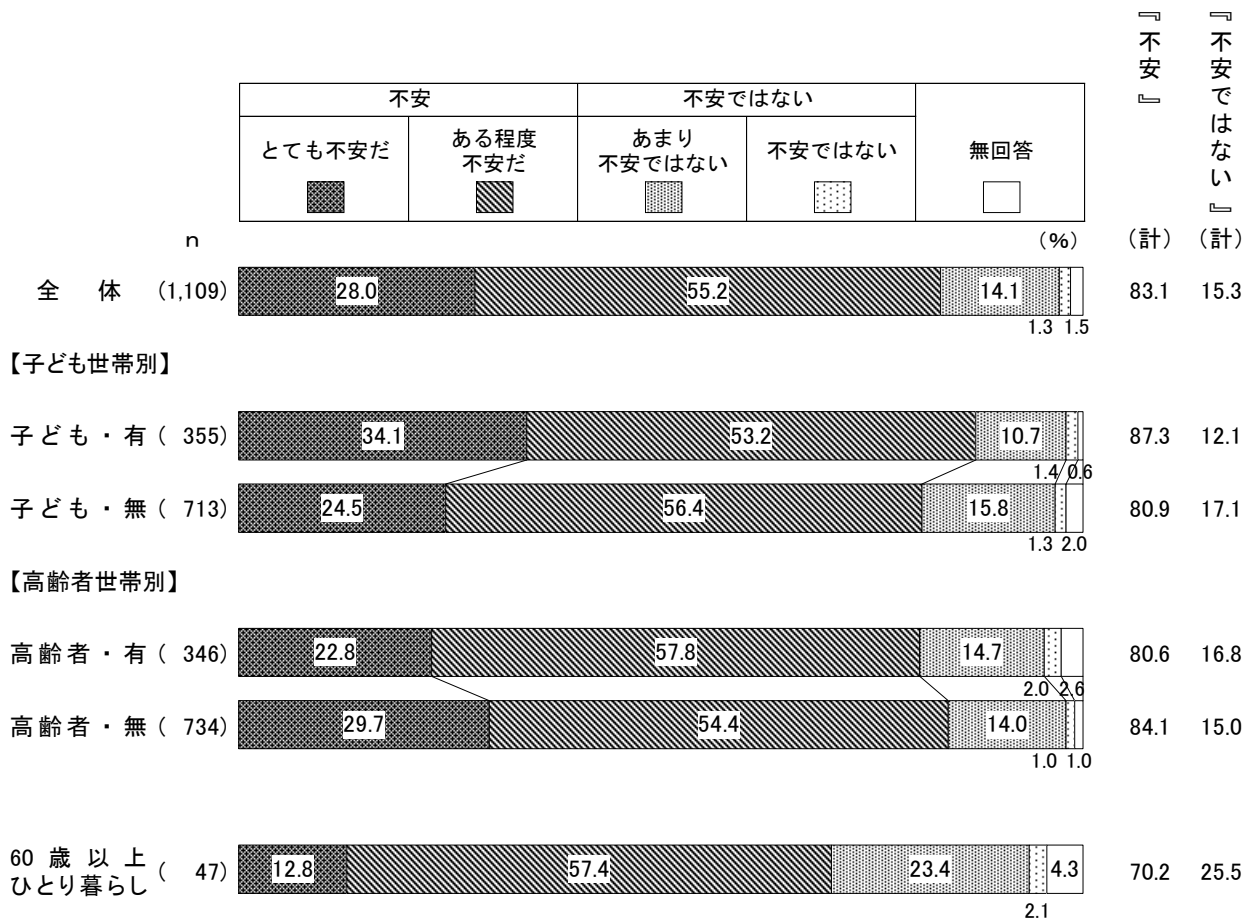
図3-4 大規模地震発生時の「不安度」(同居家族人数別、子どもの成長段階別)



同居家族人数別にみると、『不安』は“6人”で9割を超えて高くなっている。一方、『不安ではない』は“1人”で2割を超えて高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、『不安』は“小学生”で約9割と高くなっている。(図3-4)

図3-5 大規模地震発生時の「不安度」(子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし)



子ども世帯別にみると、『不安』は“子ども・有”が“子ども・無”より6.4ポイント高くなっている。

高齢者世帯別にみると、『不安』は“高齢者・無”が“高齢者・有”より3.5ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『不安』(70.2%)が7割となっている。(図3-5)

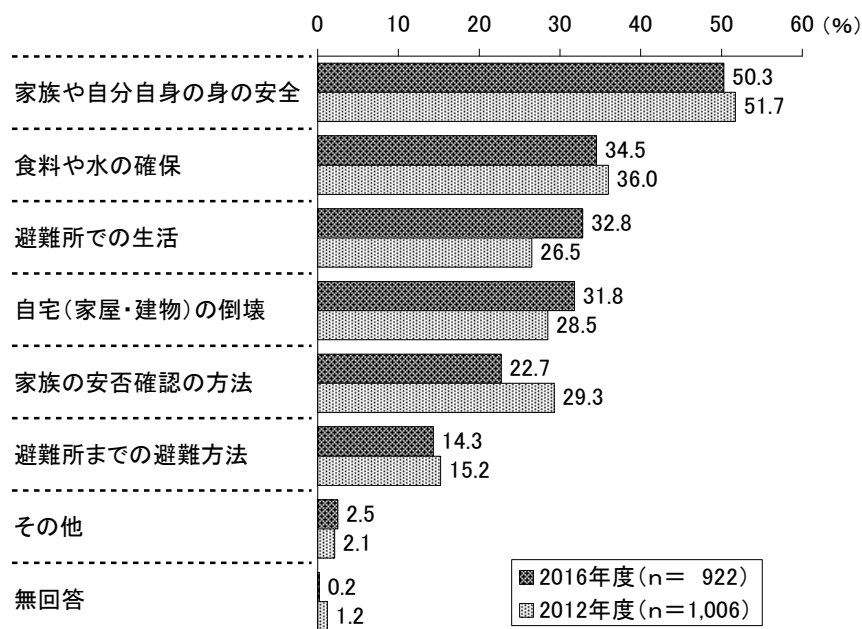


## (2) 大規模地震発生時の「不安内容」

(問 44 で、「とても不安だ」「ある程度不安だ」と回答した方に伺います)

問 44-1 特に不安なことは何ですか。(2つまで○)

図 3-6 大規模地震発生時の「不安内容」

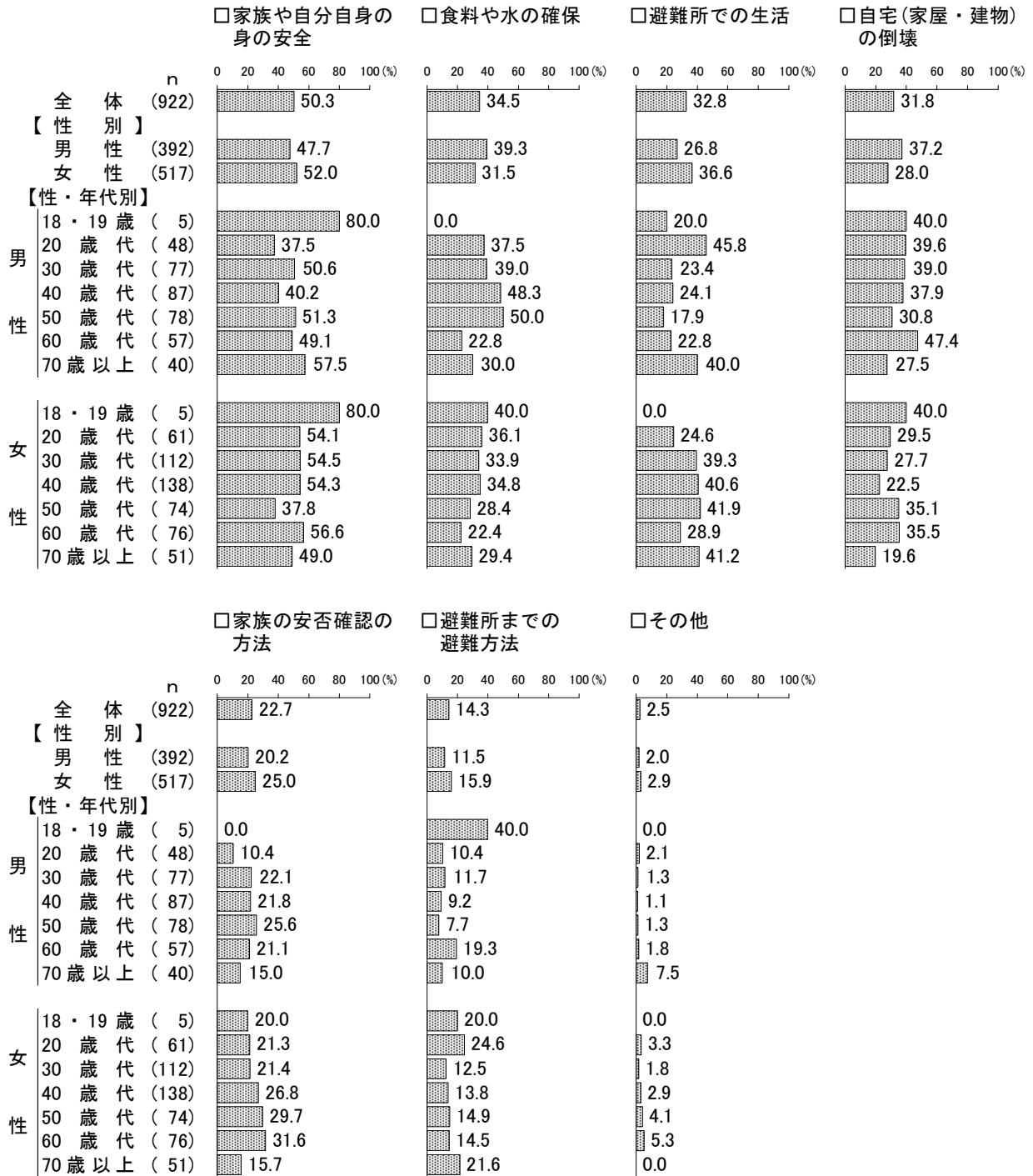


※2012年度は全員を対象としていた

大規模地震発生時の「不安内容」を聞いたところ、「家族や自分自身の身の安全」(50.3%)が5割で最も高く、次いで「食料や水の確保」(34.5%)、「避難所での生活」(32.8%)、「自宅(家屋・建物)の倒壊」(31.8%)となっている。

2012年度と比較すると、回答対象が異なるため単純に比較することはできないが、「避難所での生活」は6.3ポイント増加している。一方、「家族の安否確認の方法」は6.6ポイント減少している。(図3-6)

図3-7 大規模地震発生時の「不安内容」(性別、性・年代別)

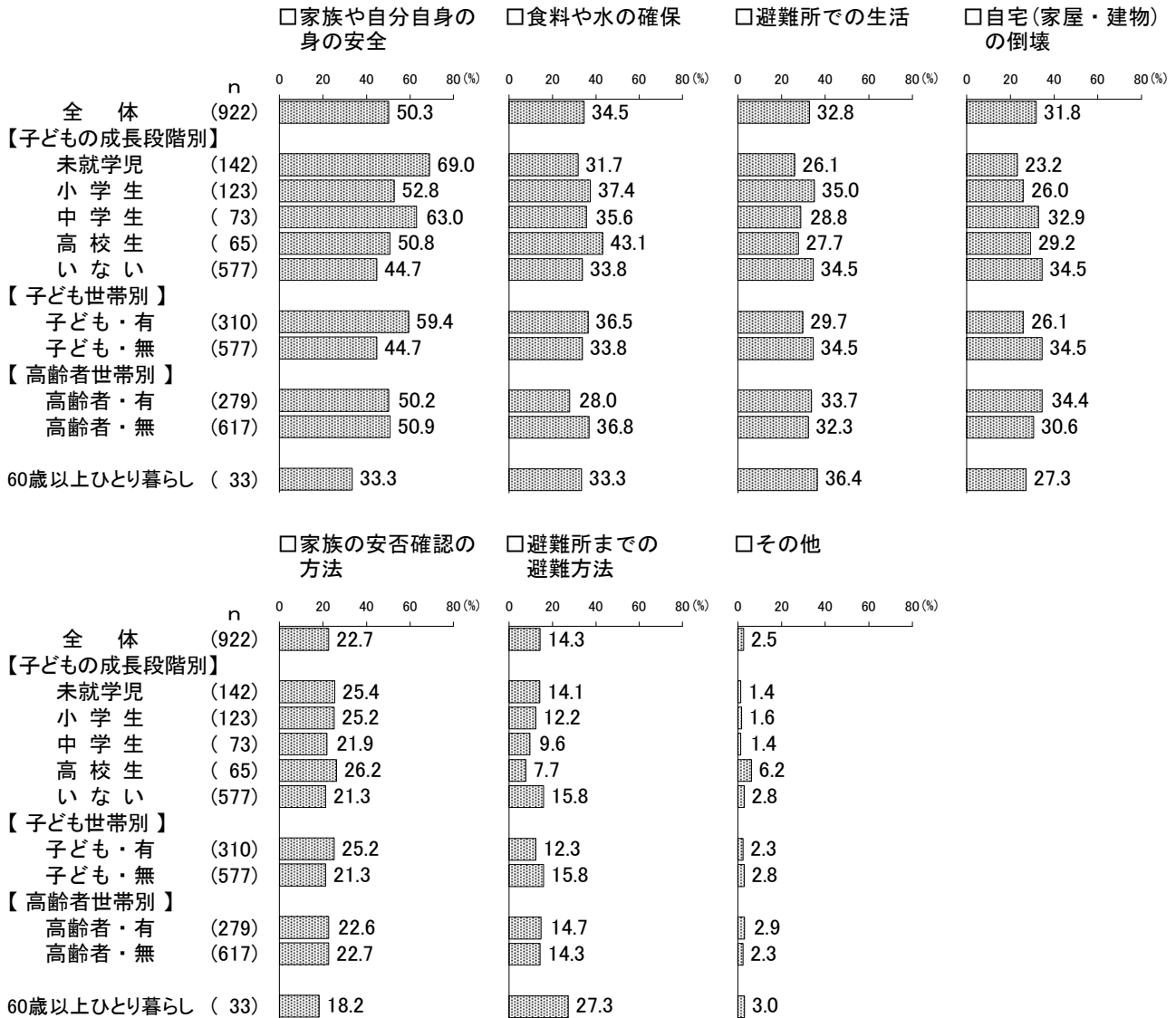


性別にみると、「避難所での生活」は女性が男性より9.8ポイント高くなっている。一方、「自宅(家屋・建物)の倒壊」は男性が女性より9.2ポイント、「食料や水の確保」は男性が女性より7.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「食料や水の確保」は男性の40歳代と50歳代で5割前後と高くなっている。「自宅(家屋・建物)の倒壊」は男性60歳代で5割近くと高くなっている。(図3-7)

図3-8 大規模地震発生時の「不安内容」

(子どもの成長段階別、子ども世帯別、高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし)



子どもの成長段階別にみると、「家族や自分自身の身の安全」は「未就学児」で約7割と高くなっている。「食料や水の確保」は「高校生」で4割を超えて高くなっている。

子ども世帯別にみると、「家族や自分自身の身の安全」は「子ども・有」が「子ども・無」より14.7ポイント高くなっている。一方、「自宅(家屋・建物)の倒壊」は「子ども・無」が「子ども・有」より8.4ポイント高くなっている。

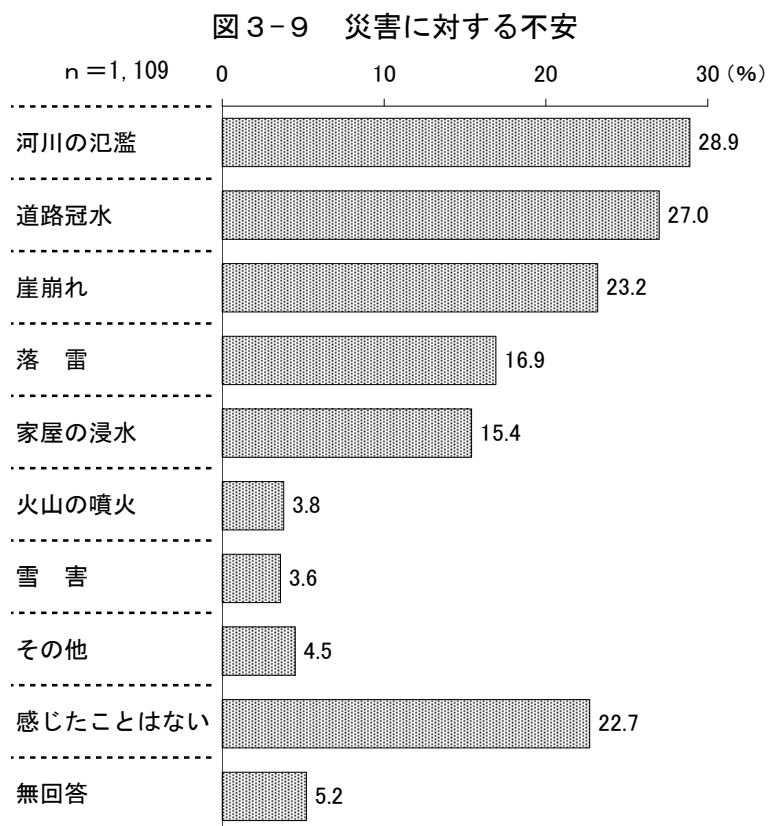
高齢者世帯別にみると、「食料や水の確保」は「高齢者・無」が「高齢者・有」より8.8ポイント高くなっている。一方、「自宅(家屋・建物)の倒壊」は「高齢者・有」が「高齢者・無」より3.8ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「避難所での生活」(36.4%)が3割半ばで最も高く、次いで「家族や自分自身の身の安全」と「食料や水の確保」(ともに33.3%)となっている。(図3-8)

(3) 災害に対する不安 (2016年度新設)

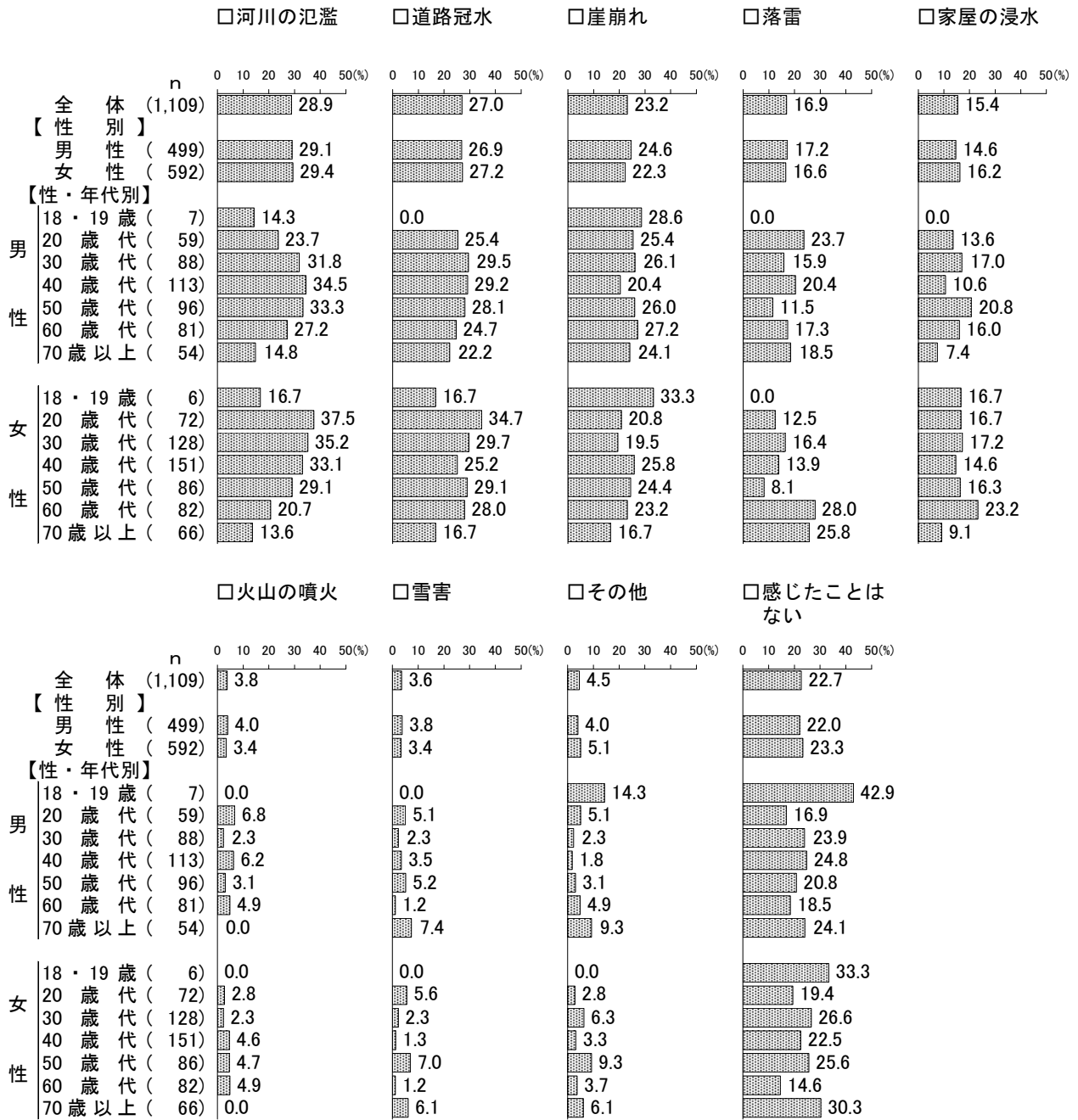
問 45 現在お住まいの地域で、次の災害に対する不安はありますか。

(あてはまるもの全てに○)



災害に対する不安を聞いたところ、「河川の氾濫」(28.9%)が3割近くで最も高く、次いで「道路冠水」(27.0%)、「崖崩れ」(23.2%)、「落雷」(16.9%)となっている。(図3-9)

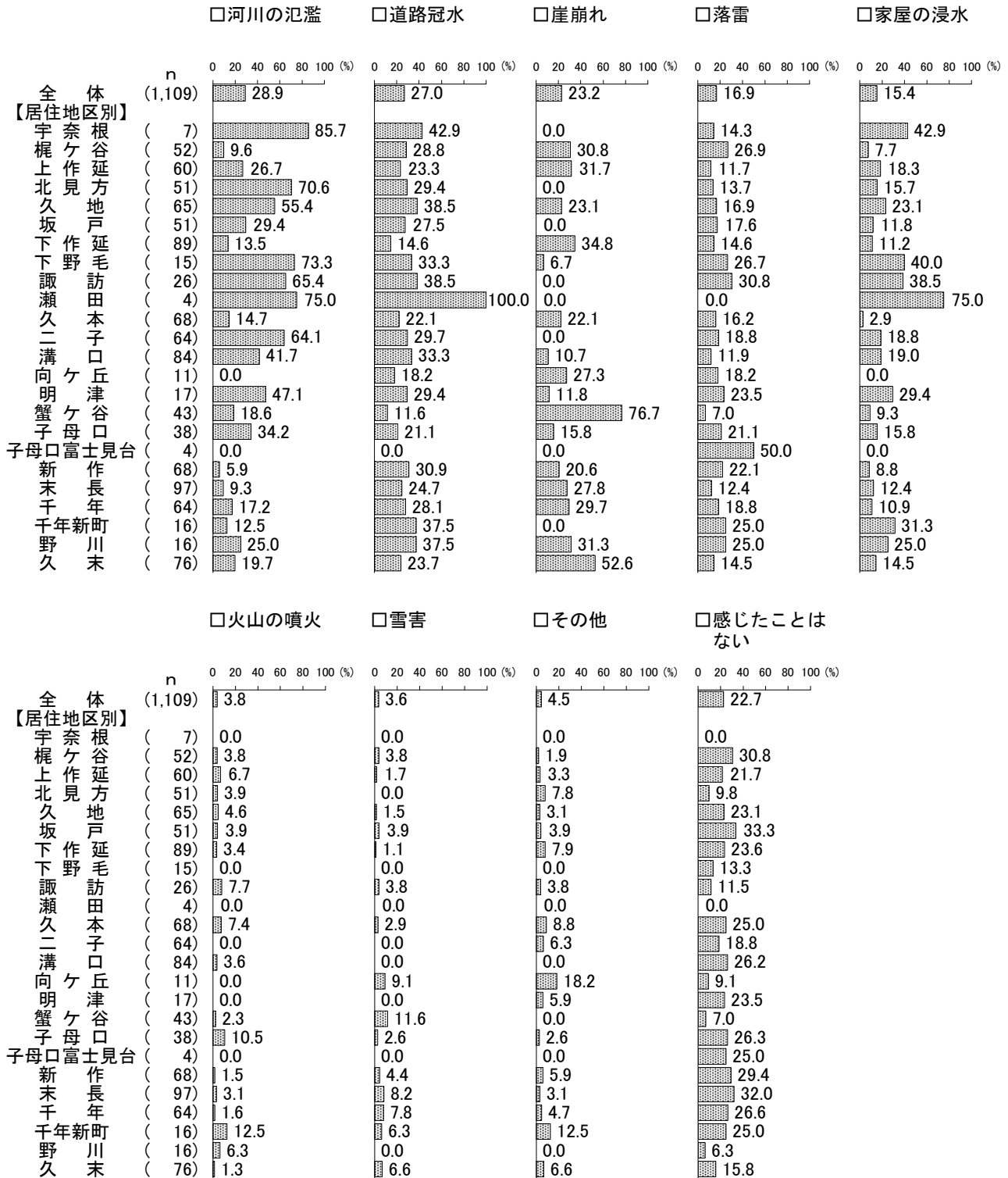
図3-10 災害に対する不安（性別、性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

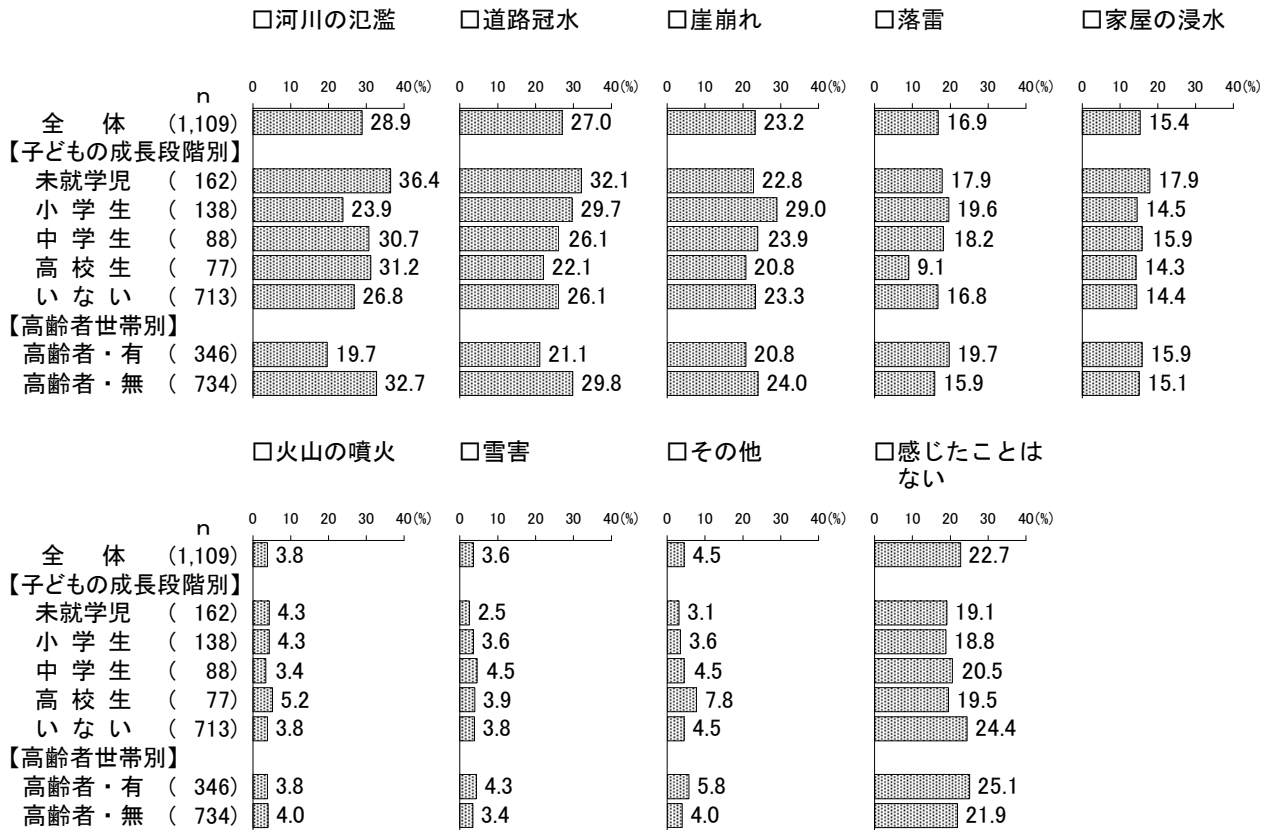
性・年代別にみると、「河川の氾濫」は女性ではおおむね年代が下がるほど割合が高く、女性20歳代で4割近くと高くなっている。「道路冠水」は女性20歳代で3割半ばと高くなっている。「落雷」は女性60歳代で3割近くと高くなっている。(図3-10)

図3-11 災害に対する不安（居住地区別）



居住地区別にみると、「河川の氾濫」は下野毛と北見方などで7割を超えて高くなっている。「崖崩れ」は蟹ヶ谷で7割半ばを超え、久末で5割を超えて高くなっている。「家屋の浸水」は下野毛と諏訪で4割前後と高くなっている。(図3-11)

図3-12 災害に対する不安（子どもの成長段階別、高齢者世帯別）



子どもの成長段階別にみると、「河川の氾濫」は“未就学児”で3割半ばと高く、「道路冠水」でも“未就学児”で3割を超えて高くなっている。

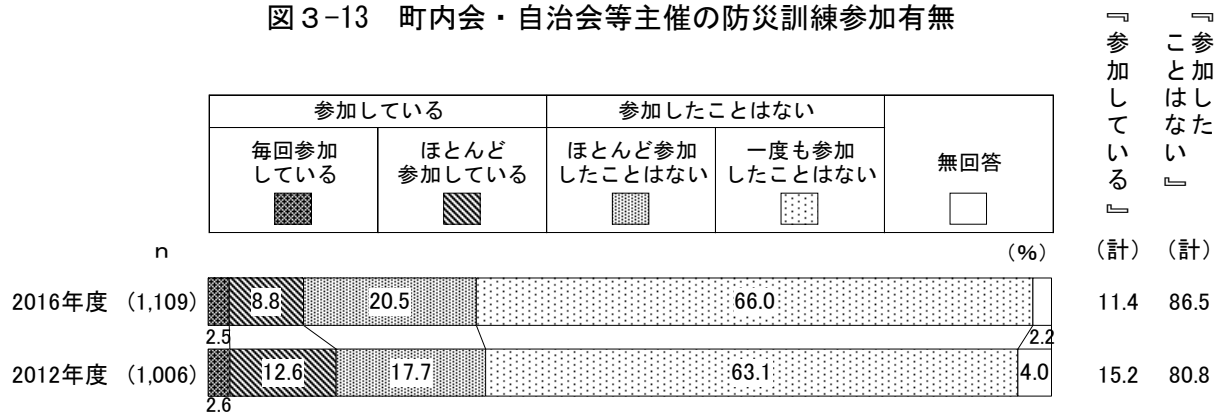
高齢者世帯別にみると、「河川の氾濫」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より13.0ポイント、「道路冠水」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より8.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「落雷」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より3.8ポイント高くなっている。(図3-12)

(4) 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無

問 46 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。

(1つだけ○)

図 3-13 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無



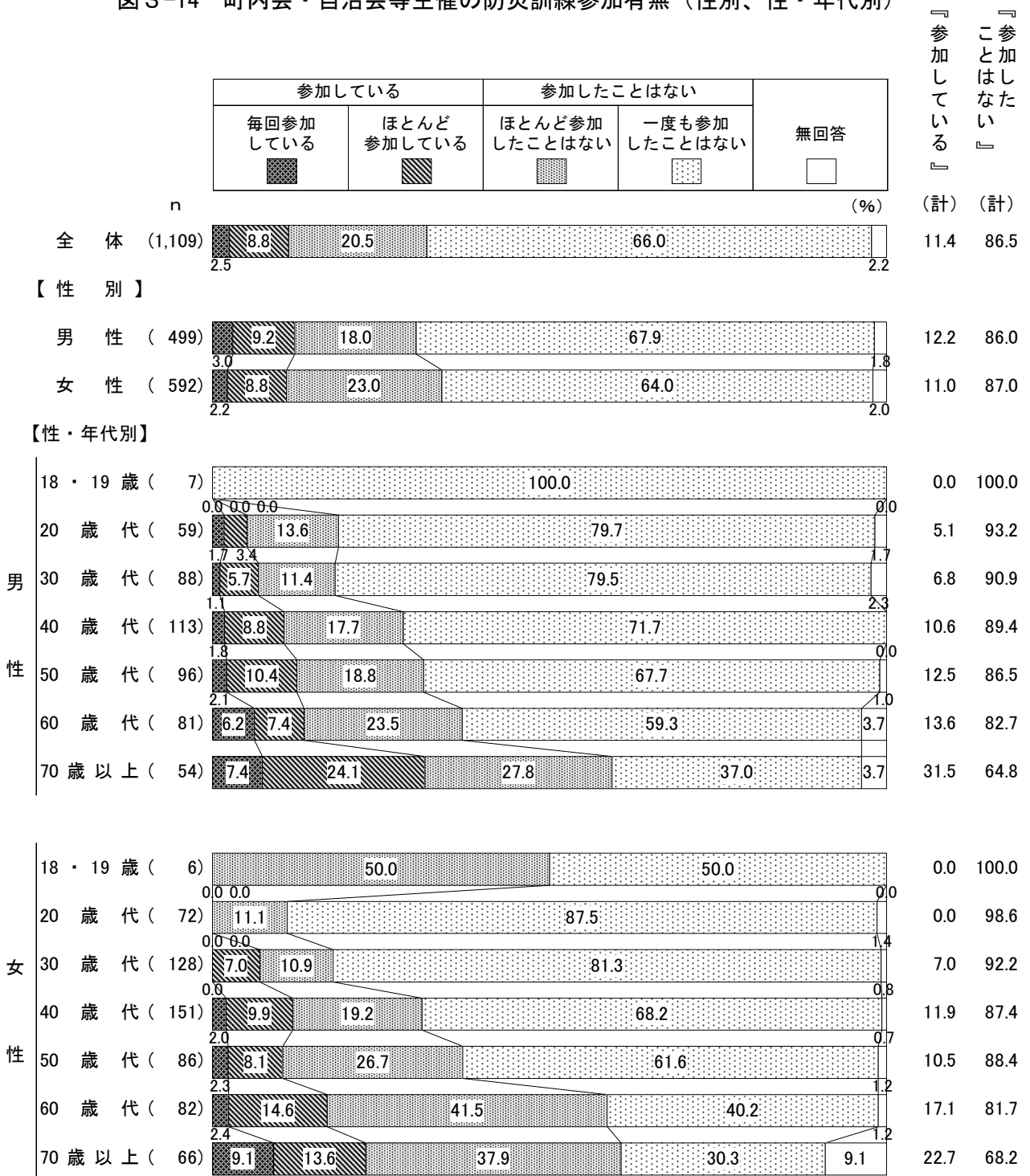
※「ほとんど参加している」は、2012年度では「できるだけ参加している」としていた。

町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しているか聞いたところ、「毎回参加している」(2.5%)と「ほとんど参加している」(8.8%)を合わせた『参加している』(11.4%)は1割を超えている。一方、「ほとんど参加したことはない」(20.5%)と「一度も参加したことはない」(66.0%)を合わせた『参加したことはない』(86.5%)は8割半ばを超えている。

2012年度と比較すると、『参加している』は3.8ポイント減少している。一方、『参加したことはない』は5.7ポイント増加している。(図3-13)



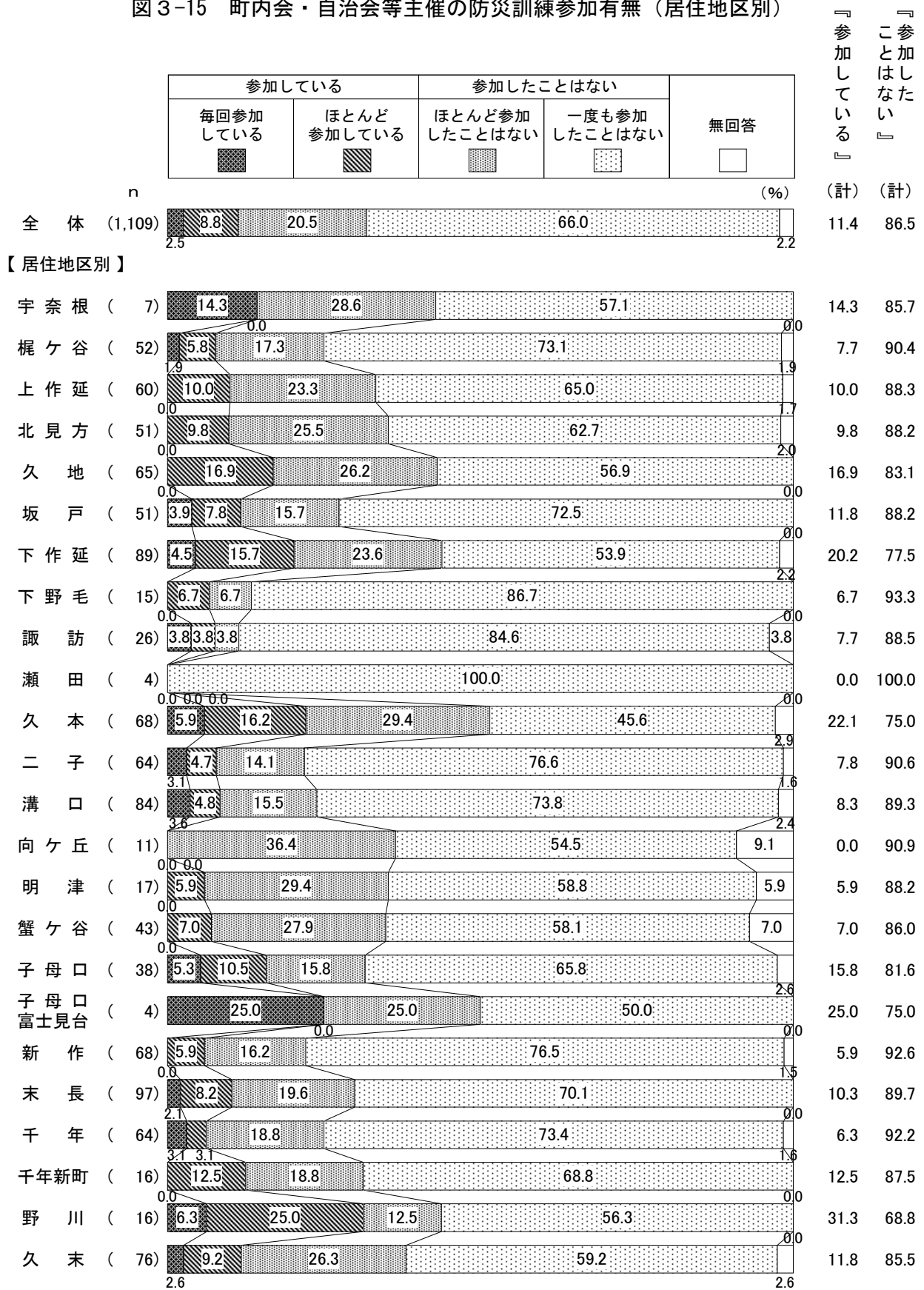
図3-14 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（性別、性・年代別）



性別にみると、「一度も参加したことはない」は男性が女性より3.9ポイント高くなっている。

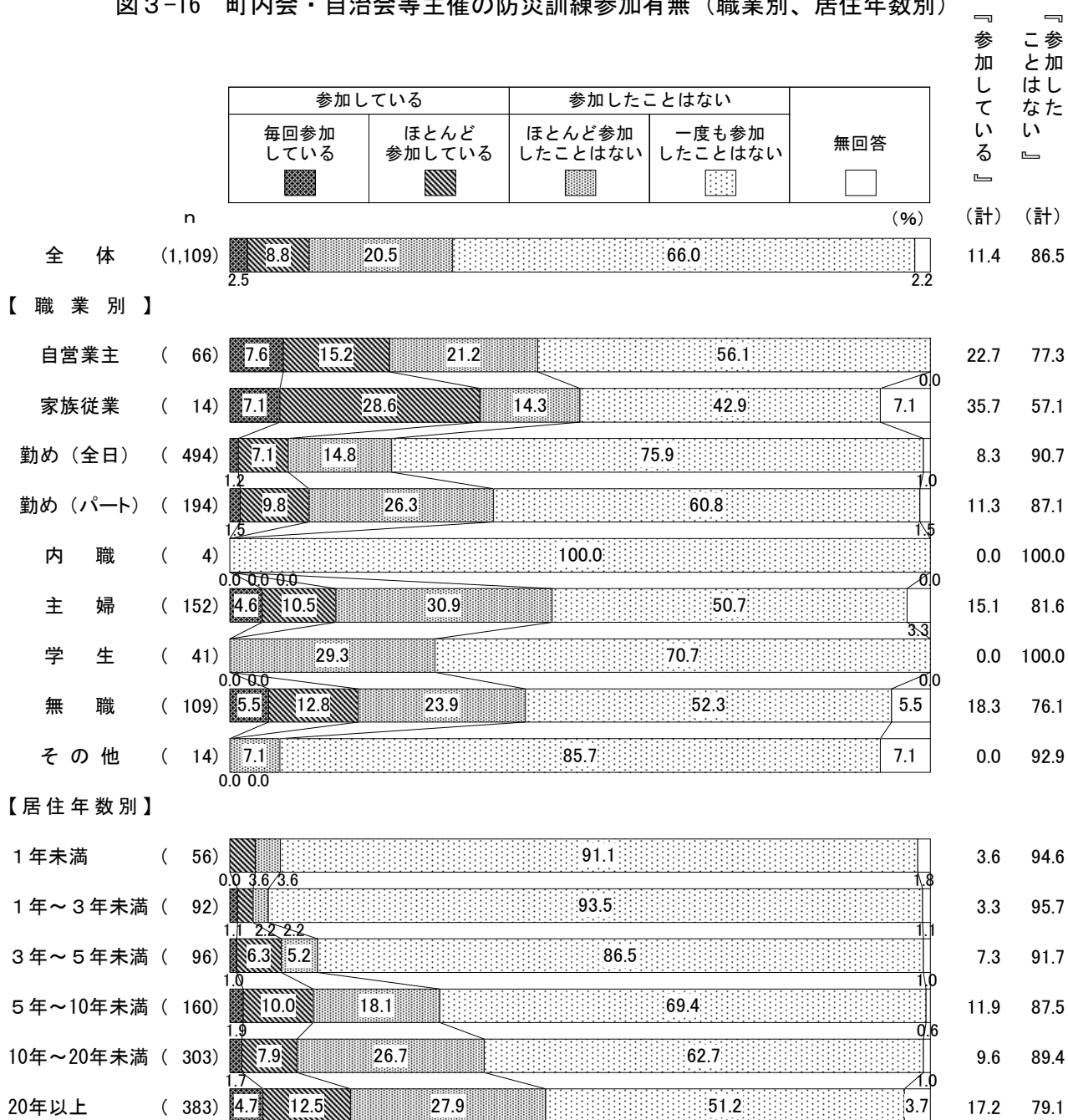
性・年代別にみると、『参加している』は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高く、男性70歳以上で3割を超え、女性70歳以上で2割を超えて高くなっている。一方、『参加したことはない』は男女ともに30歳代以下の年代で9割以上と高くなっている。(図3-14)

図3-15 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（居住地区別）



居住地区別にみると、『参加している』は野川で3割を超え、久本と下作延で2割台と高くなっている。一方、『参加したことはない』は下野毛、新作、千年、向ヶ丘、二子、梶ヶ谷で9割台と高くなっている。(図3-15)

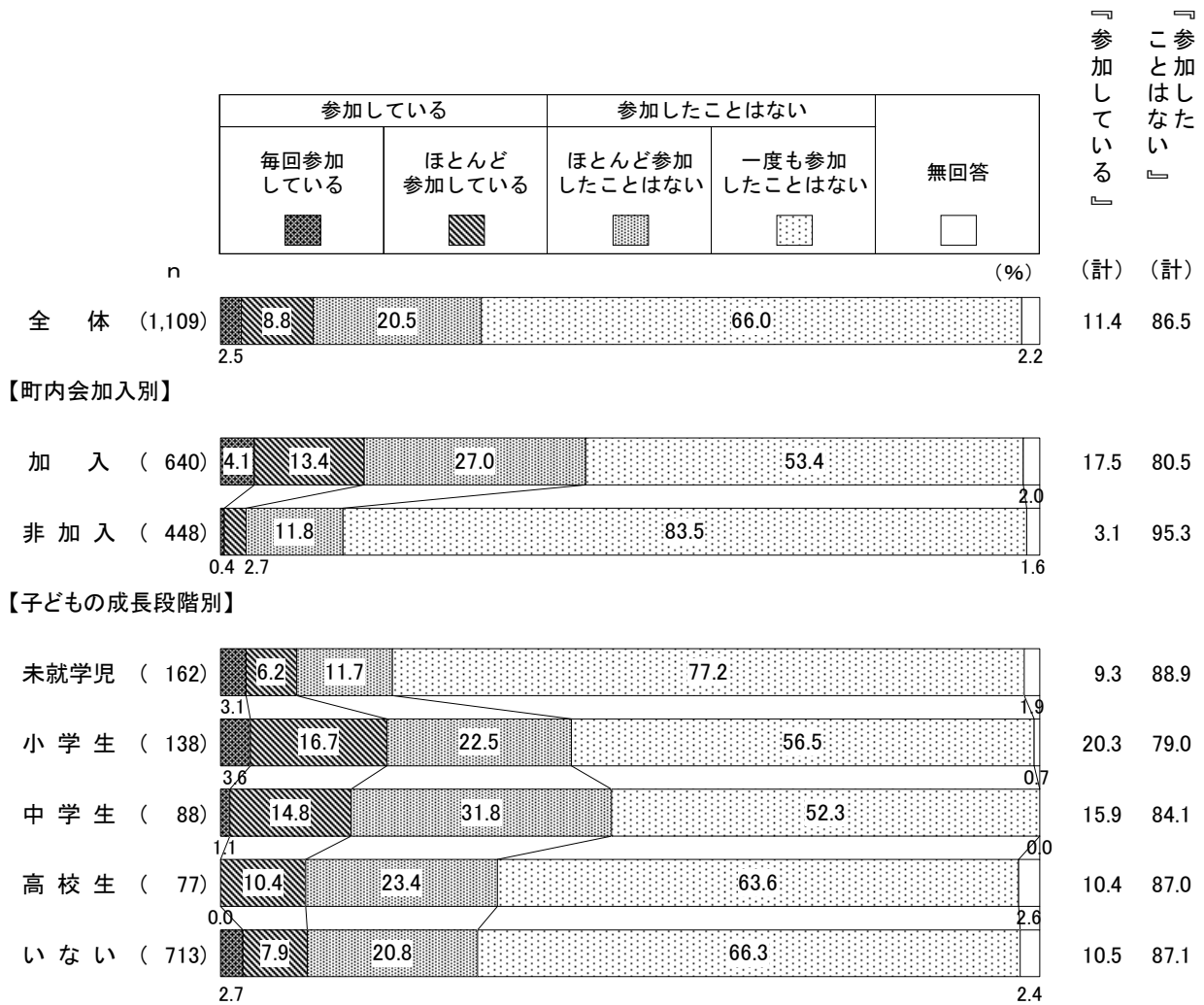
図3-16 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（職業別、居住年数別）



職業別にみると、『参加している』は家族従業で3割半ば、自営業主で2割を超えて高くなっている。一方、『参加したことはない』は学生と勤め(全日)などで9割以上と高くなっている。

居住年数別にみると、『参加している』は20年以上で2割近くとなっている。一方、『参加したことはない』は3年未満の居住年数で9割半ばと高くなっている。(図3-16)

図 3-17 町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無（町内会加入別、子どもの成長段階別）



町内会加入別にみると、『参加している』は“加入”が“非加入”より 14.4 ポイント高くなっている。

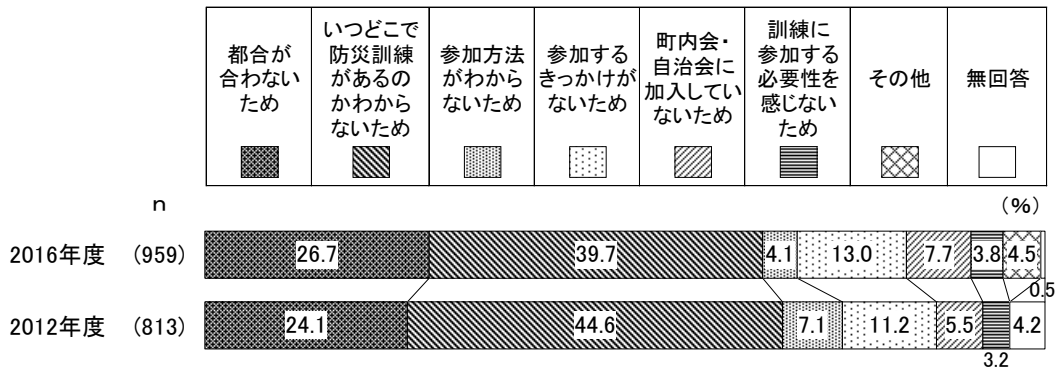
子どもの成長段階別にみると、『参加している』は“小学生”で 2 割、“中学生”で 1 割半ばとなっている。一方、「一度も参加したことはない」は“未就学児”で 8 割近くと高くなっている。

(図 3-17)

(5) 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由

(問 46 で、「ほとんど参加したことはない」「一度も参加したことはない」と回答した方に)  
 問 46-1 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。(1つだけ○)

図 3-18 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由

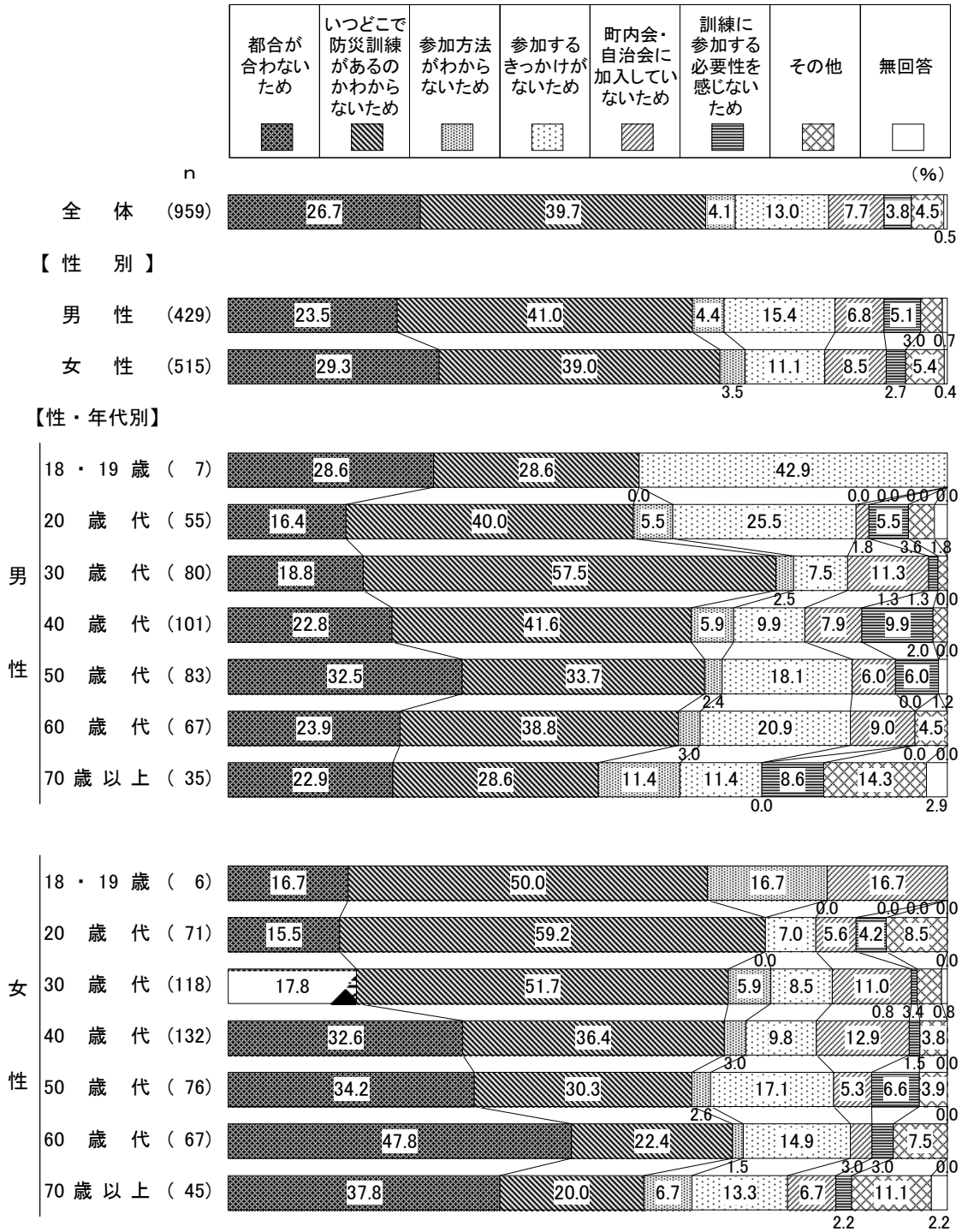


※「その他」は2016年度に追加された選択肢

町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由を聞いたところ、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」(39.7%)が約4割で最も高く、次いで「都合が合わないため」(26.7%)、「参加するきっかけがないため」(13.0%)、「町内会・自治会に加入していないため」(7.7%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は4.9ポイント減少している。(図3-18)

図3-19 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（性別、性・年代別）

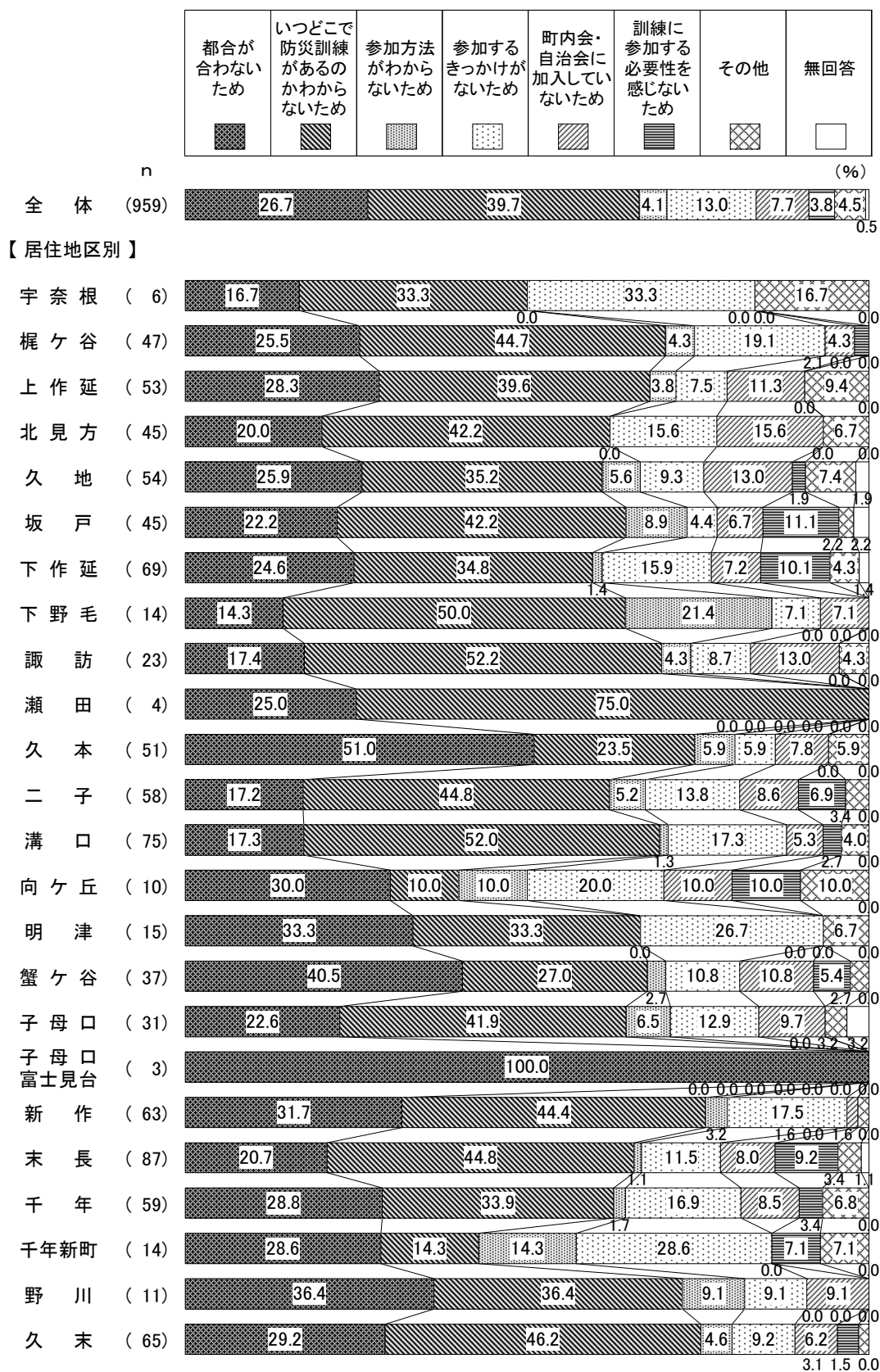


性別にみると、「都合が合わないため」は女性が男性より 5.8 ポイント高くなっている。一方、「参加するきっかけがないため」は男性が女性より 4.3 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は女性 20 歳代と男性 30 歳代で約 6 割と高くなっている。「都合が合わないため」は女性 60 歳代で 5 割近くと高くなっている。「参加するきっかけがないため」は男性の 20 歳代と 60 歳代で 2 割台と高くなっている。

(図3-19)

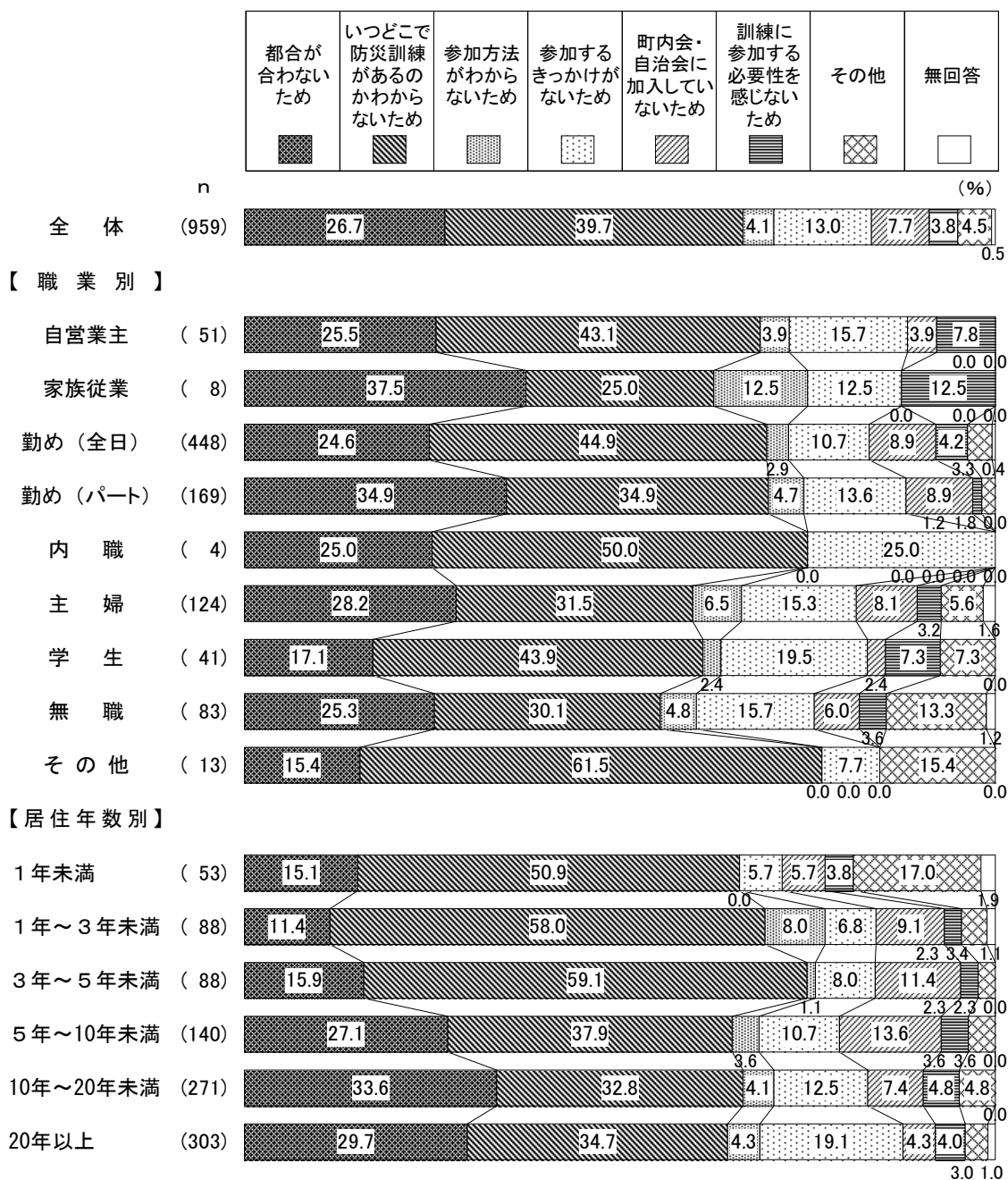
図3-20 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（居住地区別）



居住地区別にみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は諏訪、溝口、下野毛で5割台と高くなっている。「都合が合わないため」は久本で5割を超え、蟹ヶ谷で約4割と高くなっている。「参加するきっかけがないため」は千年新町と明津で3割近くと高くなっている。

(図3-20)

図 3-21 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由（職業別、居住年数別）

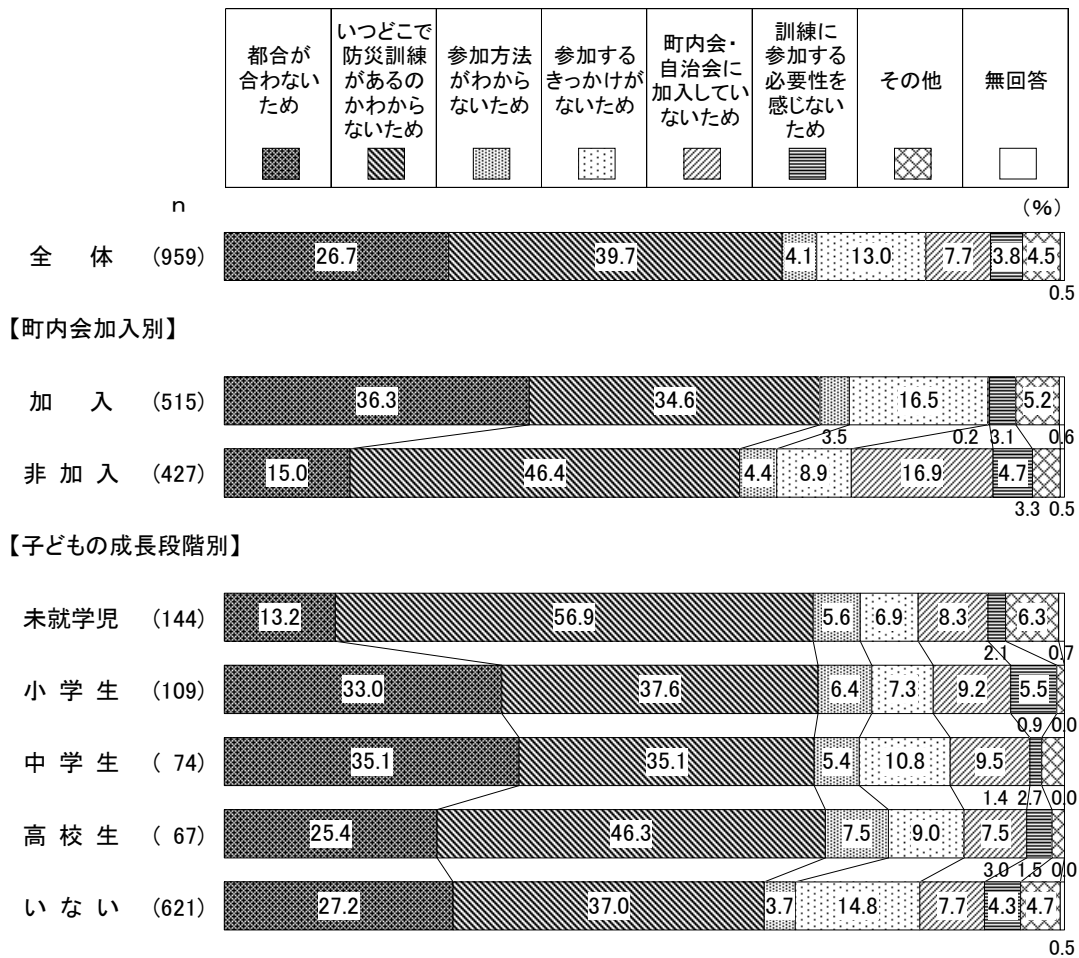


職業別にみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は自営業主、勤め（全日）、学生で約4割半ばと高くなっている。「都合が合わないため」は勤め（パート）で3割半ばと高くなっている。

居住年数別にみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は5年未満の全てで5割を超えており、3年～5年未満で約6割と高くなっている。「都合が合わないため」は10年～20年未満で3割を超えて高くなっている。「参加するきっかけがないため」は居住年数が長くなるほど割合が高く、20年以上で約2割となっている。（図3-21）



図 3-22 町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由  
(町内会加入別、子どもの成長段階別)



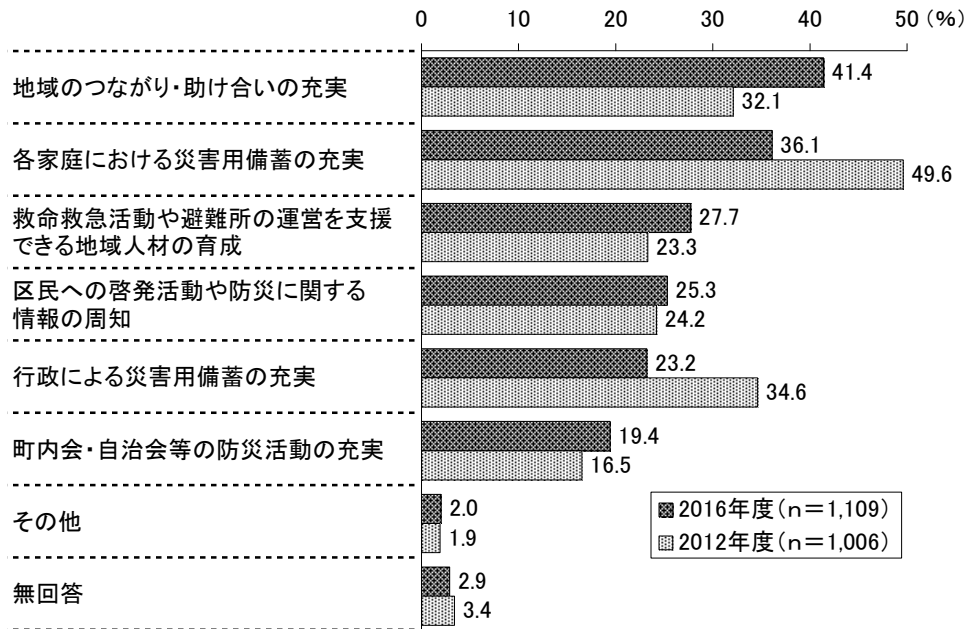
町内会加入別にみると、「都合が合わないため」は“加入”が“非加入”より 21.3 ポイント、「参加するきっかけがないため」は“加入”が“非加入”より 7.6 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「町内会・自治会に加入していないため」は“非加入”が“加入”より 16.7 ポイント、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は“非加入”が“加入”より 11.8 ポイント、それぞれ高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」は“未就学児”で 5 割半ばを超えて高くなっている。「都合が合わないため」は“小学生”と“中学生”で 3 割台と高くなっている。(図 3-22)

(6) 防災力を高めるために必要なこと

問 47 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。(2つまで○)

図 3-23 防災力を高めるために必要なこと



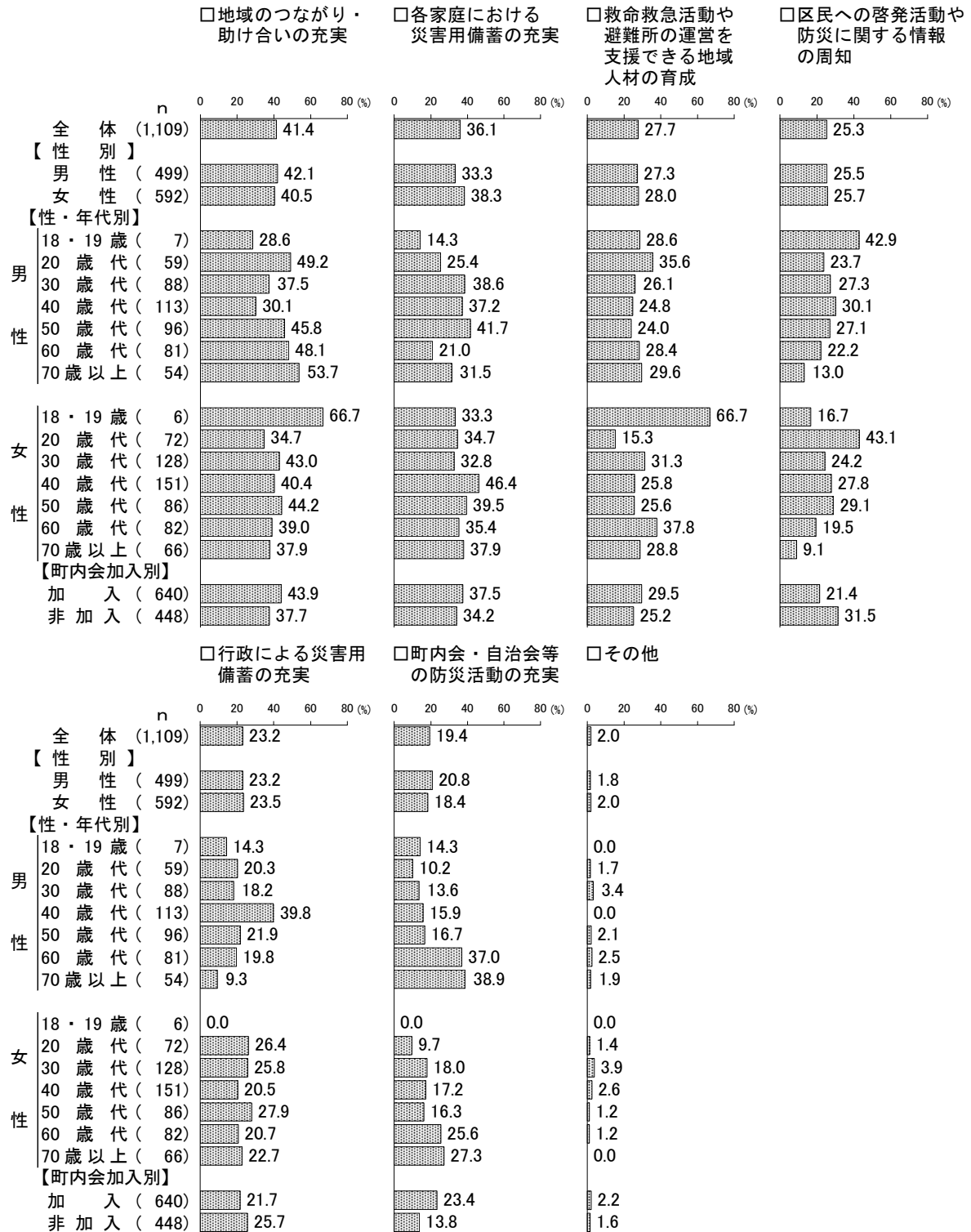
※「地域のつながり・助け合いの充実」は、2012年度では「地域コミュニティの活性化による、地域のつながり・助け合いの充実」としていた

防災力を高めるために必要なことを聞いたところ、「地域のつながり・助け合いの充実」(41.4%)が4割を超えて最も高く、次いで「各家庭における災害用備蓄の充実」(36.1%)、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」(27.7%)、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」(25.3%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域のつながり・助け合いの充実」は9.3ポイント増加している。一方、「各家庭における災害用備蓄の充実」は13.5ポイント、「行政による災害用備蓄の充実」は11.4ポイント、それぞれ減少している。

(図 3-23)

図3-24 防災力を高めるために必要なこと（性別、性・年代別、町内会加入別）



性別にみると、「各家庭における災害用備蓄の充実」は女性が男性より 5.0 ポイント高くなっている。

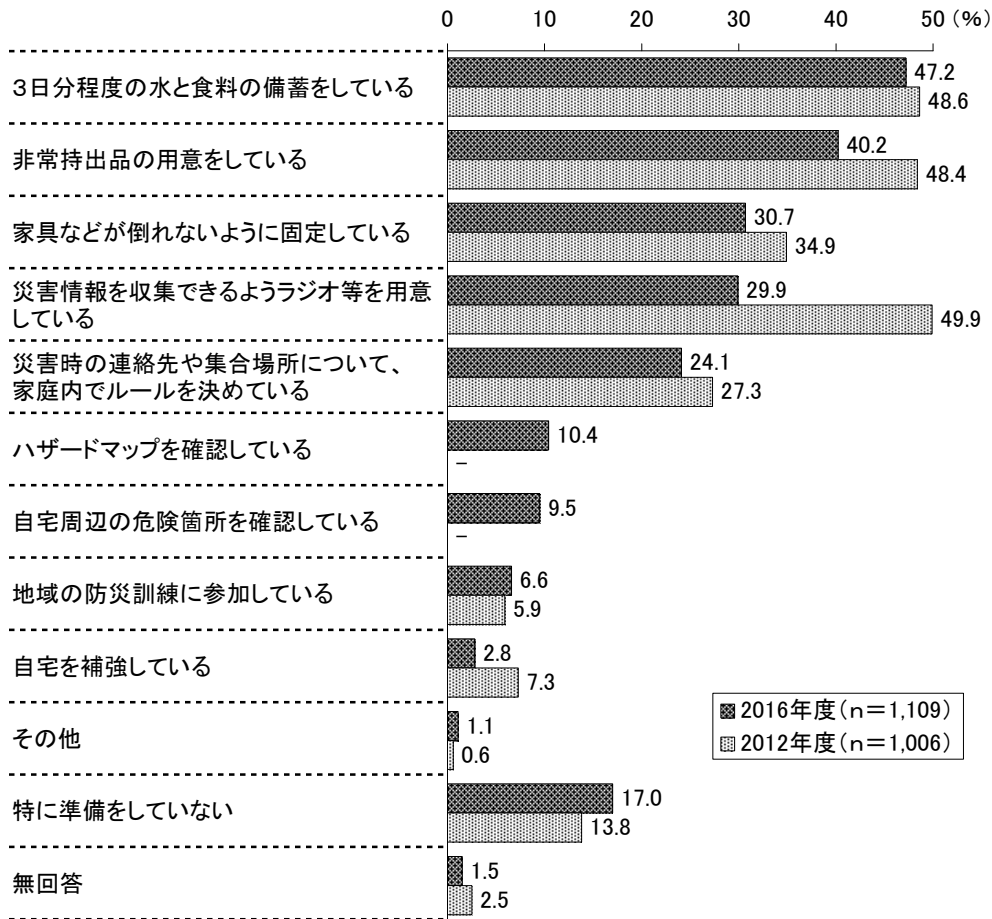
性・年代別にみると、「地域のつながり・助け合いの充実」は男性 70 歳以上で 5 割を超えて高くなっている。「各家庭における災害用備蓄の充実」は女性 40 歳代で 4 割半ばを超えて高くなっている。

町内会加入別にみると、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」は“非加入”が“加入”より 10.1 ポイント高くなっている。一方、「町内会・自治会等の防災活動の充実」は“加入”が“非加入”より 9.6 ポイント高くなっている。(図3-24)

(7) 大規模災害発生への備え

問 48 あなたの家庭では、普段から大規模災害の発生に備え、どのようなことをしていますか。(あてはまるもの全てに○)

図 3-25 大規模災害発生への備え

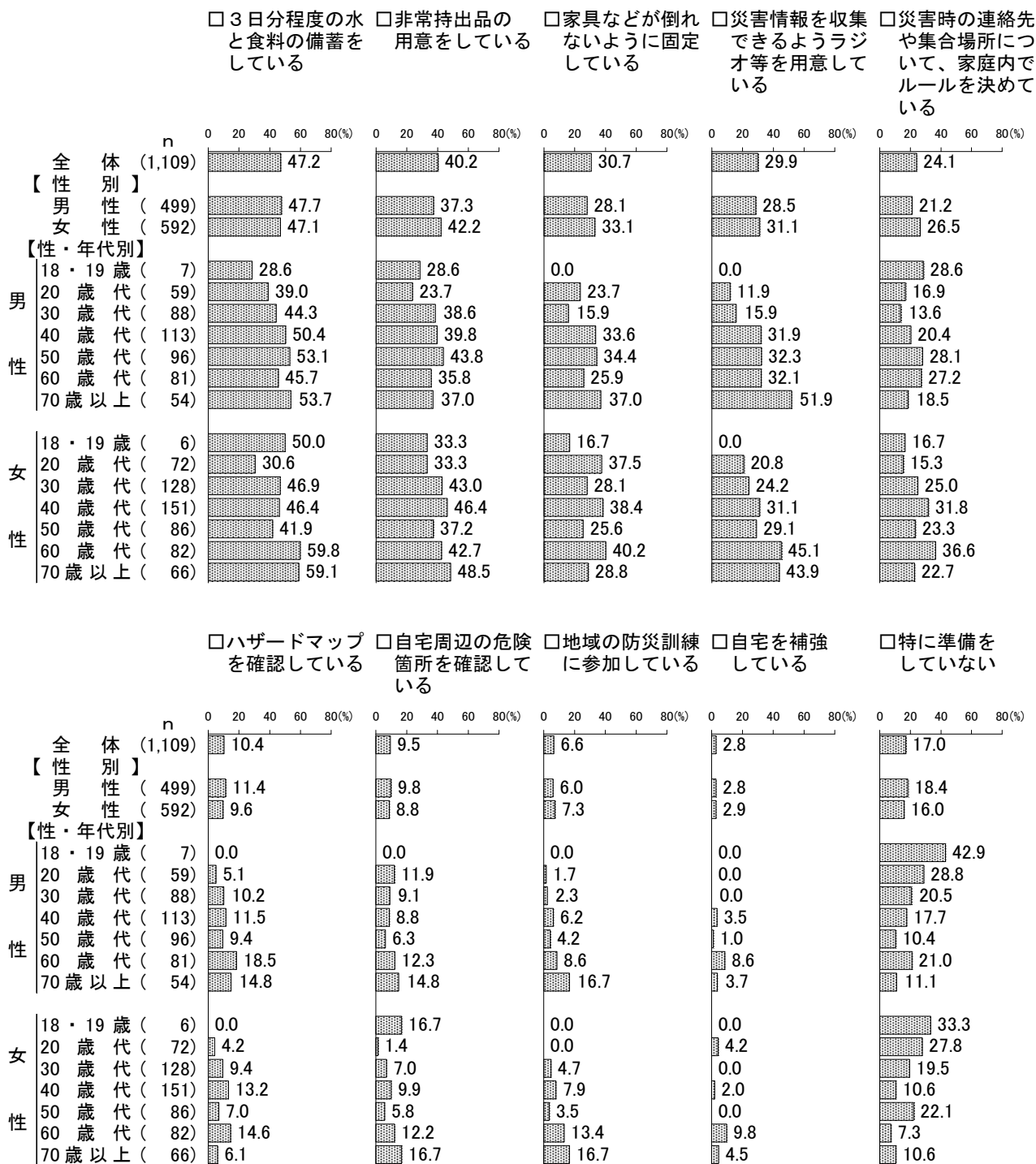


※「ハザードマップを確認している」は2016年度に追加された選択肢  
 ※「自宅周辺の危険箇所を確認している」は2016年度に追加された選択肢  
 ※「自宅を補強している」は、2012年度では「自宅を耐震補強している」としていた  
 ※2012年度の設問文は、「大規模災害の発生」を「大規模地震の発生」としていた

大規模災害発生への備えを聞いたところ、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」(47.2%)が5割近くで最も高く、次いで「非常持出品の用意をしている」(40.2%)、「家具などが倒れないように固定している」(30.7%)、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」(29.9%)となっている。

2012年度と比較すると、設問文や選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」、「非常持出品の用意をしている」、「家具などが倒れないように固定している」、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」が引き続き上位となっている。(図3-25)

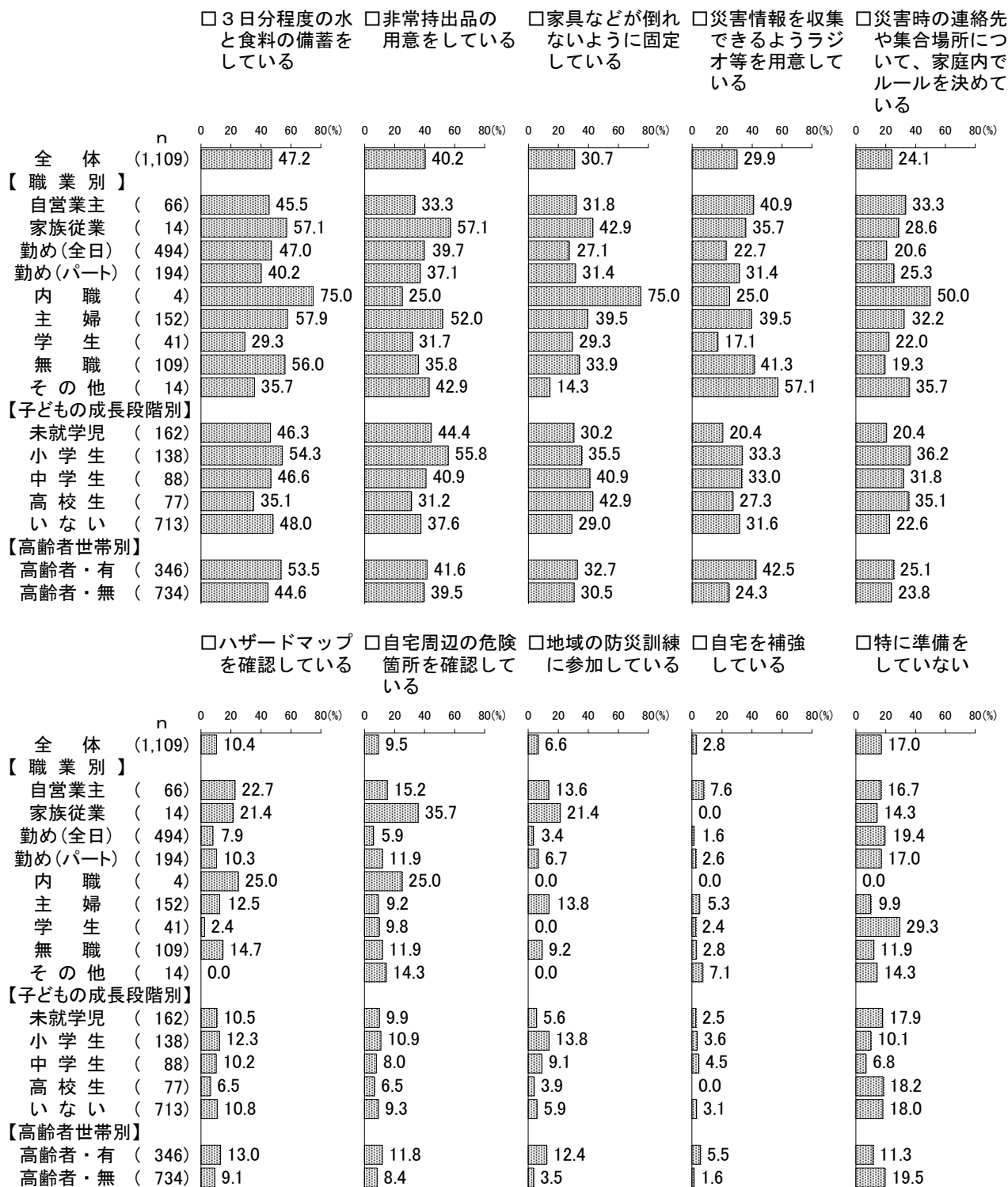
図3-26 大規模災害発生への備え（性別、性・年代別）



性別にみると、「災害時の連絡先や集合場所について、家庭内でルールを決めている」は女性が男性より5.3ポイント、「家具などが倒れないように固定している」は女性が男性より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」は女性の60歳代以上の年代で約6割と高くなっている。「災害情報を収集できるようにラジオ等を用意している」は男性70歳以上で5割を超えて高くなっている。「特に準備をしていない」は男女ともに20歳代で3割近くと高くなっている。(図3-26)

図3-27 大規模災害発生への備え（職業別、子どもの成長段階別、高齢者世帯別）

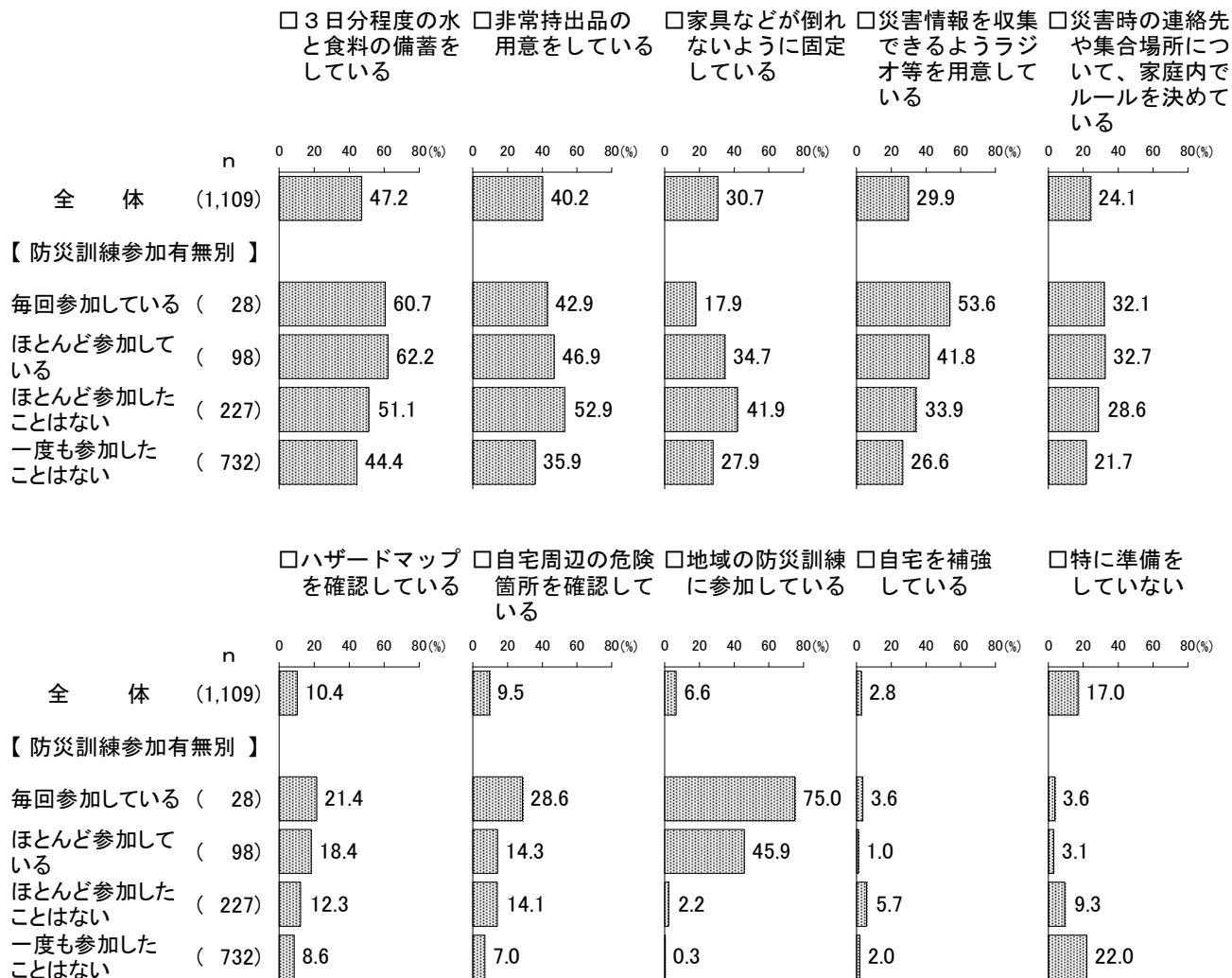


職業別にみると、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」は主婦と家族従業で6割近くと高く、「非常持出品の用意をしている」でも主婦と家族従業で5割台と高くなっている。

子どもの成長段階別にみると、「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」は“小学生”で5割半ばと高く、「非常持出品の用意をしている」でも“小学生”で5割半ばと高くなっている。

高齢者世帯別にみると、「災害情報を収集できるようにラジオ等を用意している」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より18.2ポイント高くなっている。一方、「特に準備をしていない」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より8.2ポイント高くなっている。(図3-27)

図3-28 大規模災害発生への備え（町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別）



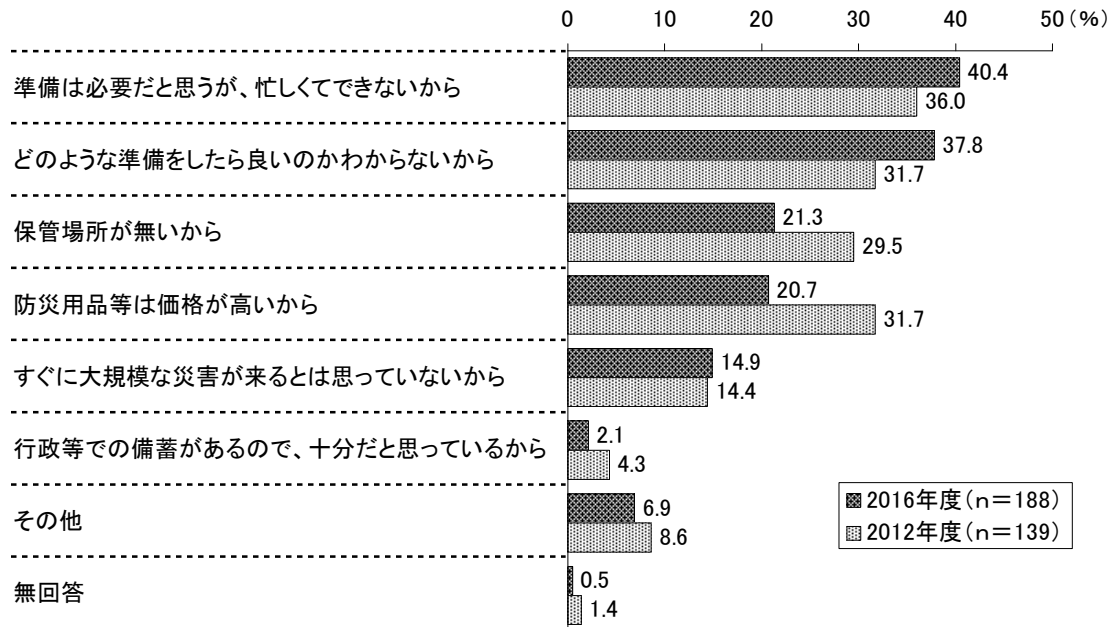
町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別にみると、「非常持出品の用意をしている」は“ほとんど参加したことはない”で5割を超えて高くなっている。「災害情報を収集できるようにラジオ等を用意している」、「ハザードマップを確認している」、「自宅周辺の危険箇所を確認している」、「地域の防災訓練に参加している」は参加頻度が高くなるほど割合が高くなっている。「特に準備をしていない」は“一度も参加したことはない”で2割を超えて高くなっている。(図3-28)

(8) 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由

(問 48 で、「特に準備をしていない」と回答した方に伺います)

問 48-1 特に準備していない主な理由は次のうちどれですか。(2つまで○)

図 3-29 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由



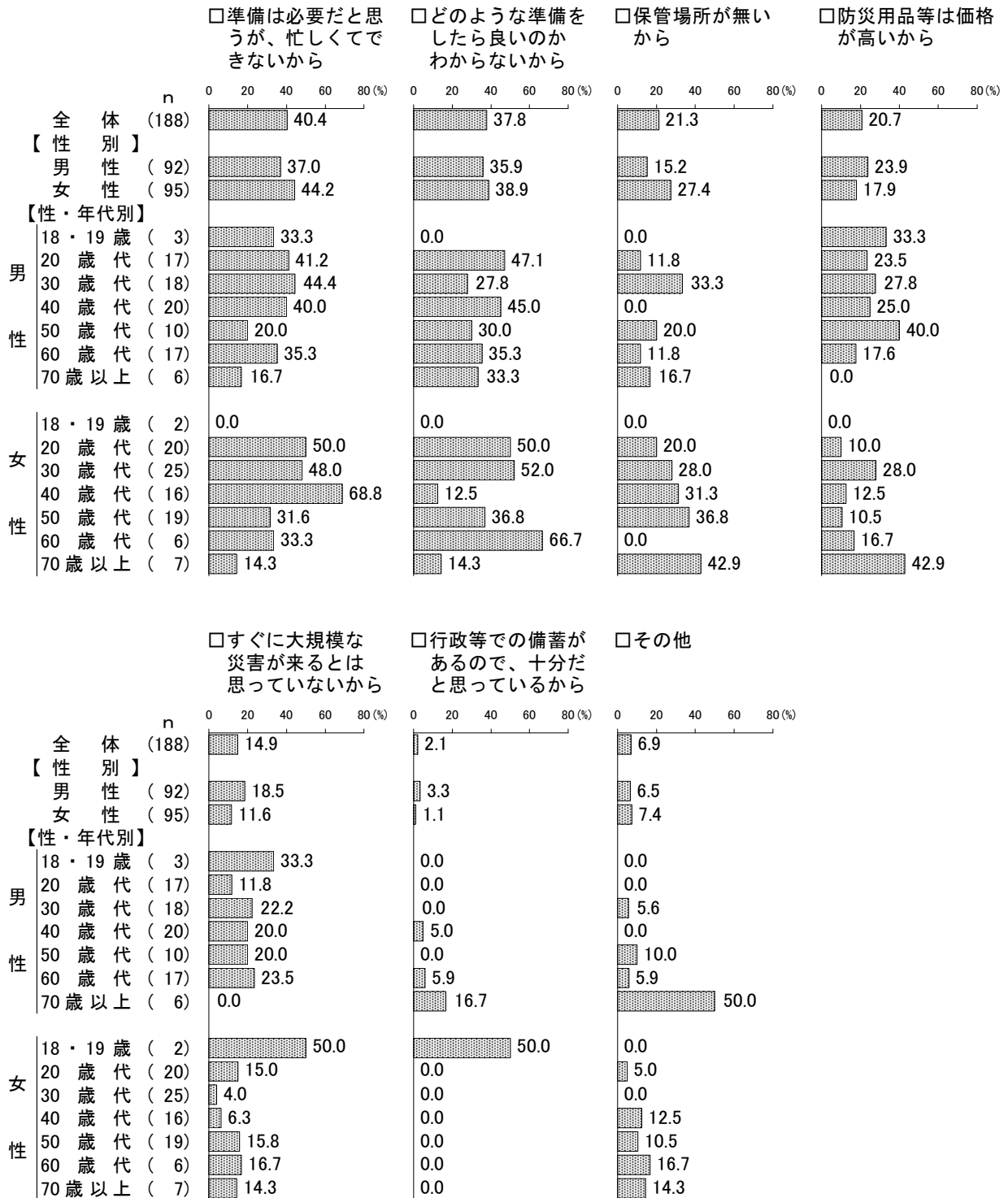
※「すぐに大規模な災害が来るとは思っていないから」は、2012年度では「すぐに大地震が来るとは思っていないから」としていた

大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由を聞いたところ、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」(40.4%)が4割で最も高く、次いで「どのような準備をしたら良いのかわからないから」(37.8%)、「保管場所が無いから」(21.3%)、「防災用品等は価格が高いから」(20.7%)となっている。

2012年度と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「どのような準備をしたら良いのかわからないから」は6.1ポイント、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」は4.4ポイント、それぞれ増加しており、引き続き上位となっている。一方、「防災用品等は価格が高いから」は11.0ポイント、「保管場所が無いから」は8.2ポイント、それぞれ減少している。(図3-29)



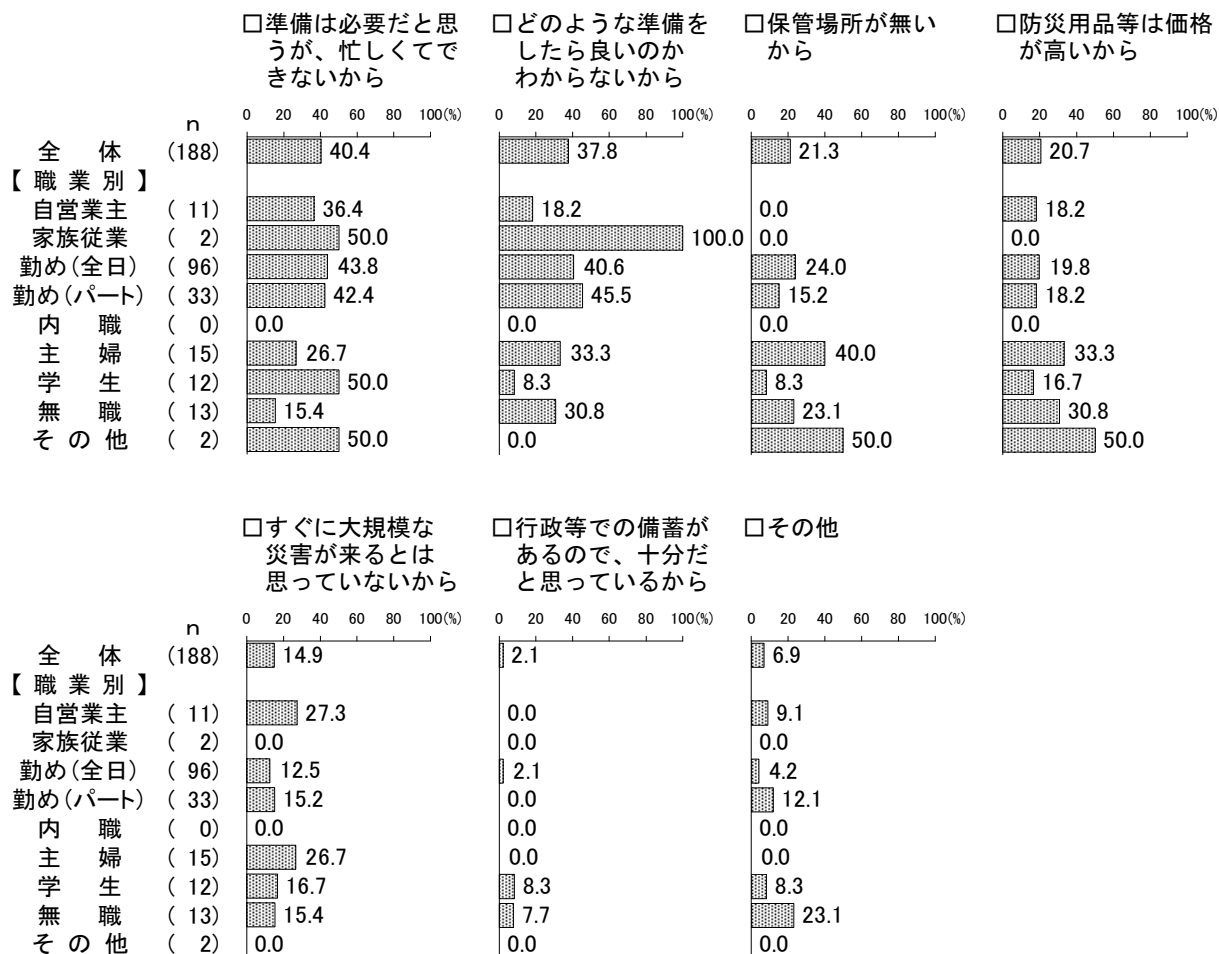
図3-30 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由（性別、性・年代別）



性別にみると、「保管場所が無いから」は女性が男性より 12.2 ポイント、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」は女性が男性より 7.2 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「すぐに大規模な災害が来るとは思っていないから」は男性が女性より 6.9 ポイント、「防災用品等は価格が高いから」は男性が女性より 6.0 ポイント、それぞれ高くなっている。

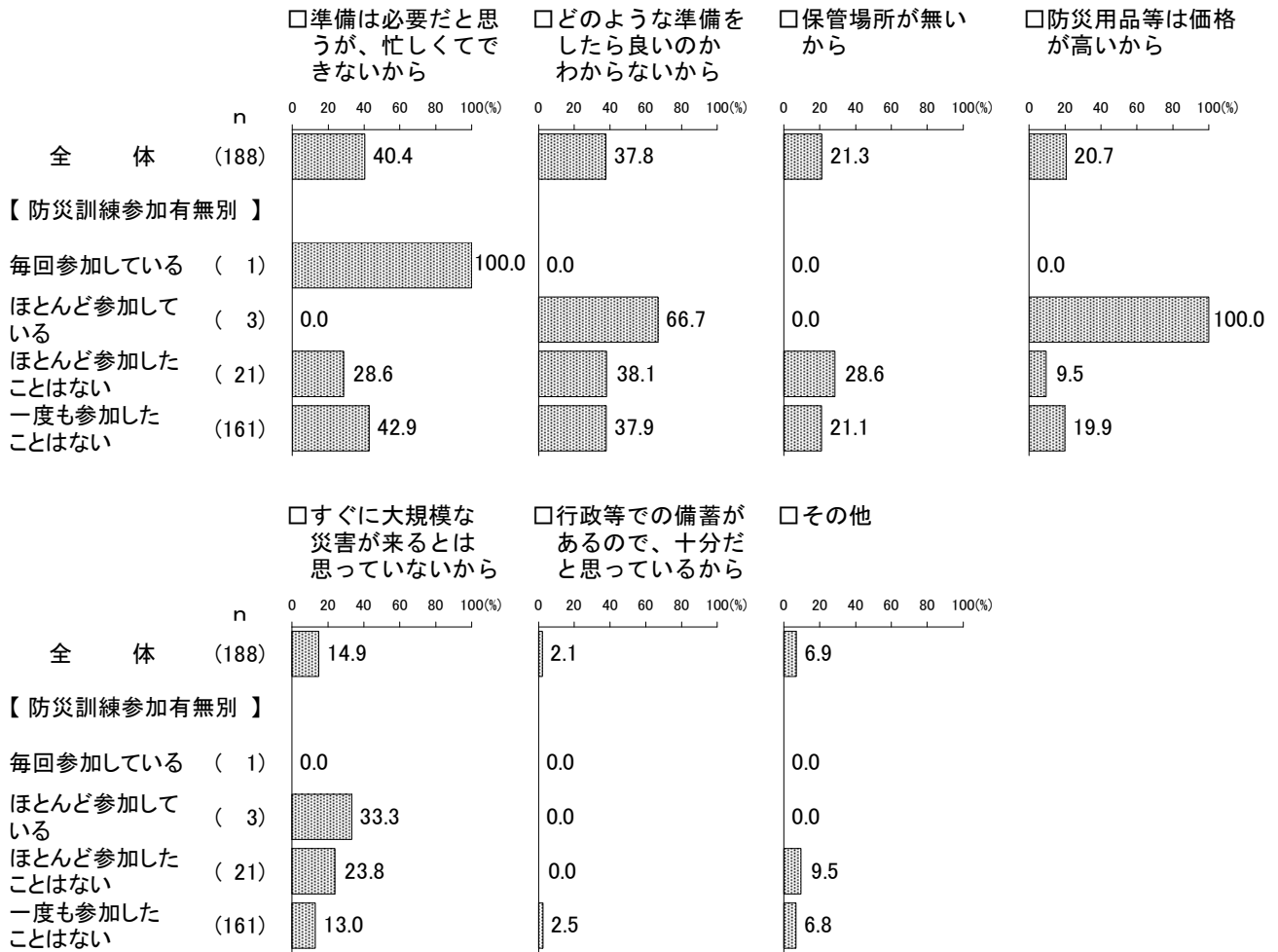
性・年代別にみると、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」は女性 40 歳代で 7 割近くと高くなっている。「どのような準備をしたら良いかわからないから」は女性の 20 歳代と 30 歳代で 5 割台と高くなっている。(図3-30)

図3-31 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由（職業別）



職業別にみると、「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」は学生で5割と高くなっている。「どのような準備をしたら良いのかわからないから」は勤め（パート）と勤め（全日）で4割台と高くなっている。（図3-31）

図3-32 大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由  
 (町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別)



町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無別は、基数が少ないため、参考までに図示する。

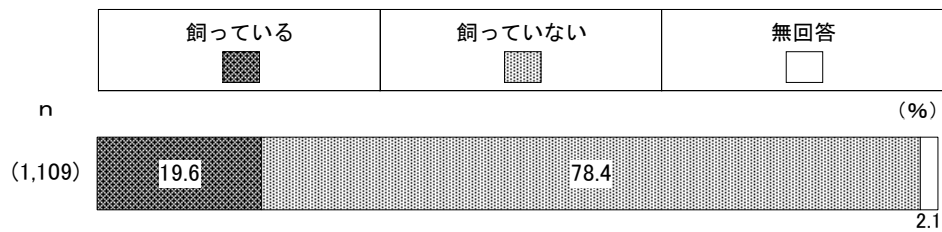
(図3-32)

#### 4. ペットの災害対策について

##### (1) ペットの飼育有無 (2016年度新設)

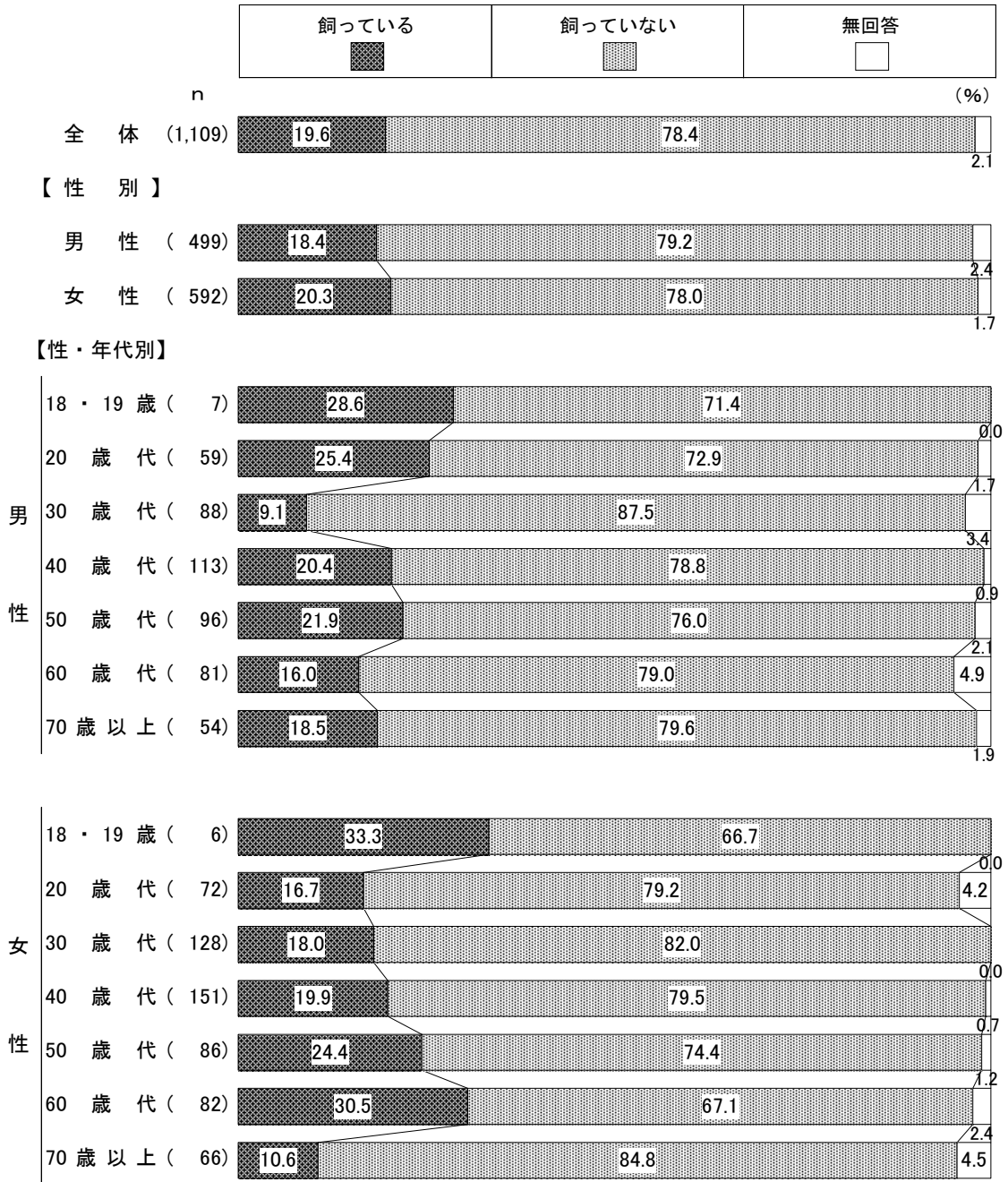
問 49 ペットを飼っていますか。(1つだけ○)

図 4-1 ペットの飼育有無



ペットを飼っているか聞いたところ、「飼っている」(19.6%)は約2割、「飼っていない」(78.4%)が8割近くとなっている。(図4-1)

図4-2 ペットの飼育有無（性別、性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「飼っている」は女性60歳代で約3割と高くなっている。一方、「飼っていない」は男性30歳代、女性の30歳代と70歳以上で8割台と高くなっている。(図4-2)

(2) 飼っている動物の種類と数 (2016年度新設)

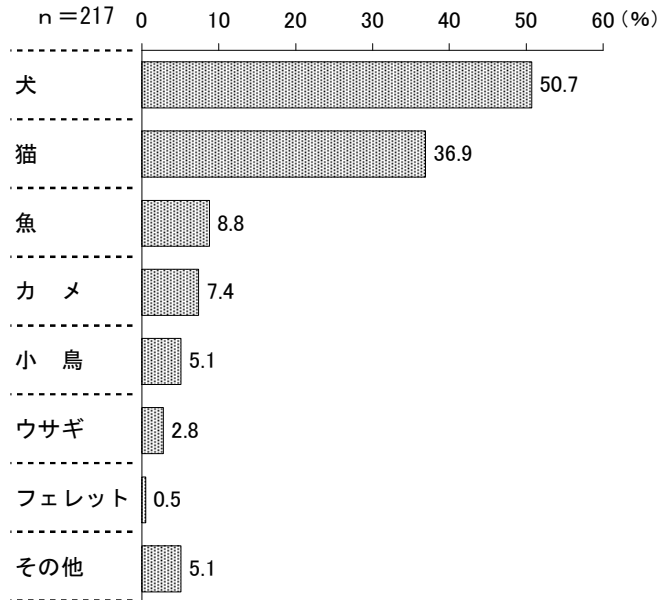
(問 49 で、「飼っている」と回答した方に伺います)

問 49-1 飼っている動物の種類は何ですか。また何匹飼っていますか。

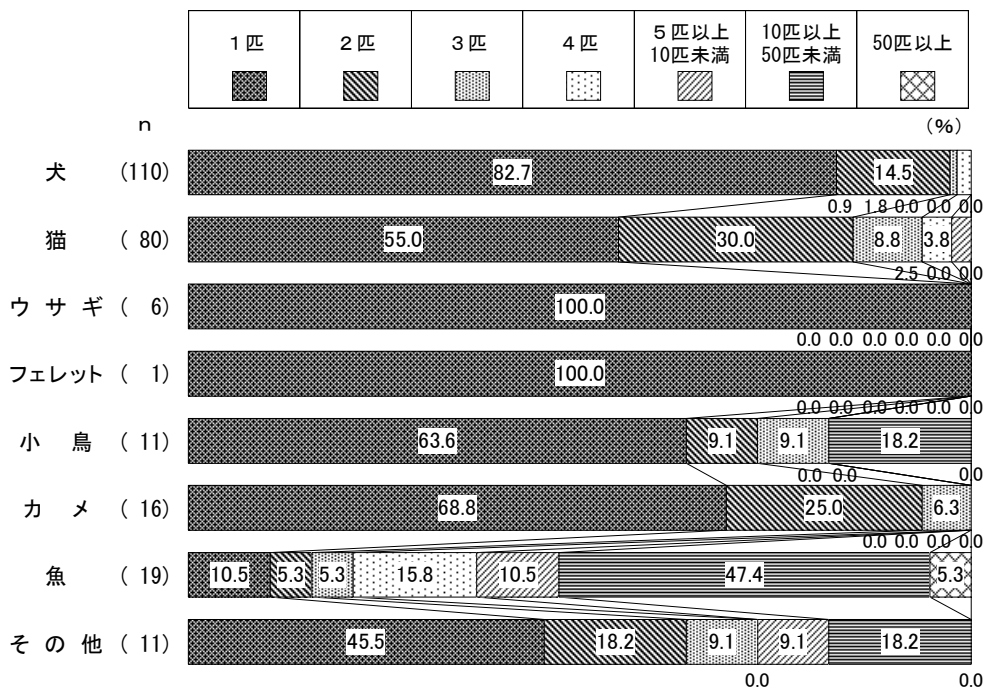
(あてはまるもの全てに○)

図 4-3 飼っている動物の種類と数

<動物の種類>



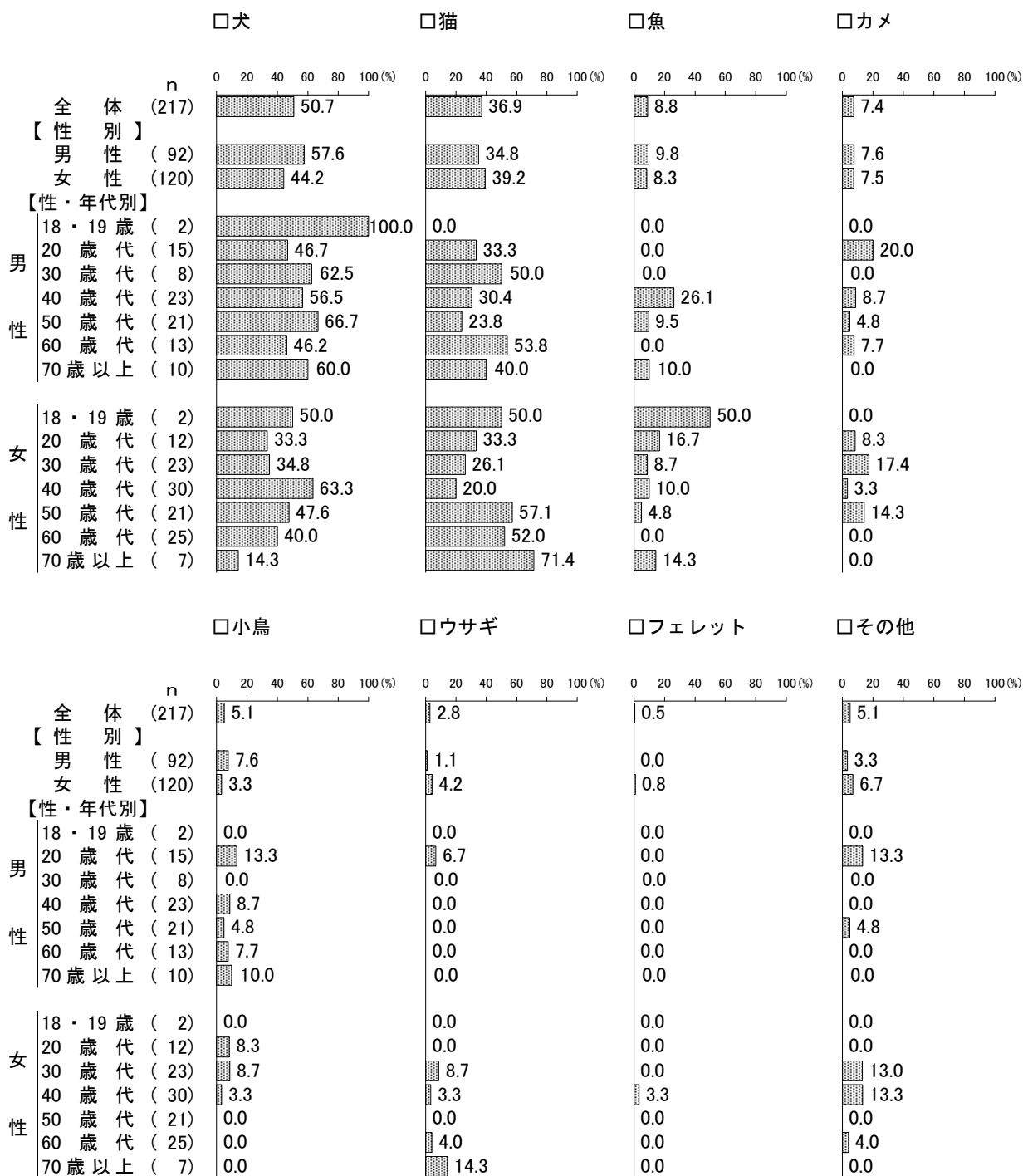
<飼っている数>



飼っている動物の種類を聞いたところ、「犬」(50.7%)が約5割で最も高く、次いで「猫」(36.9%)、「魚」(8.8%)、「カメ」(7.4%)となっている。

また、飼っている数は、「魚」を除く全ての項目で「1匹」の割合が高くなっている。(図4-3)

図4-4 飼っている動物の種類（性別、性・年代別）



性別にみると、「犬」は男性が女性より 13.4 ポイント高くなっている。一方、「猫」は女性が男性より 4.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「犬」は男性 50 歳代で 7 割近くと高くなっている。「猫」は女性 50 歳代で 6 割近くと高くなっている。(図 4-4)

(3) 避難所の生活でペットに関して気をつけようと思うこと (2016年度新設)

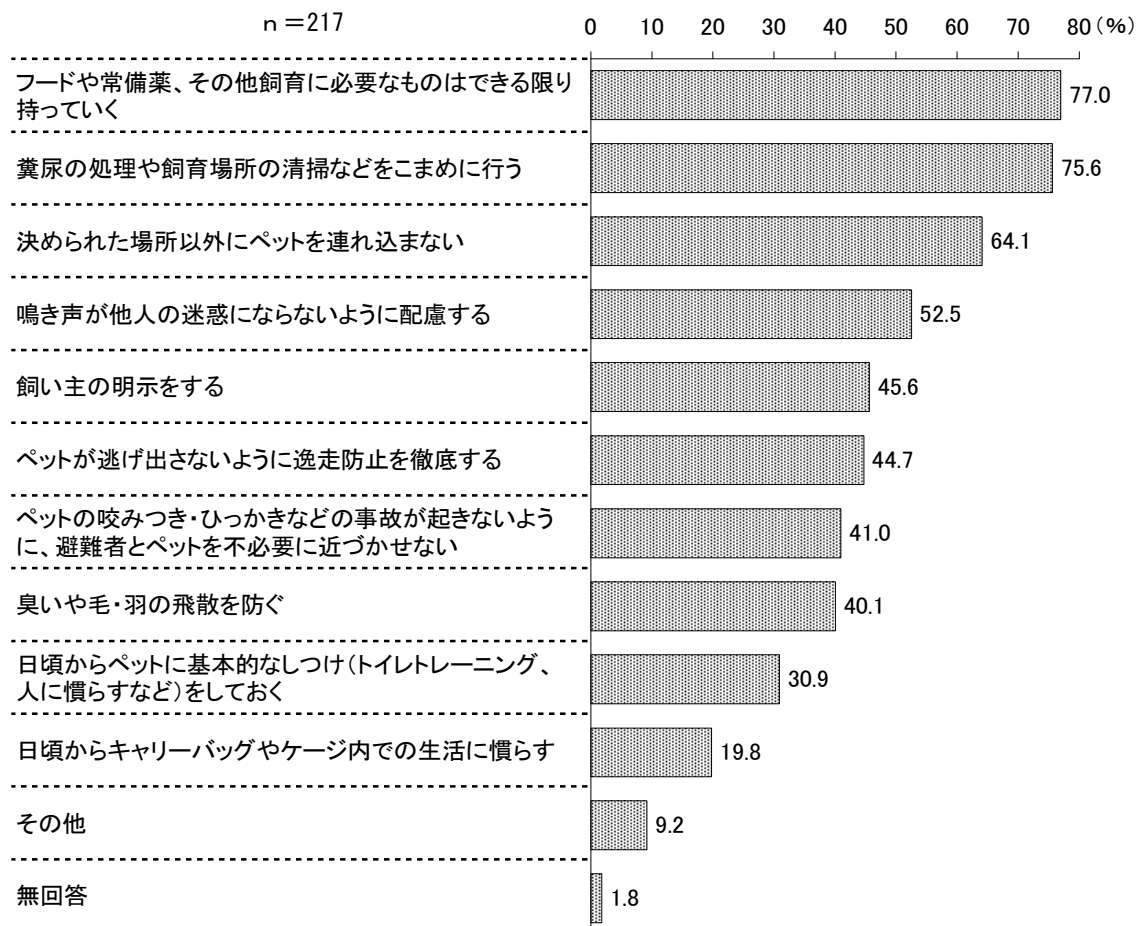
(問 49 で、「飼っている」と回答した方に伺います)

問 49-2 被災してペットと一緒に避難しなければならなくなった時、避難所での生活において、ペットに関してあなたが気をつけようと思うことは何ですか。

(あてはまるもの全てに○)

図 4-5 避難所の生活でペットに関して気をつけようと思うこと

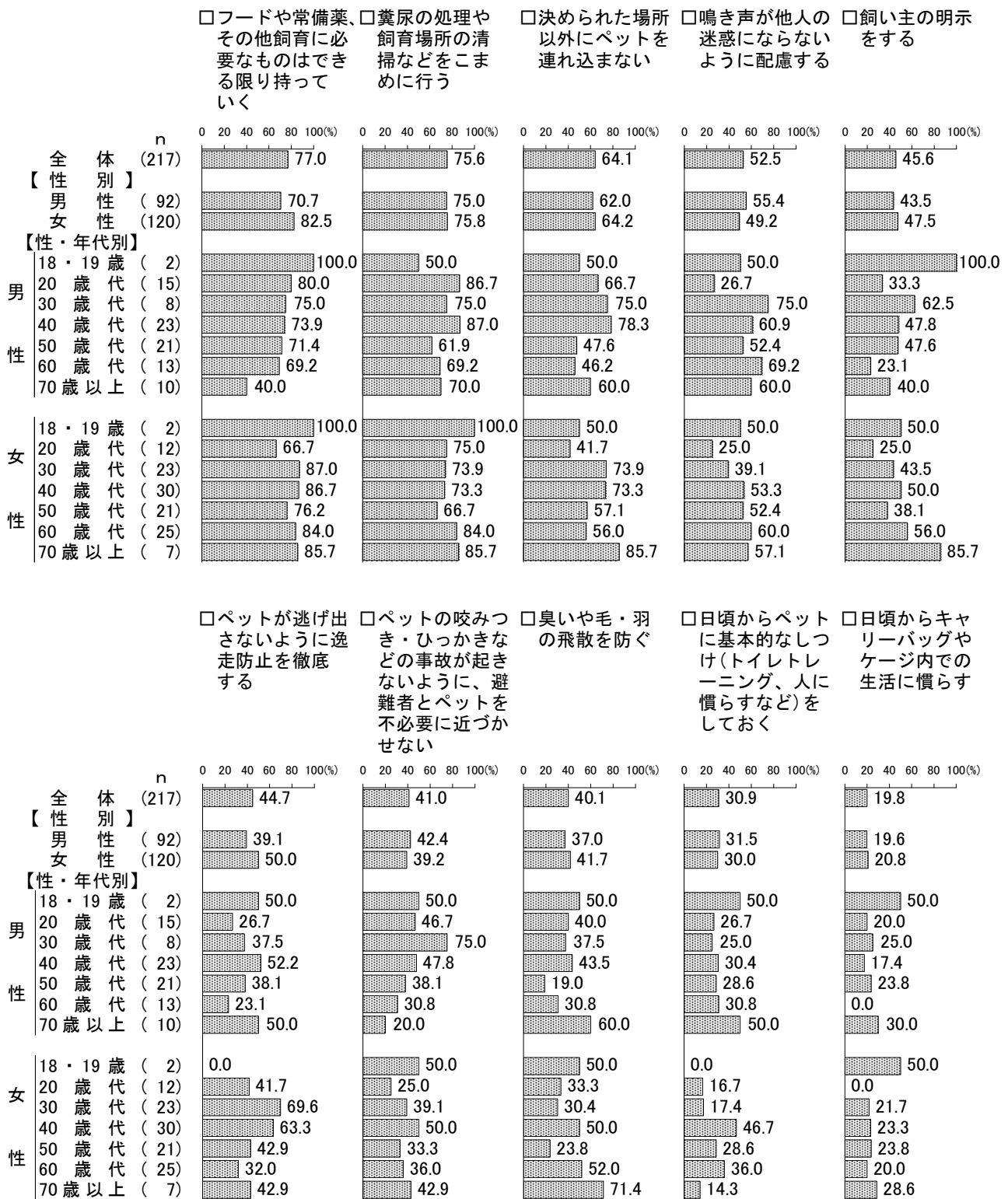
n=217



避難所の生活でペットに関して気をつけようと思うことを聞いたところ、「フードや常備薬、その他飼育に必要なものはできる限り持っていく」(77.0%)が最も高く、次いで「糞尿の処理や飼育場所の清掃などをこまめに行う」(75.6%)、「決められた場所以外にペットを連れ込まない」(64.1%)、「鳴き声が他人の迷惑にならないように配慮する」(52.5%)となっている。(図4-5)



図4-6 避難所の生活でペットに関して気をつけようと思うこと（性別、性・年代別）



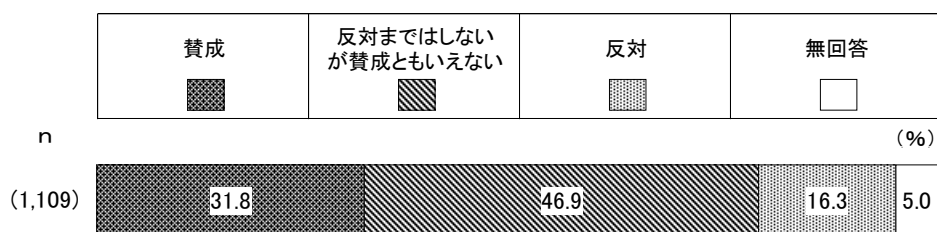
性別にみると、「フードや常備薬、その他飼育に必要なものはできる限り持っていく」は女性が男性より11.8ポイント高くなっている。一方、「鳴き声が他人の迷惑にならないように配慮する」は男性が女性より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「フードや常備薬、その他飼育に必要なものはできる限り持っていく」は男性では年代が下がるほど割合が高くなっている。「糞尿の処理や飼育場所の清掃などをこまめに行う」は男性の20歳代と40歳代で9割近くと高くなっている。(図4-6)

#### (4) ペットの避難所への受け入れ (2016年度新設)

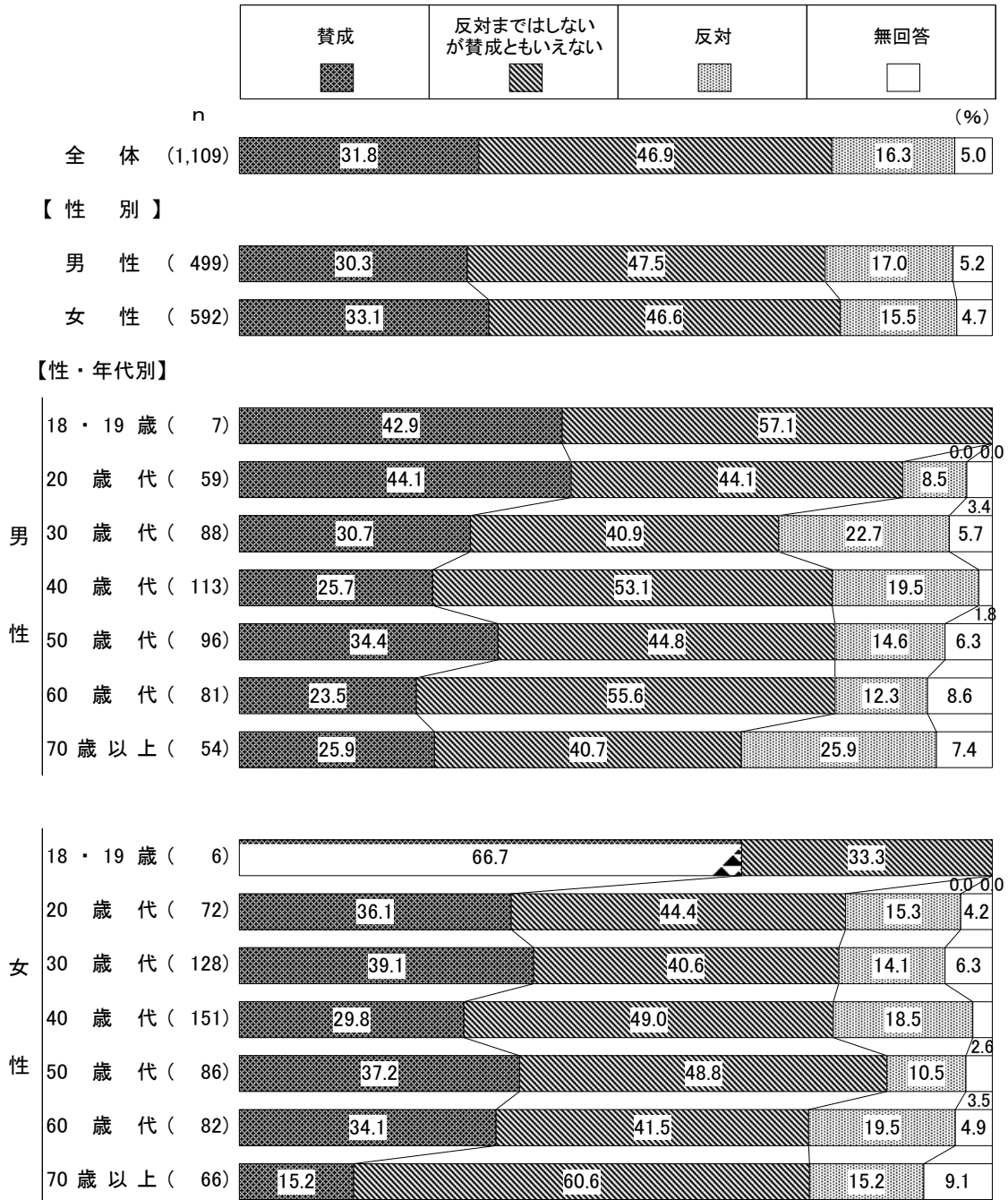
問 50 飼い主と一緒に避難してきたペットの避難所への受け入れについてどのように思いますか。(1つだけ○)

図 4-7 ペットの避難所への受け入れ



ペットの避難所への受け入れについて聞いたところ、「賛成」(31.8%)が3割を超え、「反対」(16.3%)は1割半ばとなっている。また、「反対まではしないが賛成ともいえない」(46.9%)は5割近くとなっている。(図4-7)

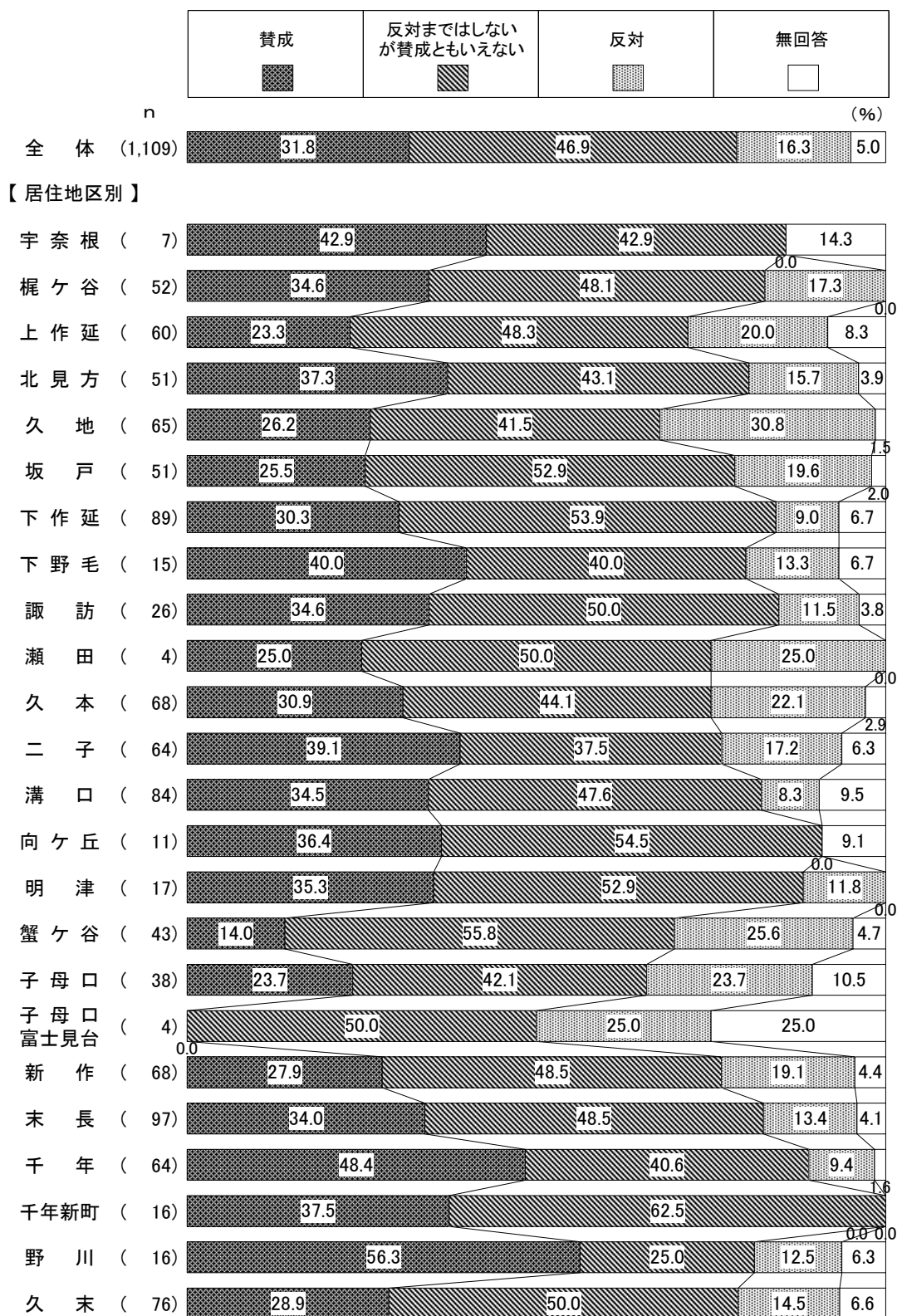
図 4-8 ペットの避難所への受け入れ（性別、性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

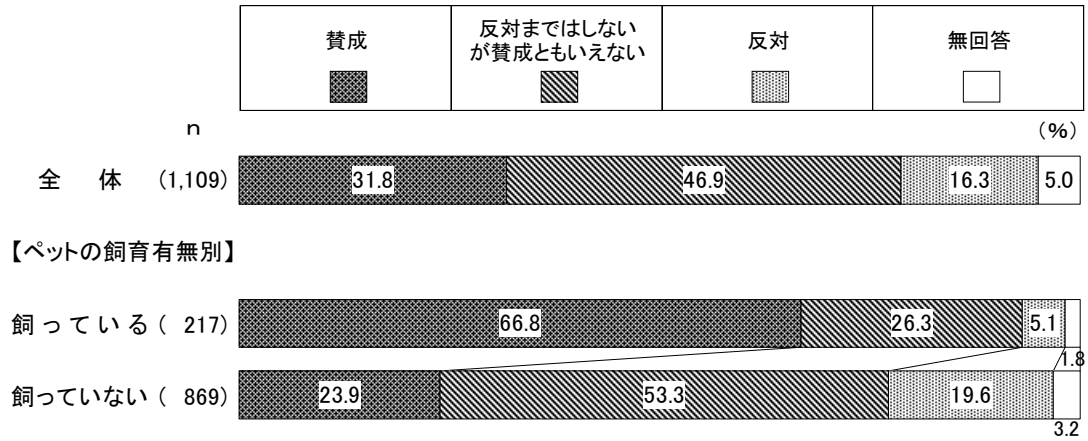
性・年代別にみると、「賛成」は男性 20 歳代で 4 割半ば、女性の 30 歳代と 50 歳代で 4 割近くと高くなっている。一方、「反対」は男性の 30 歳代と 70 歳以上で 2 割台と高くなっている。また、「反対まではしないが賛成ともいえない」は女性 70 歳以上で約 6 割、男性の 40 歳代と 60 歳代で 5 割台と高くなっている。(図 4-8)

図 4-9 ペットの避難所への受け入れ（居住地区別）



居住地区別にみると、「賛成」は野川で5割半ばを超え、千年で5割近くと高くなっている。一方、「反対」は久地で約3割と高くなっている。（図4-9）

図 4-10 ペットの避難所への受け入れ（ペットの飼育有無別）



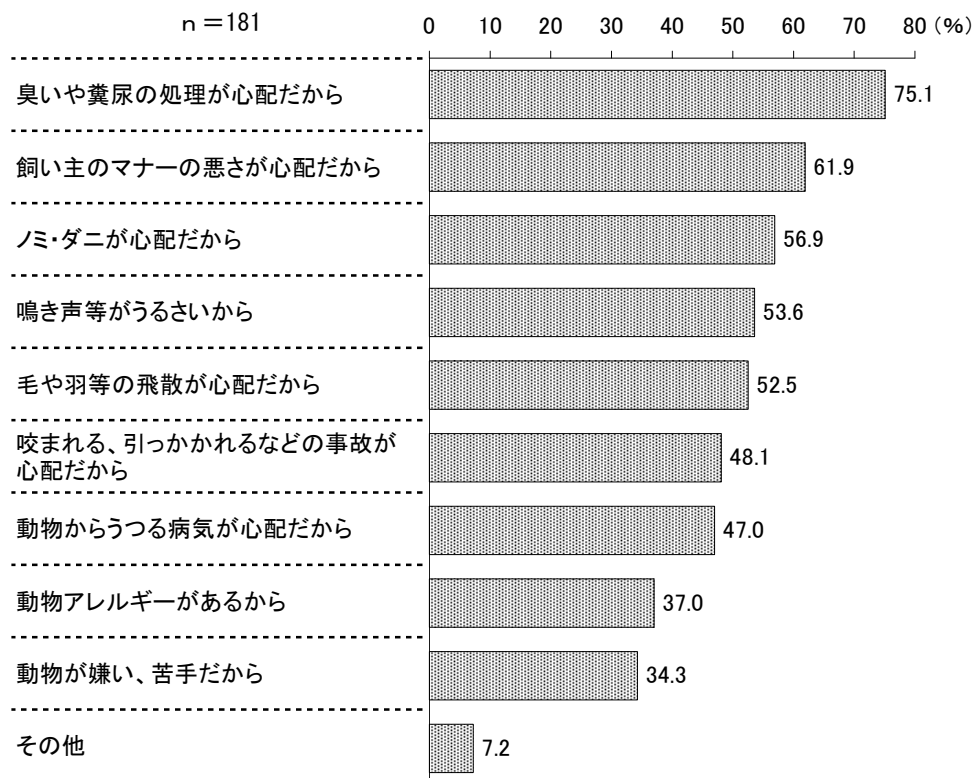
ペットの飼育有無別にみると、「賛成」は“飼っている”が“飼っていない”より 42.9 ポイント高くなっている。一方、「反対」は“飼っていない”が“飼っている”より 14.5 ポイント高くなっている。(図 4-10)

(5) ペットの受け入れに反対する理由 (2016年度新設)

(問 50 で、「反対」と回答した方に伺います)

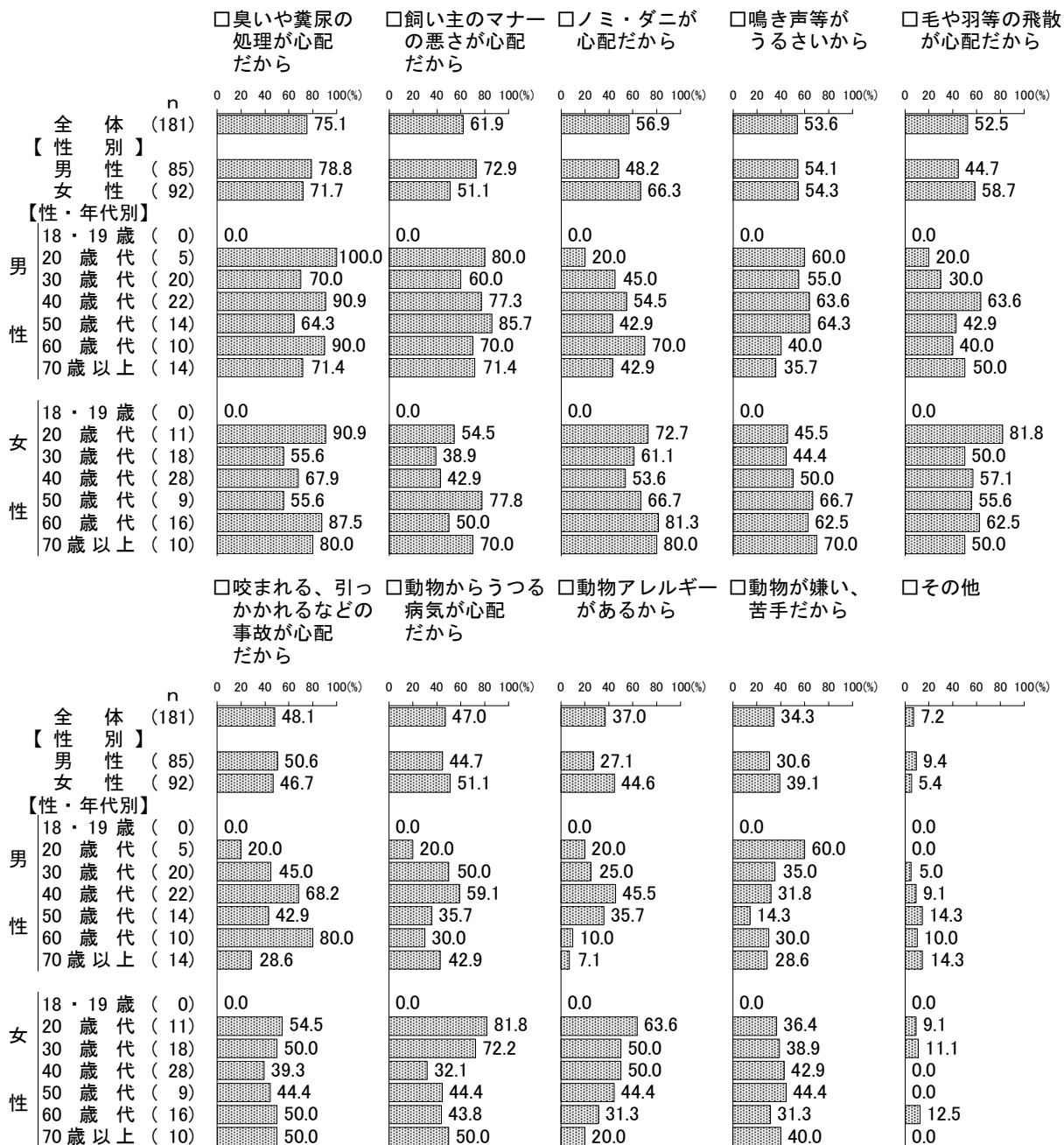
問 50-1 その理由 (不安視する点) を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

図 4-11 ペットの受け入れに反対する理由



ペットの受け入れに反対する理由を聞いたところ、「臭いや糞尿の処理が心配だから」(75.1%) が7割半ばで最も高く、次いで「飼い主のマナーの悪さが心配だから」(61.9%)、「ノミ・ダニが心配だから」(56.9%)、「鳴き声等がうるさいから」(53.6%)となっている。(図 4-11)

図 4-12 ペットの受け入れに反対する理由（性別、性・年代別）



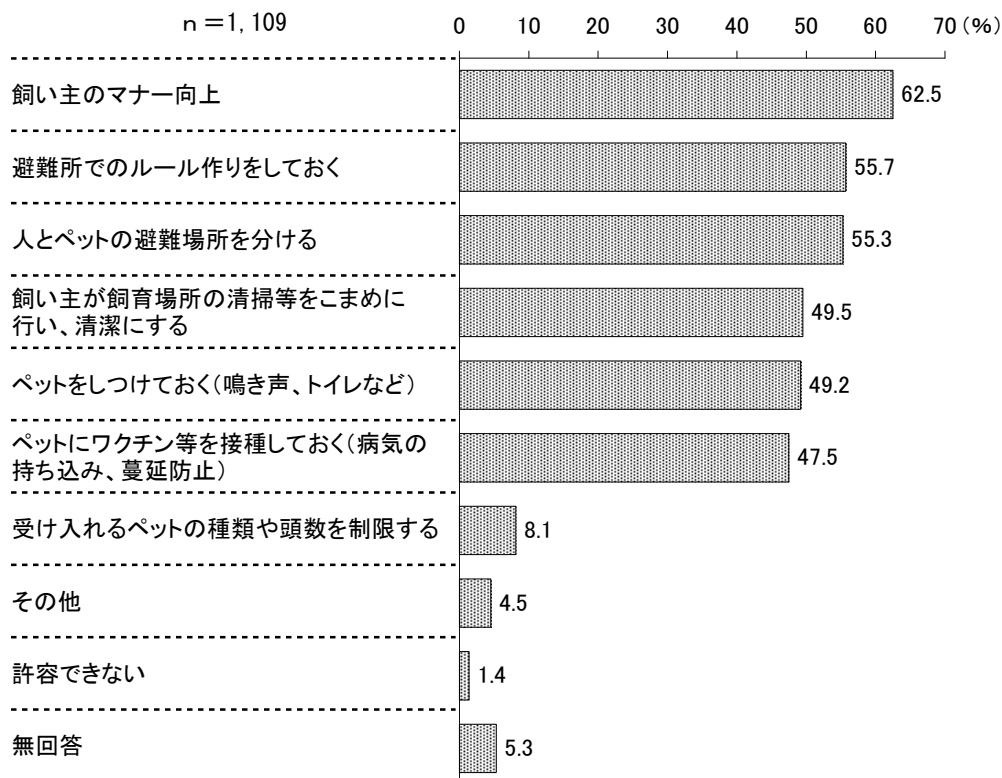
性別にみると、「飼い主のマナーの悪さが心配だから」は男性が女性より 21.8 ポイント、「臭いや糞尿の処理が心配だから」は男性が女性より 7.1 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「ノミ・ダニが心配だから」は女性が男性より 18.1 ポイント、「動物アレルギーがあるから」は女性が男性より 17.5 ポイント、「毛や羽等の飛散が心配だから」は女性が男性より 14.0 ポイント、「動物が嫌い、苦手だから」は女性が男性より 8.5 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「臭いや糞尿の処理が心配だから」は男性の 40 歳代と 60 歳代、女性の 20 歳代と 60 歳代で約 9 割または 9 割近くと高くなっている。「飼い主のマナーの悪さが心配だから」は男性の 40 歳代以上の年代と女性の 50 歳代、70 歳以上で 7 割以上と高くなっている。「ノミ・ダニが心配だから」は女性の 60 歳代以上の年代で 8 割台、女性の 20 歳代と 50 歳代、男性 60 歳代で 7 割前後と高くなっている。「鳴き声等がうるさいから」は女性の 50 歳代以上の年代と男性の 40 歳代、50 歳代で 6 割以上と高くなっている。「毛や羽等の飛散が心配だから」は女性 20 歳代で 8 割を超え、男性 40 歳代と女性 60 歳代で 6 割を超えて高くなっている。「咬まれる、引っかかるなどの事故が心配だから」は男性 60 歳代で 8 割と高くなっている。「動物からうつる病気が心配だから」は女性の 20 歳代と 30 歳代で 7 割以上と高くなっている。「動物アレルギーがあるから」は女性 20 歳代で 6 割を超えて高くなっている。(図 4-12)

(6) ペットの受け入れの許容 (2016年度新設)

問 51 どうすれば避難所へのペットの受け入れが許容できますか。または、理解されると思いますか。(いくつでも○)

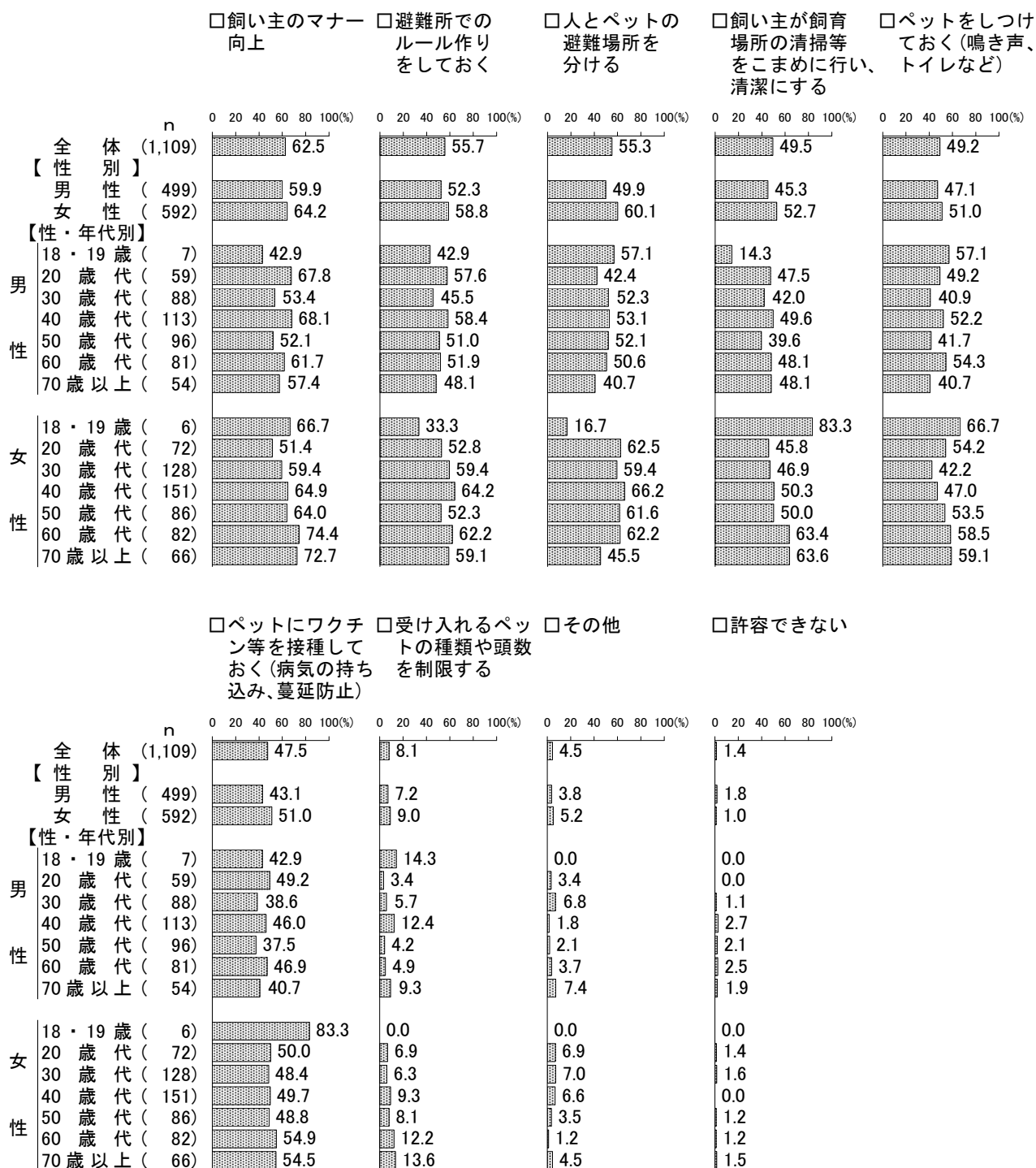
図 4-13 ペットの受け入れの許容



どうすれば避難所へのペットの受け入れが許容できるか聞いたところ、「飼い主のマナー向上」(62.5%)が6割を超えて最も高く、次いで「避難所でのルール作りをしておく」(55.7%)、「人とペットの避難場所を分ける」(55.3%)、「飼い主が飼育場所の清掃等をこまめに行い、清潔にする」(49.5%)となっている。(図 4-13)



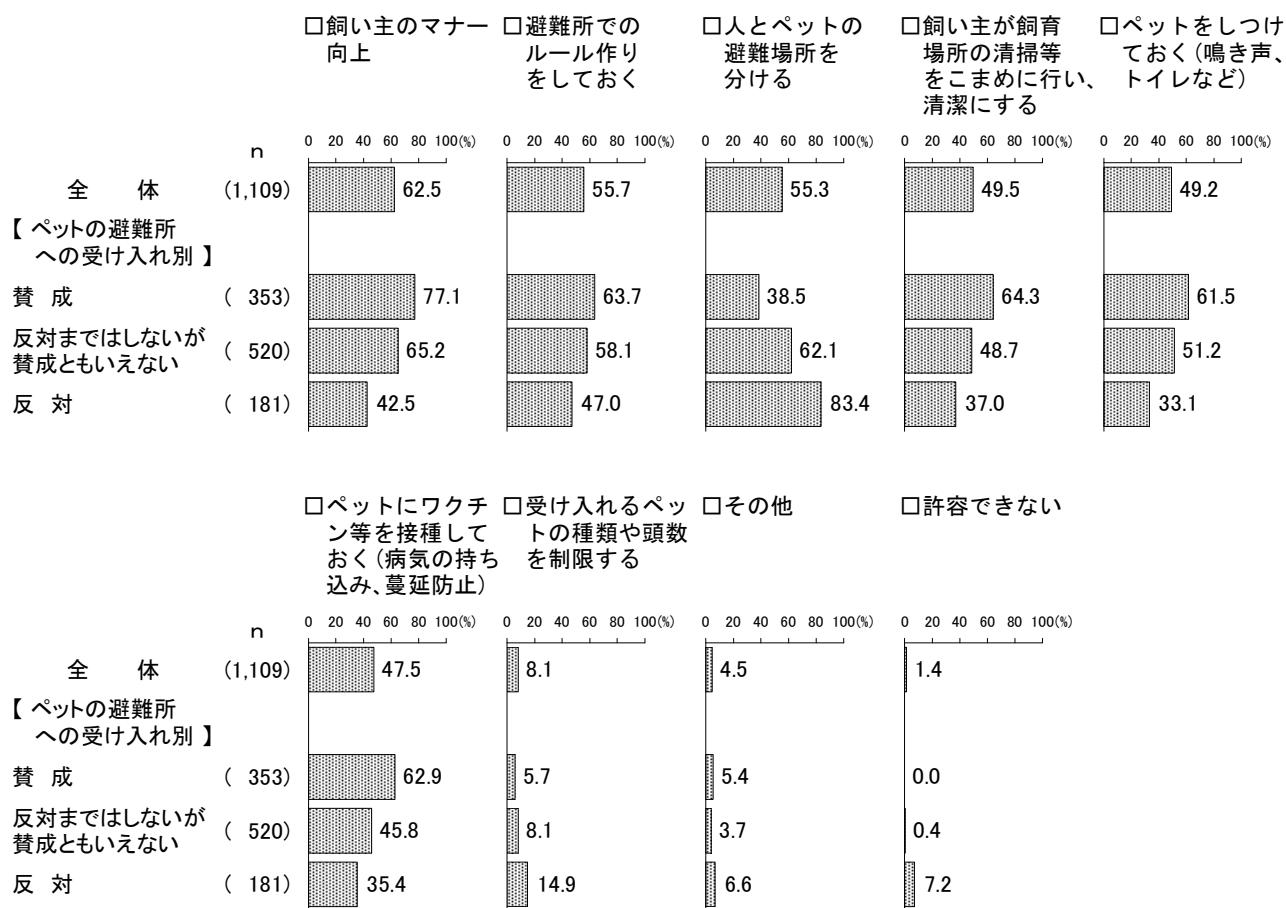
図 4-14 ペットの受け入れの許容（性別、性・年代別）



性別にみると、「人とペットの避難場所を分ける」は女性が男性より 10.2 ポイント、「ペットにワクチン等を接種しておく（病気の持ち込み、蔓延防止）」は女性が男性より 7.9 ポイント、「飼い主が飼育場所の清掃等をこまめに行い、清潔にする」は女性が男性より 7.4 ポイント、「避難所でのルール作りをしておく」は女性が男性より 6.5 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「飼い主のマナー向上」は女性の 60 歳代以上の年代で 7 割台と高くなっている。「避難所でのルール作りをしておく」は女性の 40 歳代と 60 歳代で 6 割台と高くなっている。「人とペットの避難場所を分ける」は女性の 20 歳代と 40 歳代から 60 歳代で 6 割台と高くなっている。「飼い主が飼育場所の清掃等をこまめに行い、清潔にする」は女性の 60 歳代以上の年代で 6 割を超えて高くなっている。(図 4-14)

図 4-15 ペットの受け入れの許容（ペットの避難所への受け入れ別）



ペットの避難所への受け入れ別にみると、「飼い主のマナー向上」は“賛成”が“反対”より 34.6 ポイント、「ペットをしつておく（鳴き声、トイレなど）」は“賛成”が“反対”より 28.4 ポイント、「ペットにワクチン等を接種しておく（病気の持ち込み、蔓延防止）」は“賛成”が“反対”より 27.5 ポイント、「飼い主が飼育場所の清掃等をこまめに行い、清潔にする」は“賛成”が“反対”より 27.3 ポイント、「避難所でのルール作りをしておく」は“賛成”が“反対”より 16.7 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「人とペットの避難場所を分ける」は“反対”が“賛成”より 44.9 ポイント高くなっており、“反対”では 8 割を超えて高くなっている。（図 4-15）

## 5. 在宅医療について

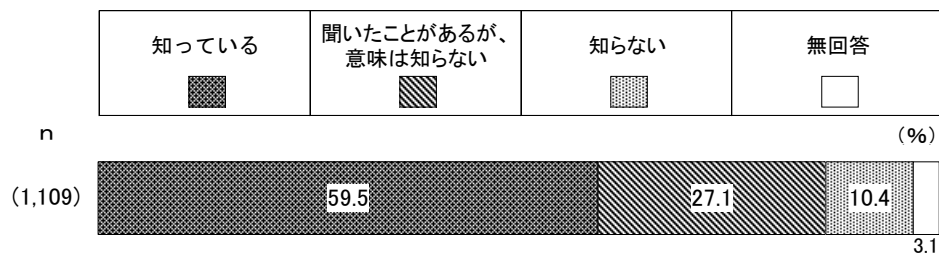
### (1) 「在宅医療」についての認知度 (2016年度新設)

問 52 あなたは、高齢者の終末期における「在宅医療」について、言葉とその意味を知っていますか。(1つだけ○)

※「在宅医療」・・・医師、歯科医師、看護師、薬剤師、リハビリ専門職等の医療関係者が、通院困難な患者の自宅や施設等を定期的に訪問して提供する医療行為のことをいいます。患者や御家族等が、「住み慣れた自宅や地域で過ごしたい・過ごさせたい」とか、「出来れば最期は家族と一緒に暮らしたい・看取りたい」というときに提供する医療です。

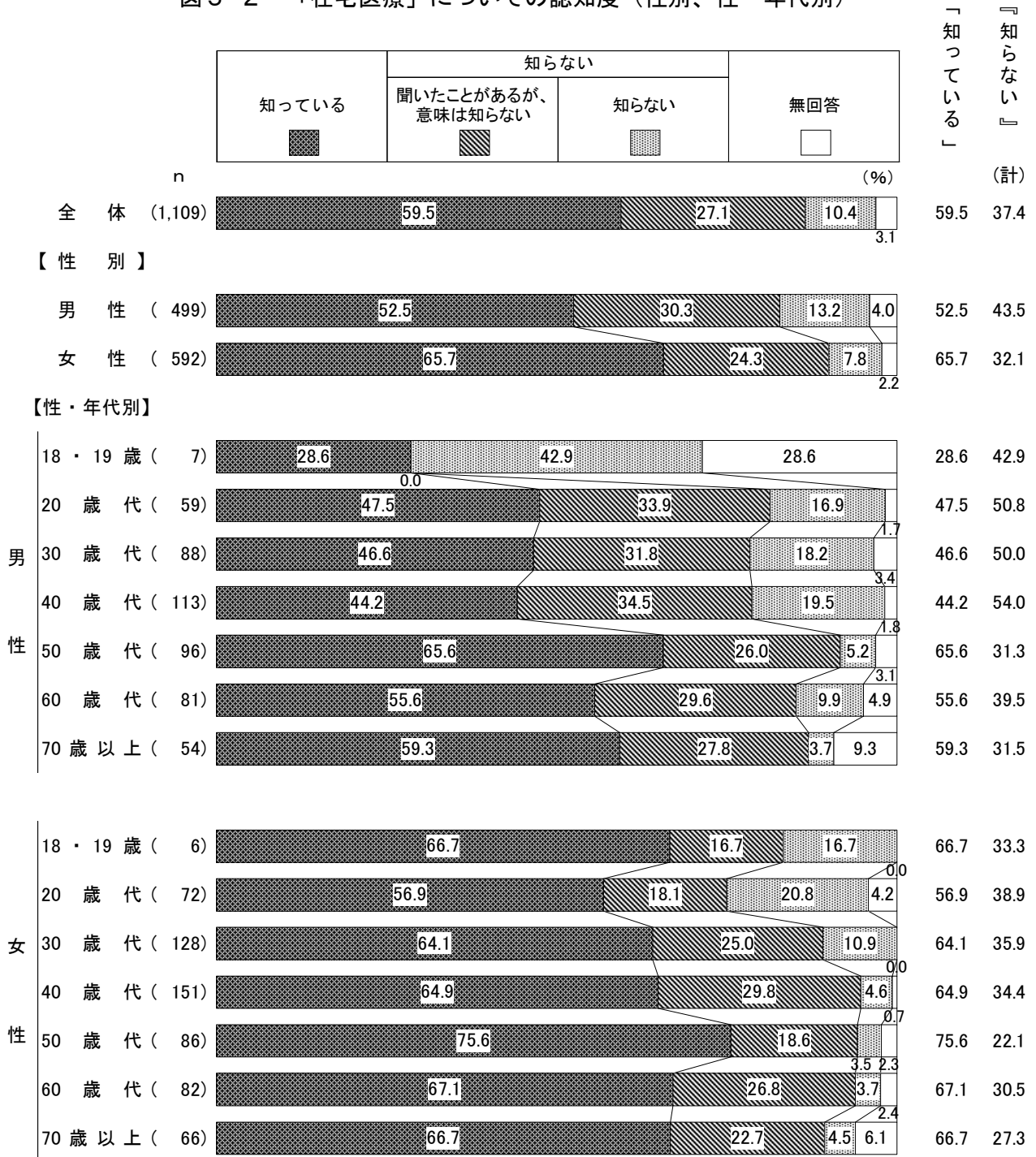
また在宅療養とは、医療行為と同時に必要な介護サービスや、生活支援等を受けながら、住み慣れた自宅や地域で療養を行うことをいいます。

図 5-1 「在宅医療」についての認知度



「在宅医療」について聞いたところ、「知っている」(59.5%) が約6割、「聞いたことがあるが、意味は知らない」(27.1%) は3割近くとなっている。また、「知らない」(10.4%) は1割となっている。(図5-1)

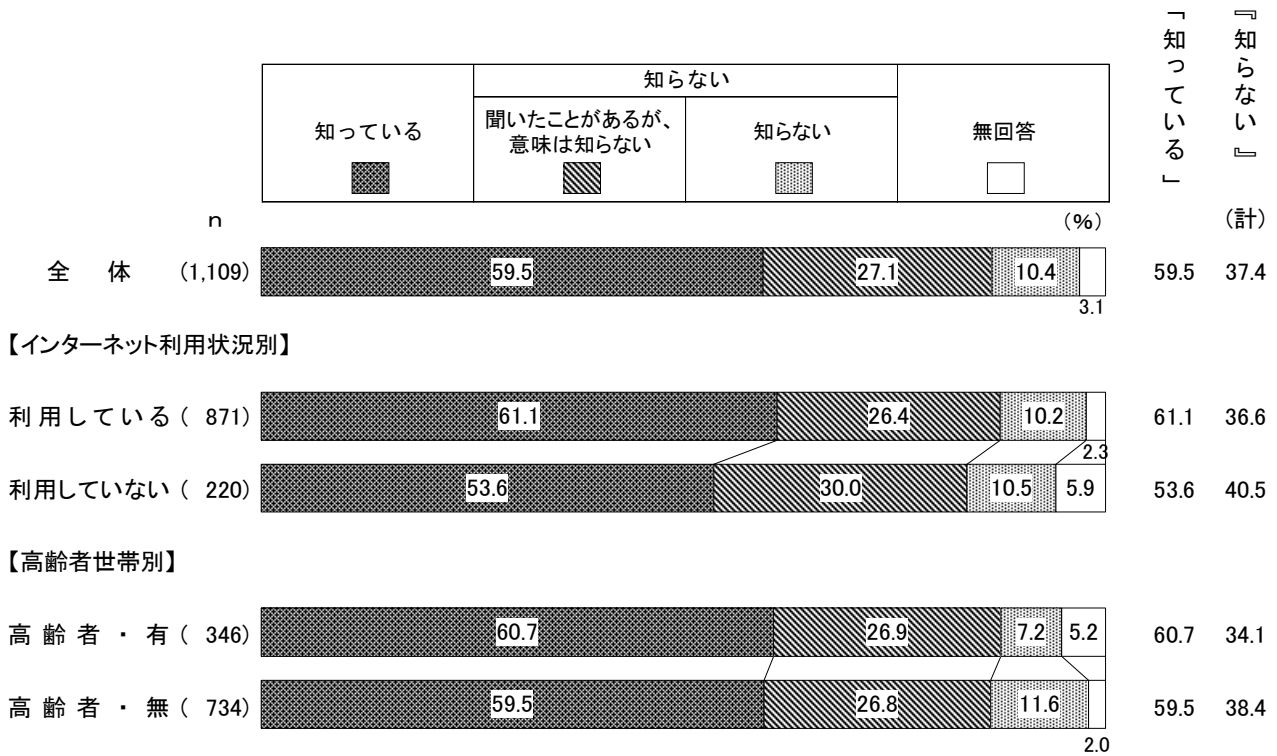
図5-2 「在宅医療」についての認知度（性別、性・年代別）



性別にみると、「知っている」は女性が男性より 13.2 ポイント高くなっている。一方、「知らない」は男性が女性より 5.4 ポイント高くなっており、「聞いたことがあるが、意味は知らない」と「知らない」を合わせた『知らない』では男性が女性より 11.4 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っている」は女性50歳代で7割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は女性20歳代と男性40歳代で約2割と高くなっており、『知らない』では男性の20歳代から40歳代で5割台と高くなっている。(図5-2)

図5-3 「在宅医療」についての認知度（インターネット利用状況別、高齢者世帯別）



インターネット利用状況別にみると、「知っている」は“利用している”が“利用していない”より7.5ポイント高くなっている。

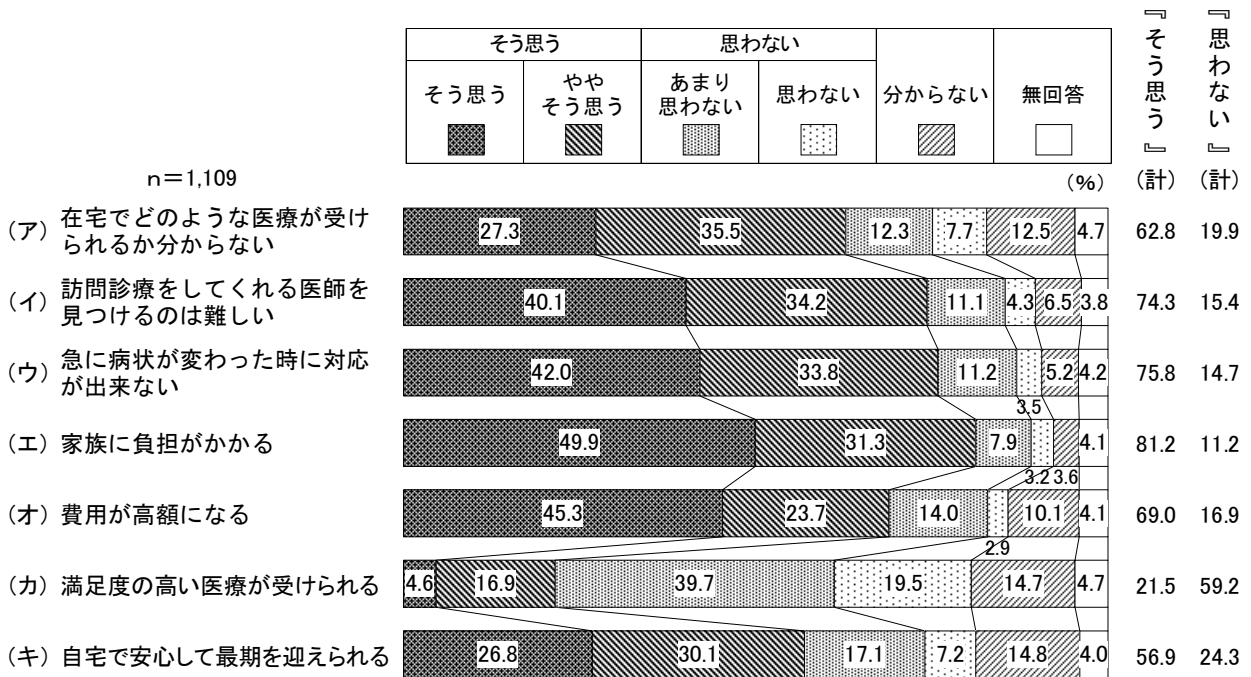
高齢者世帯別にみると、『知らない』は“高齢者・無”が“高齢者・有”より4.3ポイント高くなっている。(図5-3)

(2) 在宅医療に対するイメージ (2016年度新設)

問 53 あなたは在宅医療についてどのようなイメージをお持ちですか。

((ア) ~ (キ) についてそれぞれ1つに○)

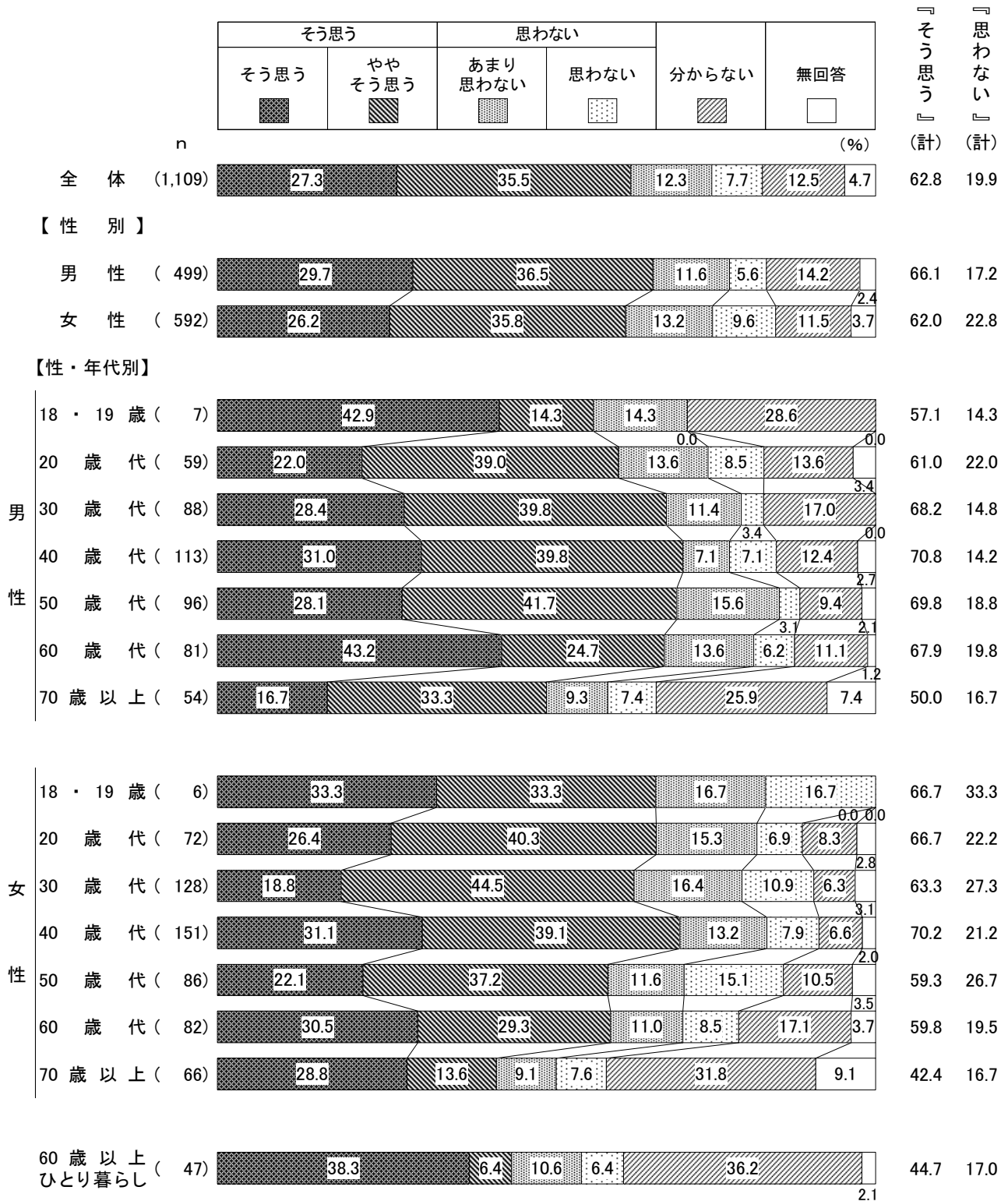
図5-4 在宅医療に対するイメージ



在宅医療に対するイメージを聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は、“(エ) 家族に負担がかかる” (81.2%) が8割を超えて最も高く、次いで“(ウ) 急に病状が変わった時に対応が出来ない” (75.8%)、“(イ) 訪問診療をしてくれる医師を見つけるのは難しい” (74.3%) となっている。一方、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『思わない』は、“(カ) 満足度の高い医療が受けられる” (59.2%) が約6割で最も高く、次いで“(キ) 自宅で安心して最期を迎えられる” (24.3%)、“(ア) 在宅でどのような医療が受けられるか分からない” (19.9%) となっている。(図5-4)

図5-5 在宅医療に対するイメージ（性別、性・年代別、60歳以上ひとり暮らし）

【(ア) 在宅でどのような医療が受けられるか分からない】



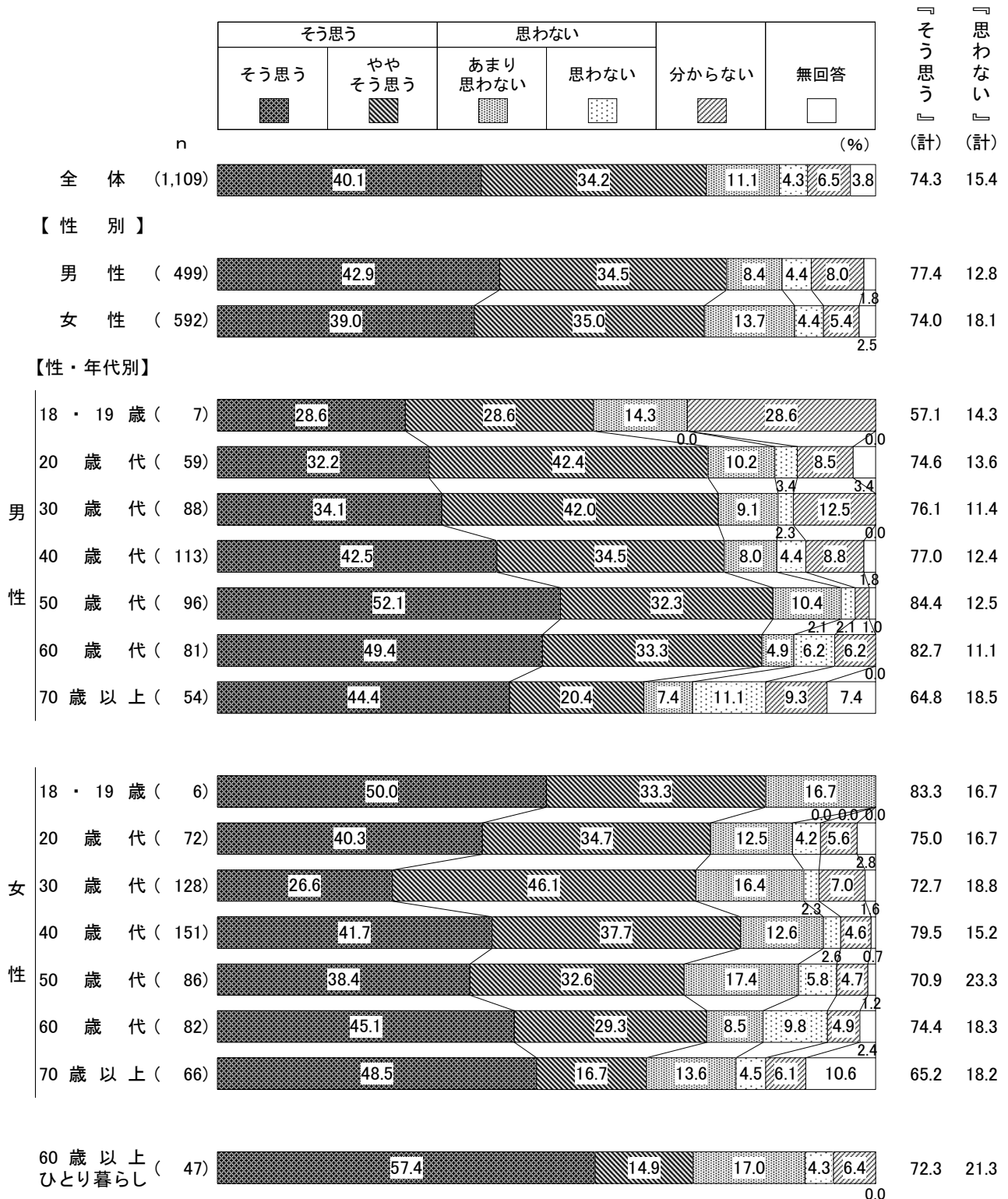
性別にみると、『そう思う』は男性が女性より4.1ポイント高くなっている。一方、『思わない』は女性が男性より5.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『そう思う』は男性の40歳代と50歳代、女性40歳代で約7割と高くなっている。一方、『思わない』は女性の30歳代と50歳代で3割近くと高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『そう思う』(44.7%)が4割半ばとなっている。(図5-5)

図5-6 在宅医療に対するイメージ（性別、性・年代別、60歳以上ひとり暮らし）

【(イ) 訪問診療をしてくれる医師を見つけるのは難しい】



性別にみると、『そう思う』は男性が女性より3.4ポイント高くなっている。一方、『思わない』は女性が男性より5.3ポイント高くなっている。

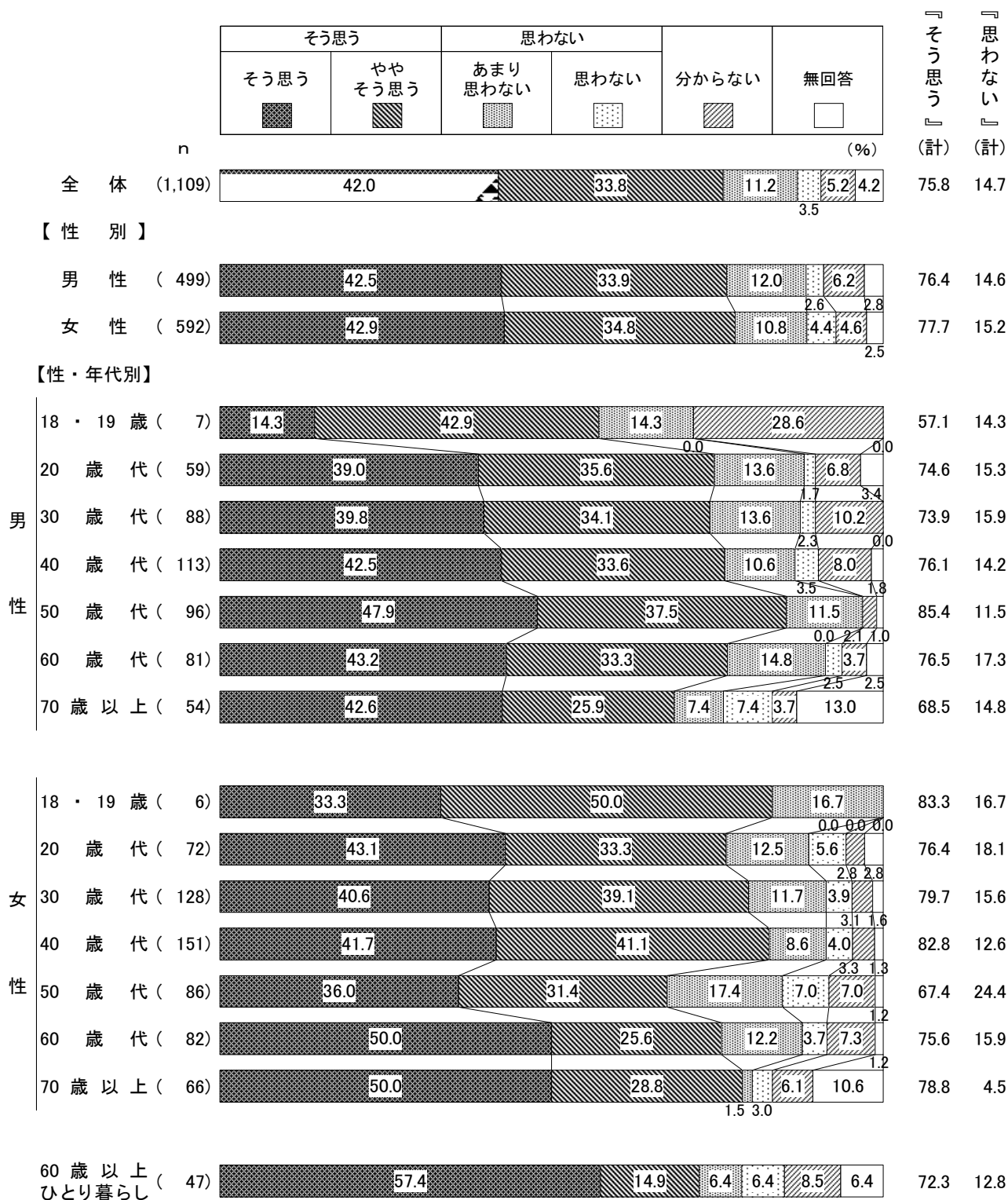
性・年代別にみると、『そう思う』は男性の50歳代と60歳代で8割台と高くなっている。一方、『思わない』は女性50歳代で2割を超えて高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『そう思う』(72.3%)が7割を超えている。(図5-6)



図5-7 在宅医療に対するイメージ（性別、性・年代別、60歳以上ひとり暮らし）

【(ウ) 急に病状が変わった時に対応が出来ない】

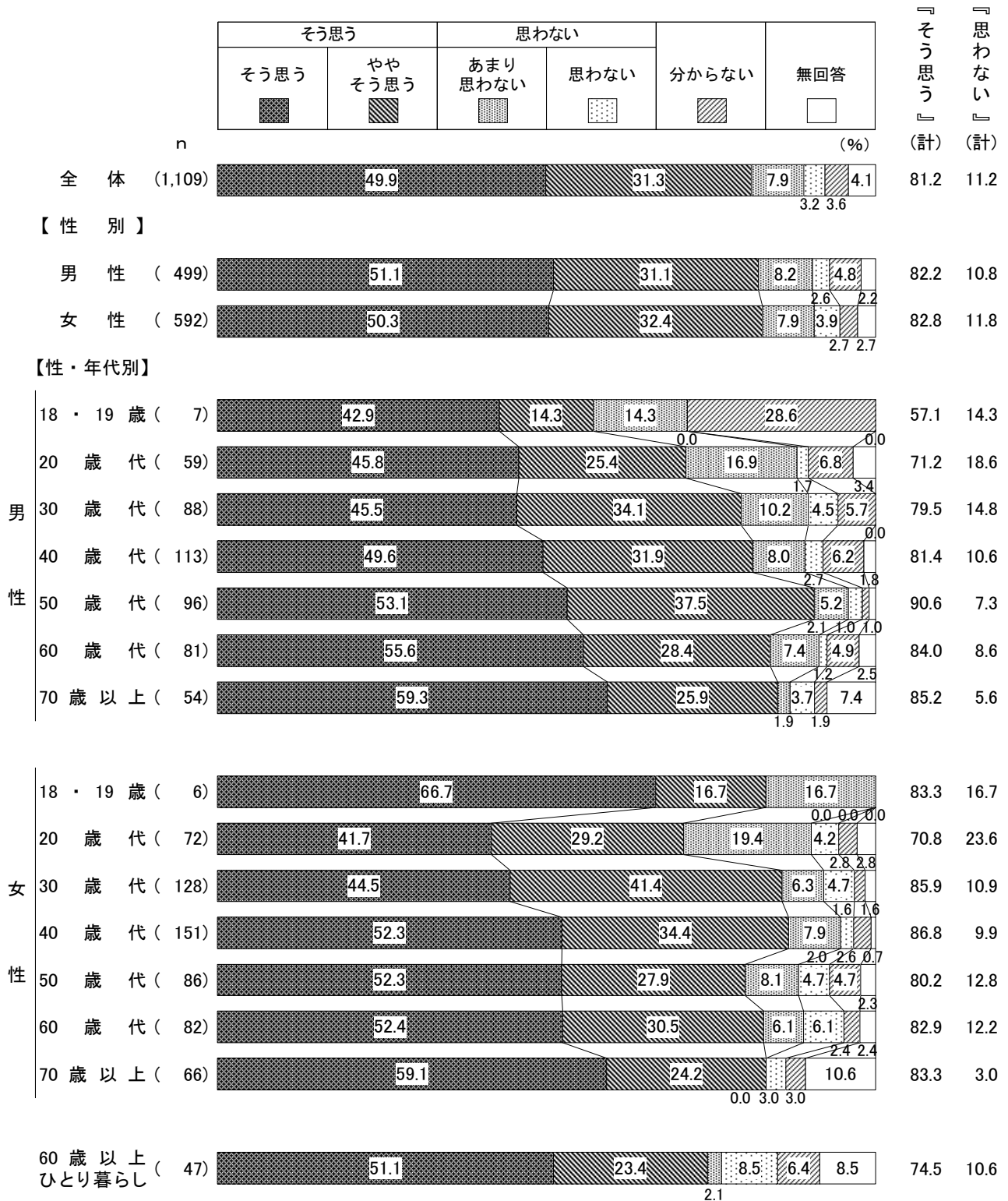


性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、『そう思う』は男性50歳代と女性40歳代で8割台と高くなっている。一方、『思わない』は女性50歳代で2割半ばと高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『そう思う』(72.3%)が7割を超えている。(図5-7)

図5-8 在宅医療に対するイメージ（性別、性・年代別、60歳以上ひとり暮らし）  
【(エ) 家族に負担がかかる】

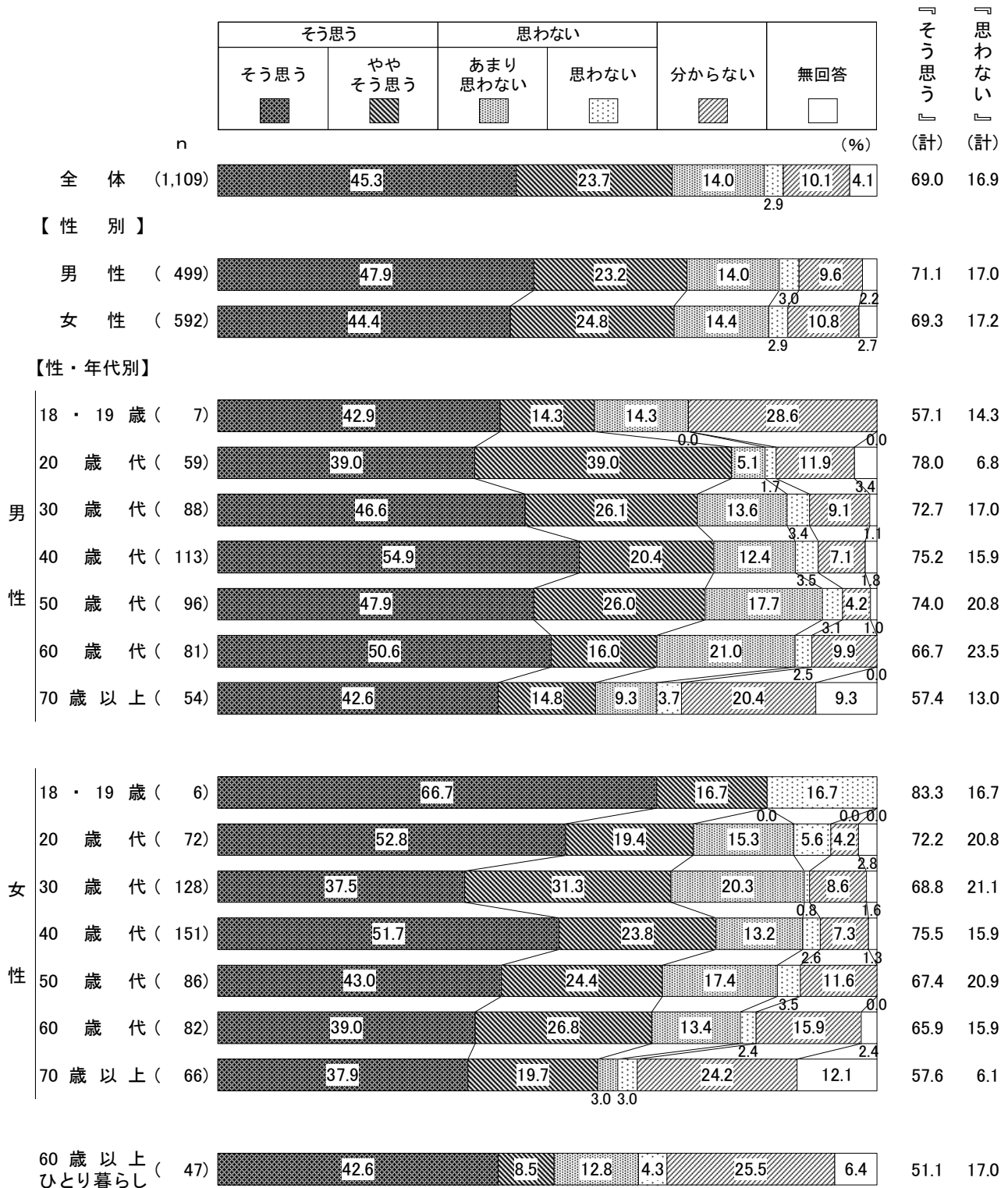


性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、『そう思う』は男性50歳代で約9割と高くなっている。一方、『思わない』は女性20歳代で2割を超えて高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『そう思う』(74.5%)が7割半ばとなっている。(図5-8)

図5-9 在宅医療に対するイメージ（性別、性・年代別、60歳以上ひとり暮らし）  
【(オ) 費用が高額になる】



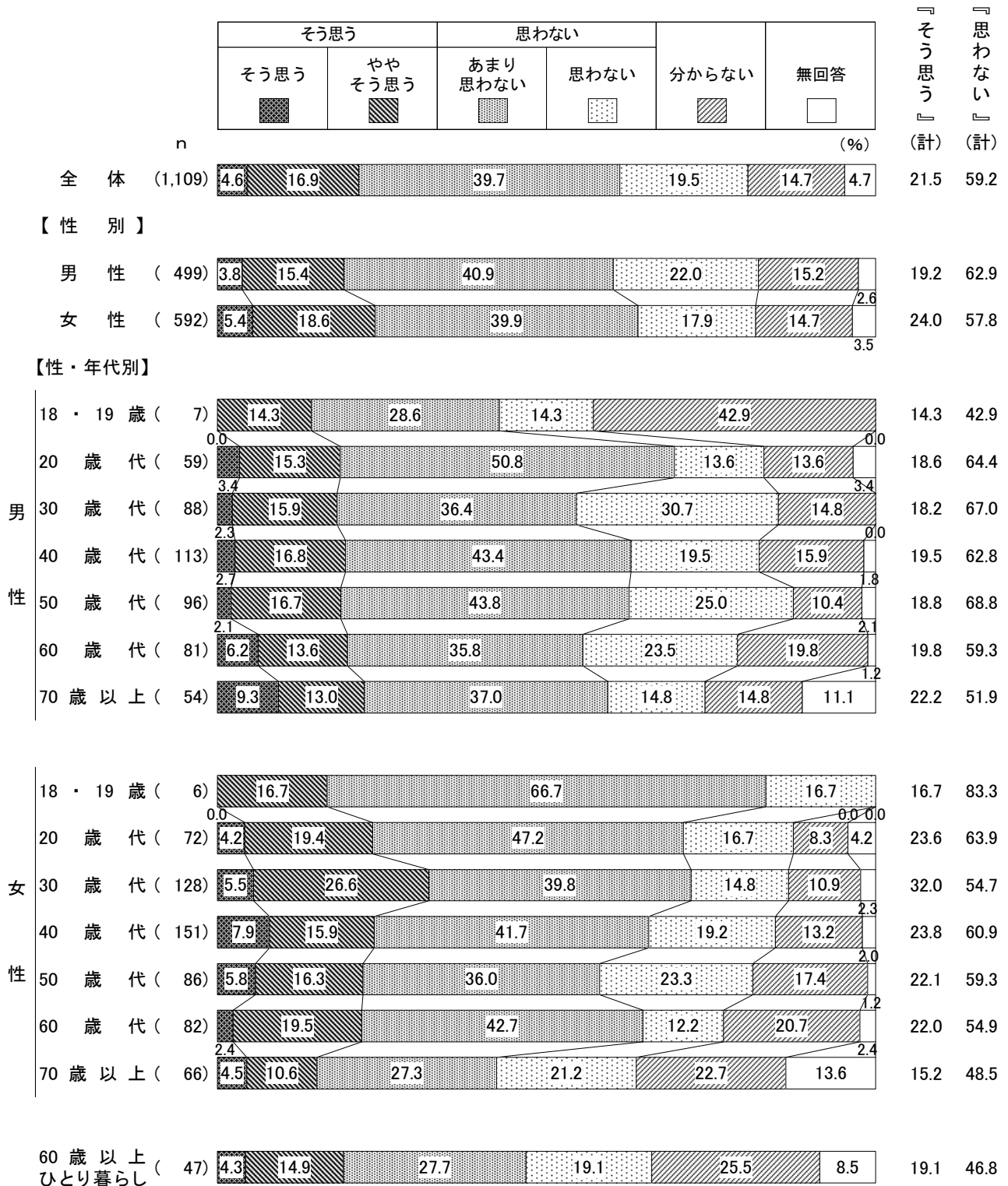
性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、『そう思う』は男性20歳代で8割近くと高くなっている。一方、『思わない』は男性の50歳代と60歳代、女性の20歳代、30歳代、50歳代で2割台と高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『そう思う』(51.1%)が5割を超えている。(図5-9)

図5-10 在宅医療に対するイメージ（性別、性・年代別、60歳以上ひとり暮らし）

【(カ) 満足度の高い医療が受けられる】



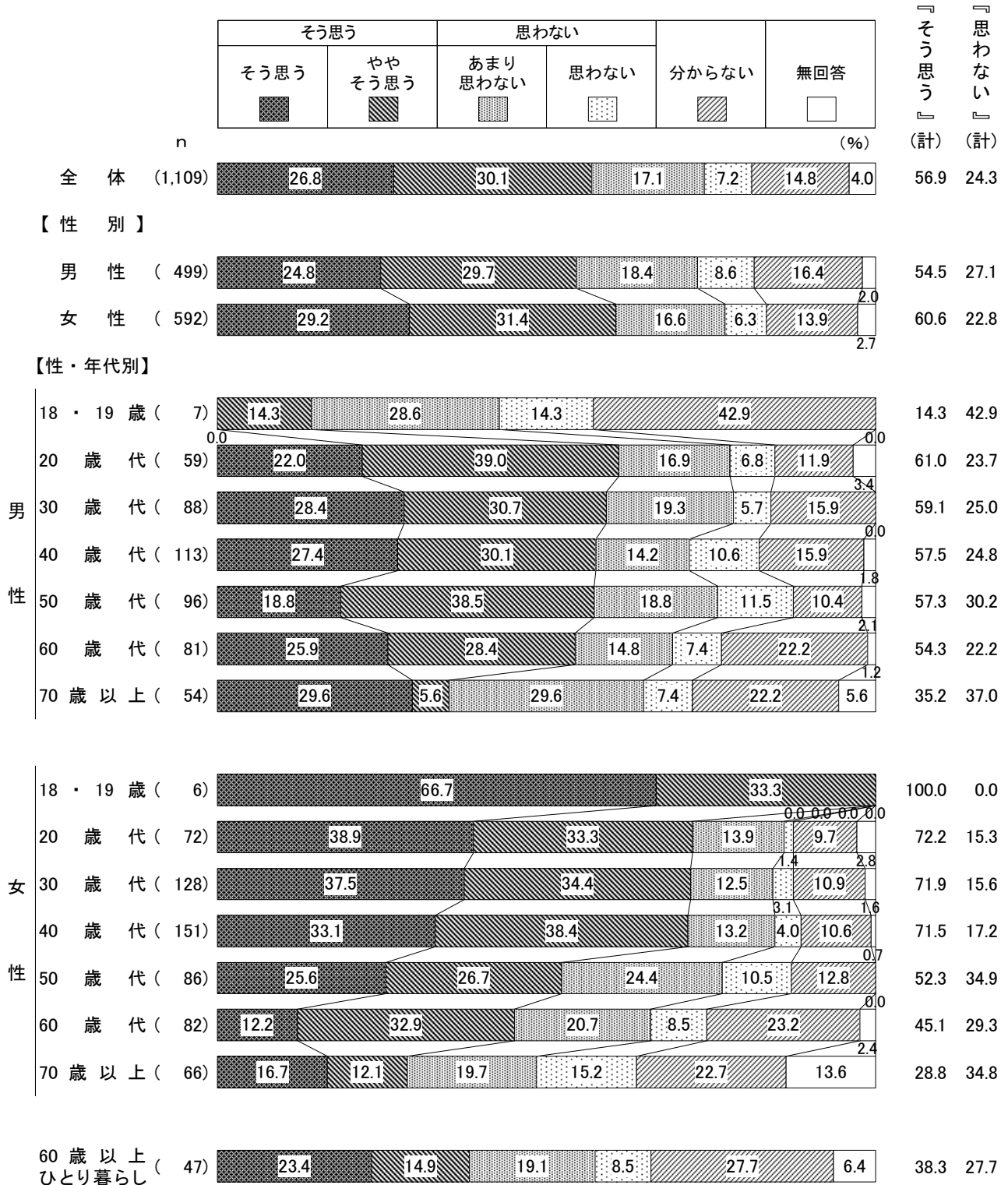
性別にみると、『そう思う』は女性が男性より4.8ポイント高くなっている。一方、『思わない』は男性が女性より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『そう思う』は女性30歳代で3割を超えて高くなっている。一方、『思わない』は男性の30歳代と50歳代で7割近くと高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『思わない』(46.8%)が5割近くとなっている。(図5-10)

図5-11 在宅医療に対するイメージ（性別、性・年代別、60歳以上ひとり暮らし）

【(キ) 自宅で安心して最期を迎えられる】



性別にみると、『思う』は女性が男性より6.1ポイント高くなっている。一方、『思わない』は男性が女性より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『思う』は女性の20歳代から40歳代で7割を超えて高くなっている。一方、『思わない』は男女ともに50歳代と70歳以上で3割台と高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、『思う』(38.3%)が4割近くとなっている。(図5-11)

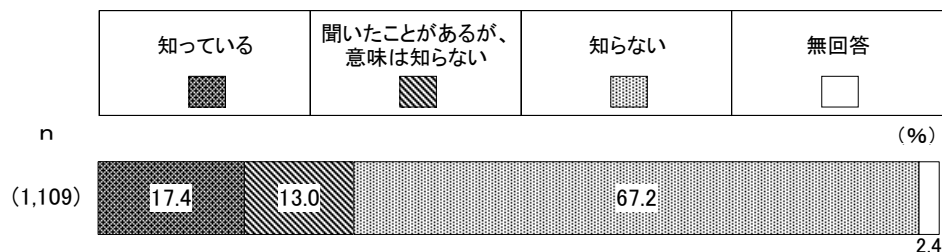
(3) 「リビング・ウィル」についての認知度 (2016年度新設)

問 54 あなたは、「リビング・ウィル」という言葉とその意味を知っていますか。

(1つだけ○)

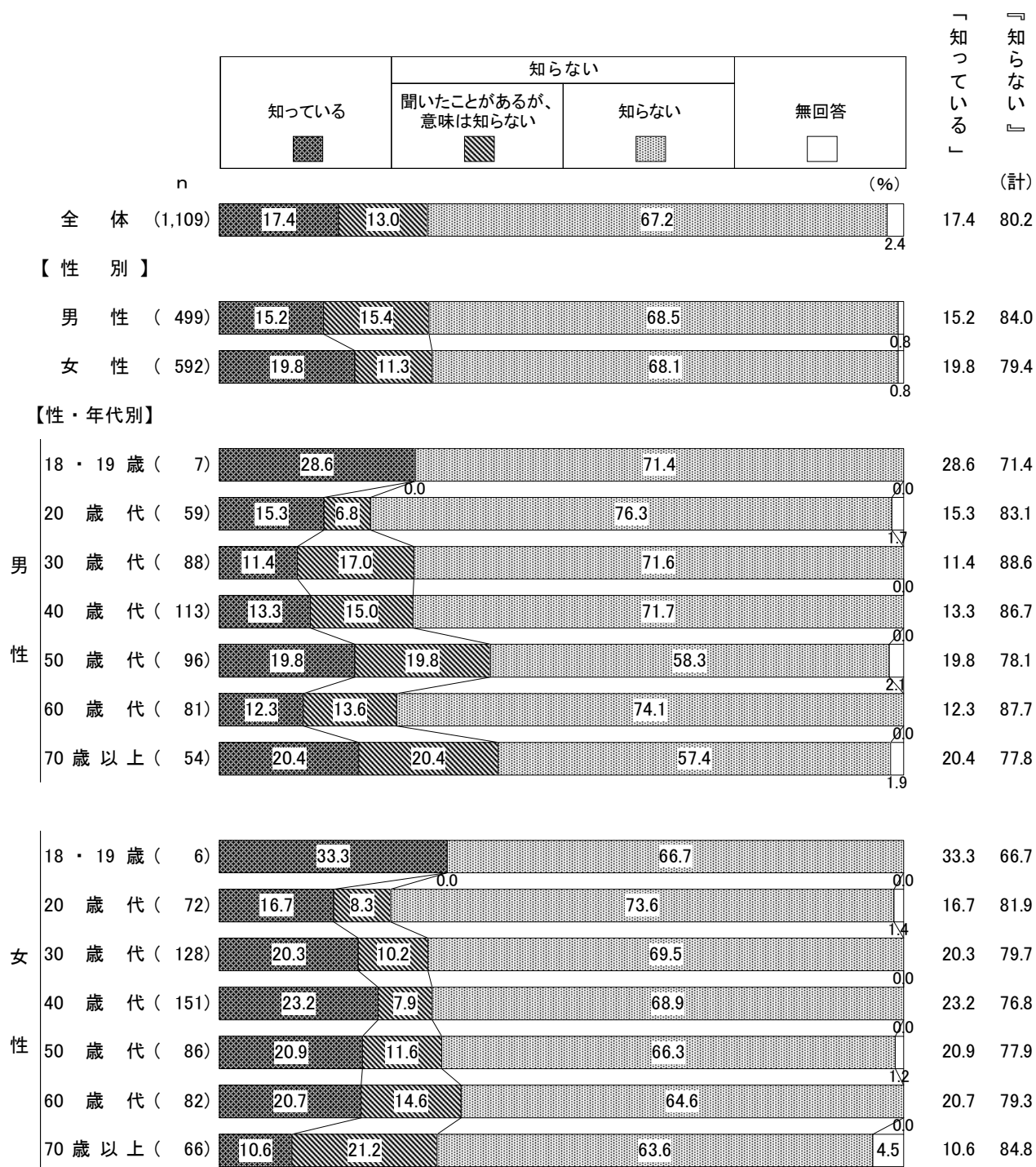
※「リビング・ウィル」・・・医療スタッフや家族が判断に困らないように、判断能力がある時に、意思表示が出来なくなった場合に自分自身が受けたい医療をあらかじめ書面等で示しておくこと。

図 5-12 「リビング・ウィル」についての認知度



「リビング・ウィル」について聞いたところ、「知っている」(17.4%)が2割近く、「聞いたことがあるが、意味は知らない」(13.0%)は1割を超えている。また、「知らない」(67.2%)は7割近くとなっている。(図 5-12)

図5-13 「リビング・ウィル」についての認知度（性別、性・年代別）

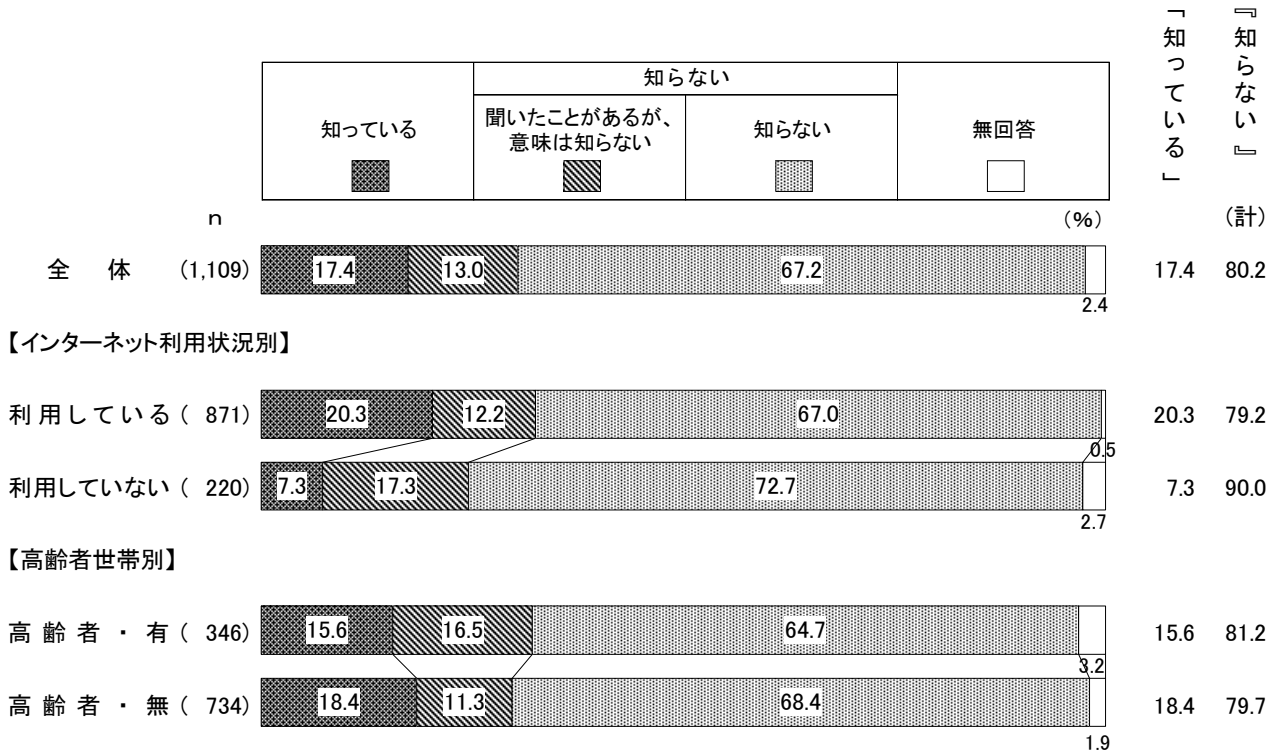


性別にみると、「知っている」は女性が男性より4.6ポイント高くなっている。一方、「聞いたことがあるが、意味は知らない」は男性が女性より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「知っている」は女性の30歳代から60歳代と男性70歳以上で2割台と高くなっている。一方、「聞いたことがあるが、意味は知らない」と「知らない」を合わせた『知らない』は男性の20歳代から40歳代と60歳代、女性の20歳代、70歳以上で8割台と高くなっている。

(図5-13)

図5-14 「リビング・ウィル」についての認知度（インターネット利用状況別、高齢者世帯別）



インターネット利用状況別にみると、「知っている」は“利用している”が“利用していない”より13.0ポイント高くなっている。一方、『知らない』は“利用していない”が“利用している”より10.8ポイント高くなっている。

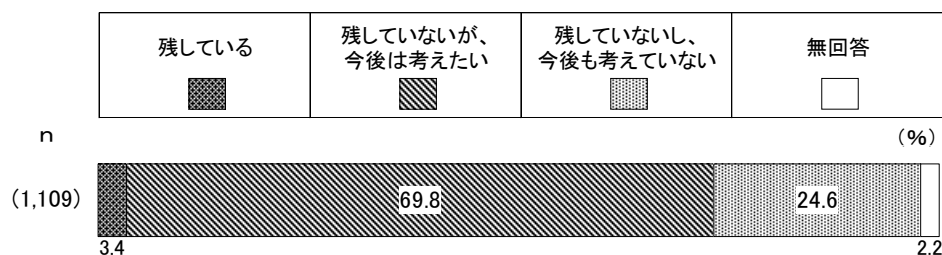
高齢者世帯別にみると、「聞いたことがあるが、意味は知らない」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より5.2ポイント高くなっている。一方、「知らない」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より3.7ポイント高くなっている。(図5-14)



(4) 万一の事態に備えての希望や伝言 (2016年度新設)

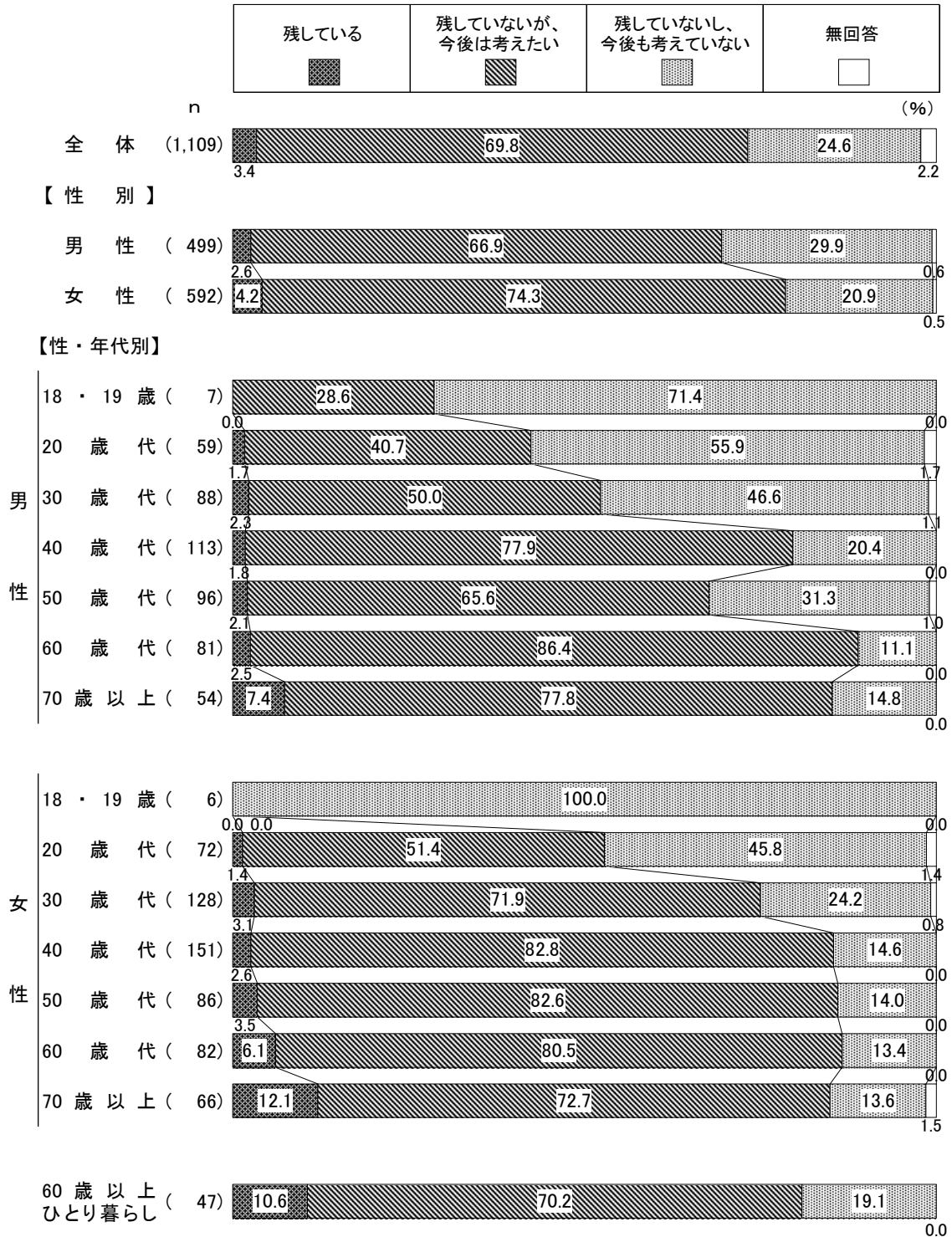
問 55 あなたは人生の終盤に起こりうる万一の事態に備えて、治療や介護、葬儀などについての自分の希望や、家族への伝言などを、エンディングノートなどを利用して残していますか。(1つだけ○)

図 5-15 万一の事態に備えての希望や伝言



万一の事態に備えての希望や伝言を残しているか聞いたところ、「残している」(3.4%)はわずかであり、「残していないが、今後は考えたい」(69.8%)が7割となっている。また、「残していないし、今後も考えていない」(24.6%)は2割半ばとなっている。(図5-15)

図5-16 万一の事態に備えての希望や伝言（性別、性・年代別、60歳以上ひとり暮らし）



性別にみると、「残していないが、今後は考えたい」は女性が男性より 7.4 ポイント高くなっている。一方、「残していないし、今後も考えていない」は男性が女性より 9.0 ポイント高くなっている。

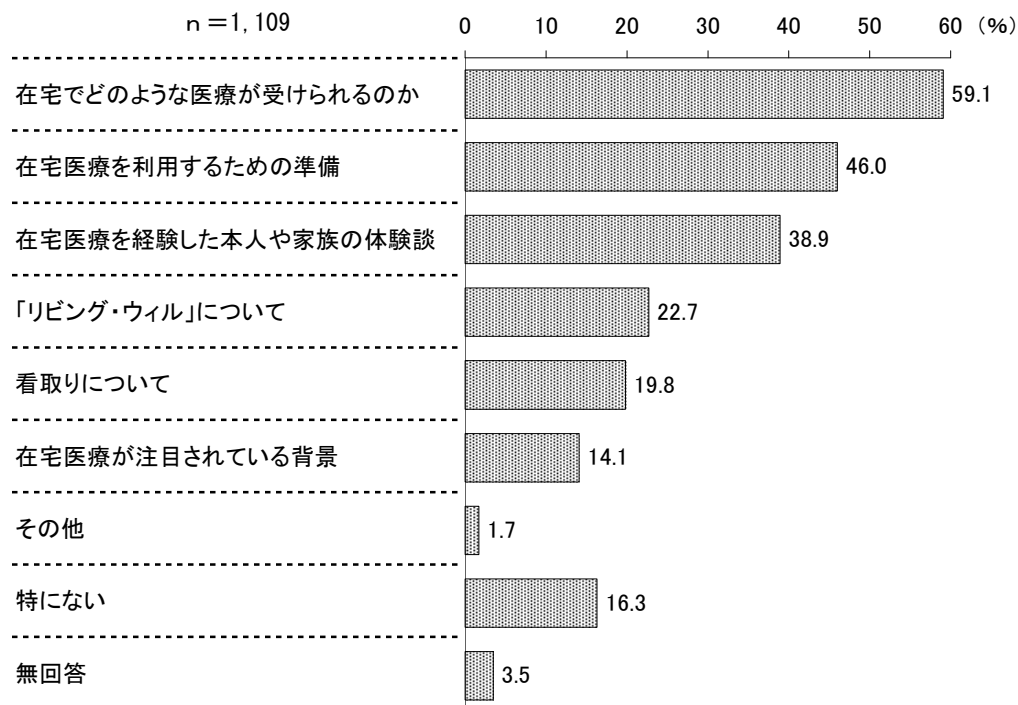
性・年代別にみると、「残している」は女性 70 歳以上で 1 割を超えている。「残していないが、今後は考えたい」は男性 60 歳代と女性の 40 歳代から 60 歳代で 8 割を超えて高くなっている。「残していないし、今後も考えていない」は男性の 30 歳代以下の年代と女性の 20 歳代以下の年代で 4 割半ばを超えて高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「残している」(10.6%) が約 1 割となっている。(図5-16)

(5) シンポジウムで聞いてみたい内容 (2016年度新設)

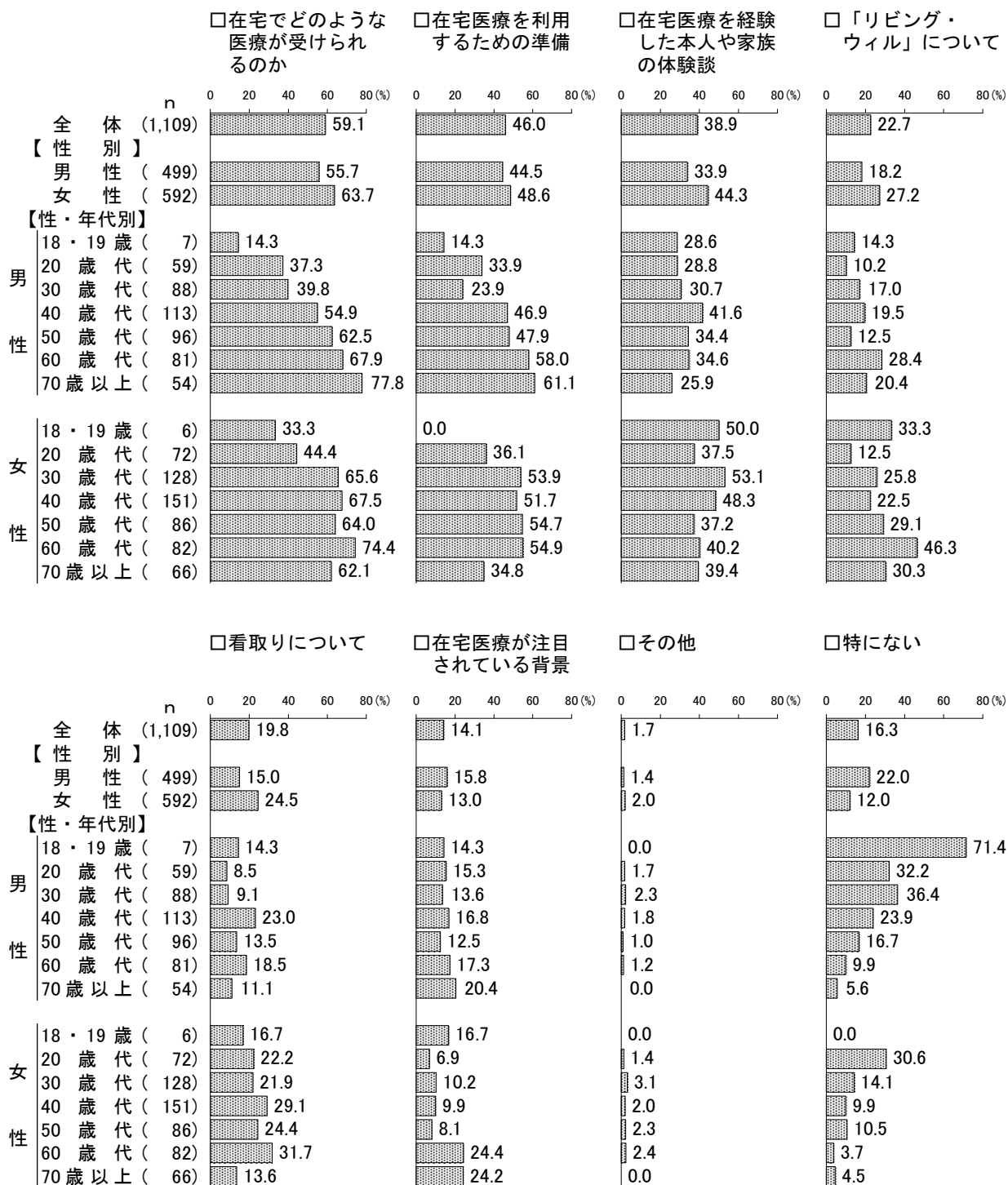
問 56 高津区では平成 26 年度から在宅医療をテーマにしたシンポジウムを開催しています。シンポジウムでどのような内容を聞いてみたいですか。(いくつでも○)

図 5-17 シンポジウムで聞いてみたい内容



シンポジウムで聞いてみたい内容を聞いたところ、「在宅でどのような医療が受けられるのか」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「在宅医療を利用するための準備」(46.0%)、「在宅医療を経験した本人や家族の体験談」(38.9%)、「『リビング・ウィル』について」(22.7%)となっている。(図5-17)

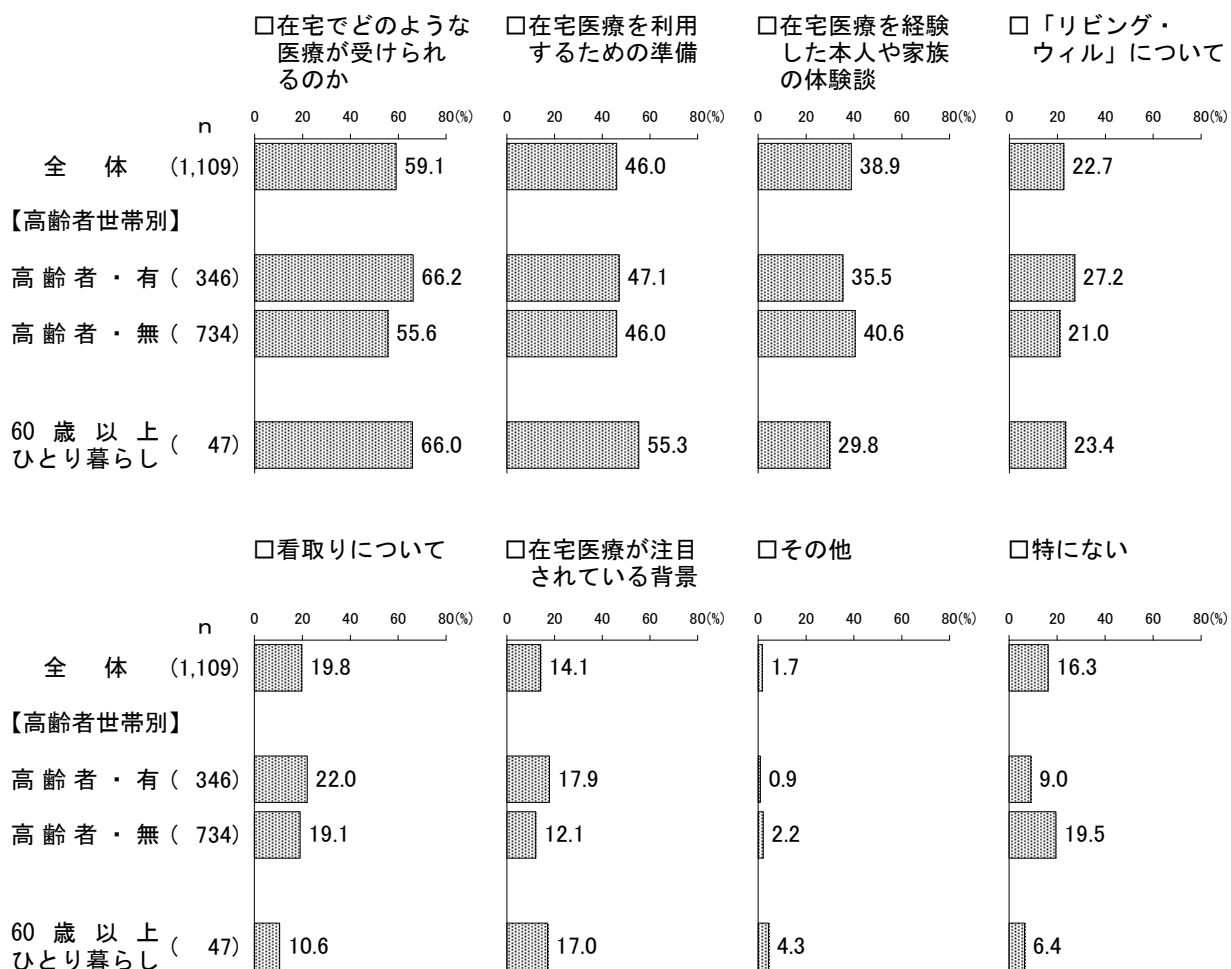
図5-18 シンポジウムで聞いてみたい内容（性別、性・年代別）



性別にみると、「在宅医療を経験した本人や家族の体験談」は女性が男性より 10.4 ポイント、「看取りについて」は女性が男性より 9.5 ポイント、「『リビング・ウィル』について」は女性が男性より 9.0 ポイント、「在宅でどのような医療が受けられるのか」は女性が男性より 8.0 ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「在宅でどのような医療が受けられるのか」は男性では年代が上がるほど割合が高く、男性 70 歳以上で 8 割近くとなっており、女性では 60 歳代で 7 割半ばと高くなっている。「在宅医療を利用するための準備」は男性 70 歳以上で 6 割を超えて高くなっている。(図 5-18)

図5-19 シンポジウムで聞いてみたい内容（高齢者世帯別、60歳以上ひとり暮らし）



高齢者世帯別にみると、「在宅でどのような医療が受けられるのか」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より10.6ポイント、「『リビング・ウィル』について」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より6.2ポイント、「在宅医療が注目されている背景」は“高齢者・有”が“高齢者・無”より5.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「在宅医療を経験した本人や家族の体験談」は“高齢者・無”が“高齢者・有”より5.1ポイント高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし世帯では、「在宅でどのような医療が受けられるのか」(66.0%)が6割半ばを超えて最も高く、次いで「在宅医療を利用するための準備」(55.3%)となっている。(図5-19)

## IV 使用した調査票

# 高津区区民生活に関わるニーズ調査

2016年10月

高津区では、区政を進める上での参考資料を得ることを目的として、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を実施いたします。

今年度の実施に当たり、全区民の方々を対象に、偏ることのないよう統計的な方法（住民基本台帳から無作為抽出）で選ばせていただきましたところ、あなた様にご意見をお伺いすることになりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力の程お願い申し上げます。

調査の結果は、「こういう方々のご意見が何パーセント」というように数表としてまとめますので、あなた様のお名前が外部に洩れたり、ご意見をお聞きしたことでご迷惑をおかけするようなことは絶対にございません。ご安心ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに、**10月31日（月）**までにご投函ください。

なお、調査結果につきましては、2017年3月頃に、区役所ホームページに掲載するほか、区役所閲覧用の調査結果報告書を設置する予定です。

～ご記入に際してのお願い～

1. アンケートのご回答は、必ずご本人が行ってください。
2. ご回答は、次の要領で行ってください。
  - 各項目について、お気軽に感じたままをお答えください。
  - 回答項目のうち、あてはまると思われる番号に○をつけてください。
  - の数は、（3つまで○）（いくつでも○）といった（ ）内の指示に合わせてつけてください。
  - 「その他」の（ ）内や  内には、ご意見を具体的にお書きください。

この調査についてご不明な点等がございましたら、下記までお気軽にお問合せください。

川崎市高津区役所 まちづくり推進部企画課

電 話 044-861-3131

FAX 044-861-3103

【第1部 通常アンケート】

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(いくつでも○)

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(いくつでも○)

	問1 よくやっている と思うもの (いくつでも○)	問2 特に力を入れて ほしいと思うもの (いくつでも○)
回答例 →	①	①
(1) 放置自転車対策	1	1
(2) 交通事故防止対策	2	2
(3) 路上喫煙防止対策	3	3
(4) 街頭犯罪の防止	4	4
(5) 地震や風水害への対策	5	5
(6) 駅周辺の環境整備	6	6
(7) 道路、歩道の整備	7	7
(8) 緑地の整備	8	8
(9) 水辺の整備	9	9
(10) 建築、開発計画、景観ルールなどまちづくりに関する相談・支援	10	10
(11) 健康づくりに関する事業	11	11
(12) 高齢者関係の事業	12	12
(13) 子どもや子育ての支援	13	13
(14) 心身の不自由な人の支援	14	14
(15) 地域の住民同士のつながりを深める事業	15	15
(16) 市民活動の支援	16	16
(17) 区の広報の充実	17	17
(18) 区の広聴 <sup>*1</sup> の充実	18	18
(19) 花と緑のまちづくりの推進	19	19
(20) 文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催	20	20
(21) スポーツの振興	21	21
(22) 区のイメージアップ	22	22
(23) 地域の魅力を生かした事業	23	23
(24) 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みづくり	24	24
(25) 区役所の窓口サービスの向上	25	25



	問 1	問 2
	よくやっている と思うもの (5つくらい) (○も)	特に力を入れて ほしいと思うもの (5つくらい) (○も)
(26) 地球温暖化対策に関する事業	26	26
(27) 区内在住の外国人に対する支援	27	27
(28) 生涯学習 <sup>※2</sup> の支援・推進	28	28
(29) 地域包括ケアシステム <sup>※3</sup> の推進	29	29
(30) 特になし	30	30
(31) わからない	31	31
(32) その他 ( )	32	32

※1) 広聴：行政機関などが広く一般の人の意見や要望などを聞くこと

※2) 生涯学習：人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習

※3) 地域包括ケアシステム：住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、自助・互助・共助・公助の適切な役割分担のもと、住まい・医療・介護・予防・福祉・生活支援などが切れ目なく、一体的に提供される体制づくり

問3 放置自転車対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

1 駅周辺に駐輪場を整備・増設する	6 バス・電車など公共交通機関の利用を促す
2 放置自転車の撤去を強化する	7 駅まで歩くように啓発する
3 整理誘導員による指導を強化する	8 過料・罰金を科す
4 自転車利用者へマナーを啓発する	9 その他 ( )
5 自転車共用システム <sup>※</sup> を導入する	

※) 自転車共用システム：共用の自転車を用意し、システムに登録した人がその自転車を利用できるようにする。自宅からの利用者は、共用の自転車に乗り、駅前の駐輪場に停める。駅から駅周辺の会社・学校に通う人がその自転車を利用することにより、駐輪場に停めておく自転車を減少させるというもの。

問4 街頭犯罪などを防止するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1 住民が自分たちで地域をパトロールする      | 6 広報物などにより防犯の啓発活動をする |
| 2 区内で発生する犯罪情報を発信する        | 7 防犯灯を増設する           |
| 3 防犯教室を開催する               | 8 防犯カメラを増設する         |
| 4 防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする | 9 その他 ( )            |
| 5 地域の危険箇所を記した安全マップを作成する   |                      |

問5 地震や風水害への対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| 1 防災訓練を充実させる         | 6 防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する |
| 2 被災時に必要な物資を充実させる    | 7 耐震診断を充実させる                 |
| 3 消火や救命活動のできる人材を育成する | 8 地域の防災組織の活性化を図る             |
| 4 地域のつながりの充実を図る      | 9 その他 ( )                    |
| 5 防災に関する啓発活動を行う      |                              |

問6 区民の健康づくりを推進していくためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 健康づくりに関する情報を提供する       | 5 禁煙相談をする             |
| 2 健康づくりに関する講座・イベントを開催する  | 6 健康診断受診について啓発する      |
| 3 市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する | 7 レストランや食品の栄養表示を充実させる |
| 4 タバコの害から健康を守る啓発活動をする    | 8 その他 ( )             |

問7 高齢者を支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 高齢者が集まれる場所をつくる          | 5 悩みなどの相談を受け付ける場を設ける  |
| 2 高齢者が活躍できる機会をつくる         | 6 送迎サービス・ボランティアの拡充を図る |
| 3 高齢者の支援などに関する情報を提供する     | 7 配食サービスを充実させる        |
| 4 ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する | 8 高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する |
|                           | 9 その他 ( )             |

問8 子どもや子育てを支援するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 子どもや子育てに関する情報を発信する
- 2 子どもの遊び場を提供する
- 3 子育て中の親が交流できる場を提供する
- 4 家事を補助する仕組みを作る
- 5 区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る
- 6 幼稚園・保育園等の施設を増設する
- 7 保育園における保育の質を向上させる
- 8 子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する
- 9 子どもや青少年の育ちを支援するような講座等を開催する
- 10 その他 ( )

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する
- 2 既存の公園を活用して、地域住民が参加できるようなイベントを開催する
- 3 身近に集い、憩える場所を作る
- 4 「地域のコミュニティ」というテーマで講演会・シンポジウムを開催する
- 5 地域の活動（清掃、花壇の管理など）を通して、地域の連帯感を深める
- 6 町内会、自治会の活動を行政が支援する
- 7 小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会（イベント等）をつくる
- 8 その他 ( )

問10 市民活動の支援としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 活動資金を助成する                 | 4 市民活動の情報を共有する      |
| 2 団体同士が交流する機会を設ける           | 5 区内で活動する人材バンクをつくる  |
| 3 市民団体が印刷や打合せができる場<br>所を設ける | 6 有益な活動をしている団体を表彰する |
|                             | 7 その他 ( )           |

問11 区の情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- |                                  |                |
|----------------------------------|----------------|
| 1 市政だより区版を拡充する                   | 6 チラシを様々な施設におく |
| 2 区の地図や主要施設を掲載したパンフ<br>レットを充実させる | 7 メールマガジンを発行する |
| 3 ホームページを充実させる                   | 8 タウン誌を活用する    |
| 4 SNS※を活用する                      | 9 町内会で回覧する     |
| 5 ポスターなどを掲示板に貼る                  | 10 その他 ( )     |

※) SNS：個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと

問 12 区民の要望を収集するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 「区役所にどのようなことを行ってほしいか」のアンケート調査を行う
- 2 公開の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く
- 3 「市長への手紙」だけでなく、区役所に気軽に直接要望を伝えられる制度をつくる
- 4 地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する
- 5 ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する
- 6 その他( )

問 13 花と緑のまちづくりを推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 街路樹による緑化を推進する
- 2 シンボルとなる魅力ある公園づくりをする
- 3 公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする
- 4 公園緑地や学校での環境教育・学習をする
- 5 ガーデニングなど個人的に活動している人を表彰する
- 6 その他( )

問 14 区の文化を振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 音楽会、コンサートを開く
- 2 映画鑑賞会を開く
- 3 伝統芸能に触れる機会を作る
- 4 「文化」をテーマとした講演会、シンポジウムを開く
- 5 区内の文化財・史跡を巡る催しを開く
- 6 区の文化に関する冊子などを作成する
- 7 区民参加型の文化イベントを開催する
- 8 区内で文化活動を行う人を支援する
- 9 区における文化拠点をつくる
- 10 その他( )

問 15 高津区において「音楽のまち」を推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 区役所などの公共施設でコンサートを開催する
- 2 市民の音楽活動の発表の場を設ける
- 3 路上で歌うミュージシャンを支援する
- 4 小学校、中学校に音楽教育をする
- 5 区のイメージソングを作成する
- 6 区民の音楽団体の活動を支援する
- 7 良質な音楽イベントを誘致する
- 8 その他( )

問 16 区のイメージアップを図るためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 区を紹介する広報誌を発行する
- 2 高津区を特徴づけるイベントを開催する
- 3 駅前など人が多く集まるところをきれいにする
- 4 区内に花や緑を増やす
- 5 名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する
- 6 高津区のイメージキャラクターをつくる
- 7 その他 ( )

問 17 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 窓口案内人 (コンシェルジュ) を配置する
- 2 窓口の案内表示を分かりやすくする
- 3 申請書の書き方を分かりやすくする
- 4 土曜・日曜・祝日に窓口を開く
- 5 職員の窓口対応を区民が評価する
- 6 職員に接客方法の研修を受けさせる
- 7 区役所の窓口に通わず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす
- 8 その他 ( )

問 18 区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組みとしては、どのようなものがよいでしょうか。  
(3つまで○)

- 1 区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者 (区民) と区役所で協力して実施する
- 2 区役所が区民ボランティアを募集する
- 3 電子会議室 (掲示板) を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする
- 4 区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる
- 5 若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる
- 6 その他 ( )

問 19 地域における地球温暖化対策としては、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 環境問題について啓発するため、環境に関する体験型イベントを開催する
- 2 区内小学校等において、環境教育・学習を推進する
- 3 区内の環境に関する技術開発をしている企業等を支援する
- 4 区内に花や緑を増やす
- 5 地球温暖化適応策※を推進する
- 6 その他 ( )

※) 地球温暖化適応策：ゲリラ豪雨による洪水や土砂崩れなどの地球温暖化の影響に「適応」するための取り組み(雨水の貯留や地面の保水力向上など)

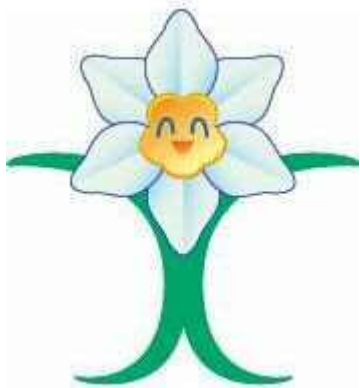
問 20 スポーツを振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 気軽に参加できるスポーツイベントを開催する
- 2 有名選手や指導者によるスポーツ教室や講習会を開催する
- 3 スポーツに関する情報提供を充実させる
- 4 スポーツ施設や気軽に運動できる場所を充実させる
- 5 地域のクラブやサークルの活動を活性化する
- 6 スポーツ指導者の育成をする
- 7 スポーツに係るボランティアの育成をする
- 8 その他 ( )

問 21 生涯学習※の支援や推進をするためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで○)

- 1 講座やイベントを開催する
- 2 生涯学習に関する情報を提供する
- 3 自主グループや団体の生涯学習活動を支援する
- 4 生涯学習活動を支援するボランティアを育成する
- 5 地域人材を講師として活用する
- 6 その他 ( )

※) 生涯学習：人々が生涯にわたって、様々な場や機会において行う学習



高津公園体操イメージキャラクター スイセンくん

問 22 あなたのまち（お住まいの地域や区内の生活圏）の課題・問題点と思うものは何ですか。  
(いくつでも○)

- 1 地震や風水害に対する準備が不足している
- 2 小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある
- 3 路上喫煙や歩きたばこが多い
- 4 駅周辺に放置自転車が多い
- 5 道路や歩道の整備が不十分である
- 6 駅前広場の整備が不十分である
- 7 駅までの交通の利便性がよくない
- 8 高齢者を地域ぐるみで支える仕組みが不十分である
- 9 近所に公園が少ない
- 10 公園の維持管理が行き届いていない
- 11 子どもや子育てを地域ぐるみで支援する仕組みが不十分である
- 12 まちに木や草花など、緑が少なくなっている
- 13 水辺に親しめる環境がない
- 14 ごみの散乱や壁への落書きなど、まちが汚い
- 15 ごみの分け方や出し方などのルールが守られていない
- 16 カラスによる人への威嚇やごみの散乱などの被害が多い
- 17 商店街に活気がない
- 18 地域の中で住宅と工場が混在し、周辺の問題がある
- 19 名所・旧跡などの地域の魅力が知られていない
- 20 近隣の住民同士の関係が薄れている
- 21 シニア世代が地域に貢献できる仕組みがない
- 22 その他 ( )
- 23 特になし
- 24 わからない

問 23 区役所に希望すること、期待することをご自由に記入してください。

**【第2部 事業に対する認知度・評価】**

あなたは高津区に行っている事業についてご存知でしょうか。事業の認知度およびその事業の評価について該当するものに○をつけてください。(○は各1つだけ。認知度について、選択肢1を選んだ方のみ評価について○をつけてください)

**問24 「エコシティたかつ」推進事業**

内容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化などの環境問題に取り組む「エコシティたかつ」推進方針に沿って、緑ヶ丘霊園内の森の整備を進めるなどする「たかつ水と緑の探検隊」や区内小学校においてビオトープを整備し、それを活用した環境学習支援を行う「学校流域プロジェクト」など様々なプロジェクトを実施している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 内容まで知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

**問25 大山街道周辺整備活性化事業**

内容：地域と連携して取り組む大山街道周辺のまちづくりの目標や方向性をまとめた「高津大山街道マスタープラン」を平成21年3月に策定した。現在は、地域の皆さんと一緒にプランの実現に向けた具体的な取組みを進めるとともに、プロジェクトの情報を「大山街道アクションフォーラム」、ホームページ、チラシなどで広く受発信している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 内容まで知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

**問26 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業**

内容：橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取組みを推進する。平成21年3月に「たちばな農のあるまちづくり」推進方針を策定し、区内産野菜の地産地消推進などの取組みを行っている。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 内容まで知っている	2 聞いたことはある	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			



### 問 27 たかつ区健康福祉まつり

内容：区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に「てくのかわさき」で開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 28 健やか地域推進事業

内容：区内の関係機関やヘルスパートナー高津、町内会などの住民組織と連携し、住民が身近な公園などで「高津公園体操」を実施できるよう、地域ごとの研修会を実施している。また、普及啓発のため、地域住民や関係機関を対象に講演会などを実施するとともに、リーフレットの作成、DVD等の販売を行っている。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 29 高津区「音楽のまち」推進事業

内容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花コンサート」、区民参加型の音楽祭である「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 30 高津区子どもフェア

内容：子どもの健全育成を図るため、夏休み最後の日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、ダンボール舟のレース、うなぎ・どじょう・あゆの掴み取り、移動動物園、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 31 高津地区親子運動会事業

内容：毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子等を対象に運動会を行っている。町会対抗リレーやむかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 32 橘地区親子運動会事業

内容：毎年10月の第3日曜日に、橘中学校で橘地区の親子等を対象に運動会を行っている。100m競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 33 橘ふるさと祭り こどもイベント

内容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される橘ふるさと祭り（8月上旬の日曜日）において、移動動物園、ストラックアウト、おもちゃの釣り堀など子どもを対象としたイベントを実施している。また、ふるさと祭りの広報等のため、区内小学生によるポスターコンクールを実施し、優秀作品からポスターを作製するとともに、市バス車内や公共施設等へ掲出する。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 34 高津区文化振興事業

内容：区内の歴史的・文化的資源の活用により、地域の魅力を再認識する機会を提供し、ふるさと意識の醸成を図るため、区の歴史・地理・文化等についての学習とガイド養成を目的とした「高津のさんぽみちガイド養成講座」を実施している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 35 高津区まちづくり推進事業

内容：区民の参加と協働によるまちづくりの様々な取組みや活動団体のPRなどを目的に、キラリたかつニュースの発行、区内市民活動のポータルサイト「たかつまちねっと」の運営を行うとともに、市民活動見本市を開催している。また、「高津学」と題して、まちづくり講座の開催を行うなどしている。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 36 高津区総合ガイドマップ作成事業

内容：区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、防災情報、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 読んだことがある	2 あることは知っている	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 37 高津区区民会議

内容：区民の参加と協働による地域課題の解決に向けた調査審議を行うために、平成18年度から実施している。第5期区民会議では、「交通安全」や「防災・防犯」、「地域活性化」をテーマに取り組みを進め、現在第6期区民会議が始動している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

### 問 38 子育て情報発信事業 (あったかつうしん)

内容：子育て中の親の視点からニーズにあった情報発信を目的とし、区民と行政が協働で情報誌「あったかつうしん」を発行している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			

問 39 子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（情報ガイドブック））

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に区民協働で立ち上げた「ホットこそだて・たかつ」という情報ガイドブックを区民と協働で作成し、情報発信を行っている。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない	
	↓			
(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
	〈御意見〉			

問 40 子育て情報発信事業（ホットこそだて・たかつ（ホームページ））

内容：地域における子ども・子育て支援のより一層の充実を図ることを目的に、ホームページ「ホットこそだて・たかつ」にタイムリーな情報を掲載し、情報提供を行っている。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 見たことがある	2 知っているが見たことはない	3 知らない	
	↓			
(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
	〈御意見〉			

問 41 子ども・子育てフェスタ事業

内容：毎年11月の土曜日に高津市民館において開催し、親子で参加できる楽しいイベント、学習・講演会、地域子育てグループ等の紹介や交流会などを実施している。その中で、市民と行政との協働により子どもの育ちを支えあうネットワークづくりを行っている。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	↓			
(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
	〈御意見〉			

問 42 高津区地域連携スポーツ事業

内容：スポーツを通じた地域コミュニティの活性化や世代間交流、地域におけるスポーツ参加機会の拡充を図るため、親子そり体験や親子デイキャンプ体験、ファミリースポーツ縁日といったスポーツイベントを開催している。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない	
	↓			
(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない	4 良くない
	〈御意見〉			

問 43 高津区ふるさとアーカイブ事業

内容：高津区に親しみを持っていただくとともに高津区の歴史を次代に伝えるため、高津のまちに関する資料（写真等）を収集・活用していく方針を、平成23年度に「高津区ふるさとアーカイブ基本構想」として策定し、資料の収集やWEB・デジタルアーカイブの運用、ワークショップの開催等を行っている。

(1) 認知度 (○は1つだけ)	1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない	
	(1-1) 評価 (○は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない
	〈御意見〉			



国登録有形文化財 久地円筒分水

【第3部 区民意識アンケート】

特定のテーマについて、区民意識を把握するためのアンケート調査です。

＜地域防災について＞

地域防災推進の参考とするため、以下の設問にお答えください。

問44 現在お住まいの地域での大規模地震の発生について、あなたはどの程度不安ですか。  
(1つだけ○)

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1 とても不安だ  | 3 あまり不安ではない |
| 2 ある程度不安だ | 4 不安ではない    |

(問44で、「1 とても不安だ」「2 ある程度不安だ」と回答した方に伺います)

▶問44-1 特に不安なことは何ですか。(2つまで○)

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1 家族や自分自身の身の安全 | 5 食料や水の確保 |
| 2 家族の安否確認の方法   | 6 避難所での生活 |
| 3 避難所までの避難方法   | 7 その他 ( ) |
| 4 自宅(家屋・建物)の倒壊 |           |

(全員の方へ伺います)

問45 現在お住まいの地域で、次の災害に対する不安はありますか。(あてはまるもの全てに○)

- |         |            |
|---------|------------|
| 1 崖崩れ   | 6 火山の噴火    |
| 2 河川の氾濫 | 7 雪害       |
| 3 家屋の浸水 | 8 その他 ( )  |
| 4 道路冠水  | 9 感じたことはない |
| 5 落雷    |            |

問46 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。(1つだけ○)

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1 毎回参加している   | 3 ほとんど参加したことはない |
| 2 ほとんど参加している | 4 一度も参加したことはない  |

(問46で、「3 ほとんど参加したことはない」「4 一度も参加したことはない」と回答した方に)

▶問46-1 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。(1つだけ○)

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 都合が合わないため                 | 4 参加するきっかけがないため     |
| 2 いっどこで防災訓練があるのか<br>わからないため | 5 町内会・自治会に加入していないため |
| 3 参加方法がわからないため              | 6 訓練に参加する必要性を感じないため |
|                             | 7 その他 ( )           |

(全員の方へ伺います)

問 47 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。(2つまで○)

- 1 救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成
- 2 地域のつながり・助け合いの充実
- 3 町内会・自治会等の防災活動の充実
- 4 区民への啓発活動や防災に関する情報の周知
- 5 各家庭における災害用備蓄の充実
- 6 行政による災害用備蓄の充実
- 7 その他 ( )

問 48 あなたの家庭では、普段から大規模災害の発生に備え、どのようなことをしていますか。  
(あてはまるもの全てに○)

- 1 3日分程度の水と食料の備蓄をしている
- 2 非常持出品の用意をしている
- 3 家具などが倒れないように固定している
- 4 自宅を補強している
- 5 災害時の連絡先や集合場所について、家庭内でルールを決めている
- 6 地域の防災訓練に参加している
- 7 災害情報を収集できるようラジオ等を用意している
- 8 ハザードマップを確認している
- 9 自宅周辺の危険箇所を確認している
- 10 その他 ( )
- 11 特に準備をしていない

(問 48 で、「11 特に準備をしていない」と回答した方に伺います)

→ 問 48-1 特に準備していない主な理由は次のうちどれですか。(2つまで○)

- 1 どのような準備をしたら良いのかわからないから
- 2 準備は必要だと思うが、忙しくてできないから
- 3 防災用品等は価格が高いから
- 4 保管場所が無いから
- 5 すぐに大規模な災害が来るとは思っていないから
- 6 行政等での備蓄があるので、十分だと思っているから
- 7 その他 ( )

## <ペットの災害対策について>

今後のペットの災害対策推進の参考とするため、以下の設問にお答えください。

問 49 ペットを飼っていますか。(1つだけ○)

1 飼っている

2 飼っていない

(問 49 で、「1 飼っている」と回答した方に伺います)

▶ 問 49-1 飼っている動物の種類は何ですか。また何匹飼っていますか。(あてはまるもの全てに○)

1 犬 ( \_\_\_\_\_ 匹)

5 小鳥 ( \_\_\_\_\_ 匹)

2 猫 ( \_\_\_\_\_ 匹)

6 カメ ( \_\_\_\_\_ 匹)

3 ウサギ ( \_\_\_\_\_ 匹)

7 魚 ( \_\_\_\_\_ 匹)

4 フェレット ( \_\_\_\_\_ 匹)

8 その他 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ 匹)

(問 49 で、「1 飼っている」と回答した方に伺います)

▶ 問 49-2 被災してペットと一緒に避難しなければならなくなった時、避難所での生活において、ペットに関してあなたが気をつけようと思うことは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1 フードや常備薬、その他飼育に必要なものはできる限り持っていく

2 飼い主の明示をする

3 決められた場所以外にペットを連れ込まない

4 糞尿の処理や飼育場所の清掃などをこまめに行う

5 臭いや毛・羽の飛散を防ぐ

6 鳴き声が他人の迷惑にならないように配慮する

7 ペットの咬みつき・ひっかきなどの事故が起きないように、避難者とペットを不必要に近づかせない

8 ペットが逃げ出さないように逸走防止を徹底する

9 日頃からキャリーバッグやケージ内での生活に慣らす

10 日頃からペットに基本的なしつけ(トイレトレーニング、人に慣らすなど)をしておく

11 その他 ( \_\_\_\_\_ )



(全員の方へ伺います)

問 50 飼い主と一緒に避難してきたペットの避難所への受け入れについてどのように思いますか。  
(1つだけ○)

- 1 賛成                      2 反対まではしないが賛成ともいえない                      3 反対

(問 50 で、「3 反対」と回答した方に伺います)

▶ 問 50-1 その理由(不安視する点)を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- |                  |                                 |
|------------------|---------------------------------|
| 1 動物が嫌い、苦手だから    | 6 飼い主のマナーの悪さが心配だから              |
| 2 臭いや糞尿の処理が心配だから | 7 咬まれる、引っかかれるなどの事故が心配だから        |
| 3 毛や羽等の飛散が心配だから  | 8 動物からうつる病気が心配だから               |
| 4 鳴き声等がうるさいから    | 9 ノミ・ダニが心配だから                   |
| 5 動物アレルギーがあるから   | 10 その他 (                      ) |

(全員の方へ伺います)

問 51 どうすれば避難所へのペットの受け入れが許容できますか。または、理解されると思いますか。  
(いくつでも○)

- 1 ペットをしつけておく(鳴き声、トイレなど)
- 2 飼い主のマナー向上
- 3 ペットにワクチン等を接種しておく(病気の持ち込み、蔓延防止)
- 4 飼い主が飼育場所の清掃等をこまめに行い、清潔にする
- 5 人とペットの避難場所を分ける
- 6 受け入れるペットの種類や頭数を制限する
- 7 避難所でのルール作りをしておく
- 8 その他 (                      )
- 9 許容できない

## <在宅医療について>

在宅医療の普及啓発のため、以下の設問にお答えください。

問 52 あなたは、高齢者の終末期における「在宅医療」について、言葉とその意味を知っていますか。  
(1つだけ○)

- 1 知っている                      2 聞いたことがあるが、意味は知らない                      3 知らない

※「在宅医療」・・・医師、歯科医師、看護師、薬剤師、リハビリ専門職等の医療関係者が、通院困難な患者の自宅や施設等を定期的に訪問して提供する医療行為のことをいいます。患者や御家族等が、「住み慣れた自宅や地域で過ごしたい・過ごさせたい」とか、「出来れば最期は家族と一緒に暮らしたい・看取りたい」というときに提供する医療です。

また在宅療養とは、医療行為と同時に必要な介護サービスや、生活支援等を受けながら、住み慣れた自宅や地域で療養を行うことをいいます。

問 53 あなたは在宅医療についてどのようなイメージをお持ちですか。

((ア)～(キ)についてそれぞれ1つに○)

	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	分からない
<b>回答例→</b>	1	2	3	4	5
(ア) 在宅でどのような医療が受けられるか分からない	1	2	3	4	5
(イ) 訪問診療をしてくれる医師を見つけるのは難しい	1	2	3	4	5
(ウ) 急に病状が変わった時に対応が出来ない	1	2	3	4	5
(エ) 家族に負担がかかる	1	2	3	4	5
(オ) 費用が高額になる	1	2	3	4	5
(カ) 満足度の高い医療が受けられる	1	2	3	4	5
(キ) 自宅で安心して最期を迎えられる	1	2	3	4	5

問 54 あなたは、「リビング・ウィル」という言葉とその意味を知っていますか。(1つだけ○)

- 1 知っている      2 聞いたことがあるが、意味は知らない      3 知らない

※「リビング・ウィル」・・・医療スタッフや家族が判断に困らないように、判断能力がある時に、意思表示が出来なくなった場合に自分自身が受けたい医療をあらかじめ書面等で示しておくこと。

問 55 あなたは人生の終盤に起こりうる万一の事態に備えて、治療や介護、葬儀などについての自分の希望や、家族への伝言などを、エンディングノートなどを利用して残していますか。

(1つだけ○)

- 1 残している  
2 残していないが、今後は考えたい  
3 残していないし、今後も考えていない

問 56 高津区では平成 26 年度から在宅医療をテーマにしたシンポジウムを開催しています。シンポジウムでどのような内容を聞いてみたいですか。(いくつでも○)

- 1 在宅医療が注目されている背景      5 在宅医療を経験した本人や家族の体験談  
2 在宅でどのような医療が受けられるのか      6 「リビング・ウィル」について  
3 在宅医療を利用するための準備      7 その他 ( )  
4 看取りについて      8 特になし

<あなた御自身について>

F 1 性別（1つだけ○）

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢（1つだけ○）

1 18～19歳	4 30～34歳	7 45～49歳	10 60～64歳
2 20～24歳	5 35～39歳	8 50～54歳	11 65～69歳
3 25～29歳	6 40～44歳	9 55～59歳	12 70歳以上

F 3 職業（1つだけ○）

1 自営業主	4 勤め（パートタイム）	7 学生
2 家族従業（家業手伝い）	5 内職	8 無職
3 勤め（全日）	6 主婦（仕事はしていない）	9 その他（ ）

F 4 お住まいの地域（1つだけ○）

1 宇奈根	6 坂戸	11 久本	16 蟹ヶ谷	21 千年
2 梶ヶ谷	7 下作延	12 二子	17 子母口	22 千年新町
3 上作延	8 下野毛	13 溝口	18 子母口富士見台	23 野川
4 北見方	9 諏訪	14 向ヶ丘	19 新作	24 久末
5 久地	10 瀬田	15 明津	20 末長	

F 5 高津区にお住まいになって、何年になりますか。（1つだけ○）

1 1年未満	3 3年～5年未満	5 10年～20年未満
2 1年～3年未満	4 5年～10年未満	6 20年以上

F 6 あなたは町内会・自治会に加入していますか。（1つだけ○）

1 はい	2 いいえ
------	-------

F 7 あなたはインターネットを利用していますか。（1つだけ○）

1 はい	2 いいえ
------	-------

F 8 現在、一緒にお住まいのご家族は、あなたを含めて何人いらっしゃいますか。(1つだけ○)

1 1人	3 3人	5 5人	7 7人以上
2 2人	4 4人	6 6人	

F 9 あなたを含めてご家族の中に、次に該当する人はいらっしゃいますか。  
(該当する年代全てに○をつけてください)

1 未就学児	3 中学生	5 いない
2 小学生	4 高校生	

F 10 65歳以上の方は同居していらっしゃいますか。(ご自分が65歳以上の方は「1」に○をつけてください。)(1つだけ○)

1 いる	2 いない
------	-------

以上でアンケートは終了です。

同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、10月31日(月)までにご投函ください。

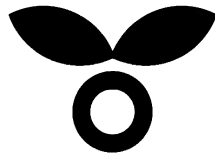
ご協力誠にありがとうございました。

高津区区民生活に関わるニーズ調査  
報告書

2017（平成29）年3月

調査主体 高津区役所企画課  
〒213-8570 川崎市高津区下作延2-8-1  
電話 044-861-3131

調査実施 株式会社エスピー研  
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-20  
電話 03-3239-0071



高 津 区